

3	知名町瀬利覚の墓正月	存続状況	順調	関連テーマ	26			
場所	瀬利覚集落 (各戸の墓の前)	行事日 [過去]	1月16日 [同]					
墓正月とは、正月の間は先祖の霊を家にお供したので、この日に戻し、その場で改めて霊と家族が正月と一緒に祝う行事である。行われる日から方言で、「十六日 (じゅうろくんち) とも呼ばれる。								

与論町

1	按司根栄神社のシヌグ祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	26		
場所	朝戸地区 (按司根栄神社)	行事日 [過去]	隔年旧暦 7月17日, 18日, 19日 [同]					
座元は、地主が当たることになっているので、土地の所有者が変わった場合は新しい土地の所有者が座元になる習わし。新しい所有者が、祭りを行わなくなって、その後家庭で不具合などが続き、祭りを復活したという話がある。現在祭りが行われていないサークラができており、祭場が放置されがちになっているところがある。								

8	三月三日	存続状況	存続危機	関連テーマ	20			
場所	各集落(各戸)	行事日[過去]	旧暦3月3日					
町内集落の各戸で今も残る、旧暦3月3日にフチ餅やシューケなどを持参し墓参りをする先祖祭りの行事。奄美群島、沖縄では三月三日には浜下りをする習慣があるが、徳之島では三月三日は「先祖祭りの日」という認識があり、浜下りはしない。喜念や目手久など東部地区の一部の集落では、墓参りの際にヨモギ、ユリ、オオシマウツギの3種を花生けに供える習慣がある。								
9	五月五日	存続状況	順調	関連テーマ	20			
場所	集落の各戸、墓所など	行事日[過去]	旧暦5月5日					
町内集落各戸で行われる、旧暦5月5日に笹巻きやシューケなどを持参し墓参りをする、先祖祭りの行事。喜念や目手久など東部地区の一部の集落では、墓参りの際に笹、桃、ショウブの3種を花生けに供える習慣がある。茅葺きの家が多い時代は、家の四隅にショウブを下げる習慣があった。								

和泊町

1	岬大明神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	国頭集落(岬大明神境内)	行事日[過去]	神月(旧暦) 1, 5, 9月1日 [同]					
国頭集落にある岬大明神を、集落の人たちが参拝する行事。祭り当日に準備を行う。順序は、祭壇にお供え物をした後、礼拝をし、祝舞を披露する。お酒を酌み交わしながら、今はカラオケ大会などをする。神月の日は 守る会で行うが、昭和60年頃から、元旦の朝5時頃からたき火をたき 国頭集落総手の拝賀式を行っている。神社はその昔、集落の岬の海岸で見つけた光る石を守り神としてまつた神社と言われる。								
2	二十三夜	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	手々知名集落(各戸)	行事日[過去]	神月 旧暦1, 5, 9月の23日 [同]					
手々知名集落の主に海の仕事に携わる人がいる家庭で、二十三夜に各戸で行う行事。海から砂を運び庭先を清める。清めの砂は、一度の踏まれていない砂を使用しなければならないため、必ず海(海水)の中から採取する。午後6時頃から、祭壇にお供え物をした後、線香を絶やすことなく、月が出る午前0時まで安全を願う。以前は、海の仕事に関わる(漁業関係者)人などが神社に來訪し団子を食べ安全祈願をしていたが、最近はその風習も廃れ、家族だけで行うことが多くなっている。								
3	イビガナシ	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	国頭集落(神石の前)	行事日[過去]	旧暦1月7日 [同]					
国頭集落の人々が、「イビガナシ」といわれる神石を詣でる行事。特に大かかりな準備を必要としないため、準備は当日に行う。お供え物をして、神石を拝むというものだが、ハギキリ(足切石)ともいわれこの石を粗末に扱ったり、石の上に乗ると足が痛み出し歩けなくなるという言い伝えがある。奄美各地に「イビガナシ」と言われる神石が見られるが、神としての性格は様々ではない。								
4	三十三年忌	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	26		
場所	各集落(自宅や公民館、ホテル等)	行事日[過去]	三十三年目の命日					
各集落で、33回忌を迎えた日に行う行事で、かつては全島的に行われていた。現在は、公民館やホテルで行う事例が増え、ほとんどの準備はホテルなどが行う。祭壇は、神官が準備する場が増えた。料理も外注が増えた。神官は神社に属する官司だけでなく、普段は、普通の職を持ち冠婚葬祭の時だけ祭事を司る神官も存在する。神事後、会食しながら故人の思い出話や親族の交流を深め、墓送りの時間になったらフクラシャ(祝舞)を舞う。そして、「ヒニャルガヤッサ(霊を送る唄、踊り)」をみんなで歌い踊りながらお墓に送る。								

知名町

1	三十三年忌祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	26		
場所	各集落(各戸)	行事日[過去]	三十三年目の命日					
町内集落で、三十三年忌を迎える家がある日に行う祭り。「祭り上げ」と言われ、先ず三線に合わせて祝歌「フクラシャ」が踊られる。フクラシャ後、シビ(サカキ)を先頭に舞子、三線、鉦と続き、墓地までの道中「ミンプチ(念仏)」を舞、再び「フクラシャ」を舞う。御神酒 菓子等を供え、残りを一同に配り、礼拝して帰路につく。「ミンプチ」はこの唄のハヤシコトバから「ヒニャルガヤッサ」と言うところもある。								
2	上平川の大蛇踊り	存続状況	順調	関連テーマ	4	26		
場所	上平川集落他(上平川殿内神社)	行事日[過去]	不定期。ただい9月15日は一部実施 [同]					
この大蛇踊りは、沖縄の踊り「執心鐘入」を取り入れたのではないかとされている。長さ10mにもなる大蛇が空中を乱舞するところが見せ場となっている。藩政時代は、旧暦8月15日にグムチ踊りとして踊られていたようだが、この踊りが途絶えてからは、特別な時だけ出し物として踊られるようになった。								

伊仙町

1	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	3	4	8
場所	阿権集落	行事日 [過去]	旧暦の6月15日前後の己亥の日 [不明]				
<p>六月燈は1600年代、今の鹿児島市で始まった祭りで、これが徳之島に移入されたものである。阿権集落の神社の参拝者に巫女役の高校生がシキ（お神酒）をし、白団子をつずつ配る。境内には子どもたちが手作りした灯籠などが下がり、ステージでは様々な催しが行われ、集落の住民が楽しめるよう青年団等が中心となって活動している。昭和50年代までは、境内で奉納相撲や民謡大会が行われるなどして、全島各地から参加者がいた。</p>							
2	二十三夜ガナン	存続状況	存続危機	関連テーマ	8		
場所	各集落 (各戸)	行事日 [過去]	旧暦1月, 5月, 9月の23日 集落 (家庭により異なる)				
<p>町内各戸で、かつては盛んになされていた行事。昔ほどではないが今も実習する家がある。月を拝み家内安全、子孫繁栄などを祈願する。供物は火の神（かまど）にも供える。目手久集落の例では、旧暦の月23日の朝浜へ行き、人が踏んでいないきれいな砂と海水を汲んでくる。星の団子（小さな丸い団子を複数）と月の団子（大きめの平たい団子を2つ）を作り、スダラの葉を敷いた皿にのせ仏前に供える。団子をのせた皿は火の神にも供える。仏前に徳利に御神酒を入れ、入れ口にスダラの葉を挿す。花器には花ではなくスダラを供える。海水をグラスに入れ、スダラの葉先で海水を撒きながら家の中を一周し、安全祈願をする。残った海水にスダラの葉を入れ、神様に供える。（この海水で、神様が身を清めるため）浜からとってきた砂は線香立てに使用し、線香の火は夕方から月が昇るまでの間絶やさないようにする。線香を立てるときには「今日は二十三夜ガナンだから、お供えをします。いいことばかりありますように…」と唱えながら手をあわせる。集落によって、星の団子23個以上、線香は23本用意し火を絶やさぬよう順番に立てる。月によって線香の数が違う、精進料理を食べるといふ家もある。</p>							
3	墓正月	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	26	
場所	各集落 (各戸)	行事日 [過去]	1月4日 [同]				
<p>一族がそろって一重一瓶を下げて墓参りをし、先祖と共に正月を祝う行事。昭和40年ごろまでは「十六日正月」として1月16日に行われていたが、都会から帰省する親族に合わせ、4日に墓正月をするのが定着している。墓参りをした後に、墓前でお重をひろげ、一族で酒を酌み交わし食事をとる。喜界島や沖永良部にも類似した行事がある。</p>							
4	十五夜祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8		
場所	各集落 (公民館など)	行事日 [過去]	旧暦8月15日 [同]				
<p>今もほとんどの集落で行われている。標準的な行事の流れは、集落が東西などに分かれ綱引きをした後、土俵をつくり相撲を実施する。綱引きをする集落では、事前に青年団や住民男性らが集まり綱かきをする。祭り当日、住民らは日が沈み始める時間に集落の公民館など広場に集まり、酒や料理を広げる。集落の東西、上下などに分かれて綱引きをし、綱引き後はその綱を利用して土俵をつくり相撲（シマ）をとる。例えば、木之香集落の相撲は、他の集落と違い昔ながらの作法が残っている。この他、各集落で七月踊りや八月踊りなどの立ち踊りも実施し、交流を深める。</p>							
5	タネブシ	存続状況	順調	関連テーマ	8		
場所	各集落 (各戸)	行事日 [過去]	イッサンサンの2か月ほど前 [不明]				
<p>イッサンボーのようなシンボルはない。集落の公民館などを起点に子どもや青年、婦人会などがそれぞれグループにわかれ、三線とチヂン（太鼓）を持って家々を回り、家の庭先で唄や踊りを披露する。家主から酒や餅、菓子などが振る舞われる。子どもたちにはサタテンブラ（サーターアンダギー）や駄菓子などが、大人のグループには酒が振る舞われ、のし袋に包んだお金を渡す家庭もある。最後は再び公民館に集まり、もらったお菓子を分け合う。（お金は青年団や集落の活動費に使用する）</p>							
6	イッサンサン	存続状況	順調	関連テーマ	4	8	17
場所	犬田布, 木之香集落 (各戸)	行事日 [過去]	旧暦8月15日の前の申の日 [十五夜直後の戌申の日]				
<p>イッサンサンの日柄については犬田布の区長が決め、木之香は犬田布に合わせて実施している。犬田布集落は上組・中組・下組の3区に分かれて実施している。東犬田布（上組）にはイッサンサンの碑があり、上組の住民らはイッサンボーと共に碑の前で歌と踊りを奉納してから家回りをする。家回りの順番は、殿地を皮切りに決まっている。住民らはチヂン（太鼓）のリズムに合わせて「イッサンサン」の唄を歌いながら各家庭を訪問。家の門口では「門口の唄」を歌ってから庭先に入り、イッサンサンの唄を披露する。一団を迎える家主は、イッサンボーの頭にお神酒をかけ、カシヤ餅や菓子をティルに入れる。全ての家を回り終えると再びイッサンサンの碑に戻り、最後に唄と供物を奉納し終了。ティルの中の供物は、最後に住民らで分け合う。木之香集落では、最初に犬田布のイッサンサンの碑の方に一札をしてから家回りをする。少子化に伴い現在は集落を3地区に分け、1年に1地区ずつ回っている。</p>							
7	ドンガ	存続状況	順調	関連テーマ	8		
場所	各集落 (墓所など)	行事日 [過去]	不定期 [同]				
<p>町内各戸で今も残る行事。喜念や目手久など東部地区の一部の集落では、墓参りの際にツブキを花生けに供える習慣がある。中部・西部地区では供える花は決まっていない。奄美大島にもドンガ行事が知られているが、墓参りに関係ありそうだとはいえず、ドンガの意味は不詳。</p>							

17	十五夜	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	下久志集落(十五夜浜)	行事日[過去]	旧暦8月16日[同]					
<p>町内下久志集落の人々が、十五夜浜に下りて行う行事である。午後4時半頃になると、全戸が一重一瓶で浜に下りる。子どもたちや女性連による踊りや去年の十五夜後に生まれた子どもにミーバクマシ(力石を踏ませる)を土俵でさせる。また、土俵ではハンタ石を肩まであげる力比べも行われる。その後相撲や集団歌舞「七月踊り」や「チョーダラ」などを踊り、綱引きをする。なお、徳之島において力石を持ち上げて競う集落は下久志だけである。地区内で一番十五夜行事が盛大な集落と言える。</p>								
18	十五夜	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	井之川集落各戸	行事日[過去]	旧暦8月15日[同]					
<p>町内、井之川集落の十五夜行事。各家でお膳に持ち、団子、料理などをのせ、庭でお月様に供えて拜む。家族で月見を祝った後、道の辻で七月踊りをする。かつては綱引き、相撲などが盛んであった。集落内の小中学生が十五夜運動会を計画し、浜で行っていたがとどえた。</p>								
19	浜下り	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	亀徳集落(亀徳集落内県道 亀徳児童公園)	行事日[過去]	盆後の最初の日曜日[同]					
<p>亀徳集落で行われる浜下りは、今は「ネインケ」(水掛け)というほうがより知られる。この日、午前11時から12時まで県道において、集落内の人、見物人、通りがかりの人を問わず、無礼講でネインケ(水掛)をする。水は泥水ではないが、かつては強引に、ときには嫌がる人をも追いかけて行って掛けたが、今は節度を持つように配慮されるようになった。最近綱引きを始めた。</p> <p>午後5時頃から一重一瓶で、集落の人たちが亀徳児童公園に集まる。去年の浜下りから今年の浜下りまでに生まれた子どもにミーバクマシ(浜の砂を踏ませる)をする。その後小学生による相撲がある。</p>								
20	盆	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	徳之島町内各戸及び各墓	行事日[過去]	8月13, 14, 15日[同]					
<p>盆は徳之島ほとんど全集落で、月遅れ盆が行われている。所によって供え物などその方式は、各集落各戸によって多少の違いがある。だが13日迎え、14日は中日(なかび)、15日送りであることは一致する。ここにあげる亀津地区では、盆の13日には必ずボタ餅を供える。同地では盆踊りを行っているが、「鹿児島おはら節」「炭坑節」「河内音頭」「花の徳之島」など、みんな歌謡曲風の唄である。15日の送り盆は薄暗くなってから提灯をとぼして祖霊を墓へと送っていく。墓では一族が酒を酌み交わし宴をする。ミーゴン(新頭蓋骨)の墓には親戚や友人が集まり故人を偲び大いに盛り上がる。</p>								
21	(亀徳の)豊寿願	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	亀徳集落(秋津神社)	行事日[過去]	秋の彼岸中日[不明]					
<p>亀徳の秋津神社が中心となった行事である。午後5時頃一重一瓶で集落の人達が神社に集まる。神主が五穀豊穡、家内安全を祈願する。小学生による相撲や島唄があり、その後サムトウ節(坂元節)を坂元一族で歌って踊る。それがすむと集落の人達による踊りがある。「坂元節」は、奄美各地の八月踊りや、沖縄古典音楽にも取り入れられてい有名な曲である。</p>								

天城町

1	前野御田植行事	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	前野集落(水田)	行事日[過去]	3月～4月(稲の一期作田植え時期) [田植え時期]					
<p>かつては徳之島全域に見られたもので、田植えする女性と畔の男性らが掛け合いをしながら田を植えていくものである。特に祝田に行くと田植えをしなければ、自分の田が豊作にならないと信じられていたため、祝田の田植えには全集落民が参加した。祝田の田植えが終わると村人たちは集落に来て、田植唄や、夏目踊りを踊りまくって稲の豊作を祈願する。この祝田は、徳之島の開闢神話に登場する。開闢神話によると、アメキウデー(天城岳)に、アメンキウという神様夫婦が天から降りてきた。山の上はいつも風が強く、家を造ることができないので、七つの山を越えて島の真ん中に向いフーグシク(大城山)に着いた。そこは、北風も強く吹かず、雨の気もないので、その山の陰にあたるカンミョウ(神明山)に住みついた。その後、山の上は不便なので、岡前村の北にあたる前野原の低い村里におりてきて、田んぼをつくり稲を植え、子どもたちのためにそれぞれ住みよい村里を見つけ、シマジマ(集落)をつくらせた。このアメンキウ夫婦が村里に下りて、作った田んぼが前野集落の祝田とされている。今日、歌い方がかなり簡略化しており、保存会の人たちができるだけ元の形に戻そうと努力中である。(参考文献)天城町誌編纂委員会1978年「徳之島の開闢神話」『天城町誌』、集落誌 前野、編纂委員会1994年『集落誌 前野』</p>								
2	浜下り	存続状況	順調	関連テーマ	2	8		
場所	松原西区集落(ナナガイ浜)	行事日[過去]	8月15日(新盆)を過ぎて最初の日曜日 [旧暦七月の丙(午)の日、戊の両日]					
<p>かつては徳之島の広い範囲で行われていた「ハモイ(浜下り)」「ナツメ(夏目)」「ウンメ(折り目)」などと同系の行事である。松原集落は松原西区と上区と自治区が分かれた2つの集落が合同で行う。行事の概要は、1日目はヤドゥイ(日除け小屋)作りから始まる。各家庭にヤドゥイで使用する木材、柴、竹の切り出しが割り当てられ、一家の主は、割り当てられた分の資材を切り出し、ナナガイバマに運び込む。運び込まれた資材を使って集落の青壮年がヤドゥイを建てる。二日目の夕方から、全集落民がナナガイバマに集まり、団体踊り(立踊り)や、相撲などが行われる。これらを通して、集落民の親睦を図られるとともに、豊作を祈願する。また、新生児を力土が抱きかかえ、土俵の中央に盛られた砂に新生児の足を着ける、ミーバクマシ(新浜踏ませ)も併せて実施する。(参考文献)武原勝也1992年『徳之島松原と名間小史』</p>								

9	(井之川の) 虫遊び	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	井之川集落	行事日 [過去]	旧暦4月の午の日を除く日柄[不明]					
かつては町内各集落で、害虫駆除の虫遊び行事が行われていたが、稲作から畑作への転換事業によって 稲作に関する儀礼は形骸化あるいは消滅していった。現在では、井之川集落だけで行われている。虫を田芋の葉に包んで海に行き、「ウーシマ シルシマカチ ナガリティ タボーリ」(大きい島, 広い島まで流れて行ってください) と唱えて流してやるという行事。								
10	(井之川の) 麦シキユマ	存続状況	順調	関連テーマ	5	8		
場所	井之川集落各戸及び各墓	行事日 [過去]	旧暦 4月己亥の日柄[不明]					
麦の初を祖先に供え、収穫を感謝する行事である。かつては、手々集落、轟集落でも行われていたというが、現在では井之川集落だけで行われている。インギユミ(麦団子)を作り、墓前に供える。								
11	シキユマ	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	井之川集落各戸	行事日 [過去]	旧暦 6月辛の日柄 [旧暦 6月カノト・ミヅノエの日柄]					
かつては奄美に広くあった行事であり、新米の刈り始めの儀礼である。井之川集落では今も継承され、新米をネラ(聖所)の神様に供えるものだと伝えられる。稲作をしなくなったため、現在ではご飯を炊いて仏前に供えるだけになった。シキユマという行事名称さえ若い人たちは知らない状況である。現在は形骸化した行事であるが、今は町内では井之川集落だけで行われている。かつては旧暦の6月, 辛, 壬の2日間にわたって行われた。日柄は俗に「カネイウリティ, ミイジカン, ミイティ, ヌブリ」といわれる。								
12	十六日節句	存続状況	順調	関連テーマ	5	8	12	
場所	井之川集落各戸及び各墓	行事日 [過去]	1月16日 [同]					
井之川集落では、祖先の正月といわれ、伝えられている行事である。午前中にショウガンデーハギといってハンシムチ(芋入りの餅)を作り、墓前に供える。一重一瓶で集まった一族は、酒を酌み交わし、祖先とともに宴をする。ミーゴシ(新頭蓋骨)の家に親戚や近隣の人が、仏前に餅を供えて、線香を上げて霊を慰める。かつては、夜に七日節句と同様に夜の開けまで歌ナクサミ(唄遊びのこと)をした。現在でも親しい仲間が集まって歌ナクサミをしている。喜界島や沖永良部の一部にも類似行事が行われている。								
13	七日節句	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	徳之島町内各戸集落	行事日 [過去]	1月7日 [旧暦 1月7日]					
町内集落の各戸で今も行われている。花米(床前に供えた米)と7種類の野菜それに豚骨、餅などでナナチドゥシバン(七日雑炊)を作る。数え年7歳の子供が晴れ着で着飾って親戚や知人の家7軒を回って炊をもらう。午後から墓参りをし、祖先にも七日節句させる。この日は、花米、床餅、ウカマガナシ(火の神)の餅を下ろし、門松もとる。かつては、夜には子ども、青年、壮年、老人、各々1軒の家に集まって夜が明けるまで歌ナクサミ(唄遊び)をした。現在でも親しい仲間が集まって歌ナクサミをしている。								
14	トゥルミイ	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	徳之島町内各戸集落及び各墓	行事日 [過去]	町亀津旧暦10月癸亥, 町亀徳以北旧暦10月己巳の日[同]					
町内集落で行われている行事。午前中に墓参し、墓前で一族で酒を酌み交わす。新仏の家には親戚や近所の人が餅を持参し仏前に供える。「トゥルミ」の「トゥル」は古い時代の洞穴墓を言うが、いわゆる「墓見」、「墓参り」のこと。								
15	豊穰願	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	井之川集落 (井之川公民館, 集落内のアムトゥウガナン)	行事日 [過去]	旧暦 8月16日[同]					
井之川集落の農作物の豊穰を願う行事。かつては集落内の家から米1合、酒1合づつを集めてアムトゥウの神を祀った。午後から三地区が一重一瓶でウサキ浜に集まり、相撲や七月踊りを楽しみ祝宴をした。またミイキヤナ十五夜(旧8月17日)として宝島、伊宝、佐渡の三地区に別れ一重一瓶で祝った。現在は振興会長が、米5合、酒2合を神社やアムトゥウの神を祀っているそれぞれの家に持参して供えさせている。								
16	なーちや十五夜	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	下久志集落(十五夜浜)	行事日 [過去]	旧暦8月15日[同]					
下久志集落の人々が、集落下の十五夜浜に下りて、十五夜を祝う行事。催し見物のための棧敷用の杭、竹、茅などは十五夜行事の1週間前の土日に青年団が切り出してくる。また各家からも杭1本、茅1束を提供される。棧敷は青年団を中心に集落の人たちが前日までの2日間で作り上げる。当日の3時半頃から輪投げ、ゲートボール、ボーリングなどの競技をする。それが終わると不幸があつて浜に下りなかつた家を親戚や友人が回って歩く。その後一重一瓶で宴をし、集団歌舞「七月踊り」、「チョーダラ」なども踊り、綱引きをする。なお、徳之島において力石を持ち上げて競う集落は下久志だけである。かつては集落をあげて十五夜運動会を盛大にしていた。地区内で一番十五夜行事が盛大な集落といえる。								

徳之島町

1	秋餅	存続状況	順調	関連テーマ	3	8		
場所	尾母集落(各戸)	行事日[過去]	秋の彼岸の中日[同]					
<p>秋餅は集落の人たちが各戸を回り、餅を貰って歩く、いわゆる餅貰い行事であるが、尾母では「イッサンボ」といわれる案山子のような人形をともするの が特徴である。これは毎年同じ物を使用し、傷んだら新しく作り替える。骨組みは竹、ワラをワラ縄で巻き付ける。顔はタオルに目や鼻をかく浴衣を着せ 表わら帽子をかぶせる。唄は本土系の「ドンドン節」だが、歌の練習は子どもたちや青年団、一般の人が本番5日前から公民館でしている。 イッサンボは、伊仙町犬田布、木之香にもあり、よく知られている。</p>								
2	七夕	存続状況	順調	関連テーマ	3	8	19	
場所	各集落	行事日[過去]	8月7日 [旧暦7月7日]					
<p>今は本土の七夕とあまり変わらなくなったが、かつて徳之島では、七夕の飾りの色紙がなかったので、ヘチマの葉で白紙を染めた。祖先の霊は七夕の日 にあの世を出発し、七夕飾りを目印にしてガラ(青竹)を伝わって下りてくるといわれていた。</p>								
3	(徳和瀬の) 六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	3			
場所	徳和瀬集落(白峯神社、徳和瀬いこいの家)	行事日[過去]	旧暦6月25日[不明]					
<p>徳和瀬集落より白峰神社に御神酒として1升瓶2本提供される。神主一族と集落代表十数人で午後4時過ぎ神事をする。その後集落のいこいの家で御神 酒をいただき祝宴をする。かつては白峯神社に集落の人たちが一重一瓶で集まり、七月踊りを奉納したりにぎやかだった。町内で六月燈を行うのは、亀津 以外では徳和瀬集落のみ。</p>								
4	(手々の) 餅たぼり	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	手々集落(竿地殿内 手々中学校)	行事日[過去]	8月15日 [旧暦 7月15日]					
<p>手々集落では、盆の送りの日の夜、餅貰いの行事が行われる。夕方5時頃から子どもたちを中心に大人も交じり、集落の全戸を餅や菓子をもって回っ ていたが、現在は県道を境に上区と下区が分かれ隔年毎にしている。かつては、子ども自身が歌って踊っていたが、今はテープで行っている。大人は夜8 時頃から一つの集団で5つの地区の各々の1軒を回っている。かつては全戸を回っていた。大人の男性たちが白布を被って女装するアンゴー踊りが人気であ る。最後は手々小中学校で踊られ、そこでは参加者、見物人皆に餅が配られる。昭和42年、NHKテレビ「ふるさとの歌まつり」で紹介され、全国的に知ら れるようになった。</p>								
5	水神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	5	8		
場所	下久志集落(ユネイトウ泉、ティラ[神社])	行事日[過去]	旧暦5月 壬辰 癸巳 癸亥のうちの 1日 [旧暦5月 壬辰 旧暦9月 癸巳]					
<p>下久志集落の各家から、山の幸と海の幸併せて5品と酒1合を神様へ持参する。それを一つにまとめて重箱を3つ作る。区長は重箱と酒を各々源流のユ ネイトウ泉、ガギンサク(水神)、神社に供える。午後4時頃集落の人たちも神社に来て御神酒をいただき、その後各家から集められた料理、酒で祝宴を する。他の集落では、水神様を個人で祀っているのに下久志集落では集落行事として行っている。なお、「ティラ」という言葉は、徳之島では「寺」より「神 社」という方が似つかわしい。</p>								
6	五月五日	存続状況	順調	関連テーマ	5	8	15	
場所	徳之島町内各集落及び各墓	行事日[過去]	旧暦 5月5日[同]					
<p>町内集落の人々は、旧暦五月五日に、デームチ(笹餅)を作り、墓前に供え祖先にも節句をさせる。デームチは親戚、隣近所にも配る。男児が生まれた 家では初節句で親戚、隣近所の人が集まりお祝いをする。鯉のぼりを立てる習慣はあまりない。</p>								
7	三月三日	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	徳之島町内各集落	行事日[過去]	旧暦3月3日[同]					
<p>この日、各戸でフチムチ(よもぎ餅)をつくり、墓前にも供え、祖先にも節句をさせる習慣がある。フチムチは、近所、親戚にも配る。女兒が生まれ て家では、初節句で親戚、近所の人が集まりお祝いをする。 その日はナチキザリ(夏行事)の始まりで、海遊びの始まりだと意識するところもあった。そのようなところでは、るりはこべし(ミイジグサ) 砕いて魚を 捕っていた。</p>								
8	二十三夜	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	井之川集落(各戸)	行事日[過去]	旧暦1月 5月 9月の23日[不明]					
<p>井之川集落では、二十三夜の月を祀るために団子、シュギといわれる神米を供える。二十三夜の神様は、非常に不浄を嫌うといわれ、身内に不幸があつ た場合は中止する。親の場合は3回、おじ・お婆の場合は、1回中止する。また、神月は旅行、結婚、新築、移転などのしないものといわれた。月祭りは 大半が二十三夜であるが、十三夜、十五夜、十八夜、二十八夜に行う家もある。</p>								

7	柴さし	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15		
場所	町内集落(各家庭)	行事日[過去]	旧暦8月初辛の日 [同]					
<p>かつては、多くの集落で行われていたが、現在は、この日に先祖祭を行う集落に偏在しており、別の日に先祖祭を行う地域では消滅に向かっている。祭りの方式は多少の違いがあったが、小野津集落の例では、屋敷内の家屋の四隅にススキを挿し、門口にも立てる。またお墓にススキやお菓子を持参、参拝する。親戚、近所のお墓にも参拝する。以前は、早朝屋敷内の全ての家屋の四隅にススキを挿し、井戸、門口、アタリ畑(屋敷畑)などにも挿す。また、桑木の皮を臼、アドゥム(杵)、子どもの首に巻いた。現在はススキを要所に立てるだけで済ます。柴さし行事から2日目(節折日から7日目)をナンカビーと称し、柴さしの日に使用したススキをまとめて結わえ、門の近くにユニ(灰)を敷いて立てかけ、その上に粥の上澄みをかけて置く。現在は行っていない。以前は、子どもたちが各戸を回り、もちらい歌を披露し、お菓子などをもらって歩いた。今は、子どもが少ないので行わない。公民館でカラオケや島唄を楽しむ。</p>								
8	節折目/節浴(シチャミ)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	12		
場所	上嘉鉄集落の泉(ウッカー)	行事日[過去]	旧暦8月初丁の日 [同]					
<p>上嘉鉄集落では、「節浴」といわれる独特の行事が念を入れて行われた伝えがある。以前はこの日の早朝に、集落の泉(ウッカー)で、「節浴(シチャミ)」と称し、祖母か母親が持参したおにぎりをひとつまみ子どもの頭にのせ、子ども(7歳まで行い、8歳は休み、9歳を止めシチャミと言い最後とする)の頭に泉の水に浸したススキ(3本)で3回ふりかけ、子どもの健やかな成長を祈っていた。そこでおにぎり(赤ちゃんにはお粥)を食べさせ、水と小石(小石は近くの畑から)を持ち帰る。小石は赤茅かサトウキビの葉で作った4〜5繋がりの俵の中に入れ、ミカンの木にかけて置き、豊かな実りを祈願した。初節浴(アラジチャミ)の子どもは盛大にお祝いをした。また、この日の未明に霊火(ムンビー)が人家の上に立つと言われ、集落高台に登り見物する人もいたと言われる。現在は、この行事を行う家庭がなくなってきているのが現状である。</p>								
9	節浴(シチャミ)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	12		
場所	志戸桶・花良治・荒木・小野津集落各(家庭の井戸端)	行事日[過去]	旧暦8月初丁の日 [同]					
<p>これらの集落ではこの日の早朝に、井戸端等で、「節浴(シチャミ)」と称し、祖母か母親が子どもの頭に水を浸したススキで3回ふりかけながら、「ユッツシューナリヨ(偉い人になれよ)」、「フデーリヨ(大きくなれよ)」などと唱え、子どもの健やかな成長を祈っていた。その後馳走をいただき節折目を祝っていた。現在はほとんど行っていない。(以前はこの日の早朝に、家の井戸端で、「節浴(シチャミ)」と称し、祖母か母親が握り飯、焼酎、線香、塩等にデンカー(葦の一種)3本を用意し、子ども(8歳まで行い、9歳で休んで、10歳を最後とする)の頭に汲み上げた井戸水に浸したデンカーで3回ふりかけながら「ユッツシューナリヨ(偉い人になれよ)」などと唱え、子どもの健やかな成長を祈っていた。初めて節浴を行う家は、身内でご馳走をいただき節折目を祝っていた。この行事をやる前に海岸にて星の形を見て吉凶を占う。そして拾ってきた小石は、ミカン木のマタに置き水をかけ、豊かな実りを祈願した。節浴に使用したデンカーは、小石一個とご飯粒を入れ、結んだ上で炊事場の上に立てかけて置き、来年行った後交代する。現在は、この日の行事で唯一存続している子どもへの「節浴」行事を行う家庭がなくなりかけているのが現状である。</p>								
10	二十四日祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	29		
場所	塩道集落(塩道公民館)	行事日[過去]	旧暦8月24日 [同]					
<p>塩道集落のみに伝わる行事。当日神様に供物を差し上げ、一重一瓶で島唄や八月踊りを行う。クンビー神様はイボ治療の神様として親しまれ、できたイボの数だけ妙った豆を供えると治ると言われている。</p>								
11	権現宮	存続状況	順調	関連テーマ	8	21		
場所	塩道集落(塩道公民館)	行事日[過去]	旧暦9月9日 [同]					
<p>塩道集落で行われる豊年祭系の行事。以前は権現宮近くの広場に集い、相撲や八月踊りを行い盛大であった。また、同日「港祭り」も一緒に行われていた。海の神様として航海安全や豊漁を祈願しており、昔に糸満漁民が多く住んでいた頃、彼らの信仰も集めていた。今は公民館で行っている。</p>								
12	年祝	存続状況	順調	関連テーマ	8	18		
場所	町内集落(各家庭)	行事日[過去]	その年の干支の日					
<p>全島的な祝福行事ともいえるが、数え年49歳・61歳・73歳・85歳のお祝いで、家や喜界町単位で盛大にお祝いを行う。正式には、その年の12支に当たる最初の日が祝い日だった。</p>								
13	盆	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	町内集落(各家庭)	行事日[過去]	旧暦7月13〜15日 [同]					
<p>ほとんど、全町的に行われている行事。標準的な行事の内容は、13日は墓所より御霊を提灯を灯し家に招く。家では表座敷の縁側に水を入れた洗面器、表間には戸障子か屏風で仕切り祭壇が置き、仏壇の位牌が移されている。お盆期間中のお供えするお膳の数は、33回忌前の精霊の数に伴膳を加えた数で、回数は朝昼晩と10時、3時の間食合わせて計5回が一般的。献立は、精一杯の山海の珍味を揃えてお供えする。14日の3時のお茶にはミンダン(穀物粉の砂糖粥)などを出す。15日から現金や様々な高価な品々をお供えし、祖霊へのお土産として「手持餅(もち米などで作った白団子)なども含め、ゆっくりとお膳をお供えした後、家族一同が礼拝し、提灯を灯して送る。海で亡くなった祖霊は、16日の夕方に送る。そのため16日は悪日とされ、海で泳いだ釣りは避けた。菓子類でお盆や回忌の時のイー餅(位牌餅)としてフクリカン(ふくれ菓子)やカンムッチー(もち米粉、黒糖。小豆あんを使用)を作っていたが、今はあまり作らない。</p>								

15	朝祝え	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	各戸	行事日 [過去]	元旦 [旧暦元旦]					
昔は、元日の午後4時頃に若水くみを小川(各集落の神聖な場所)で行い、ハンドカメラ(水甕)に入れた若水で三献のごちそうを作ったり、家族全員で顔を洗って朝を迎えた。近年では元日には集落、校区で年始式が行われ、ロードレース大会が行われる。旧正月(2月ごろ)には、旧正月あそび(昔の遊び)同窓会、花見(ヒカンザクラ開花の時期のため)が行われる。								

喜界町

1	五月五日	存続状況	存続危機	関連テーマ	5	8	12	15
場所	町内集落各家庭	行事日 [過去]	旧暦5月5日 [同]					
以前は、朝に菖蒲と蓬を挿して魔除けとし、仏壇やお墓に活けた。喜界島にも鬼から逃れるために菖蒲の茂み、蓬畑に隠れた話が伝わる。また、この日は男児を祝福する日で、初節句の家では近親を招いて、節句祝をしていたようだが、現在は、家によってハサームッチー(もち米粉、サツマイモ、蓬、黒糖などを原料とした餅)を作り先祖にお供えし、食すことだけが行われているようである。実修する家も少なくなった。鯉幟は昔は立てる習慣がなかったといわれる。								
2	冬折目	存続状況	存続危機	関連テーマ	5	8		
場所	町内集落各家庭	行事日 [過去]	旧暦9月の壬戌の日(島南部では高祖祭)から9日目 [同]					
「冬折目」は冬の節句という意味。以前は、家庭でハサームッチーを作り先祖にお供えし、親類近所にも配った。その日の夕方には、青年や子どもたちが餅貰い唄を歌いながら各家を回るところもあった。また、この日は母親か祖母がシヨニャラシー(ヒョーヨ様、火の神)を祀る日と伝えるところもあった。家回りは、中里や浦原・先山といった集落にて、現在でも子どもたちが行っているが、餅ではなくお金でもることが多く、ハサームッチーも最近は購入することもあり、自作する家庭も少なくなっている。								
3	七夕	存続状況	存続危機	関連テーマ	4	8	19	
場所	町内集落各家庭	行事日 [過去]	新暦7月7日 [旧暦7月7日]					
以前は、各集落の人々は、旧暦7月7日は先祖の御霊がお盆の供養を受ける為に「あの世」を出発する日と意識していた。従って、朝の墓参り、墓地清掃などを行っていた。現在は新暦の7月7日になり、この意識はほとんど薄れ、特に幼児のいる家庭で七夕飾りを庭に立てることくらいしかない。								
4	念辻遊び	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	10		
場所	川嶺集落(念辻公園)	行事日 [過去]	旧暦8月19日 [同]					
川嶺集落独特の行事。かつては、子どもたちの相撲や綱引きが行われ、とても賑やかだったが、現在は、一重一瓶で集い、親睦を深め、最後は八月踊りを行っている。								
5	節折目	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	12		
場所	町内集落各家庭	行事日 [過去]	旧暦8月初丁の日 [同]					
かつては全島的に行われていたが、今は希にしか行われていない。この日の早朝に、井戸端等で、「節浴(シチャミ)」と称し、祖母か母親が子どもの頭に水を浸したススキで3回ふりかけながら、「ユツシューナリヨ(偉い人になれよ)」「フデーリヨ(大きくなれよ)」などと唱え、子どもの健やかな成長を祈っていた。その後ご馳走をいただき節折目を祝った。								
6	八幡神社豊年祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	町内集落の八幡神社近くの広場(ハンジャー)	行事日 [過去]	旧暦9月15・16日 [同]					
豊年祭は、「島遊び」ともいわれ、規模の差はあれ殆どの集落で行われている。日時は集落によってかなりの違いがあり、旧暦8月15日、同15～16日、同9月15日、同9月15日等々がある。なお、名称も〇〇神社豊年祭と、神社名が付く場合が多く、実際にその境内や近くの広場が祭りの場となっている。そこで行われる行事の内容は、神社参拝、一重一瓶を持ち寄っての会食、集団歌舞「八月踊り」の披露、奉納相撲などである。								

5	シバサシ	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15		
場所	広場	行事日 [過去]	旧暦8月 アラセツ後の壬の日 [同]					
アラセツ (新設節), ドンガ (改葬) と並んでミハチガツ (三八月) の一つ。シバサシという名のごとく, 魔除けのためにススキなどを家の軒や畑に差す行事だったと思われるが, ツカリ (前夜祭) の日に八月踊りを踊るだけの集落が多い。								
6	新節	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	広場	行事日 [過去]	旧暦8月初の丙の日 [同]					
ミハチガツ (三八月) の最初の行事, つまり夏の正月元旦に位置付けられる日である。昔は, 前日のツカリ (前夜祭) から祭当日まで集落中の家々を回り夜明かして行るのが常だった。ツカリの日に, 高祖加奈志 (先祖) へのお供え (赤飯やミキ) を行い, 八月踊りを広場にて行う。今では行っていない集落もある。秋名・幾里集落では, 高祖加奈志へのお供えは, 昔ながらのやり方で行い, 赤飯・ミキ・かぼちゃや豆腐の煮物など, 3〜8膳準備している。祭り当日は, ショチョガマ・平瀬マンカイ (国指定重要無形民俗文化財) が今も伝統的に行われている。								
7	盆	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	各家の仏壇, 墓, 広場	行事日 [過去]	旧暦7月13日 (盆ムケ), 14・15 (盆送り (フウリ)) 日 [旧暦7月13日, 14, 15日]					
龍郷町の盆行事は, 旧暦7月の13日から15日に行われる。迎え盆 (13日) には, 縁側に水棚 (精霊棚) をこしらえ, 夕方に墓へ出向いて祖先の霊を家に迎える。そして, 祭壇にお茶・型菓子・家庭で採れた野菜・果物を供える。供養日である盆の中日 (14日) には, 味噌汁, お粥, ラッキョの漬物, 呉汁, ジマメ豆腐などを作って供える。送り盆 (15日) には, うとしいり, 煮物, 油ソーメン, クワリの味噌炒めなどを作って供えます。午前中に墓の手入れをして, 夕方, 食事を済ませてから墓へ祖先の霊を送る。墓には多くの提灯を上げて灯をともし, 親戚や縁者の墓にも線香を焚いて拜んでまわる。								
8	七夕祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	各家庭	行事日 [過去]	旧暦7月7日 [同]					
旧暦7月7日は, 本土と同様に, 青竹を色紙などで飾り, 短冊に願い事を書く, 七夕の祭りが行われる。七夕飾りは7日の早朝に屋敷内に立てる。この日は, 墓参りをしたり, 大根の種を蒔いたり (七夕蒔き) する。七夕の青竹の竿は, 盆まで取っておき, 送り盆のとき, 墓で提灯を下げるための竿として使われる。								
9	浜下れ	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	各集落 港 広場	行事日 [過去]	6月の土日 [旧暦4月の申の日]					
かつては, 4月の申の日に, 田んぼで捕ってきた虫を, 川や海に後ろ手で投げ捨てる儀式もあった。いわゆる虫除け, 虫払い行事と位置付けられる。浜下れは豊作の祭りでもあり, かつては舟コギ競争のほか競馬や闘牛も行われていた。内陸の集落では, 高倉に集まるなどしていた (現在は, グランドなどで運動会をする)。最近のハマオレは, 集落の運営費などを集めたり, 集落内の親睦を図る行事の一環として行われる。								
	五月五日	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	各家の軒下, 墓	行事日 [過去]	旧暦5月5日 [同]					
旧暦5月5日は, 男の節句で, アクマキヤクジリヤムチ (鯨餅) を作る。また, 家の軒先には魔除けの意味からショウブとヨモギを差し, 墓参りを行う。昭和初期頃までは, 海岸で船こぎ競争などもした。								
11	三月三日	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	各戸 海	行事日 [過去]	旧暦3月3日 [同]					
旧暦3月3日は, 女の節句で, フツィムチ (ヨモギ餅) を作る。また, ヨモギと桃の小枝を墓に供える。この日は, 家族で貝拾いにも出掛ける。海に降りないと, カラスやネズミ, フクロウになると言われている。								
12	ヒッキヤゲ	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	各戸	行事日 [過去]	1月18日 [旧暦1月18日]					
甘藷と餅と一緒に炊いた物がヒッキヤゲである。昔は1月14日に作ったナリムチを甘藷とたいいていた。正月の餅やナリムチを引き揚げ, 正月行事を終えるという意味がある。								
13	ナリムチ	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	仏壇, 床の間, 軒下, 墓など	行事日 [過去]	1月14日 [旧暦1月14日]					
門松などの正月飾りを片付け, ナリムチで小さく切った餅をブクギ (リュウキュウエノキ) の枝に刺して, 床の間や先祖の墓に飾る。								
14	七日節句	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	各家庭, 親戚縁者の家	行事日 [過去]	1月7日 [旧暦1月7日]					
七日の雑炊 (ナンカンジョセ) を食べて数えて7歳になる子どもの成長を祈る。								

7	網野子のむんじゅる	存続状況	復活	関連テーマ	26			
場所	公民館広場	行事日 [過去]	旧暦8月15日又は前後の土・日曜日の十五夜豊年祭並びに敬老会					
<p>沖縄から伝わったと言われる唄と踊り。明治末ころ、旅回りの芸人が網野子集落に興行にやってくる、12、3歳の娘たちに教えたとも言う。今は、鉢巻をした男役と笠を被った女役の二列で踊る。すべて女性が演ずる。一時途絶えていたが、今年十数年ぶりに復活して披露された。その歌詞の一部は、次のとおり。</p> <p>とうふやぬ あんまが、とうふやい やどしやと とうふのだから ひきこんで、うりが あとあとや めいわく とらしゅんど、あやまめぐう なよ むとかえしゅんど、サーサー けしたんが(囃し)</p> <p>郷土研究者は、沖縄の粟国島で生まれた唄「むんじゅる」の歌詞に、「三村音頭(小禄豊見城)」の後半の歌詞がくっついて構成されていると指摘している。</p>								
8	蘇刈集落の棒踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	公民館広場	行事日 [過去]	旧暦8月15日又は前後の土・日曜日の豊年祭 [同]					
<p>現在、蘇刈集落の主に豊年祭などで披露される。大正8年ころ、12人の住民が仕事で奄美に来ていた四国伊予の人から習ったという口碑がある。今日、10人ほどで棒を持って行われるが、本土の棒踊りにも負けない勇壮な取り組みは、集落の人たちを鼓舞させる。退場は「白虎隊の唄」で、踊りでは「相撲甚句」などが歌われる。詞章以下のとおり。</p> <p>さらば、東西、始まります、肥後の熊本 勸進相撲よ、七十五間のもかりが揺れて もかりが内に、座敷がとれて、座敷御膳にや まるまる土俵が、土俵のすみずみ、柱が立てて 柱巻き物、白地の木綿、上にはったる金らんどんす イヤッホダアアア スイスイ、ンダアア アアア ハーイーイ イーイ、ハーイーイ イーイ イーイーイー トオル トオル、トゥシ サー サー ホーサー イローホー、 ホーホーホーワ ハーハーハーヤ、サーサーサー イエイ イエイ エイ サーサー</p>								
9	油井の豊年踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	10			
場所	油井集落(公民館前)	行事日 [過去]	旧暦8月15日 [同]					
<p>特に伝承や古い文献などもなく由来は不明であるが、集落の守り神である「イビ(ベ)ガナシ」を祀ってあるミヤー(聖地)で十五夜行事の綱引き、相撲、豊作を感謝し五穀豊穡を祈る農耕儀礼が一緒に行われる。また、シキホウと呼ばれる「土俵払い」から「観音翁土俵見回り」までは神事儀礼と考えられる。</p>								

龍郷町

1	種下ろし	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	各集落内	行事日 [過去]	10月中旬から下旬 [旧暦9月末から10月初めの庚申の日]					
<p>種下ろしは、元々は播種した米が翌年も豊作であるようお願いをこめた祭りである。集落公民館や広場などから祭りが打ち出される。祭り当日の昼間に子どもたちの餅もらいを行い(行っていないところもある)、夜にかけては大人たちが中心に踊りあかす。年に一度の無礼講で、他人の家で飲み食いできる日であり、現在では、集落の運営費を集める機会にもなっている。八月踊りや飲食の合間に、各家庭からのご祝儀「ハナ」の披露がなされる。集落によって、祭りの日取り・日数や、回る家の数、やり方は異なる。</p>								
2	今井権現祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	安木屋場海岸 今井権現神社境内	行事日 [過去]	旧暦九月九日 [同]					
<p>集落民を中心に、社殿で「願直し」「願立て」を行い一年間の無事を感謝して無事息災、海上安全を祈願する祭りである。現在よく報道などにも取り上げられる「今井権現祭」は、安木屋場集落出身のユタ神が中心となって行う神祭りで、50年ほど前から平成26年まで海岸及び今井権現の社殿のある山頂で行われていたものである。(クガツクンチ)は、神社を持たない集落では、安木屋場集落の今井権現に向かって拝んでいた。</p>								
3	豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	グラウンド 公民館を中心とした集落内	行事日 [過去]	新暦9月第3日曜日 [旧暦8月15日]					
<p>豊年祭 ①集落在住の男子たちの相撲。②集落民全員による八月踊り。③子ども会・育成会によるホウヤ網という段取りで行われる。近年では、敬老会をセットにして行う。③のホウヤ網については、龍郷町において今では中勝集落でのみ行われる。敬老会については、町内全20集落で、奉納相撲などともに行われる。</p>								
4	ドンガ	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	龍郷町内では秋名・幾里集落内	行事日 [過去]	旧暦8月甲子の日 [同]					
<p>奄美大島において、ドンガ(改葬)は、アラセツ(新節)、シバサシ(柴差し)と並んで重要な行事であるが、伝承されている地区は極めて少ない。龍郷町内では秋名・幾里以外になく、ここでは人々が朝仕事に行く前に、必ず酒をもち、墓掃除をして、線香を立てていく。</p>								

2	九月九日	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	神社境内	行事日 [過去]	旧暦9月9日 [同]					
<p>旧暦9月7日の午前中に大屯神社横で集落婦人を中心となりミキ作りを始める。ミキは奄美の伝統的神祭りには欠かせない甘酒のような飲み物。近年は、当日午前中に行われる神事・ミキ開きを、古仁屋在住の「マサコカミサマ」と呼ばれる女性が執り行っている。当日午前中に、しめ縄作り、土俵の打ち直しを行う。祭りは、挨拶、土俵開き、諸鈍小中学校児童・生徒による奉納相撲・踊り(エイサー2曲「遊び庭(あしびな)」・「唐船ドーイ(とうしんどーい)」)、諸鈍シバヤ前半奉納、青壮年団土俵入り、諸鈍シバヤ後半奉納、万歳三唱の順。諸鈍シバヤは10演目ほどからなる、国指定の重要無形民俗文化財である。</p>								
3	西阿室のテンテン踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	広場(ミヤー)	行事日 [過去]	旧暦8月15日又はそれに近い土・日曜日の十五夜豊年祭 [同]					
<p>十五夜豊年祭の中で、「振り出し」に続き行われる。土俵の左右から同時に、「里」と「金久」に分かれた行列が、華やかな花飾りを持って入場、「テンテンテンナ〜 シュトゥルクテン〜」の囃子に合わせ、先頭の力士たちは、大きな花飾りをユッサユッサと左右に揺らしながら、続く浴衣姿の女性たちは手踊りを見せながら、土俵の周りを練り歩き、華やかさを競う。力士に続く女性たちは、それぞれに住む女性たち11人と決まっている。先頭の女性は「ムカエッチュ」と呼ばれ、ずっと後ろ向きで続く女性陣を迎える。その次の女性が「サキダチ」と呼ばれ、力飯(ちからめし)と呼ばれる握り飯を持った女性を先導する役割。その後、お盆に力飯をのせた女性9人が続く。行列の内回り、外回りは1年交代。花飾りはデザイン・作っているところも、祭り当日までお互いに知られないように準備する。花飾りに使う枝は椿。</p>								
4	芝のバツケバツケ	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	公民館広場	行事日 [過去]	旧暦8月の初丙(アラセチ)又はその後の土日曜日に行われる十五夜豊年祭・敬老会の前晩 [同]					
<p>豊年祭・敬老会の前夜、子ども達が公民館に集まり、イルイ(西)、アグレ(東)の二組に分かれて、チゼンと松明の灯りに先導されて各家を歌いながら回り、庭で歌い六調を踊り、お菓子をもらって歩く。唄は江戸後期から大正時代頃にかけて日本中ではやった「ドンドン節」で、歌詞は「バ〜ツケバツケ トゥーティブリ ムレガトゥ キャーオタツスカ アタラシャンティム クリツボレ (おばさん おばさん カボチャを もらいに 来ましたよ。もったいなくても くださいな) (囃子) アラドンドンセ アライクシャンセ〜」というもの。公民館に戻り、年かさの子どもが分配する。昔は、大人が各家を回り、歌詞のとおりカボチャやお米などを集め、その晩中に料理して、次の日の豊年祭に出した。唄は明治のころ日本中にはやった「ドンドン節」で、歌詞は「バ〜ツケバツケ トゥーティブリ ムレガトゥ キャーオタツスカ アタラシャンティム クリツボレ (おばさん おばさん カボチャを もらいに 来ましたよ。もったいなくても くださいな) (囃子) アラドンドンセ アライクシャンセ〜」というもの。今は薩川小学校の子ども会と古仁屋在住の子どもたちで行っている。</p>								
5	芝の相撲甚句	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	公民館広場	行事日 [過去]	旧暦8月の初丙(アラセチ)又はその後の土日曜日に行われる十五夜豊年祭・敬老会					
<p>町内で、唯一、女性が行っている相撲甚句。芝集落では、旧暦8月の新節(アラセチ)やその後の十五夜豊年祭、また敬老会等で披露させる。化粧回しは米袋を用い、それぞれ四股名を決めて書いている。入場は、先頭に法螺貝、二番目に塩まき役、その後に力士が続いていた。歌詞は4番までである。1番は次のとおり。</p> <p>エー 揃た揃いました 相撲取り衆が揃た (囃子)トコドスコイ ドスコイ 馴染み嫌うな 言うて聞かそ 相撲取りこいつと言うものはー アー 油のような酒を呑み 水晶のようなご飯食べ エー いたちの毛のような 煙草吸い 芸者舞妓を肌にして エー 好きな相撲取りや ヨーホエエー やめらりやりよかヨー (囃子)トコドスコイ ドスコイ汽車が通れば 田んぼ道 ニワトリかかえてキャッキョツと啼かせて けっこなもんじやい もんじやい</p>								
6	網野子のアンドンデー	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	公民館広場	行事日 [過去]	旧暦8月15日又は前後の土・日曜日の十五夜豊年祭並びに敬老会 [同]					
<p>網野子集落で十五夜豊年祭や敬老会などで演じられる唄と踊り。薩藩時代、同地に住んでいた役人の家に玉女加那といわれる女の子が誕生したとき、使用人の何人かが行燈を持って即興的に踊ったのが始まりだと伝えられてきた。</p> <p>唄の歌詞は次のとおり。</p> <p>あんどんで一ながどんでえ あしたち ゆられてい とぼされて じいみたち ゆられてい とぼされて うどうてい みいしろか たまじよかな こんどぬ うどりや ぼたん花 こんどぬ うどりや 菊の花 こんどぬ うどりや 百合の花</p> <p>近年、「奄美パーク」での公演、網野子トンネルの開通式、学校の文化祭、町の島口大会などで上演する機会が増えている。町の補助で各集落で婦人ごとに集まるサロンが開かれ、その場で練習したりしている。</p>								

11	湯湾釜の餅もれ	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	湯湾釜集落(集落公民館)	行事日[過去]	旧暦十月十六日 [同]					
<p>集落作業による生活用水の清掃・補修作業から始まる。家庭では、「ムチモレ踊り」一行に献上するための「カシャ餅」作りをする。「カシャ餅」は、餅米の粉と蒸したサツマイモに水を入れてこね合わせ、ムチガシャ(クマタケラン)の葉で包んだものを蒸した餅で、ムチガシャ独特の香ばしさがする餅である。午後6時頃から参加者が集落公民館に集合し、トネヤ(集落の祈願所)から順次全家庭を廻り、最後の家は午後11時を過ぎる。その後、公民館で慰労会をし、日付も変わった頃、それぞれの潮時で退散し終わりとなる。献上された餅は、集落外からの寄付者等に配り、寄付金は、集落の活動資金並びに各団体へ配分を行っている。</p>								

宇検村

1	豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	各集落(土俵)	行事日[過去]	8/8, 9, 15, 16 9/12, 20 [旧暦8月15日・シバサシ]					
<p>村内全集落で、新暦の8, 9月にかけて行われる。以前は旧暦8月15日やシバサシに行く集落がほとんどであったが、現在は新暦の土曜日、日曜日の休日に開催する。豊年祭当日の流れは、午前中に力士たちが集落の神社等に祈願へ行き、正午頃、会場の準備を終え、男性はまわし、女性は浴衣(着るところは)に着替える。午後2時頃、トネヤ等からフリダシ(振出)をして、土俵で相撲を行う。芸能やイッソウが披露される集落は相撲の合間に行われる。芸能のうち、芦検集落の「稲すり踊り」が村の文化財に指定されている。イッソウとは女性が仮装して土俵まわりをフリダシする余興。相撲が終わった後は、土俵のまわりで八月踊りを踊る。いくつかの集落では土俵で八月踊りをした後、ヤーマワリ(家廻り)をする。豊年祭の次の日は会場の片付けをして、最後にイタシキバレ(打ち上げ)をして終了する。</p>								
2	ムチムレ(餅貰い)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	芦検集落(公民館)	行事日[過去]	11月 [彼岸入りの日より数えて58日目]					
<p>現在は芦検集落だけで行われている。午後7時頃に仮装した青年団たちが公民館に集合し、サンバラ等を持って集落を練り歩く。かつては集落内の屋敷を1軒ずつ回っていたが、現在は各班ごとに回っている。場所に着くとムチムレ唄を唄い、住民たちがフツムチやミカン、飲み物などをサンバラの中に入れていく。青年たちは輪になり「オーエヌエーヨイサッサー ヤッサガへーヨイサッサー」と掛け声をしながら踊る。全ての場所を回り終えると公民館前の土俵に戻り、八月踊りをする。</p>								
3	ツナカガリエ(綱引き)	存続状況	順調	関連テーマ	8	25		
場所	田検集落(道路)	行事日[過去]	シバサシと同日[同]					
<p>村内では田検集落だけで行われている。当日の流れは、午後5時頃に集落放送で住民に声をかける。午後5時半頃、集落民が集まったところで、綱引きを始める。綱引きを行う場所は、土俵やトネヤなどが接している通りで行われる。綱引きは、班対抗、男女別、大人対子どもなど、対戦の仕方を変える。綱引き終了後の6時半頃、八月踊りをする。もともとは豊年祭の前に綱引きを行う日程であった。使用する綱を自分たちで製作し、その綱で綱引きを行っていた。最後の綱引きの途中で、中心を包丁で切り、半分は海に流して、半分を土俵に使用していた。現在は、豊年祭が新暦に移動したため、綱引きよりも先に豊年祭を開催している。</p>								
4	シバサシ	存続状況	順調	関連テーマ	8	15		
場所	阿室他各集落(土俵、個人宅)	行事日[過去]	アラセツから7日目の壬の日[同じ]					
<p>現在、阿室集落で行われるシバサシの概要は、早朝3時30分、集落住民が土俵に集まり、八月踊りを始める。朝陽が昇る直前に、ススキを取りに行き、各家のすべての屋敷の屋根の四隅にススキを挿す。四隅にススキを挿すことは魔除けの意味を持つ。村内の各集落でシバサシ当日は、八月踊りやススキを挿すことが行われているが、早朝からの一連の行事として行っているのは阿室集落だけである。</p> <p>また、村内のシバサシギンを所有している個人宅では、前日夕方にチカラグサを燃やして、シバサシギンを出す。高膳やお盆に載せて、床の間に置き、ミキや酒を供えて家の者が拝むことをするが、各家でそれぞれ異なるやり方で行われている。シバサシ当日の夕方に再度チカラグサを燃やし、シバサシギンをしまふ。シバサシギンは先祖代々所有してきた着物で、先祖が来ていた着物だと考えられている。</p>								

瀬戸内町

1	清水・厳島神社のティーヤ・ヒヨヒヨ	存続状況	順調	関連テーマ	8	29		
場所	神社社殿内	行事日[過去]	旧暦9月6日 [時代不詳だが、かつては旧暦9月9日]					
<p>旧暦9月6日夜、神社に集落民が三々五々訪れて線香をあげる。以前は酒をのみながら夜おそくまでそこで過ごしたり、徹夜・夜明かしをしていた。翌朝、日の出前、神社に集まった人々が、社殿の回りを左回りに回る。そして、ソテツ葉をヒヨヒヨ言いながら社殿内に投げ入れる。中には数える人がいて、その数が1,000枚(10本×100束)になったら、それをまとめて祭壇に供える。1年間そのまま。朝5時に女性が行き、6時位になると、集まってきた他の集落民にミキや団子を分ける。下げた米と塩は小分けして集落の各家庭に配る。都会の子どもに送る家もある。薩摩藩統治の時代、清水が大火に見舞われ、それ以降始まった行事とする口碑もある。時代不詳だが、かつて旧暦9月9日に行われていたということも重要である。</p>								

3	思勝集落豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	思勝集落(公民館)	行事日[過去]	旧暦9月9日前的日曜日 [旧暦9月9日]					
<p>青壮年は祭り会場の公民館周辺の清掃及び土俵整備、放送設備準備などを行う。婦人会は祭り当日の飲み物や料理の買い出し、料理の下ごしらえをする。当日は、トネヤでの祈願、お水取りを行ったあと、祭り会場の公民館へ向かう。子どもの相撲から始まり、青壮年の対抗相撲や他集落との対抗戦などを行っている。婦人会は主に、踊りや老人クラブを喜ばせる余興などを行っている。夜は集落民全員で一年間の無病息災を祈願する八月踊りを行っている。翌日は、青壮年は祭りの後片付け、婦人会は台所の清掃及び購入品の支払い関係を区長に報告する。集落役員は寄付金の精算などを行う。</p>								
4	大和浜集落豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	集落公民館	行事日[過去]	旧暦八月十五日前的日曜日 [旧暦八月十五日]					
<p>前日は、トネヤの清掃、神社の清掃、お水取り場の清掃、公民館周辺の清掃、料理類の買い出しおよび下準備、放送設備準備等。当日は、相撲、青少年及び青壮年による棒踊り、婦人会のナギナタ踊り、ナカイリ、夜の八月踊りが行われる。翌日は、青壮年は祭りの後片付け、婦人会は台所の清掃及び購入品の支払い関係を区長に報告する。集落役員は寄付金の精算などを行う。</p>								
5	大柵集落豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	大柵集落(公民館)	行事日[過去]	旧暦八月十五日前的日曜日 [旧暦八月十五日]					
<p>前日は、お水取り場の清掃(2か所)、公民館周辺の清掃、料理類の買い出しおよび下準備。当日は、相撲、婦人会の踊り、ナカイリ、夜の八月踊りが行われる。大柵地区は唯一、2か所から力水を取るため、力士は二組に分かれて東、西地区両方からの振り出しとなっている。地区の安全や、豊作を願って前年に立てた願を感謝の気持ちを含めて解き、さらに1年の願を立てることを目的とし、祈願の祝いとして相撲を取る。(大和村の年中行事)より</p>								
6	大金久集落豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	集落公民館	行事日[過去]	旧暦八月十五日前的日曜日 [旧暦八月十五日]					
<p>前日は、トネヤの清掃、公民館内外の清掃、料理類の買い出しおよび下準備、水取り場の清掃、土俵整備、放送設備準備等。当日は、トネヤでの祈願、相撲、ナカイリ、婦人会の踊り、夜の八月踊りが行われる。翌日は、後片付け、購入品の支払い関係、寄付金精算等を行う。</p>								
7	戸円集落豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	集落公民館	行事日[過去]	旧暦八月十五日前的日曜日 [旧暦八月十五日]					
<p>前日は、トネヤの清掃、水取り場の清掃、料理類の買い出しおよび下準備、土俵整備、放送設備準備等。当日は、トネヤでの祈願、振り出し、相撲、婦人会の踊り、夜の八月踊りが行われる。翌日は、後片付け、購入品の支払い関係、寄付金精算等。戸円地区の振り出しはトネヤと昔のノロ神家2か所から振り出す。</p>								
8	名音集落豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	26	
場所	名音集落(公民館)	行事日[過去]	旧暦八月十五日前的日曜日 [旧暦八月十五日]					
<p>祭り前日は、テラの清掃、土俵整備、公民館内外の清掃、料理類の買い出しおよび下準備。当日は、相撲、婦人会の踊り、ナカイリ、夜の八月踊りが行われる。旧暦9月9日、地区のノロ神による神事をテラで行う。出席者は、集落区長、集落役員、奉納相撲を取る若者5人前後。旧暦9月9日その日にノロ神による神事を行うため、集落民全員による豊年祭はすでに何日か前に終わっている。大和村では、旧暦9月9日は前年に立てた願を解き、新たに1年の願を立てる日である。願とは(家内安全、家を離れている家族も含む)涙、家庭の庭に盛り砂をし、線香を立て、ミキ、酒、野菜の煮物などを供え捧む。</p>								
9	今里集落豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	今里集落(公民館)	行事日[過去]	旧暦八月十五日前的日曜日 [旧暦八月十五日]					
<p>祭りの前日は、壮年団は公民館周辺の作業、トネヤ2か所の作業を行う。婦人会は、祭り当日の飲み物や料理の買い出し、料理の下ごしらえをする。当日は、相撲、婦人会の踊り、ナカイリ、夜の八月踊りが行われる。村内豊年祭行事で、今里集落だけは前夜祭も行っている。前夜祭は公民館の中で主に青壮年、婦人でカラオケを行っている。祭りはまわし姿の青年がトネヤへ集まり集落の区長が安全祈願、無病息災を祈願した後に列をつくり神道をおりて祭り会場の公民館へと進む。列の先頭に上半身と顔に黒いスミを塗ったシタンと呼ばれる男性が刀を振りながらシタニーシタニーのかけ声で土俵に向う。今里集落のこのシタンと呼ばれる役は毎年違う男性が受け持つという決まりがあり、青年の少ない集落では学校の先生も一度は経験すると言われている。文献によれば顔や体に黒いスミを塗る祭りは原始的な仮装の方法で日本本土の祭りでも少し残っているようだ。刀を振りかざすのは悪霊を払う。この体にぬるシタンという行事は大島群島内においては今里集落の隣の宇検村芦検集落と今里集落でこの風習が残っている。</p>								
10	津名久集落豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	津名久集落(公民館)	行事日[過去]	旧暦八月十五日前的日曜日 [旧暦八月十五日]					
<p>前日は、青壮年による公民館周辺の清掃及び土俵整備、テントの設置、放送設備準備などを行う。老人クラブはトネヤの清掃を行っている。婦人会は祭り当日の飲み物や料理の買い出し、料理の下ごしらえをする。祭り当日は、相撲、婦人会の踊り、ナカイリ、夜は八月踊りに興じる。翌日は青壮年は祭りの後片付け、婦人会は台所の清掃及び購入品の支払い関係を区長に報告する。集落役員は寄付金の精算などを行う。</p>								

16	三八月(みはちがつ)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	奄美市笠利町の各集落 当番に決められた各家々	行事日[過去]	8月最初の丙の日(前日を「ツカリ」と呼び、両日含めて「アラセツ」)[同]					
<p>笠利地区の29集落で行われている行事。旧暦8月の最初の丙の日を「アラセツ」、7日後の壬の日を「シバサシ」、「アラセツ」の前日を「ツカリ」と呼んでいる。合わせて「三八月(みはちがつ)」といわれている。「アラセツ」は、その年の新米で作った「ミキ」と赤飯を供えて先祖や各神々に感謝し、豊年を祝う祭りといわれている。かつては「ツカリ」の日から「シバサシ」までの7日7夜集落内の各家々をまわり、「八月踊り」を踊り明かしていた、という。近年は回る家を当番制にして時間も限定(18:00頃から22:00前後が多い)している。また、「アラセツ」の日から2日間、「シバサシ」の日の前後2日間と簡素化・省略化も進んでいる。「八月踊り」の曲は、20曲とも30曲とも、あるいはそれ以上ともいわれているが、近年は10数曲前後に減少してきている。家から家への移動の際には、「おぼこり(れ)」を唄いながら移動するケースが多い。沖縄には、7、8月の折り目行事を「夏正月」というところがあるようだが、奄美ではあまり聞かない。いずれにせよ、昔は冬の正月よりも古い折り目行事だったと言う説がある。</p>								
17	シバサシ	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15		
場所	奄美市笠利町の各集落 当番に決められた各家々	行事日[過去]	旧暦 8月「アラセツ」後の壬の日[同]					
<p>笠利地区の29集落で行われている行事。奄美大島では全体に、旧暦8月の最初の丙の日を「アラセツ」、7日後の壬の日を「シバサシ」、「アラセツ」の前日を「ツカリ」と呼んで祀るところが多い。「アラセツ」は、その年の新米で作った「ミキ」と赤飯を供えて先祖や各神々に感謝し、豊年を祝う祭りといわれている。かつては「ツカリ」の日から「シバサシ」までの7日7夜集落内の各家々をまわり、踊り明かしていた、という。近年は回る家を当番制にして時間も限定(午後6時頃から午後10時前後が多い)している。また、「ツカリ」の日から2日間、「シバサシ」の日の前後2日間と簡素化・省略化も進んでいる。「シバサシ」は、田畑や屋敷の隅にシバ(ススキ)を挿して悪霊を追い払う。「八月踊り」の曲は、20曲とも30曲とも、あるいはそれ以上とも言われていたが、近年は10数曲前後に減少化してきている。佐仁の八月踊りが、県指定無形民俗文化財とされている。</p>								
18	タネオロシ	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	奄美市笠利町の各集落 当番に決められた各家々	行事日[過去]	旧暦 9月末～10月の最初の庚申の日までに					
<p>笠利地区の29集落で行われている行事。早播きのもみ種を水につけて、餅をついて豊作に感謝し、来年の豊作を祈願する行事で、人々が集落内の各家々をまわり、餅をもらう行事である。他地では、三味線のついたドンドン節など専用の唄、踊りがあるが、笠利地区では「八月踊り」を踊る。また、「タネオロシ」と「アラセツ」、「シバサシ」を一緒に行おうとしている動きもある。集落の少子高齢化、過疎化に伴い、幼・小・中・高校運動会や文化祭、市町村の運動会等名瀬在住出身者や他町村在住出身者が参加できない傾向も高まってきている。婚姻関係においても広域的な関係が拡大し、出身集落の祭りへの参加が難しい一面もある。</p>								
19	ハマオレ	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	奄美市笠利町の各集落 集落前の海岸	行事日[過去]	旧暦4月[同]					
<p>笠利地区の29集落で行われている行事。奄美大島においては旧暦4月の午あるいは寅や申の日に行われる行事といわれている。田畑の害虫を取ってきて、芋の葉や芭蕉の葉などに包み、海や川に流して終日浜辺で飲食などをして過ごす。午後から競馬や闘牛、舟こぎ競争等を行っていた。近年は少子高齢化や過疎化が著しく、競馬や闘牛は全く見られなくなった。舟こぎ競争も数回行うのみである。全国、また奄美の他地域に見られる「虫送り」と同系統の行事である。</p>								

大和村

1	国直豊年祭/願直し願立て	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	国直集落(集落公民館)	行事日[過去]	旧暦9月9日前的日曜日 [旧暦9月9日]					
<p>婦人会による料理類の買い出し、料理の準備、トネヤ、テラの清掃、祭り会場の公民館内外の清掃、土俵整備、放送設備準備等。当日は、トネヤ、テラと呼ばれる聖所への祈願、そして相撲、ナカイリ、婦人会の踊り等、夜の八月踊りが行われる。なおこの日、国直では、昨年願を立てたことが無事成就した感謝と、これからの一年、幸せを祈る願立て(ぐわんたて)の習慣が残っていたが、今は実施する人は少なくなってしまった。翌日は、後片付け、寄付金精算、購入物支払等をすまして、本祭りは終了する。旧暦9月9日は重陽の節句として、戦前は全国的な祝祭日であったが、奄美にどのようないきさつで入ってきたかは不詳。</p>								
2	湯湾釜豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	湯湾釜集落(集落公民館)	行事日[過去]	旧暦9月9日前的日曜日 [旧暦9月9日]					
<p>料理類の買い出し及び下準備、トネヤと呼ばれる聖所の清掃、お水取り場の清掃、公民館内外の清掃、土俵準備、放送設備準備等。当日は、トネヤでの祈願、トネヤからの振りだし、相撲、ナカイリ、婦人会の踊り、夜の八月踊りが行われる。 翌日は、片付け作業、購入品の支払関係、寄付金精算等を行う。 湯湾釜地区は、昭和40年代まで8月15日に(村の願なおし)と呼ばれる行事が行われていた。各家々から米2合、サツマイモ、まきを集めて、ミキを作り、それをトネヤに供えて神役が集落の一年の無事を祈願していた。(大和村の年中行事より)</p>								

10	九月九日祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	10	15
場所	奄美市名瀬西田集落(西田集落公民館)	行事日[過去]	旧暦9月9日 [同]				
<p>子どもたちで行う行事。旧暦9月9日の前日の夕方、大人が加わり「西田集落公民館」前の広場で左纏りの綱を纏う。</p> <p>公民館内に祭壇を作り野菜各種、米、酒、吸い物等を供える。旧暦9月9日の午前中(11:00頃)、「西田集落公民館」の広場から出発し、決まった順路で綱を担いで練り歩き、「ピッコー、サラッコー」の掛け声を出しながら集落内を決まった道順で練り歩き悪霊を追い払う行事。</p> <p>決まった場所(3か所)では綱を置き、大声を出しながら集落の外に向けて小石を投げる。異なる決まった場所では、曲がり角に綱を擦り付けるように綱を引き合う。(勝敗をつけるのではない)</p> <p>かつては集落内を7周していたが省略して1周だけ行っている。回り終わると綱を7つに切断して、7か所の特定の場所に置かれる。</p> <p>昭和50年代までは土俵もあり、豊年相撲も行われていたが、少子化のため相撲が困難となり、土俵も不要となり撤去された。</p> <p>昭和50年代後半から敬老会も兼ねるようになっていく。</p> <p>大川小学校の協力の下、郷土学習の一環として取組が行われている。</p>							
11	節田マンカイ	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	18	
場所	奄美市笠利町(節田集落公民館)	行事日[過去]	旧暦1月1日 [同]				
<p>「正月まんかい」ともいわれ、冬の室内での遊びである。男性の列と女性の列が向き合って座り、両手または片手を軽く叩き合ったり、高く低く手舞いをしたり、胸や膝を叩いたり、マンカイ(手招き)の動作(所作)をしながら男女が歌を掛けあっていく遊びである。主に、正月期間行われたが、この行事は、奄美の島唄の基本が男女間の唄掛け(歌問答)であったことを教えてくれる。手の振りには「招き」の所作が見られるとともに、古代の歌垣(うたがき)を思わせる貴重な伝統芸能として、平成20年に鹿児島県無形民俗文化財に指定された。かつては、若者の楽しみであり、交際の場ともなっていたといわれている。また、もともとは三線(三味線)の伴奏はなかったようである(三味線がつくようになった年代は不明)。ともかく島唄の原型であることは確かである。奄美大島の正月料理として「ウツプニ(豚の骨)料理」(豚骨とツバシヤ(ツワブキ)を煮込んだ料理)知られているが、節田集落ではツワブキの代わりにアザミの葉脈を使う「アザンヤセ」料理をつくる。女性グループが前日からこの料理をつくり、終了後に振舞われる。</p>							
12	用シュンカネクワ	存続状況	存続危機	関連テーマ	8		
場所	奄美市笠利町(用集落公民館)	行事日[過去]	集落の敬老会の実施日 [旧暦正月]				
<p>室内で女性のみが二列に向かい合って座り、曲に合わせて手をたたきあったり、高く低く手舞いをしあって座踊りする。「餅つき踊り」の曲では、ゆるやかなテンポから次第に早いテンポになっていく。「六調」のリズムで座って踊る「餅つき踊り」は他では見られないものである。用出身の唄者、池野無風、伊集院リキ兄妹が、戦後ある時期、この素朴な遊びを鑑賞にも耐えられる一つの芸能として育て上げたとも言える。</p>							
13	宇宿稲すり踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8		
場所	依頼場所	行事日[過去]	不定期 [同]				
<p>「稲すり節」とその踊りは、沖縄、奄美に広く流布するものだが、宇宿でも稲の脱穀、粃すり、精米等の所作を「稲すり節」の曲に合わせて踊り演じられ、小学校の運動会や敬老会等で披露される。着物は、男女とも浴衣を着用。チヂン(太鼓)を叩く人は法被を着用。履物は足袋。粃すりは、布ヒモを使用し、臼、杵、サンバラ(箕)を使用する。特に女性は明治の女性を彷彿させる。三線(三味線)2人、チヂン(太鼓)1人、唄5人、囃子2人、踊り10人の計20人(踊り手10名は女性)。わずかな面積の田での稲作作業に精を出して、倉や家屋敷を構えることができるよう、豊作を祈り願った踊りといえよう。踊りの終盤になるとテンポも早くなり、「六調」へと移る。</p>							
14	招魂祭奉納相撲大会	存続状況	順調	関連テーマ	10		
場所	奄美市笠利町 (太陽が丘総合運動公園内の相撲場)	行事日[過去]	10月16日あるいは近い日曜日 [同]				
<p>明治37・38年の日露戦争の戦没者を慰霊するため、明治39年に招魂碑が建立されたと同時に奉納相撲大会も始まった。平成27年度で第110回を数えた。現赤木名中学校の裏手の山・観音が丘(赤木名城跡)招魂碑が建立され、招魂祭の式典もそこで行われていたが、式典参列の遺族の高齢化で急峻な階段の上り下りが危険・困難となり、平成21年度に太陽が丘総合運動公園に碑を移設した。招魂祭奉納相撲大会は、観音が丘の麓の赤木名中学校の校庭を会場に開催されていたが、昭和54年に中学校前に町相撲場ができるとそこに移転、さらに平成5年に太陽が丘総合運動公園内に相撲場が整備されると、そこに移転し現在に至っている。かつては、観音が丘の麓の湧水を力士たちが力水として祈願・土俵入りを行い、相撲大会を実施していた(年代は不明)。</p>							
15	招魂祭	存続状況	順調	関連テーマ	8		
場所	奄美市笠利町 太陽が丘総合運動公園内の招魂碑前	行事日[過去]	10月16日 [同]				
<p>明治37・38年の日露戦争の戦没者を慰霊するため、明治39年に招魂碑が建立され、招魂祭が始まる。同時に奉納相撲大会も始まった。昭和33年10月16日には、笠利村・笠利村遺族会で日支事変・大東亜戦争戦没者の招魂碑を建立。平成27年度で第110回を数えた。現赤木名中学校の裏手の山・観音が丘(赤木名城跡)招魂碑が建立され、招魂祭の式典もそこで行われていたが、式典参列の遺族の高齢化で急峻な階段の上り下りが危険・困難となり、平成21年度に太陽が丘総合運動公園に碑を移設した。</p>							

4	十五夜豊年祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	10		
場所	奄美市住用町(西仲間集落の公民館前の広場)	行事日 [過去]	旧暦 8月15日(平日になる場合には、前の週の日曜日) [旧暦8月15日]					
<p>旧暦8月15日に行われる行事であるが、平日になる場合には、その前の日曜日に「豊年相撲」を行う(近年は敬老会も兼ねて行われている)。「悪綱引き」と「竿(ソウ)踊り」を旧暦8月15日の夕方に実施している。</p> <p>「悪綱引き」は、公民館前の広場で男女に別れて綱を引き合い、中央部で切断した後、男綱と女綱に別れ、それぞれの決まった道順をとおり、住用川の柳橋に向かう。女綱が先に到着すると豊作、男綱が先に到着すると凶作との伝承がある。到着後それぞれ橋の上から後ろ向きに綱を投げ捨てる。</p> <p>「竿(ソウ)踊り」は、200年前から伝わっているといわれている。稲の植え付けから収穫までの様子を表現した踊りである。</p> <p>踊りの曲目は特に決まっていない。チヂン(太鼓)のリズム・テンポで踊る。</p> <p>二人の竿持ちが中央でゆっくりと竿を前後に揺らし、チヂン(太鼓)を先頭に踊り手たちが登場し、2本の竿の周りで踊る。最後は踊り手たちは二列に別れ、それぞれ竿を右手に持ち、左手は左隣の人の腰をつかみ、二列が向かい合って交互に竿を振り合う(稲穂が重たく実り、風に揺れている様子を表現したものだといわれている)。</p>								
5	豊年祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	10		
場所	奄美市住用町(川内集落の公民館前の広場)	行事日 [過去]	旧暦 8月15日(平日になる場合には、前の週の日曜日) [旧暦8月15日]					
<p>旧暦8月15日に行われる行事であるが、平日の場合には、その前の日曜日に実施している(近年は敬老会も兼ねて行っている)。前日に米(米粉)から「ミキ」をつくる。土俵は前日に男性陣がつくる。土俵の土を固め直し、土俵隅の四本柱の上部には、シバ(しいの木の枝葉)がぐくりつけられる。豊年相撲の合間に、新生児の土俵入りや中入りなどが行われる。また、「スティルクテン」という芸能も披露される。「スティルクテン」は、大正時代初期に加計呂麻島の諸鈍集落から取り入れた。相撲が終了したら、「俵返し」が行われ、土俵が舞台となり八月踊りや六調等が踊られる。</p>								
6	豊年祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	10	15	
場所	奄美市住用町(山間集落の公民館前の広場)	行事日 [過去]	旧暦 8月15日(平日になる場合には、前の週の日曜日) [旧暦8月15日]					
<p>旧暦8月15日に行われる行事であるが、平日の場合には、その前の日曜日に実施している。敬老会と豊年祭は一年毎に交互に実施される。豊年祭の主行事は相撲だが、午前中、力士たちは集落内の高千穂神社の境内で祈願した後、先頭の人が塩を左右に振りまき清め祓いながら「ヨイヤー、ヨイヤー」の掛け声をかけながら集落内の土俵場まで下りてくる。土俵場に到着したら、壮年団長が口上の「ロタープエ」を述べ、最初に東組の力士たちが土俵上上がり、土俵上を一巡して輪となり土俵の内側を向きあい、掛け声と気合いを掛け合い、反り返り、左手2回、右手を2回叩き、足を一步踏み込んで四股を踏んだ後に両手を高く突き上げて気合いを掛け合う。続いて西組の力士たちが同様に行い土俵入りが終了する。綱引きは実施されない。</p>								
7	十五夜綱かつぎ	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	奄美市名瀬小湊集落 「マー」と呼ばれる集落中央の広場～集落内全域	行事日 [過去]	旧暦8月15日 [同]					
<p>基本的には子どもたちで行う行事である。旧暦8月15日の前日の夕方に集落中央に位置する「マー」と呼ぶ広場で左廻りの綱を纏う。旧暦8月15日の夕方、「マー」の広場から出発し、「アジ屋敷」と呼ばれる一角を左回りに3周し、決まった順路で綱を担いで練り歩き、集落内の悪霊を追い払う行事。大きく鐘を鳴らしたりホラ貝を吹き鳴らし大声を出す場所、静かに声も音も出してはいけない場所がある。集落内を回り終えると、砂浜に降り、綱を土俵にして相撲を取る。その後、綱を丸めて火をつけて海に流す(年長の中学生が20～30m程泳いで沖に誘導する)。</p>								
8	庚申祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	奄美市名瀬小湊集落 集落の公民館～当番の家々	行事日 [過去]	旧暦9月か10月の庚申(かのえ・さる)の日 (アラセツ、シバサシ終了後の庚申の日)					
<p>他地域の「タネオロシ」、「餅モレ」と同系統の行事である。アラセツ、シバサシが終了した後の庚申の日に行われる行事。稲作の播種を祝って餅もらい踊りを各家々で歌いながら踊る。家を回るのは八月踊りでもあるが、三味線のついた専用の唄(本土流れのドンドン節)を歌う。各家々では、踊る方々をカシャ餅(よもぎ餅)や手料理、お酒を準備してもてなす。</p>								
9	十五夜祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	奄美市名瀬西仲勝集落 西仲勝児童館～集落内	行事日 [過去]	旧暦8月15日(平日の場合にはその前の日曜日) [旧暦8月15日]					
<p>子どもたちで行う行事で、旧暦8月15日の前日の夕方、大人が加わり「西仲勝児童館」前の広場で左廻りの綱を纏う。</p> <p>旧暦8月15日の午前中(11:00頃)、「西仲勝児童館」の広場から出発し、決まった順路で綱を担いで練り歩き、「ピッコロー、ピッコロー」の掛け声を出しながら集落内を決まった道順で練り歩き悪霊を追い払う行事。決まった場所(5か所)では綱を置き、大声を出しながら集落の外に向けて小石を投げる。異なる決まった場所(曲がり角3か所)では、曲がり角に綱を擦り付けるように綱を引き合う(勝敗をつけるのではない)。かつては集落内を7周していたが、近年は省略して1周だけ行っている。回り終えると綱を7つに切断して、7か所の特定の場所に置かれる。昭和50年代までは土俵もあり、豊年相撲も行われていたが、少子化のため相撲が困難となり、土俵も不要となり撤去された。昭和50年代後半から敬老会も兼ねるようになっていく。</p>								

12	トビウオ招き	存続状況	復活	関連テーマ	8	17		
場所	永田集落(永田小学校など)	行事日[過去]	敬老の日 永田地区運動会など [旧暦4月8日 海岸]					
トビウオ招きは、女性の呪(じゅ)力でトビウオを浜に寄せようとする習わし。トビウオがとれなくなる昭和45年(1970)頃までこの行事は続いた。その後、トビウオがとれなくてもムラの民俗文化だけは失うまいと地区婦人会が先輩の指導を受けて復活。今は地区運動会や敬老会の行事の時、他からの依頼時に「永田トビウオ招き保存会」のメンバーが披露している。								
13	永田嶽神社大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	永田集落(永田嶽神社内)	行事日[過去]	1月5日[旧暦11月24日]					
永田には永田嶽神社も含め5つの神社が存在し、それぞれ同様の例祭を毎年行っている。どこも前夜祭として「コモリ(籠り)」をする。永田嶽神社は永田集落全体の氏神で、祭日は1月5日(旧11月24日)。中山神社(大山祇神社)は叶地区の氏神で山の神、祭日は旧9月12日。田之峰神社は向江地区の氏神で産所の神、祭日は10月初めの日曜日(旧9月1日)。毎年、上向江・中向江・下向江で交代で担当。境内の舞台で歌・踊りなどの催しあり。妙見神社は新町地区の氏神で海や狐の神、祭日は旧2月15日。小山神社は叶地区の氏神で縁結びの神、祭日は旧8月1日。なお、永田嶽神社は昭和51年(1976)、永田小学校の創立百周年記念として、区民の寄付や出郷者の寄付によってコンクリート造りの社殿に建て替えられている。								
14	二十三夜待ち(亀女踊り)	存続状況	復活	関連テーマ	8	13	16	
場所	永田集落(永田小学校など)	行事日[過去]	敬老の日 永田地区運動会など [旧暦1月23日 永田嶽神社]					
亀女という婦人は明治になって、屋久島に浄土真宗を布教した是枝千亀であると言われている。彼女は非常に美人で、島の男性の間では憧れの的で、青年たちが彼女の家を訪れ、のぞき見る様子を歌や踊りにしたと言われている。また、江戸時代にカメという嫁女がいて、「永田小町」といわれるほどの美人のことだともいう。昭和33年(1958)までは旧1月23日の永田嶽神社の二十三夜祭の時に、中学卒業後の青年団入団式(祝い)で新入団員が踊った。二十三夜待ちが青年団入会式を兼ねていたわけである。踊りは亀壺を転がしながら踊るというユニークなもの。歌詞は「亀を見〜るといって 棲戸(つまど)の口ひょ〜んと出た 亀は コラセ 見らしゃーじ ツボケの中(小便つぼ) (略) 亀女なんだ豊年じゃ からもなんだ くわんとこせ 米んめしぼっかい ぐうとこせ」								

奄美市

1	山の神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	15	17		
場所	奄美市名瀬(「おがみ山」の中腹)	行事日[過去]	旧暦1月16日 [旧暦1月16日, 5月16日, 9月16日]					
旧暦1月16日、狐をする人や山仕事に関わる人々が料理を持ち寄り、榊、酒、塩、米を山神の碑に供え、拝み・祀る。祝詞は独身の男性があげる(午前10時頃からはじめられる)。本来の行事がそのまま伝わっているのではなく、奄美狐友会が古い行事を掘り起こそうと復活したものである。昇曙夢著『大奄美史』(昭和24年初版)の中には、「山神祭」として書かれているが、女性の山神様を慰めるために、男性の裸の踊りがなされたという。本来、奄美大島では山の神信仰は薄く、神山としてのノロ信仰が根強くあったため、ノロ信仰を排除するため、との説もある。この頃奄美大島では、祠や碑が各地に多く建立されている(意味、根拠不明)。また、古文書には「島民がケンムンを恐れて樹木の伐採をせず、開墾・開拓が進まない。」旨の記録もあることから、碑や祠を建立して山神を鎮め開墾・開拓を推進していったのではないかと推察されている。現在は、奄美狐友会が主体となって行事を行っている。								
2	ハマオレ	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	奄美市住用町(市集落の浜辺)	行事日[過去]	5月連休後の日曜日の午後 [同]					
奄美大島においては地域によって旧暦4月の午、寅、申の日に行われるが、市集落においては旧暦4月の最初の寅の日に行われていた。近年の日程は、少子高齢化のため学校行事と調整し、5月の連休後、日曜参観(午前中)後の午後を実施している(教職員の歓迎会も兼ねて実施している)。漁船による海上パレード、海上からの餅投げで行事が始まる。本来の行事は害虫駆除の「ムシケラシ」である。早朝に田畑の作物についた害虫を小石とともにクワズイモの葉で包み、ススキの葉で結んだものを子どもたちが浜辺で後ろ向きに投げ捨てるもので、今も行われている。その後、浜では「舟こぎ競争」や「ナンコ」、「木まくら踊り」、「コメツキ踊り」が行われる。「コメツキ踊り」は、男女が浜辺に輪になって座り、各自がこぶし大の石を持って「米つき唄」(イトウ)を唄いながら唄に合わせて右手で隣の人に渡していく遊び(座踊り(座遊び))。最近、舞台などでも披露されるが、その時は床を傷めないようにお手玉を使う。								
3	豊年祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	10		
場所	奄美市住用町(見里集落の公民館前の広場)	行事日[過去]	旧暦 8月15日(平日になる場合には、前の週の日曜日) [旧暦8月15日]					
旧暦8月15日に行われる行事であるが、平日の場合には、その前の日曜日に実施している(近年は敬老会も兼ねて行っている)。かつては前日あるいは前々日に米(米粉)から「ミキ」をつくっていた。土俵は前日に男性が作る。土俵の土を固め直し、左縫りの太い綱で作った土俵俵を埋め込む。左縫りの細い綱を土俵の四本柱の上部に対角線に張る。土俵は塩あるいは砂で盛山を作り、土俵の周囲に竹の柱を7本立て、左縫りの綱を張って囲む。土俵隅の四本柱の上部には、シバ(しいの木の枝葉)がくくりつけられる。当日、相撲をとる力士たちは、その年の決まった道順で「ミヤ」と呼ぶ神聖な場所で祈願を行い、その場所で三番相撲を奉納して、会場に戻ってくる。豊年相撲の合間に、新生児の土俵入りや中入りなどが行われる。相撲が終了したら、「俵返し」が行われ、土俵が舞台となり八月踊りや六調等が踊られる。綱引きはない。								

2	本仏寺節分	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	安房集落(本仏寺)	行事日[過去]	2月3日 [同]					
法華宗本仏寺において、節分会が行われる。住職により厄除けのお祓いがあり、豆まきが行われる。								
3	安房夏祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	9	19	
場所	安房集落各地	行事日[過去]	不定 [不明]					
以前は、商工会青年部が中心になって行っていたが、現在は実行委員会が行っている。日程はその年の話し合いで決定するので定かでない。昼間は、カヌー体験や漁船乗りなどが計画されており、夜は舞台、夜店、大花火がある。町民が楽しみにしている。								
4	安房の盆行事	存続状況	順調	関連テーマ	19			
場所	安房集落(各戸)	行事日[過去]	8月13日～16日 [同]					
8月13日は、朝お寺に参拝し、精霊を迎えてくる。初盆の家は、床の間に仮仏壇を設け、位牌を移し、霊を祀る。提灯を掛け、精進料理を供える。8月14日は精霊祭り、精進料理を供える。初盆の家を訪問する。初盆の家には棒踊りで個人の霊を供養する。8月15日は夕方安房川にて精霊流し、その後精進上げとなる。8月16日は夜に送り火を焚く。14日は棒踊りが行われている。								
5	安房棒踊り	存続状況	復活	関連テーマ	9			
場所	安房集落(粟徳神社、初盆の家庭など)	行事日[過去]	8月14日 [同]					
朝公民館に集合して服装の準備をし、初めに粟徳神社、次に如竹神社に奉納する。そして安房川橋の上から山の様相に向かって奉納をした後、若宮大明神、初盆の家々を回る。粟徳神社と如竹神社では、木戸上りの歌を歌いながら入場する。棒踊りは、屋久の権現様という手踊りと棒踊りで構成され、棒踊りの1番は3尺棒に6尺棒各々一列に並んで差し向かいで踊る。2番は、3尺棒が前後交互に並んで踊る。また、安房中学校では、昭和50年代から生徒が伝承し、体育祭にて踊りを発表している。								
6	安房の十五夜行事	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	25	
場所	安房集落(安房公民館)	行事日[過去]	旧暦8月15日 [同]					
青年団を中心に昼間の内に綱をあみ、月が昇り始めると御神酒を祀ってから町の中心地まで担いでいき、若宮神社前で歌い、次に如竹廟の前で各集落に分かれて綱引を競う。綱引き終了後は、如竹廟内で相撲大会をする。綱はカンネンカズラの太いモノ3本を中心にヨシガヤで三つ編みにする。								
7	楠川・安房地区の岳参り行事	存続状況	順調	関連テーマ	16	26		
場所	楠川・安房集落	行事日[過去]	9月23日 [同]					
楠川前岳、太忠岳、明星岳、中島権現に責任者を決め山の神に参拝する。自由参加であるが現在は少ない。かつて参拝者は男性のみであり、忌中の者や女性は登れなかった。女性部が待ち向けのごちそうを用意して無事の帰りを待つ。								
8	如竹祭(生誕祭)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	安房集落(如竹廟)	行事日[過去]	旧暦1月17日 [同]					
泊如竹(1569-1655)は安房出身の儒学者で2代薩摩藩主島津光久の侍読を勤め、晩年は安房に戻り本仏寺住職として生涯を終えた。1月17日に生誕祭が安房区主催で行われている。								
9	如竹祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	安房集落(如竹廟)	行事日[過去]	旧暦5月25日 [同]					
旧暦の5月25日の如竹の命日に法要をし、如竹踊りを奉納し、豆腐で直会をする。安房区主催で行う。如竹踊りは、古い太鼓踊の形を伝える素朴なもの。晴天の場合は如竹廟の庭で、雨天の場合は本仏寺で踊られる。								
10	粟徳神社の春秋の大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	安房集落(粟徳神社)	行事日[過去]	旧暦3月3日、旧暦9月29日 [同]					
春と秋の大祭で役員、氏子総代、一般参拝者で神官による祭事とし、直会をする。								
11	永田の十五夜祭り	存続状況	順調	関連テーマ	5	8	10	25
場所	永田集落(永田小学校など)	行事日[過去]	旧暦8月15日 [同]					
かつては永田の叶、向江、新町の3つの地区それぞれで綱引をしていたが、現在は永田校区として永田小学校庭でおこなっている。綱の材料であるカヤとカズラを当日時朝集める。今は区の役員がやっているが、もとは青年たちが綱を練った。できあがるとトグロを巻くように積み、頭の部分には焼酎を供える。月が出る頃、おさん口説を歌う中で綱引が始まる。綱引後は綱で土俵を作り、相撲を取る。各戸は月見団子や餅、ぼた餅、素麺の吸物、里芋、煮しめ、瓜、柿、栗などと、竹筒に萩やススキを活け、月の見えるところに供え、ロウソクを灯す。これらは綱引が終わると、その晩のうちにさげる。								

13	岩穴祭り	存続状況	中断中	関連テーマ	8			
場所	広田集落(広田の岩穴)	行事日[過去]	平成8年が最後 [必要に応じて]					
<p>海岸近くの岩穴(いわな)と呼ばれる岩をくりぬいた場所で行われる。種子島に古くから伝わるとされる乾燥浴を岩穴焚きという。平成8年に広田の岩穴で行われて以来途絶えている。岩穴焚きは今で言うところのサウナ風呂のようなもので、農閑期に行われ、瀬風呂焚きと呼ばれる海岸浴と並んで古くから民間入浴法として親しまれてきた。岩穴焚きの方法は、まず中で火を焚き、岩穴全体を暖める。次に穴の中央に残りの火を集め、その周囲にパショウの葉などを敷き詰め、入浴者は、岩穴の中に入り、発汗する。文化財に指定された後、昭和48年に復活し、平成8年にも行われ、近年では平成27、28年に行われている。</p>								
14	浜田石塔祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	5	19		
場所	浜田集落(石塔山)	行事日[過去]	8月15日 [同]					
<p>浜田の瀬戸口と浜田浦の間の小さな丘の上に石塔山がある。その中に石塔が建っている。浜田の石塔祭りは、現在では、15日の精霊送りの行事が中心であるが、以前はさらに長期間にわたり、様々な行事が行われていた。</p>								
15	平山広田(種子島)の石塔祭り	存続状況	順調	関連テーマ	5	19		
場所	広田集落(広田石塔山)	行事日[過去]	8月15日 [同]					
<p>広田の石塔祭りは15日の精霊送りの行事が中心であるが、現在でも8月13日の迎えの行事から行われている。迎えのことを精霊迎えと呼ぶ。広田の石塔祭りが行われる石塔山は、その中心にオコソウと呼ばれる五輪塔がありその周囲に9つの五輪塔の破片があり、それぞれ祀る家柄が決まっている。広田集落では、お盆の時期になると他所で就職、就学している者たちも帰ってきて、この祭りに参加する。以前は、さらに長い期間にわたり、様々な行事が行われていた。以前行われていたそれらの行事は、7月1日頃から始まり、チャイマワリ(茶屋参り)と呼ばれていた。</p>								
16	西之(種子島)本国寺盆行事	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	西之地区公民館(西之本国寺)	行事日[過去]	8月16日 [同]					
<p>本国寺では盆の法要のあと、盆踊りが踊られる。盆踊りは西之地区の各集落が伝承している。各集落に伝承されている踊りは次の通りである。田代はつんたん拍子、本村・崎原はつんたん拍子、平野はつんたん拍子、野尻・木原はたけなが、小田・前之原はきのぎの、砂坂・官造牧はたけなが、下西目はたけなが・きのぎの、野大野・上瀬田は新しくできた集落のためは伝承はない。以上の西之地区を東(田代、本村・崎原、平野、野大野、上瀬田)と西(野尻・木原、小田・前之原、下西目、砂坂・官造牧)の大きく二つに分け、盆踊りは東の組と西の組が一年交替で行い、各組から二つの踊りが披露される。各集落は四年に一度踊ることになる。近年踊手不足のために、このローテーションが崩れつつある。踊り手は一重の円を組み踊るが、大太鼓、イレ鼓、鉦などは、中央で歌い囃す。</p>								
17	六月燈	存続状況	存続危機	関連テーマ	5			
場所	各集落(各戸)	行事日[過去]	6月～7月[不明]					
<p>南種子町では、六月燈はあまり盛んではなく、鹿児島本土の六月燈にならって行う神社がいくつかある。</p>								
18	八月十五夜	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	各集落(各戸)	行事日[過去]	八月十五夜[同]					
<p>八月十五夜として、餅を搗き、藁で網を作り、網引きを行う集落が今もいくつかある。ただし、稲刈りがコンバインに変わり、藁をあまり使わなくなったため、藁で網を作る集落はほとんどなくなった。</p>								
19	潮祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	各集落(各戸)	行事日[過去]	2月頃[不明]					
<p>潮祭りは、田のイゼを開けるときに行う祭りで、現在でも一部の地区や集落で行われている。特に、西之地区、島間地区では昔ながらの方法で今も伝承している。昔は3月頃に行ったというが、現在は2月頃に行われることが多い。</p>								

屋久島町

1	安房の鬼火焚き 門回り	存続状況	順調	関連テーマ	1	23		
場所	安房集落(浦浜、集落一円)	行事日[過去]	1月7日 [同]					
<p>モウソウ竹3本を芯にして、根元からキン竹で包み込みながら、櫓を組み上げる。根元にはハマカシの枝を生葉のまま巻き込んで鬼の絵を頂上につけて立てる。火をつけたら、鬼の絵に矢を放つ。儀式が終わるとモウソウ竹の笹とマハガシの小枝を持ち帰り家の入り口に魔除けとして指しておく。その後、夜は育成会や役員が班に分かれてお寺や神社にお参りして祝い歌を奉納し、各家庭に門回りに来る(祝い申そうという文句を唱える)。門回りの時の歌詞は訪問する家の職業によって少し違う。</p>								

4	火入れ祈祷	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	下立石自治公民館	行事日 [過去]	1月～2月頃 [旧暦12月の吉日]					
江戸時代の塩釜へ火を入れる儀式をルーツとする。現在は小宴会をするだけ。余興芸としての座踊りのようなものがあったが、今は踊られていない。貝太郎・貝次郎という人物が鎌倉より持ってきたとされる甕を床の間に飾る。またウマヤキ(田植後に馬の足から血を抜く行事)に使ったヤギゴテも飾る。								
5	年中行事・祝賀行事(祝歌)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	各集落(各戸)	行事日 [過去]	年間を通して					
集落の年中行事や祝賀、各戸の祝い行事でいくつかの祝歌が歌われる。男声合唱で「めでた節」、「西目だし」、「ゆくいとし」などがあった。「めでた節」は今でも多くの集落で伝承が続いているが、その他は平山地区の一部で伝承がされているのみである。西目出しは、2015年の国民文化祭「種子島歌い継がれた民謡と踊りの祭典」で披露された。								
6	正月行事	存続状況	存続危機	関連テーマ	5	18		
場所	各戸	行事日 [過去]	1月1日から1月20日 [同]					
南種子では各家毎に若水迎え・チョウギトウ(町祈祷)、ハマギトウ(破魔祈祷)・神社参詣・船祝い・七草雑炊・ハマガシとダラ・ホダレヒキ・タゴオトリ、タゴサシ・二十日正月・辻札・チンコロペー・チイナビキなどの行事が行われている。こうした行事をしなくなった家も少なくない。								
7	正月準備	存続状況	存続危機	関連テーマ	5	18		
場所	各戸	行事日 [過去]	12月27日から31日 [同]					
集落や家によって異なるが、門木迎えはまだ多くの家庭で行う。集落によっては樹種が異なる。柴垣はほとんど行われないが、一部でまだ行われている。米搗き・餅搗きは行うが以前のような方法でなく、餅つきの機械などが使われる。オーバンは以前は行われていたが、今は消えている。								
8	氏神祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	各氏神により異なる	行事日 [過去]	各氏神により異なる [同]					
氏神祭りは各集落で行われるもので、南種子町には58の集落があり、うち20ほどの集落で今も行われている。祭りは正月と秋に行われるが、正月頃のものを春祭りと呼び、秋のものを秋祭りと呼ぶ集落もある。だいたい春に願を掛け、秋に願をほどく氏神祭りと理解されている。漁師集落では同様の祭りを浦祭りと呼び、恵比寿を祭っていることが多い。氏神祭は、豊受大神が祭神であることが多い。牧の祭りであるウマヤキと春祭り(氏神祭)を一緒に行う集落も多い。この祭り際に集落によっては今でも祝歌「めでた節」が歌われるところがある。								
9	礼言い	存続状況	存続危機	関連テーマ	18	19	20	
場所	各戸	行事日 [過去]	各家により異なる [正月 5月 9月の節句 盆 彼岸]					
嫁が実家に夫とともに帰り、父母に礼を言い、先祖墓に参る行事。家により異なるが、正月、盆、五月節句、九月節句にすることが多い。								
10	浦祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	5	8	17	
場所	各浦により異なる	行事日 [過去]	各浦により異なる [同]					
浦祭は漁師集落で行われる祭である。日取りは決まっていない場合が多く、春と初夏ないしは初秋の適当な日を決めて行う。春は願立て、初夏・初秋は願ほどこである。集落によっては「めでた節」があげられることもある。茎永の大崎・竹崎集落の春の浦祭りでは、必ずアカウミガメの心臓を恵比寿に捧げ、出席者は、ウミガメの肉でもてなした。アカウミガメが適量とれた頃に行った。竹崎集落では、今でもウミガメ取りとウミガメの解体法を知る者たちがいるが、ウミガメ保護があるので今は行っていない。民俗行事として往事の浦祭りを復活したいと竹崎集落の人々は考えている。平山の広田集落でも同様な形でウミガメを利用した浦祭りを行っていたという。								
11	ガロー参り	存続状況	存続危機	関連テーマ	15	18	20	
場所	各集落(ガロー山)	行事日 [過去]	各ガローにより異なる [同]					
種子島独特のガロー山(崇りの森)は全島に分布するが、多くの場所が不明となっている。種子島の民俗信仰を知る上で重要とされる。中でも南種子町にはガロー山がよく残っている。ガロー参りが行われているところもわずかだがある。期日は地区によって異なるが、だいたい正月、五月、九月の節句に行われる。								
12	馬焼き(マキ祭り)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	集落ごとに異なる	行事日 [過去]	地区ごとに異なる [同]					
ウマヤキは各集落ごとに行われる田植え上りのサノボリに当たる行事。ルーツは馬にヤギゴテで印をつけた行事とも、田植作業のあと馬の足の内側が腐るので、そこに焼けた鉄棒をあてて焼いて癒した事にちなむとも言われる。今は行わなくなった集落も多い。茎永では現在では、年中行事の簡素化や統合に伴い、春祭りと併せて松原神社境内で行われる。実施日は現在では特に定まてはいないが、2月頃の役員都合のよい日に行われる。神事後、境内で集落の人々が集まって腰弁等直会をする。マキ祭りと同一である場合もある。集落によっては今でもめでた節が歌われる。								

2	石塔祭り	存続状況	順調	関連テーマ	5	8	19
場所	各お寺	行事日 [過去]	8月15日				
8月15日のお盆の最終日、各地のお寺では地区民が集まって石塔祭りがおこなわれる。1軒の家から一人ずつ米、シキビ、ショウハギ、色花、線香、細長いマキを持参する。僧侶の読経があり、参加者が石塔の棚に持参した米、シキビ、ショウハギ、色花、細長いマキを供え、線香を立てて題目を唱え、送り火をしながら送る。現在この行事をおこなっているを確認できるのは、増田向井町の清浄寺、田島の阿高磯浄光寺、田島の田島浄光寺などである。							
3	破魔祈禱	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	18
場所	各神社	行事日 [過去]	1月15日～20日頃				
1月の小正月の行事として、弓を射る行事が各地で行われる。細部が少しずつ異なっているが、いずれも魔を祓うための行事とされている。名称は破魔祈禱（はまぎとう）とか尚武の破魔などと呼ばれる。場所はだいたい神社の境内か公民館の庭である。行事をやっている地区をあげると、増田の中之町、郡原、古房、牧川の牧川、納官の坂元、野間の中山、町山崎、竹屋野、満足山、下田、伊原、油久の美座、女洲などである。							
4	恵比寿祭り	存続状況	順調	関連テーマ	5	17	
場所	浜津脇や屋久津など	行事日 [過去]	旧6月10日 [旧10月1日]				
海岸に面した集落にはそれぞれ恵比寿神社があり、漁業者によって恵比寿祭りを行っている。納官の浜津脇の事例を述べると、恵比寿神社は昭和10年に建立したもので、現在は旧暦6月10日に恵比寿祭りを行っている。かつては漁業者は多くいたが、現在は少ない。神主は納官神社から呼ぶ。魚、米、大豆、野菜、果物などをお供えし、簡単な祭典のあと、小宴会をするだけである。							
5	福祭文	存続状況	順調	関連テーマ	8	18	23
場所	各地区公民館	行事日 [過去]	1月7日				
福祭文は正月七日の行事である。各集落の公民館単位で、青年・子どもが公民館に集まり、地区内の神社やマキの神様、そして各戸を廻って「祝い申そう」と言う一連の祝いの言葉を述べて歩く。各戸からは餅などをもらう。福祭文と書くが地元ではクサイモンと発音する。現在確認できる地区は、増田の中之町、古房、郡原、野間の中山、上方、旭町、竹屋野、満足山、下田、伊原、大牟礼、田島の阿高磯、田島、納官の平鍋、原之里、春田、油久の女洲、西之町、東之町、向町、坂井の中田、熊野、本村、塩屋などである。終わったあと公民館にて「めでた節」を歌うところもある。							
6	増田（種子島）中之町の町祈禱	存続状況	順調	関連テーマ	29		
場所	増田中之町（熊野神社）	行事日 [過去]	1月17日 [同]				
集落の神社で災厄除けを祈願し、弓を射ることで災厄を追い払う呪術的な行事で、中之町集落の行事として行われる。この行事の由来については伝承は特にない。祈禱という言葉から本来は仏教的行事と思われるが、地元では神道の行事と見なしている。							

南種子町

1	下中八幡神社御田植え祭	存続状況	順調	関連テーマ	8		
場所	真所集落（下中八幡神社および御神田）	行事日 [過去]	3月の任意の週末 [塩祭りの日に田植えの日取りを決めた]				
神社にて祭典のあと、近くの神田にて田植えをする。田植え歌がある。祭りは下中地区全体で行うことになっていて、戸数、人数ともに参加者は多い。							
2	願成就祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8		
場所	各神社境内	行事日 [過去]	秋の願成就祭りの日 [同]				
南種子町には8つの地区があるが、そのうち移住者の地区である長谷地区を除く全てに地区の神社にて願成就祭り（秋祭り）が行われる。本来は旧9月9日だったとされるが、現在は10月から11月にかけて土曜か日曜を利用して開催。この時各集落から大踊りや中踊りと呼ばれる各種の踊りが奉納される。ほぼすべての集落に何らかの踊りがある。大踊りはもともと規模が大きく、大太鼓・イレ鼓・鉦で構成され、踊りの輪が二重となる。1時間近く踊る。出端、本踊り、崩し、引端で構成される。中踊りは、数十種類ほどあるが、ひょうたん踊り、なぎなた踊り、弁慶踊り、げんごばあ、七九の竹、のほか棒踊り系統、ヤートセー、さらに、カジョウガネ、ちくてん等の琉球から伝わったとされる踊りもある。							
3	クサイモン（福祭文）	存続状況	順調	関連テーマ	8	18	23
場所	各集落	行事日 [過去]	1月7日 [同]				
正月七日の晩の来訪神行事である。多くの集落で今も行われている。歌詞はよく似ているが、節回しが集落により少しずつ異なる。家の門口からまず家主に対して「年頭の御祝儀、門祝い申す」や「祝いもうそうか」というと、「祝っておくやもうせ」と家主がいい、それから、クサイモンを歌うという場合が多い。青年や大人だけで回る集落もあるが、子どもが参加する集落も多い。新築祝いや七つ祝いの家では、家主があらかじめお願いしていれば、その家は最後にまわって、クサイモンをあげた後、家に上がり込んで、めでた節などを歌って宴会となる。全ての家を祝い終わると、今は、公民館に集まり、公民館でクサイモンをあげた後、そのまま直会となるケースも多い。							

19	風本神社秋季大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	現和下之町集落(風本神社)	行事日[過去]	10月下旬[旧暦9月28日]					
<p>現和の風本神社秋季大祭は願成就祭である。各種の踊りが奉納された。主なものをあげると、ヨンシー踊りは18世紀頃、庄司浦の船乗りが琉球滞在中に習い覚えたもの。ヨンシー踊保存会が結成されている。田之脇の棒踊りは薩摩半島の山川から伝えられたもの。現在は婦人や中高生も参加。小学生にも伝承。虚無僧踊りは鹿児島市谷山の中山から伝えられた。下之町の棒踊りは加治木町から伝承されたとされる。</p>								
20	福祭文	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	下西川迎集落など(各集落民家、公民館)	行事日[過去]	1月7日[同]					
<p>1月の7日の福祭文は全島でおこなわれている行事で、西之表市では下西の壅泊や川迎、現和の下之町などで子ども会を主体に現在も行事が続けられている。各戸を訪れて、「祝い申そう」といって祝言を述べて歩く行事である。</p>								
21	船祝	存続状況	中断中	関連テーマ	8	18		
場所	下西壅泊集落(壅泊公民館)	行事日[過去]	1月2日[同]					
<p>下西の壅泊(あまどまり)は古くからの漁村集落で、1月2日の船祝い行事(於公民館)では、模擬操船を歌いこんだ船祝歌が歌われてきた。近年は船祝行事そのものが断絶したままである。</p>								
22	船祝い	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	18		
場所	住吉中之町・浜之町集落(住吉漁協)	行事日[過去]	1月2日[同]					
<p>1月2日に船祝は行われているが、現在は船祝歌は歌われていない。</p>								
23	船祝い	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	18		
場所	現和庄司浦集落(庄司浦漁港)	行事日[過去]	1月2日[同]					
<p>西之表市では壅泊や住吉とともに、現和庄司浦の船祝での船祝歌も有名だったが、中断したまま。現和では田之脇集落や浅川集落でも行われていた。いずれも中断したままである。</p>								
24	トシドン	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	18	22	
場所	鞍勇集落(鞍勇公民館)	行事日[過去]	12月31日[同]					
<p>鞍勇(くらざみ)集落は明治時代に甌島から移住してきた移住集落である。下西鞍勇地区と国上野木平地区で、甌島で行われたトシドンをそのまま引き継いだ。</p>								
25	白返し	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	18	23	
場所	現和庄司浦集落(民家、庄司浦公民館)	行事日[過去]	1月1日[同]					
<p>鹿児島県本土の白起こしと同様の行事。種子島ではこの行事が残っているのは現和の庄司浦集落だけといわれる。昔は現和浅川集落にも残っていた。現在は1月1日に子ども達が各戸を訪問し、本来は白を軽く叩くものだが、玄関先でウスオコシの文句を唱える行事に変化している。少子化で行事の継続は危ぶまれている。</p>								
26	破魔の祝い	存続状況	順調	関連テーマ	8	11	15	18
場所	現和各集落ほか(集落内神社)	行事日[過去]	1月第2日曜日[1月15日]					
<p>種子島全島でおこなわれる小正月行事で、地区によって若干行事内容と名称は異なるが、矢を射るところは共通。だいたい破魔祈禱(はまぎとう)と言う。代表して現和地区のものを掲載する。現和本村(菅原神社)では昔は「シブタころがし」とか「チンチョウころがし」と言った。丸い輪っかを転がしてこれを射る。現和西侯では「チンチョウノハマ」といい、破魔場(行事をする場所のことで神社境内)で八幡大神の御身をころがし、集落正副会長が弓と矢を持って止める。これを3回繰り返す、その転び具合によって、その年の豊作を占う。現和の近政(ちかまさ)でも行われる。</p>								

中種子町

1	熊野神社(種子島)願成就祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	坂井熊野集落(熊野神社)	行事日[過去]	10月と11月の土曜日か日曜日					
<p>町内各地の神社では古くから秋の感謝祭として願成就祭りが行われてきた。現在確認されるのは竹屋野の霧島神社や油久の油久神社などである。神官による祭典のあと、各種の踊りが奉納される。かつては大踊りが出たが、現在は踊り子不足のために小さな踊りが奉納されるだけである。</p>								

9	米人救助紀徳祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	伊関浜脇集落(紀徳碑前広場ほか)	行事日[過去]	9月20日[同]					
アメリカの商船カシミア号が1885年(明治18年)に立山沖で遭難し、乗組員が伊関と立山に漂着した。これを救助し、手厚く介護した。これを記念してのちに米国政府から感謝状などが送られた。この祭はそれを顕彰する行事である。伊関では5人、立山では7人が救助された。その他3人は亡くなっている。伊関に立つ紀徳碑はそれを記念する碑で、伊関校区役員と各種団体が主体となって行事をやっている。立山校区でも同様の記念祭が行われている。								
10	移住記念祭	存続状況	復活	関連テーマ	8			
場所	伊関柳原集落(柳原公民館)	行事日[過去]	4月第3日曜日[4月15日]					
柳原は甕島からの移住者による開拓集落である。これを記念する行事にて新地節が踊られた。約100年前、長崎の「ゼンゴ」が柳原集落を訪れたとき踊り伝えたと言われる。一時中断していたが、地域おこし協力隊等の努力により最近踊られている。								
11	伊勢神社秋の大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	上西大花里集落(伊勢神社)	行事日[過去]	10月日曜日[10月15日]					
大花里(おおげり)にある伊勢神社は薩摩藩初代藩主島津家久の娘が、種子島忠時に嫁いだ時、その従者となって来島した折に建立された神社を起源とするとされている。現在は関係者が出席して祭典だけがおこなわれている。								
12	横山(種子島)の盆踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	上西横山集落(横山神社境内)	行事日[過去]	7月12日[旧7月7日]					
横山神社はもと満徳寺というお寺である。明治の廃仏毀釈で現在の横山神社となった。境内はかなり広く、北側半分は巨木がうっそうとした林になっており、その中を参道が通っている。奥の少し高いところに社殿がある。毎年ここで六月燈がおこなわれ、同時に盆踊りも行われている。ただし盆踊りは間近で集落に不幸があった場合は踊られない。								
13	種子島鉄砲祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	30		
場所	西之表市街地集落(西之表市街地)	行事日[過去]	8月下旬[旧暦6月15日・新暦7月25日]					
鉄砲伝来を記念しておこなわれる新しい祭り。種子島火縄銃保存会、大阪府堺市の堺火縄銃保存会、滋賀県長浜市の国友鉄砲研究会の3団体による豪快な火縄銃の試射もおこなわれる。午前中は太鼓山、女山車、子ども山なども出る。メイン会場は西之表港に面した広場。各種のイベントも開催され、島中でもっともにぎわう祭となっている。								
14	温座祈念	存続状況	存続危機	関連テーマ	18			
場所	西之表市中目集落(本源寺)	行事日[過去]	1月13日[1月11日から13日]					
種子島は法華宗の島で、島主がこれを保護した。もっとも大きな寺院である本源寺では江戸時代初期から1月に温座祈念という法要(島主の健康や島内全域の五穀豊穡祈願)が夜を徹して行われた。温座とは長時間座っているという意味。島内の大小の寺院は明治の廃仏毀釈でいったん廃止されたが、いくつかが再興された。下西の日典寺では戦後、温座祈念を催行している。日典寺では11日～13日の2日2夜実施している。								
15	洲之崎願成就祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	洲之崎集落(えびす神社)	行事日[過去]	10月下旬[旧暦9月28日]					
洲之崎は西之表市街地のすぐ北の海岸沿い。上方(かみがた)の人が慶応年間に洲之崎を訪れた際、相撲取り節(踊り)「どすこい」を教えた。最初は旧西之表港にすぐ近い慈遠寺の境内で踊ったと言う。その後明治末期、洲之崎に伝染病が発生、多数の死者を出したことにより、以後、無病息災を祈って、毎年願成就祭で踊るようになった。婦人のみによる踊り。								
16	清和神社願成就祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	立山本村集落(清和神社)	行事日[過去]	10月下旬[旧暦9月]					
立山の清和神社の願成就祭には大踊りが奉納されたが、断絶したまま。清和神社は清和天皇を祀るとの伝承がある。現在はなぎなた踊りが奉納されるが、存続は危ぶまれている。島内各地のなぎなた踊はここから広まったと言われている。								
17	豊受神社秋季大祭	存続状況	復活(50年前)	関連テーマ	8			
場所	古田中之町集落(豊受神社)	行事日[過去]	10月第3日曜日[10月17日]					
古田は明治末期に大分県からの椎茸栽培農家の移住開拓集落。この時、大分県に伝わる獅子舞も持ち込まれ、豊受神社の願成就祭に奉納されてきた。同時に棒踊りも奉納されてきたが、一般の踊り手の高齢化に伴い、踊り手不足を解消するため、中学生・高校生にも伝承し、保存に努めている。各種イベントでも披露している。								
18	住吉神社願成就祭	存続状況	復活	関連テーマ	8			
場所	住吉中之町集落(住吉神社)	行事日[過去]	10月下旬[10月23日]					
住吉の住吉神社の願成就祭には各種の踊りが奉納されたが、一時は本村里地区の源太郎踊りと、深川地区の面踊り(これは県文化財指定)とが年交代で交互に奉納されてきた。近年後継者不足で、源太郎踊りは中学生も踊るようになった。								

10	テコテンドン	存続状況	順調	関連テーマ	7			
場所	平田神社背後の北嶽	行事日 [過去]	1月2日 [同]					
<p>1月2日岸良北嶽神社の神霊を勧請し岸良本地に鎮座の平田神社に至り、一夜神霊を平田神社に祀り翌日還御される行事である。平田神社の背後にそびえる北嶽に鎮座している北嶽神社の御神幸祭の儀式である。御神体は石で、少し大きめの石を中心に11個のこぶし大の石が整然と納められている。この石は、50年目ごとに1個ずつ追加するといわれ、親石のほか10個あるので、500年くらいの神歴があるといわれている。</p>								

西之表市

1	寺之門尾山神社願成就祭り	存続状況	復活(46年前)	関連テーマ	8			
場所	国上寺之門集落(尾山神社)	行事日 [過去]	11月第3日曜日 [11月28日]					
<p>願成就祭りは各地でおこなわれるが、ここでは花踊とも言う。寺之門地区の婦人たちが稲の花が咲き立派な稲が実るように願って踊り始めた。古くは大江山神社秋祭りとも言った。大正期までは大踊も奉納された。</p>								
2	恵比寿祭り	存続状況	復活(35年前)	関連テーマ	8			
場所	国上湊集落(恵比寿神社前広場)	行事日 [過去]	11月吉日[同]					
<p>恵比寿神社の祭りで綱引き狂言がおこなわれる。ベンザシが保存してきたカマスを網かごからまき、それを見ている観衆が拾う。頬被りに赤ふんどしをし、徳利を腰に下げ、ひょうきんな姿の男がおもしろおかしく場を進める。仇討ちの場面がある。この祭りは以前は浦願(うらがん)とか浦願成就(うらがんじょうじ)と言われた。</p>								
3	願成就祭り	存続状況	存続危機 復活(50年前)	関連テーマ	8			
場所	国上湊集落(塩釜神社境内)	行事日 [過去]	11月第3日曜日 [11月]					
<p>前掲恵比須神社祭りと同時におこなわれる。なぎなた踊りが奉納される。3つの場面からなり、1・2場面は団七口説で仇討ち物語。3場面は上杉源三郎口説で返り討ちになる場面。3つめの場面は島内では湊集落だけに伝わるもの。ここ2・3年は踊られていない。</p>								
4	浜脇神社願成就まつり	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	伊関浜脇集落(浜脇神社・浜脇公民館)	行事日 [過去]	10月第1日曜日 [旧暦8月17日]					
<p>以前はこの祭りには大踊りも奉納されたが、現在は途絶えている。現在ははめでた節を歌い、その後で直会や酒宴が始まる。供え物の緒は、人を集め、地域をつなぐ意味のようである。</p>								
5	安納神社願成就祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	安納大平集落(安納神社境内)	行事日 [過去]	10月日曜日 [10月22日]					
<p>2つの集落からなる安納の安納神社の願成就祭りには昔は大踊りが奉納されたが、現在は棒踊りが奉納されている。同様に安納の軍場神社でも奉納されている。</p>								
6	このみやじょう(蚕の宮ジョウ)	存続状況	順調	関連テーマ	8	16	23	
場所	国上湊集落ほか(各集落民家、公民館)	行事日 [過去]	1月14日 [同]					
<p>このみやじょうは全島的におこなわれている小正月の来訪神行事。国上の湊では毎年1月14日の夜、ベンザシの家に子どもたちが集まる。子どもたちは、ご馳走をいただき、地域内の家を訪問してコノミヤジョウの歌を歌って廻る。訪問した家から小正月の餅や門松に飾ってある餅花を持ち帰る。行われている。中種子町や南種子町では舞を伴うが西之表では舞はない。また旋律も中種子町・南種子町とは違っている。</p>								
7	弓場祭(いばさい)	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	15	18
場所	国上奥集落(奥神社境内)	行事日 [過去]	1月15日 [同]					
<p>小正月行事として1月15日、奥神社境内に矢来を作り、式典参加者が的に向けて弓を射て、的に当たると1年良い年になるといわれている。破魔行事である。また貝の汁を神社に供え、参加者に貝の汁を振る舞う。作(農作)の祝も一緒にになっている。貝の汁は、農作の祝に各戸で作り、クワ、カマ等の農具を集め、イチゴの葉に貝の汁を盛り、農具の上に供える。現在は、西之表市の弓道連盟も参加している。</p>								
8	トシドン	存続状況	順調	関連テーマ	8	18	22	
場所	国上野木平集落(集落内民家)	行事日 [過去]	12月31日 [同]					
<p>大晦日の晩、トシドンが空から馬に乗って鈴を鳴らして下りてくる。空から子どもの日頃の行いを見ており、子どもの家を訪れ、悪い行いを戒め、良い行いは褒めるなど子を育てるための行事。ここは甌島の移住集落で、この行事も甌島で行われているのと同じである。</p>								

2	鉦踊り	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	前田下住集落(水神前)	行事日[過去]	旧8月18日[同]					
<p>田んぼの用水路完成祝いに踊ったと伝承されている。旧暦8月18日、水神講の座元を中心に水神祭が行われる。青年たちの法楽(ふらく)という鉦踊りを奉納する。鉦2つ・太鼓1つで腰に手を当て歌いながら輪を作り、足だけを動かす単純な踊りである。祭り当日まで集会所に集まって踊の連取をする。当日昼間神官が神事し、水神の前で鉦踊りを踊る。踊の後各班ごとに水神講がある。かつては菅原神社前、広場中央に楽を奏する楽棚を作り八月踊りを踊っていた。</p>								
3	臼起こし	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	片野集落(片野振興会)	行事日[過去]	1月1日[同]					
<p>祭り当日まで大晦日の夕方、各家庭の臼を寝かせ箕に餅、ミカンなどを入れ縄で縛る。当日は、元日の昼間、子どもたちは山から木を切り、杵を作る。元日の夕方、子どもたちは宿に集まる。深夜、集落内の各家庭を回り、寝かせてあった臼を起こす。寝かせてあった臼を起こして縄を解きお供えしてあった餅、ミカンを貰う。杵で臼をたたきながら「コンコン コタコタコンコン ここは分限者 金がざくざく・・・」と歌を歌う。</p>								
4	桜迫神社夏越し祭り	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	富山集落(桜迫神社)	行事日[過去]	6月下旬[同]					
<p>祭り当日までに、モウソウ竹の割竹を使い、直径2mの輪を作り、麻紐で結ぶ。当日は、桜迫神社神官は、御幣を切ったりして、祭りの準備を行う。前日に作った茅の輪に20cm程度の間隔で御幣を提げる。神社で夏越し祭神事を行い、富山地区にある「寒水谷」まで神幸する。寒水谷の泉で神事を行い、茅の輪ぐりを行う。茅の輪潜りは、神官が笛と太鼓を奏し、人々は右回り3回、左回り3回輪潜りする。泉の水は、宮下・富山地区の田んぼを潤すことから、田の豊作祈願と、大祓い。</p>								
5	桜迫神社春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	富山集落(桜迫神社)	行事日[過去]	3月10日[同]					
<p>桜迫神社神官は、御幣を切ったりして、祭りの準備を行う。富山地区と宮下地区の棒踊りを踊る人々は、それぞれの公民館で支度をし、神社に集まる。神社神事の途中で、富山地区は六尺棒を持った棒踊り、宮下地区は三尺棒を持った、棒踊りを奉納する。田の神の格好をした田の神が、境内で舞を踊る。引き続きカギ引きがある。棒踊りの踊り子は、神社の裏山から木を切り出し、雄カギと、雌カギを木の枝で作る。神社前でカギをかけて引き合う。境内を田に見立てて、台車に乗せた模型の牛を若者が引いて、耕す。神官が境内に種まきし、祭りは終わる。棒踊りの人々は、各戸を回り豊作を祈願する。</p>								
6	鬼火炊き	存続状況	昭和58年復活	関連テーマ	1			
場所	各集落(田など)	行事日[過去]	1月3日[1月6日]					
<p>年末に近くの山で竹切りする。広場にやぐらを建て、中にいたずらで火をつけられぬよう、こもって番をする。小屋の周囲には落とし穴を掘っていたが、今では掘っていない。当日、夕方、子どもたちと親は小屋に集まる。小屋のいりりで餅を焼いて食べる。小屋の周囲には門松・注連縄を張る。親は、小屋の周囲で火を焚いて暖を取り、焼酎を飲む。午後8時頃、小屋に火を放つ。小屋は勢いよく燃える。竹がはじけ、ターンターンと大きな音が発生する。そのはじける音で、悪霊の鬼を追い払う。古くは二才と子どもたちが行っていた。復活後は実行委員会主催となった。</p>								
7	鬼火炊き	存続状況	昭和54年復活	関連テーマ	1			
場所	輪地集落(田んぼ)	行事日[過去]	1月9日[1月6日]					
<p>当日まで 12月20日 近所の山から竹を切り、境川堤防にやぐらを建てる。 当日 午後6時、近くにある論地集会所に子どもと親が集まる。竹のやぐらのところまで移動し、小屋に入る。小屋の囲炉裏に火をつけ、餅を焼いて食べる。親はぜんざいを振る舞う。午後7時前に小屋の中を片付け、小屋に点火する。 竹で小屋は作ってあり、勢いよく燃える。その時、竹がはじけてターンターンと大きな音が発生する。その音で悪霊を追い払う。しばらく燃えると、中心の長い竹が燃えてたおれる。全員集会所に移動する。集会所で「焼きそば」と「豚汁」が振る舞われた。招待された学校の先生も一緒に焼酎を飲む。</p>								
8	ドヤドヤサー	存続状況	復活 (昭和51年)	関連テーマ	1			
場所	内之浦南方	行事日[過去]	1月7日[同]					
<p>この神事は江戸時代から太平洋戦争末期まで、漁業中心の正月行事として行なわれていた。しかし、戦後に一度途絶え昭和51年復活した。平成5年に町無形民俗文化財に指定され、町ぐるみの正月行事として定着している。12本のモウソウ竹で5色布の日の丸を飾った柱と七色飾り竿を囲み練り上げる。柱からは、放射線状に12本のロープを引っ張り、それぞれに1月～12月までの月札が付けられる</p>								
9	夏越し祭	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	岸良浜辺	行事日[過去]	毎年8月15日[旧暦の6月晦日]					
<p>「なごしどん」とも言う。起源の資料はないが、1504年肝付氏が平田神社を修造した記録があり、その時神舞が奉納されたと思われる。平田神社の神舞は高山49所神社から伝わり、1927年から神官を務め、神舞継承のリーダーだった人物が伝承し、現在に至る。</p>								

30	御崎参り	存続状況	順調	関連テーマ	17		
場所	中原自治会 (中原公民館)	行事日 [過去]	10月第2日曜日 [同]				
<p>輪番制で当番2人が稲穂を持って佐多の御崎神社、鹿屋市大始良の神社に奉納する。近年は御崎神社だけ参拝する。柴を持ち帰り、各戸に配布していたが、廃止された。自治会員の稲穂、塩、焼酎を奉納する。奉納した焼酎は頂いて帰る。佐多からの帰途、直会 (さかんげ) として、食堂で昼食をとる。また、午後5時頃より直会 (さかんげ) を各戸から出て弁当持参で奉納した焼酎を御神酒として、全員で頂く。</p>							
31	御崎参り	存続状況	存続危機	関連テーマ	17		
場所	大久保集落 (大久保公民館)	行事日 [過去]	11月1日 [同]				
<p>豊穰祭り (ふぜまつり) とも呼んでいる。昔は佐多の御崎神社に青年が中心になってお参りし、田尻に一泊し、焼酎、稲穂を奉納した。帰りは西原 (集落より1.5km) まで代表が迎えに行った。2年位前までは岬柴を持ち帰り公民館の床の間、各自は菜園畑に挿して豊作を感謝した。現在は稲穂を鹿父神社に奉納している。米、焼酎を当番がお供えする。直会は夜弁当を食べる。</p>							
32	御崎祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17		
場所	丸峯自治会 (御崎神社)	行事日 [過去]	旧暦1月18日, 9月18日 [同]				
<p>社殿は海岸にあるため潮時の良い時に渡る。朝から参道の掃除をし、シメ縄、竹などは役員が準備する。午後2時頃祭りを行ない、直会は近くの小高い丘で行う。直会の食事は各自弁当持参で、忌中の所は公民館で準備する。供え物は米、魚2匹、焼酎、塩、大豆、果物、根付き野菜 (大根、人参、ホウレン草など) である。</p>							
33	山神殿	存続状況	順調	関連テーマ	27		
場所	貫見自治会 (集会所)	行事日 [過去]	4月・12月第1日曜日 [同]				
<p>豊作と自治会の安心、安全祈願、水神様の祭りも行う。祭りは4月、12月とも同様に実施する。シメ縄 (鳥居、社殿、お社) は前は男性が作製していたが、今は神官が準備する。供え物 (焼酎、米、塩、豆、根付き野菜 (大根、人参、ほうれん草、葉野菜)、果物、魚 (だし雑魚)、重箱に入れたご飯) などの準備は当番制になっている。山神祭りは、山の上の山神様の祠でお祓いの後、重箱のご飯を少しずつ頂く。水神祭りでは焼酎と塩を供え、神官がお浄めをする。直会は以前は、煮しめ、ご飯、ガネ、酢の物、鶏の煮付け、鶏の刺身などであったが最近では弁当である。</p>							
34	山神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	27		
場所	丸峯自治会 (山祇神社)	行事日 [過去]	旧暦2月, 11月初辰の日, 6月, 9月の吉日 (年4回) [同]				
<p>山祇神社があり、この神社の上に火の神様もある。元和2年 (1616) 頃、五穀豊穰の守護神として勧請された。年4回の祭り (願立、願解、辰祭り、山神祭り) がある。ご神田が1反歩あり、10人で米を作る。この10人は年4回祭りに参加する。子どもにはおにぎりを振る舞う。地域民は2月・9月のみ参加する。神官が神事を行い、神主がクジを引き、神田の管理、世話役を決める (自治会員全員が10人1組を作る) 10人組が神田の管理 (苗、肥料、田植え、脱穀) と祭りの供え物、直会の準備を行う。神殿の収穫米は祭りに使用。直会は10人の女性が準備する (ご飯、鶏の煮付け、刺身、ナマス、魚のアラ煮など)。神社で全員で直会する。</p>							
35	山神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	27		
場所	尾之上自治会 (公民館)	行事日 [過去]	12月2日 [同]				
<p>五穀豊穰を感謝する。社殿は以前、山の上にあったが、50年ほど前に公民館の上に移転した。当番制で当番は平瀬戸地区と尾ノ上地区からクジで決める。クジは社殿で官司が引く。官司が持った神に名前を書いた紙が持ち上がりて来ると言われている。シメ縄、竹は当番が準備する。供え物は米、魚2匹、根付き野菜 (大根、人参、ほうれん草など) 果物、焼酎、塩、おにぎり、おにぎりは全員に振る舞われる。直会は炊き出し (煮しめ、刺身、魚の味噌吸い物など)。参加しない人にもおにぎりを届ける。</p>							
36	山神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	27		
場所	中原自治会 (大山祇神社)	行事日 [過去]	11月最終の日曜日 [12月最初の日曜日]				
<p>棟札に「大山祇神社」の記載がある。ご神体は石。五穀豊穰、地域の健康、幸せを祈る。祭りの日に小さなお社を当番の座主が山の社に持参する。祭りの後、神官がクジを引き当番を決め、直会の後、当番が小さなお社を自宅に持ち帰る。当番の家は「神様がいらした」と家で喜んだと言う。当番は1年間掃除や櫛、水など神様の世話をする。以前は、炊き出し (味噌吸い物・魚、すまし汁・卵、豆、煮付け、刺身など) 一切を当番が準備していたが、現在は弁当である。</p>							

肝付町

1	八月踊り	存続状況	復活 (6年前)	関連テーマ	29		
場所	本町地区 (本町公民館)	行事日 [過去]	旧8月15日 [同]				
<p>水神を迎え、収穫を感謝する。祭り当日まで集会所に集まって踊の練習をする。当日昼間神官が神事し、水神の前で鉦踊りを踊る。広場の中央に楽を奏する楽棚を作る。暗くなったら楽棚を丸く囲い、浴衣・紋付き羽織に藁笠の青年、裾模様の着物にオコソ頭巾の娘たちが踊る。楽は太鼓と鉦。中上がり (休憩) の後は自由な服装で良く、集落の老若男女の誰でも踊りに参加出来る。</p>							

21	西原祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	1			
場所	大久保自治会(各戸)	行事日[過去]	旧暦1月6日 [同]					
<p>横別府西原周辺で非業の死を遂げた人々の供養祭。大久保集落では毎年旧暦1月6日早朝、西原地内で神事を行ない、これらの霊を弔っている。夜は当番制で宿屋を決め供養する。現在でも、旧暦1月1日から5日までは西原周辺は立ち入り禁止となっている。供え物として以前は、猪肉(猪が獲れるまでは祭りではできないとされていた)であったが、現在、1斤分の丸餅1枚を3等分し、山の神(祭りをした場所に置く)、神官、自治会員で分ける。焼酎、米、塩は当番が準備する。当番は順番制である。</p>								
22	浄講	存続状況	存続危機	関連テーマ	15			
場所	大久保自治会(大久保公民館)	行事日[過去]	11月第3日曜日 [旧暦10月16日]					
<p>水神祭り、虫けらの供養であるが供え物はない。以前は、炊き出し(ご飯、煮付け、刺身など)を各戸持ち回りで行っていた。現在は公民館で弁当を食べる。水神祭も一緒にする。焼酎をお供えして実りのお礼をする。大久保水路は飲料用と稲作用の水源である。</p>								
23	観音講	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	中原自治会(洞門)	行事日[過去]	旧暦の1・5・9月の吉日 [同]					
<p>自治会のはずれにある洞門の中に一体の観音像が安置されており、この観音像には子どもがたくさん乗っている。近隣住民が管理しており、地域清掃日には各戸一名が出て作業に当たり、夜、各自弁当持参で懇親会をする。供え物などはない。</p>								
24	御伊勢講	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	野尻野自治会・下別府自治会(交互に開催)	行事日[過去]	旧暦1月16日					
<p>古く伊勢参りに行ったのが起源ではないかと伝わっている。以前は、高田、野尻野、竹野、下別府で交互に行っていたが、今は野尻野と下別府で交互に行っている。クジ(神官が名前を書いた紙を軸で引く)で当番が決まり、小さなお社を預かっていたが、今は公民館で1年ごとに預かる。クジに当たると「ばあさんを貰った」と言っていた。以前は、正月、5月、9月に行われていた。焼酎を供え、燈明は皿にコヨリを浸し灯した。当番は料理(ご飯、魚のアラの味噌汁、刺身など)を出していたが、現在は弁当を出す。前は子どもたちも参加し暗い夜道をタイムツを先頭に講に行っただけと言う。今、参加者は戸主のみとなっている。</p>								
25	菅原神社大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	下町自治会(菅原神社)	行事日[過去]	11月25日 [同]					
<p>菅原道真公をお祀りしている。昔は「トイの宮」と呼ばれていた。大根占地区から分社してもらったと伝わっている。古くは氏子役員5人が担っていたが、現在は自治会役員が取り仕切る。自治会全員参加となっている。宮司が鳥居、社殿、お社のシメ縄、榊の準備する。</p>								
26	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	宮原自治会(護国神社)	行事日[過去]	7月吉日 [同]					
<p>護国神社境内の清掃。 自治会の予算により子ども会育成会が振る舞いをする。 (しんこ団子、ジュース、花火)</p>								
27	正月・5月・9月講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	尾之上自治会(尾之上公民館)	行事日[過去]	1月・5月・9月の吉日 [同]					
<p>正月講は豊作を祈願、集落内のタンド作業(稲作用排水路の掃除)も行う。以前は、2月8日に行っていた。女性たちが料理を作っていたが、現在は弁当になった。5月講は田植え上がりのシバである。9月講は虫けら供養と言っている。正月、5月と同様、集落内の草払いをし会食をする。その他稲の田の取水口に種まきをした日はイッサキの葉に小麦粉、田植えが終わった後はイッサキの葉に小麦粉団子を乗せて供える。収穫が済むと集落の共有田のある三叉路に芋がらの葉に包んだおにぎりを供える。現在は共有田は池になっており、水神様もある。</p>								
28	観音講	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	丸峯自治会(座元宅)	行事日[過去]	旧暦1月18日、9月18日の夜 [同]					
<p>女性のみの講で、自治会を2つに分けクジで世話役(座元)を決める。座元は米と味噌を準備してズシを炊き全員で食べる。観音様は公民館の横にある。特別な供え物はしていない。</p>								
29	御崎参り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	尾之上自治会(尾之上公民館)	行事日[過去]	9月吉日 [同]					
<p>五穀豊穡を感謝して2班に分かれて佐多の御崎神社、鹿屋大始良の岩戸神社に参拝する。岬柴を持ち帰り、個人宅の床や田に挿す。自治会の平瀬戸地区より2人、尾ノ上地区より2人が交替で参る。稲穂、焼酎を持参する。以前は、参拝に行った4人にご飯、煮付け、酢の物、刺身、煮豆などが振る舞われたが、現在は弁当を自治会員全員に出す。</p>								

13	巳の祈念	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	島泊自治会内(八島神社)	行事日[過去]	旧暦1月21日[旧暦1月21日] ※6月にあったかは不明。この日は一日仕事を休んでいた。]					
古くから島泊集落で行われてきた(昭和8・9年からと言われている)。佐多の浦の地域では古くから行われている。集落の出入りに神官が厄除けの飾り門を設け、人々の家内安全・無病息災を祈念する。以前は、集落の入口2か所に高さ4～5mの竹にしめ縄を張って根元には椎の木枝を飾っていた。3年前からは1m前後の竹に注連縄を張ってシデを付け椎の木の枝を飾っている。儀式は八島神社での神事後、集落入口2か所のお祓いをする。								
14	二十三夜祭り(旧青年団入会)	存続状況	存続危機	関連テーマ	12			
場所	竹之浦地区内(海岸)	行事日[過去]	旧暦1月23日 [旧暦1月23日, 5月23日, 9月23日との記録もある。]					
ハイギネン(春祈念)といって、旧暦1月23日に海岸に行って弓矢を射る。的は、正月の供え餅に使った紙を集め、行事が終わると紙は各人に分けられ、耳に挟む。そうすると、身が清められ強くなる。また家の門に貼り付けて魔除けに使われる。青年団入会との関連については不明であるが、以前は男子が15歳(後には18歳)になると、父親が連れて「青年団」に入れてくれと頼みに行った。これが済むと1人前と認められた。この夜は、男子に村の有り様や青年の村での役割等について教え、自覚を促した。								
15	氏神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	外之浦自治会(氏神様 海岸)	行事日[過去]	3月18日 [旧暦2月18日]					
竹之浦集落で古くから行われている。ウッガンサア(氏神様)のところで神事を行い、海岸へ行って紙(各戸から集めた)で作った的に矢を射る。そのあと自治会館で直会をする。矢を射た紙、氏神に供えた米を粉にしたものと赤飯をお猪口1杯ずつ各戸で分け、持ち帰る。米粉は家の前に撒き、赤飯は家族で食べる。五穀豊穡と無病息災を祈った。弓を射るのは、その昔、村に疫病が流行り、その悪除けとして始まったようだ。弓矢には、氏神様のご利益をかりている。ユワイモンナワ(祝いもの縄)は鳥居と村の両入口、海岸に竹を立て、そこに下げ、悪除けとした。ウッガンサアは、集落を見渡せる小高い丘にある。								
16	鹿父神社春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	栗之脇自治会(神社境内)	行事日[過去]	3月第1日曜日 [3月1日]					
神社総代・宮司を中心に実施し、地区住民と下寿老人会が参加する。年末に宮司より鹿父神社の「大麻」が各戸に配布される。田の神舞は、3年前に復活。餅の腰巾、黒の下ズボン、腰に藁縄、穀物袋(こっつん)、メシゲ、スリコギ、環鈴、面を付ける。根占の塩入神楽を参考にしている。秋祭りは神事のみ実施されている(毎年11月1日)。								
17	西本稻荷神社 春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	西本自治会(社殿 境内)	行事日[過去]	旧暦2月巳の日 [同]					
昭和40年代前半までは昔ながらの手植えで御神田に田植えをしていたが、その後もらい受けた箱苗により機械植えになった。平成27年には田植えは実施されず、休耕になっている。現在は境内でのお田植え祭となっている。神社への供え物は、公民館で女性が炊いたご飯(1升をおひつに入れる)、糰子、根付き野菜(大根・人参・ネギ・葉物) 果物(リンゴ、ミカン、バナナなど)、魚2匹(尾頭つき)、焼酎。春祭り終了から秋祭りまで、各戸当番で預かる小さなお社がある。自治会30戸で交替でお社を預かり、床の間に安置し花を飾る。焼酎、塩、ご飯を供える。祭り当日、預かっている小さなお社は公民館の床の間に安置する。男性は鳥居、神社お社入口、中の神棚用のシメ縄3本を作る。持ち回り用お社のシメ縄は宮司が持参する。								
18	西本稻荷神社 秋祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	西本自治会(社殿 境内)	行事日[過去]	旧暦11月1日 [同]					
秋祭りは春祭りと同様に実施しているが、お田植えがないだけである。秋祭り終了から春祭りまで小さなお社を各戸当番で預かる。								
19	祇園祭り	存続状況	順調	関連テーマ	2	3		
場所	根占 川北～川南	行事日[過去]	7月最後の土曜日 [旧暦6月15日]					
八坂神社で神事の最中に氏子たちが祝詞が聞こえないくらいの音で壁を叩きながら壊していく(現在は壊す場所が決まっており、壁も薄くなっている)。壁を破って「神輿」を出す。洲崎の浜で津柱神社に向けて神輿をおろす。津柱神社で神事後、神官が先導して、町一・二を練り歩く。その後町内を回る。何故津柱神社で神事をするかは不明。津柱神社の氏子は町一・二の人々である。神輿の担ぎ手は昔は町一・二の住民のみであったが、今は人員が足りないで、知り合いに声をかけている。八坂神社は男神で対岸の津柱神社の女神に早く会いに行きたいからと伝えられている。								
20	浄土忌	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	溝口自治会(公民館)	行事日[過去]	11月の最終日曜日 [秋 米の収穫が終わり、上納米などを済ませた11月末頃]					
「上納時(じょのどつ)」とも呼ばれている。男性達は朝から自治会内の清掃作業、女性達は午後より公民館で食事作り、料理は参加者には三角おにぎり2個と漬け物、昆布の佃煮をサリン(サネン)の葉包んだもの、豚汁、刺身、白和えなどが出される。公民館でこれを食べる。来られない家にもサリン(サネン)の葉に包んだものを配る。自治会にある田の神、子どもの神様、古い石塔の3か所にも供える。食材のほとんどは持ち寄りである。以前は、地鶏、田ミナなども食材になったということである。								

5	オギオンサア	存続状況	順調	関連テーマ	2	3		
場所	島泊自治会内(各戸)	行事日[過去]	旧暦6月15日 [同]					
<p>前年お厨司を預かった家で神事、直会をし、次の家へお厨司を運ぶ。運ぶ際、集落総出でお厨司と運び手に水をかける。お厨司は、集落の各戸が持ち回りで1年ずつ祀る。</p> <p>※この辺りではお嫁さんが嫁ぐとき、婚家にはやく根付くようにという意味を込めて、お嫁さんの足に水をかけることがあったそうだ。</p> <p>「キュウリをその年食べてはいけない」ことについて</p> <p>① オギオンサアが田の草取りをしているとき、イネの穂先で目をつつき、さらにキュウリ畑の笹竹で目をつついて、片方の目が不自由になったという言い伝えがある。</p> <p>②キュウリの切り口の模様が、オギオンサアの出である京都の八坂神社の御神文に似ていることから食べるのははばかれる、との伝えもある。</p>								
6	稲牟礼神社シバ祭り	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	上之園自治会(稲牟礼神社)	行事日[過去]	1月3日 [同]					
<p>この日の朝、上之園を見渡せる山(上之園岳)にある山の神のところに、氏子がお神酒とシトギを持っていく。稲牟礼神社では、神社内の祠の各所にシトギを奉ずる。各総代が集めたところで神事を行い、直会となる。</p> <p>この日より、山仕事や作業用具を使って仕事をすることができる。</p> <p>稲牟礼神社は佐多地区の大字伊座敷、馬籠の中心となる神社である。神社を有する大字伊座敷、馬籠の氏子代表も参加する。</p>								
7	鎮守神社秋祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	川田自治会(鎮守神社)	行事日[過去]	12月 [3月に初午祭りがあった。]					
<p>川田集落で古くから行われてきた。神主を依頼し、氏子代表(自治会役員)が集まり、神事を行い、直会をする。</p>								
8	馬頭観音祭り	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	馬籠自治会(馬頭観音神社)	行事日[過去]	4月最終日曜日[不明]					
<p>牛馬の無病息災を祈って馬頭観音・早馬神を祀った。古くから馬籠集落で行っている。馬頭観音には明治26年3月16日とあり、火の神には大正12年3月12日と刻んだ石碑がある。</p> <p>神主を依頼し、お供えを準備して神事を行う。集落の人は誰でも参加する。直会は自治会館で行う。自治会の敬老会として行うことが多い。</p>								
9	馬頭観音祭り	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	竹之浦地区(鬼丸神社)	行事日[過去]	旧暦3月16日 [同]					
<p>古くより竹之浦集落で行ってきた。以前、この地域では馬や牛を多く飼育しており、安全と増産を鬼丸神社に祈願していた。神社境内で神事を行い、自治会館で直会をする。以前は、集落の人だけでなく、旧町内で牛馬を飼っている人たちが多数参拝し、神社で売っている大麻や置物などを自分の家の床の間に飾り、神社の竹を持ち帰って牛に食べさせたり、牛の絵を牛小屋に飾ったりした。現在は集落外の人たちの参拝は少なくなっている。</p>								
10	十五夜祭り	存続状況	順調	関連テーマ	10			
場所	島泊自治会内(公民館)	行事日[過去]	旧暦8月15日 [同]					
<p>古くから島泊集落で行われている。作り上げた綱は橋の上に積み上げ、塩とお神酒を供える。月が出ると、綱引きが始まる。集落を上と下に分けて引き合う。十五夜の綱の行事が終わったあと、少しずつ自分の船に持って行って漁をすると、魚が獲れると言われている(今はしていない)。</p>								
11	十五夜祭り	存続状況	順調	関連テーマ	10			
場所	竹之浦地区(海岸 自治会館)	行事日[過去]	旧暦8月15日 [同]					
<p>竹之浦で古くから行われていた。集落の海岸道路横にある集荷場で綱を作る。出来上がった綱は、海岸にある岩の上に巻き付ける。巻き付けた綱にお神酒と塩を供え、自治会館で飲食する。以前は、綱を道路に引き回し、綱引きをしていた。現在は、少子化と高齢化でできなくなった。</p>								
12	八島神社祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	島泊自治会内(八島神社)	行事日[過去]	12月第二巳の日 [同] ※ 巳の日に行うのは、八島神社のご神体が白い蛇だといわれていることによる。					
<p>古くより島泊集落の守り神としての八島神社の祭りを行っている。まず、八島神社、えびす、氏神、火の神(以前は区長の家のかまどであったが、今は自治会館の台所)、十五夜の神を廻りお祓いをする。十五夜の神とはよくわからないが、月の神に収穫を感謝してお供えをする。十五夜には綱引きもある。赤飯(モイのメーと言う・蒸し飯の事)と餅の供え物を作って、八島神社、えびす、氏神に供える。八島神社で神事が終わったら、えびす様のところで餅まきをする。</p>								

6	旗山神社の「柴祭り」	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	池田地区の川南(旗山神社)	行事日[過去]	正月1, 2, 3, 4日[同]					
<p>稲作と狩りに関わる事始めの行事。神主は本殿に伏せてあった柴の束を表に向けて立て、太鼓を打ち神面を付けた鉦を先頭に近くの岡に行き、持参した柴を立てて集落に悪霊が入らないように祀る。イノシシやシカの狩り始め、草地の野火の焚き始めが行われることから古い仕事始めの儀式でこれを神社が中心となって行なっている。柴の悪霊祓いとシシ狩りの行事が終わると人々は山に入って木を切ってもよく、山仕事の始まりである。旗山神社と町内の各神社を参拝し、各方面からの災いや悪霊が入らないように祈願をする。元日は歳旦祭で伶人・神官が集まり祭典を行う。2日は田畑の仕事。3日はしし狩りを行い、山の幸を祈る。4日は高尾神社で、海・川の幸を祈る。20日にサカキを納め、シバフセを行う。</p>								
7	セツガイ	存続状況	順調	関連テーマ	1			
場所	大原集落(田んぼ)	行事日[過去]	2月3日に近い日曜日 [2月3日]					
<p>以前は 火をつける前に棒踊りも舞ったと言う。大原の地区入り者と地元民が半々という割合である(桜島・与論島開拓者など)。差別等は感じないと言う。当日材料集めから櫓組まで一日で終わらせる</p>								
8	セツガイ	存続状況	順調	関連テーマ	1			
場所	田代集落(田んぼ)	行事日[過去]	2月3日 [2月3日または4日]					
<p>孟宗竹・ナエ竹(ニガタケ)を田で燃やし、竹のはじける音で鬼を追い出す。節分に行われることは五穀豊穡、家内安全を祈願した。以前は青年団と小中学生により実施されていたが、過疎により長く途絶えていた。しかし、公民館が主体となり実施されるようになった。平成25年からは弓道同好会による五穀豊穡、家内安全を願って弓の試射が行われるようになった。5, 60年前は猟銃のあるところは、夕空に向かって発砲した。今は不可である。60年前は子どもたちは落とし穴を作って遊んだと言う。</p>								
9	セツガイ	存続状況	順調	関連テーマ	1			
場所	花瀬地区(田んぼ)	行事日[過去]	2月3日 [同]					

南大隅町

1	愛宕神社夏祭り	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	麓自治会(愛宕神社)	行事日[過去]	旧暦6月14日に近い前の日曜日 [旧暦6月14日]					
<p>佐多郷伊座敷村麓が祀る神社。まずは神主とともに男衆が愛宕神社に上り、神事を行う。その後、自治会館に戻り神事をし、女性達も祭壇で拝礼する。自治会館には灯籠が掲げられている。</p> <p>神事が終わった後は直会となる。以前は、戸数も50以上あり、子ども達もたくさんいて賑やかに行っていたが、現在戸数18、ほぼ高齢者で執り行っている。</p>								
2	愛宕神社秋祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	麓自治会(愛宕神社)	行事日[過去]	旧暦9月23・24日に近い前の土・日曜日 [旧暦9月23・24日]					
<p>「内祭り」では、神主と男性達が愛宕神社に上って神事をし、自治会館に帰り神事、その後、女性達も祭壇に拝礼し、直会となる。直会の料理は手作りして仕出しを合わせている。</p> <p>「本祭り」では、神主と男性達が愛宕神社に上って神事を行う。それから、神主がシダレをつけた柴に神移して浜下りに持って下がる。浜下りの道には、奉寄進と書かれた旗を張っている(綱に幟旗を括り付けたもの)。100mほど下ったところの神事を行う広場には、竹を四方に立てしめ縄を張り、そこで神事を行う。</p>								
3	月形神社祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	下岩・浮津自治会(月形神社)	行事日[過去]	12月午の日に近い土曜日か日曜日 [12月午の日]					
<p>しめ縄を纏って神社に奉納する。神主を呼び、神事を行う。神事後の直会は、参加する人達により、したりしなかつたりとなってきた。最近、神社に通じる田の畦を整備して、参拝しやすいようにした。</p>								
4	祇園祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	3	16		
場所	上之園自治会(稲牟礼神社)	行事日[過去]	旧暦6月15日 [同]					
<p>樺山久高は琉球侵攻の前、御崎神社に戦勝祈願をしたと言われ、琉球侵攻の兵は1609年3月に山川を出発し、5月には凱旋した。凱旋のお礼に久高は御崎神社を現在の場所に移し、社殿を南向きにして琉球の安寧を願った。祇園祭りは、その戦勝を祝うために始まったと伝えられている。自治会館でお神酒を頂き、白装束、わらじ履き、カラフルな花笠を被った出立で、ほら貝、のぼり旗を先頭に稲牟礼神社まで行き、太鼓踊りを奉納する。鉦や太鼓で鳴らす「ズッカカン」のリズムに合わせて踊る。その後、集落の道路を巡りながら踊り歩く。豊年祈願と雨乞いの踊りとして奉納され、踊り継がれている。</p> <p>[唄いの歌詞]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ひおく山 ひおく山 島のおの子が 来て問わば サバイはうせて 秋と答ゆる 2 ひょうひのものと 主に問わば カラの虫 はやふきもどせ 								

5	唐仁八月踊り	存続状況	中断中	関連テーマ	16			
場所	新川西地区(大塚神社境内)	行事日[過去]	旧暦の8月朔日[同]					
<p>万治元(1658)年、島津久光公が郡奉行河南次郎右衛門に命じて、岩弘の用水路工事と新田開発をさせ、寛文4(1664)年に出来上がった際にその竣工のお祝いの余興として奉納したと伝えられてる。大塚神社境内鳥居の東に櫓を設けてそこで行った。八月踊りの元の始まりは、豊年祝い、開田、用水路竣工の記念、天災異変のための祈願・慰霊などさまざま、その地域によって違いがある。旧暦八月朔日を八朔と言って、唐仁を最初に八月踊りが始まり、28日の波見を最後に踊り終了となる。参考文献『東串良町郷土誌』 東串良町</p>								
6	水神祭 水神講	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	各集落の水神様前	行事日[過去]	9月 [旧暦8月頃]					
<p>農耕の神(水神様、田の神様など)に豊作になった事の恩恵に感謝する祭り。岩弘鉦打ちは、戦前は鉦打ちと踊りもあったが、戦後の混乱の中、歌や踊りの所作が途絶えてしまい、鉦打ちの所作だけが伝えられた。溜水の寺踊りは平成14年までは活動を実施していたが、その後、途絶えており近年地域の方々が復活させようと活動をされている。地区ごとによって、鉦打ち等はなく、水神様の祭をするだけの地区もある。水神踊りは、神霊神祀の祈願と稲・穀物の豊作を感謝する祭りである。</p>								

錦江町

1	漁業振興祭	存続状況	中断中	関連テーマ	17			
場所	馬場集落(大根占漁港)	行事日[過去]	10月中頃[同]					
<p>大漁と航海の安全を祈願。えびす社殿を開帳し大根占の漁業関係者が参加してお祈りを受け、その後漁船による海上パレードを行い、小中の児童生徒・一般による漁願相撲大会が開かれた。しかし、現在は、漁願相撲大会は行われていない。また、海上パレードは、近年毎年行っていたが 昨年からは行われていない。</p>								
2	錦江町夏祭り	存続状況	順調	関連テーマ	2	3		
場所	馬場集落(大根占漁港広場)	行事日[過去]	7月中頃[同]					
<p>別名祇園祭(おぎおんさあ)と言う。八坂神社の社殿を開帳して氏子や大根占の商売関係者が集まり、商売繁盛と家内安全を祈願する。その後、高台の山車や御輿が町中を練り歩き、また、あるときは、踊連が町の大通りを踊る様は華やかであった。御輿や山車は現在後継者不足で行われていない。現在は、商工会と町が主催して錦江町夏祭りとして舞台発表や花火の打ち上げが行われている。</p>								
3	十五夜綱引き	存続状況	順調	関連テーマ	10			
場所	馬場・城元集落(公民館)	行事日[過去]	旧暦の8月15日[同]					
<p>大綱を引いて勝った方が商売繁盛・家内安全が得られるとされる。戦前戦後、大根占の中心地で北町・南町に分かれて行われていたが、15年くらい途絶え、その後各集落で行われていた。その後、城元振興会と馬場振興会で行うようになった。子どもや父母、振興会でカヤ、ツナに練込むカズラ等を山に取りに行き、ツナと混ぜ合わせながら練り込み大きなツナを作成、両方をつなぎ、そして校区に分かれて引き合う 引き合いは3回、また小学生と女生徒に別れて引き合う場合もその後、綱で土俵を作成して相撲大会が行われる。</p>								
4	棒踊り 薩女踊り	存続状況	復活 (昭和49年)	関連テーマ	24			
場所	宿利原集落(宿利原小学校等)	行事日[過去]	夏祭り・学校公開[毎年8月頃]					
<p>宿利原地区、池田地区に古くから伝えられている。昔、宿利原に住み着いた平家の落人たちが源氏の追討から身を守るために用いたとされる。また、薩摩半島の方から炭焼きの人々や買付けの人々が来るようになり、もてなしの場宿利原地区に伝わる棒踊りや薩女踊りを披露したと伝えられる。一時期途絶えていたのを昭和41年に青年団や地域の壮年男子に伝授され復活したものである。近年若者の流失などにより伝授が難しくなっている。また、薩女踊りは錫杖踊りを変えたといい、棒踊りの女性版である。唄はどちらも「オセロガヤマワ マエガダイカワ」である。棒踊りは、4人一組で踊る。鉢巻、ケハン、ぞうり、なぎなた。薩女踊りは、4人一組。陣笠をかぶる かけ声唄がある。</p>								
5	旗山神社の神舞	存続状況	順調 復活 (平成2年)	関連テーマ	30			
場所	池田地区の川南(旗山神社)	行事日[過去]	11月28日[不明]					
<p>旗山神社創設以来、日向・曾於・大隅に伝わる神舞をこの地に伝承し、五穀豊穡、家内安全を祈願する。約400年位前から行なわれていた 旗山神社の新嘗祭や特別な祭典で行われる。現在神舞9番(なぎなた舞、田の神舞、霧島鬼神舞、柴鬼神舞、やね鬼神舞、山神鬼神舞、四体(よつたい)鬼神舞、鬼神舞、たちから鬼神舞)を伝承している。面は6面ある。舞衣装はそれぞれの舞いに合った衣装がある。笛・太鼓・鉦に合わせて舞う。鳥居立て、文化祭、特別な学校行事などで踊る。出雲流である。</p>								

大崎町

1	七夕市と精霊迎え	存続状況	順調	関連テーマ	19			
場所	町東・町西集落(南光寺前七夕地蔵)	行事日[過去]	7月8日 8月8日[8月8日]					
江戸時代中期以前に始まったとされる。旧暦の7月7日に行われる。現在は新暦の7月7日にも行われる。お盆のころ先祖の霊(精霊)が迷いなく戻ってこられるように七夕地蔵にお願いをする祭り。元々は、お盆の日用品を販売するために各地から業者が集まって七夕市(江戸時代以前から上町地区で開かれていた野市の一つ)が開かれており、集まってくる人々に呼びかけ、月笑寺第五代目住職の健剛和尚が始めたものである。七夕市は平成初期に途絶えてしまったが、七夕飾りは今でも上町地区の集落と上町子ども会によって続けられている。8月6日～7日早朝に上町地区の集落と上町子ども会で作った七夕飾りを七夕地蔵前に飾り、精霊迎えのお客さんを迎えている。								
2	早馬踊り	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	子熊集落(井俣神社)	行事日[過去]	4月中旬から下旬 [同]					
いつ頃から始まったかは不明であるが、およそ40年前に地元青年団が復活させた。早馬講の時に農家の二才衆が奉納した。踊りは小学生から高校生までと、壮年・高齢者の有志計12人。特に供え物はないが、早馬神社にある5つの祠に注連縄を張って、そこで集落の花見を行う。早馬神社で奉納した後、新築住宅、議員宅、公民館長宅で踊る。唄は高齢者(復活時の青年団)が歌う。2～3年前に太鼓・鐘などの道具を新たに購入。参考文献『大崎町史』昭和50年大崎町役場								
3	鉦踊り	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	岡別府集落(岡別府水田近くの水神祠)	行事日[過去]	敬老の日に近いいずれかの日曜日[不明]					
明治以前より水神さまに豊作を祈願して奉納。一時期中断したが、昭和56年に復活した。旧暦8月15日前後に日を決めて水神祭りをする。水神祠の前で青年たちが鉦と太鼓を打ちながら踊る。約10人くらいで動きの少ない踊りを奉納する。この鉦踊りの事を「ミズカンサノフラク(水神さまの法楽)」とも言う。夜、広場や大通りの辻などで八月踊りが踊られる。2～3年前に太鼓・鐘などの道具を新たに購入。鉦は昭和56年のものが一番古い。参考文献『大崎町史』昭和50年大崎町役場								

東串良町

1	宮貫神社の春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	川東地区(宮貫神社)	行事日[過去]	毎年2月23日 [同]					
お田打ち行事が終わった後、鎌・棒踊りの奉納がある前に、その年の豊作を占う。くじ引き(中には、転作・豊作・不作の3枚が入っている)が行われる。お田打ち行事の後に、役所鎌踊り保存会・上山野棒踊り保存会による、鎌踊りと棒踊りが奉納される。この保存会には、地域の子ども達も入っており、学校がある日であっても、学校公認で地域行事への参加が認められている。平成26年度から実施している「地域とふれあう日」の活動により、役所鎌踊り保存会では、3世帯しか子どもがいなかったが、この活動に参加を希望する子ども達が増え、現在18人の子どもたちが協力している。								
2	廣田神社の春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	池之原地区(廣田神社)	行事日[過去]	2月の第3日曜日頃					
神事と棒踊りの奉納が終わった後、直径15cm程の二股の雌木に同じ大きさの雄木を絡ませて、子ども達が引き合うかぎ引きが行われる。この行事は、豊作祈願と夫婦和合、青少年の士気を鼓舞するため行う。								
3	大塚神社の春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	新川西地区(大塚神社)	行事日[過去]	2月の第4日曜日頃					
神事後、棒踊りを行う。祭りは餅を124個と椀の中に、飯を入れ直径11cm位の煎餅のように薄い餅を蓋にして被せたもの124個を神前に供えて祭典を行う。続いて田よみ(木製牛を使う)と種まき神事をし、その後、供え物は全部下げる。現在は、神事より先に棒踊り奉納をする。平成26年度から実施している「地域とふれあう日」の活動により、現在3つの団体が奉納している。								
4	柏原大相撲	存続状況	順調	関連テーマ	15	10		
場所	柏原地区(柏原海岸相撲場)	行事日[過去]	5月上旬 [旧暦の9月15日]					
約280年前の江戸時代から続いている伝統ある年中行事の一つである。豊年・豊漁を祈願して行われる。柏原大相撲の中入りで、「柏原相撲甚句踊り」を実施している。柏原相撲甚句踊りは柏原大相撲とともに開催されており、当時疫病の流行で苦しめられていた町の人々が、疫病退散と大漁・安全を祈願して始まったとされている。昭和50年頃に途絶えていたが、平成元年に柏原地区の女性たちが中心になり復活させ、平成5年に保存会を結成し、平成7年に町指定無形民俗文化財に指定された。地区の女性が少なくなり、一時期は活動ができない時期もあったが、町の青年団の女性達や「地域とふれあう日」の活動により、子どもも少しではあるが加わり活動を続けている。相撲甚句踊りをする団体は、県内でも珍しいと言われている。								

20	井手口の手拍子	存続状況	存続危機	関連テーマ	29			
場所	井手口集落(不定)	行事日[過去]	不定期 [3月 早馬講 8月]					
幕末からはじまり、途中明治末まで途絶えていたが復活した。また、その後昭和2年に踊られたのを最後に途絶えたが、昭和56年手踊り全部が復活してきた。志布志の八月踊り(夏井手拍子)が伝わったもの。								
21	蓬原熊野神社の神舞	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	蓬原集落(蓬原熊野神社)	行事日[過去]	11月23日 [同]					
鹿兒島では神楽の事を神舞(カンメ)と言う。熊野神社の「蓬原神舞」は岩戸開きを伴った出雲神楽系の神楽舞いである。延宝3(1675)年の同神社神舞文書に42演目があり、それに基づいて昭和46年全演目を復活させた。毎年11月23日、数段の神舞を公開して現在に至る。大崎町都萬神社、照日神社とは同系統である。五穀豊穡、家内安全などを祈願して舞う。								
22	伊崎田白鳥神社の神舞	存続状況	存続危機	関連テーマ	15			
場所	伊崎田集落(伊崎田白鳥神社)	行事日[過去]	正月, 3月, 11月 [不明]					
文久2(1862)年にコレラが大流行したので、武運長久と伊崎田村の老若男女、牛馬に至るまで逃れるため、志布志郷の惣社山宮神社に要請し神舞を習得し、28段の神舞を奉納したのが始まりである。面と舞い衣装が揃っている。幕末期にコレラが流行したのをきっかけに安楽山宮神社の神舞を習得して復活したものである(文久2(1862)年)。								
23	蓬原 中野集落の八月踊り	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	中野集落(舞庭)	行事日[過去]	不定期 [8月15日前後]					
八月踊りは藩政期の水田開発の推進により旧暦8月15日前後に水神碑の前にしめ縄を張りチロイを数多く立てて「カネ」だけの先導で鉦踊りを演奏しながら、その後を踊り子が一緒に水神碑の所まで行く。水神祭りのあと夕方に手拍子踊を奉納している。「川踊り」、「鉦踊り」、「手拍子」とも言われている。								
24	通山チロイタオシ	存続状況	順調	関連テーマ	20			
場所	通山集落(不定)	行事日[過去]	不定期 [3月節句 5月節句]					
初節句(男女)の行事として藩政期より継承されてきている。応永8(1401)年中世期の3月3日に由来すると伝承している。戦国時代、当時島津家は二分して争っていた。3月3日は志布志城に串間方面から敵方が押し寄せて来た。この時、庄内に兵を出していたので留守を預かっていた「尖 政石衛門」という人の機知により、男児に急拵えの轆を作って持たせ、軍政がたくさん残っているように見せかけ婦女子まで動員して、見方が帰って来るまで防戦し、庄内より帰って来た見方の兵により、敵を打ち破った。この時から志布志地方では戦勝祝いが毎年旧暦3月3日に女兒のひな祭りと一緒に行われるようになり、男児は武者絵を描いた紙をつなぎ合わせたチロイを立てて子どもたちで奪い合いをして祝うようになった。その後、5月5日は端午の節句に祝うようになった。								
25	蓬原 中野棒踊り	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	蓬原中野集落内(不定)	行事日[過去]	8月15日前後 [不明]					
農耕儀礼の予祝行事。枝葉の付いた櫛を持ち地面を突きながら歌う。藩政期から伝承されているが、八月踊の方が主力になっていく。6人1組、六尺棒4人、三尺木刀2人。								
26	西山之口集落の福神舞	存続状況	復活	関連テーマ	18			
場所	西山之口集落内(舞庭)	行事日[過去]	1月14日 [不明]					
正月に訪れる門付け芸がここに伝播して伝承するようになった。子どもたちだけで各家庭を回り、福神の来訪を告げて、田の神も登場する。子どもたちは全員伊崎田和紙で作成した帽子を被り福の神になり、青年の田の神と一緒に「あきのほうから福神さあのみもした。祝たもんどかい」と言い、大きな粟の穂を一本贈る。正月の厄払いの行事として子ども組で伝承している。福神舞いは正月14日の厄払いの夜に家内安全、無病息災、五穀豊穡を祈願する。戦時中中断したが、その後(昭和60年)復活して現在に至る。								
27	下平野の棒踊り	存続状況	中断中	関連テーマ	29			
場所	野神集落内(不定)	行事日[過去]	4月10日 [不明]					
現在期日に関係なく農耕儀礼の予祝行事でも娯楽として踊られるようになった。歌い手は大櫛の枝で地面を突き調子を取りながら歌う。								
28	野神(宮下、草野)の棒踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	29			
場所	野神集落内(不定)	行事日[過去]	旧3月16日 早馬講 [不明]					
畜産業が盛んになる幕末頃から牛馬の神早馬どんへ奉納する。供養松も毎年植えて踊りを奉納。松の植え方は芝で九重(供養)に囲み中心に松を植える。早馬に奉納したあと民家の馬小屋の前で踊って回る。								
29	上床の棒踊り	存続状況	中断中	関連テーマ	15			
場所	上床集落(早馬殿)	行事日[過去]	3月の早馬講 [不明]					
早馬講でニセ駒や家畜の無事成長を祈願する。「供養築基」後の直会で演じられていたものである。浴衣や緋の着物にタスキがけの出で立ちで三尺棒、六尺棒、カマナギナタなどを持って偶数の人数ではげしく打ち合わせて踊る。								

10	上出水の奴踊り	存続状況	中断中	関連テーマ	24			
場所	各集落(不定)	行事日[過去]	不定期 [水神祭時]					
安楽上門の八月踊りや上出水の手拍子と同様で、それぞれの地域に独自の名称、踊り、歌詞が受け継がれている。幕末の水田開発により盛んとなる。								
11	街(10街区)地区の地蔵盆	存続状況	順調	関連テーマ	19			
場所	屋地地区(蔵塔前)	行事日[過去]	8月24日 [同]					
志布志の市街地区の10街区は、中世期に発生したもので、その街区の北東の門に安置されている地蔵を祭る。地蔵のほとんどは「千軒まち」という市街地に集中して建てられている。地蔵を安置してある場所は道路交差点の角や辻、道路脇の土手など道路端にある。旧暦7月24日(8月24日の地蔵の縁日)に地蔵盆、地蔵祭、地蔵講などといって地蔵の法会が行われる。その地域の子どもたちを中心に行われる。実施方法は、①浜に出て海水で清浄になった砂を取りに行く。②この砂に清水を加えて練り、地蔵を中心に回廊を作る。③作った回廊に旗、線香、ろうソクを立てる。④祭壇を作り、供え物(スイカ、カライモ、団子、お菓子など)をする。⑤法会が始まると線香ろうソクに火をともし、合掌して読経、法話などがある。								
12	松山神社の神舞	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	松山集落(松山神社の拝殿境内)	行事日[過去]	2月第2土曜日 [旧3月16日]					
天明6年正月に藩主の厄払いのため、蓮花院で神舞をしたのが始まりである。江戸後期天明6(1786)年の記録(神社)によると、48段の演目が記されており、その頃はすでに整備されていたようである。神舞面も11面保存されている。志布志の山宮神社、有明の熊野神社の神舞とも共通するものが多く、出雲流神楽の岩下系神楽の一つである。戦前までは松山郷社で古くから神舞が節目節目に行なわれていた。								
13	霧島神社のダゴ祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	尾野箕集落(尾野見霧島神社)	行事日[過去]	3月第1日曜日 [不明]					
幕末から明治初期、田之浦山宮神社ダゴ祭りから伝承している。旧暦2月の祭りは祈年祭といわれ、その年の豊作を祈念する農耕の祭り。集落でダゴを作り、竹串にダゴを刺し、これをツトに挿したダゴ花を神社に奉納する。最後に参拝者に分配する。								
14	豊留の棒踊り奴踊り	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	不定	行事日[過去]	不定期 [棒踊り 3月奴踊り 8月]					
江戸時代後期、薩摩地方から伝承されたと言われている。豊留地区では棒踊りと奴踊りを一体化して伝承している。楽奏は三味線と拍子木である。								
15	中村集落の手拍子(八月踊り)	存続状況	存続危機	関連テーマ	29			
場所	中村集落 舞庭	行事日[過去]	不定期 [8月15日]					
日露戦争祝賀に奉納したのが最初である。この手拍子は夏井(志布志)地区の盆踊り(八月踊)を習得したものである。武運長久を祈って踊る。明治初めに宮崎県串間市より伝えられたといわれている。八月踊りは水神祭の民俗芸能で「鉦踊り」「川踊り」「手拍子(テベシ)」とも言い、「手拍子(テベシ)」は風流系の小唄踊りで、踊るときには手で拍子を取りながら踊るので手拍子踊りと言う。								
16	内之野奴踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	29			
場所	内之野集落(不定)	行事日[過去]	不定期 [同]					
奴踊りの奴は藩政期の武家の使い役であった奴にちなんだもので、志布志の柳谷や出水などの手拍子、奴踊りなどは諸県・日向地方に伝承される「盆踊り」地帯との接点にあり、この系統と関連しているようである。								
17	川治の棒踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	29			
場所	川治集落(舞庭)	行事日[過去]	不定期 [3月]					
100年位前に川辺地方から竹細工、大工木挽きなどの職人たちが川路集落に伝えたもので、今日まで保存伝承されている。棒踊りの後で手拍子を踊る。この手拍子は志布志の夏井手拍子(八月踊り)が伝わったものである。棒は六尺棒、六人一組である。								
18	新橋松山神社のダゴ祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	新橋集落(松山神社境内)	行事日[過去]	2月第2日曜日					
田之浦山宮神社から伝わった。田之浦山宮神社と同様にダゴ花を奉納する。								
19	泰野早鈴神社のダゴ祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	泰野集落(泰野早鈴神社)	行事日[過去]	3月第1日曜日 [不明]					
明治初期頃、田之浦山宮神社から伝わった。								

志布志市

1	安楽山宮神社の神舞	存続状況	順調	関連テーマ	15	30		
場所	安楽山宮神社神社拝殿	行事日 [過去]	1月1日 [同]					
旧志布志郷の神社である山宮神社の神舞で、郷内の神社ほとんどの神舞がこの山宮神社の神舞（神楽）系統である。太鼓・笛・鉦は神官が奏する。神社創建が和銅から大同2年と伝承されているので、その頃から何らかの舞があったものと思料され、整ってくるのは後世、中世期には実施されているようである。日向神舞（神楽高千穂）の系統である。								
2	山宮神社のお田植え行事	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	安楽山宮神社	行事日 [過去]	2月第2土曜日 [不明]					
お田植え祭り、田の神夫婦の豊凶占い、正月踊り奉納などが行われる。江戸中期頃から何らかの形で奉納され、その後整備され、水田開発等が影響して、現在の形式になっているようである。八月踊（水神踊、手拍子）は明治以降奉納され、以前は「棒踊」が奉納されていた。								
3	安楽神社の田打ち行事	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	安楽神社境内	行事日 [過去]	2月第2土曜日 [不明]					
山宮神社の春祭りと一緒に連日の行事である。田打ち行事、田の神夫婦の豊凶占い、正月踊りの奉納など。山宮神社の春祭りに同じ。								
4	田之浦山宮神社のダゴ祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	山宮神社境内	行事日 [過去]	2月第2日曜日 [不明]					
各集落で紅白や黄・緑の餅を作り、その餅を竹串に刺してダゴ花を作る。集落によっては餅の他にピーマンやキンカンなども竹串に刺して彩りよく仕上げる。このようにして作ったダゴ花は、長さ2m位の大きな上部にワラを巻きそこに挿してまるで花が咲いたように仕上げる。出来上がったダゴ花は神社に奉納する。各集落から奉納されたダゴ花は10本くらいになる。神事、神舞などが終わった後、集落民や見学者全員で分け合う。持ち帰ったダゴ花は食べると無病息災、玄関や神棚などに飾ると豊作祈願と言われる。伝承では、江戸中期～幕末から整備されて、昭和58年に現在の状況に復活した。								
5	田之浦夜神楽	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	田之浦ふるさと交流神楽館	行事日 [過去]	不定期 [同]					
ふるさと創生で「神楽殿」を建設（市）したのが始まり。隔年ごとに実施している。田之浦山宮神社は創建当時、御在所岳山頂にあり、藩政時代までは山岳信仰の神聖な名残として狩猟信仰の神事が行なわれていた。神楽（神舞）の演目はその年によって異なる。舞台の天井には切り紙を取り付け注連縄を張ってある。								
6	安楽上門の八月踊	存続状況	中断中	関連テーマ	29			
場所	各集落（不定）	行事日 [過去]	不定期 [水神祭時]					
安楽川から水路を上門岩戸井堰へ通す水路普請の成就で水神碑の前（舞庭）で実施した。この安楽水田は藩の水田事業開拓として幕末期から実施された。志布志地方（大崎まで含む）から都城の庄内に至る志布志湾岸一帯の水田化が急速に推進された。この水田化の成就と毎年の普請の際に水神の前で踊り、水神祭の後に芸能として定着したものであろう。旧暦7月15日前後に実施していたが、現在では他の行事の時も踊るなどして受け継がれている。手拍子、お市後家女、水神踊りなどを奉納している。水神祭として水神様に奉納。								
7	志布志の俵踊り	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	各種楽（不定）	行事日 [過去]	不定期 [同]					
港湾近くの10の街区で伝承されたもの。米の上代蔵、下代蔵に納入する船に積み込む作業工程を表現しており、上代蔵から積み出す定期的な船の出入の時に労働唄として歌い継がれてきたもので、藩内の津または米蔵のある所から積み出す時には常時歌われ踊られていたと伝わっている。港の米の搬出入の時の状況を踊にしたもので、特に藩政後期に盛んに踊られるようになった。船が大阪の境港を経て運搬していたもので、志布志港の広場には米倉が120棟も存在した。								
8	森山のはなれべ踊り	存続状況	中断中	関連テーマ	21			
場所	各集落（不定）	行事日 [過去]	不定期 [同]					
志布志町森山地域道重集落に伝承されている。牛馬は藩政時代ほとんど山や草原に放し飼いされていたもので、春先に農耕（特に水田作業）に活用するために牛を飼育していたもので、その作業や子牛の世話をする期間が過ぎると、また、山や草原に放し飼いした。この牛を手馴れさせるのが最も大変なことであった。この状況を踊りとして伝承している。今は森山（道重集落）のみで伝承している。べ踊（牛）の踊りである。								
9	上出水の手拍子（八月踊）	存続状況	存続危機	関連テーマ	24			
場所	各集落（不定）	行事日 [過去]	不定期 [八月]					
水田開発が盛んになる幕末から始まる。安楽上門の八月踊と同じで、踊る地域により踊りも変化し、各地域で独自の名称や踊り、歌詞が受け継がれている。八月踊、盆踊り。								

15	住吉神社の秋祭り	存続状況	順調	関連テーマ	10			
場所	末吉地区(住吉神社)	行事日[過去]	11月23日[11月25日]					
大正の初め、飢饉の際五穀豊穡のために行われた末吉神社の豊祭で、流鏝馬終了後に油竹登りがある。これは長さ5～6mの孟宗竹の上部に油を入れて、頂上にくくりつけられた景品をめがけて子どもたちが流れ落ちる油を拭きつつ、よじ登る。竹は稲、景品は稲穂とみなされる。農家は1年の収穫を喜び、甘酒や手作りコンニャク、マンカンメシ(赤飯)、ソバ、アオシ柿などを食べて神仏に感謝する日である。								
16	世貫神社の春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	岩崎地区(世貫神社)	行事日[過去]	3月26日[同]					
お田植え神事、豊作予祝。春の祈念祭終了後、境内の保食神前庭にて、神牛を中心に稲作耕作の過程を唄と所作で表現する。まず氏子2人で樫とイボタの枝を用いてカギを作り、田まぜを行い、次に神官の牛ほめの口上、続いて神牛の荒田よみや牛洗いの言葉、種まき、円陣を作り両手に杉の葉を持ち、神官の詞に合わせて回りながら前後の人の頭をなで叩き、騒ぎと笑いのなかで田植え行事は終了となる。								
17	熊野神社の春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	深川地区(熊野神社)	行事日[過去]	3月21日[同]					
神社で神事の後境内で御田植え行事、現在町内12社の神社のうち、3社のみ田植え行事が残っている。他の数社の中には神牛が残っているところもあるが、戦前までは行われていたようである。								
18	山王神社の春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	光神地区(山王神社)	行事日[過去]	4月の第3日曜日[4月15日]					
神社での神事後、神社境内でのカギヒキ、田よみ、牛洗い、種子まき他等々終え、田植え行事は終了となる。神牛は赤牛である。								
19	前田下自治会の庚申講、観音講	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	前田下自治会(前田下自治公民館)	行事日[過去]	3月、9月[同]					
子宝、安産祈願や無病息災を祈念する。女性の観音講自体もなくなりつつある中で、ここは男性の庚申講も一緒に行われている。掛け軸をかけ、それぞれが祈願し、3月と9月に行われる。昔は煮しめ等を持ち寄り、三味線や太鼓を持ち出し、踊り続けて賑やかであったが、今は簡素化され、時代とともに変化している。								
20	口弁木自治会の内神(氏神)祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	口弁木自治会(口弁木公民館)	行事日[過去]	12月第3日曜日[12月7日]					
以前は12月17日となっていた。最近、しめ縄が揃えなくなりつつあり、子どもたちも参加し午前中しめ縄作り、午後内神様(氏神)の神事を行う。御幣作りにも時間がかかり、神事の始まりは夕方頃になり、自治会の男女、子どもも参列して行われる。昔はご馳走が出て賑やかであったが、最近はお茶を飲み、世間話をして、各家人は幣串持って帰り、内神様に立て、新年を迎える。								
21	中原自治会の十五夜	存続状況	存続危機	関連テーマ	10			
場所	中原自治会(中原自治公民館)	行事日[過去]	8月末[同]					
子どもたちの無病息災を願う。8月末頃に、親とともに土俵を作り上げ、今日ではワラの綱は作らず、一般の綱引き用のナワで代用している。数回綱引きを行い、その後、子どもや大人の相撲が始まる。昔は子どもたちが藁の調達に出かけていったが、今は畜産農家も少なくなり、少子化も進み、十五夜もほとんど行われなくなった。								
22	熊野神社の鬼火焚きと鬼追い	存続状況	順調	関連テーマ	1			
場所	深川地区(熊野神社付近)	行事日[過去]	1月7日[同]					
無病息災、家内安全を祈願する。1月7日夜明け前に5本の竹を立てたやぐらに七草を迎えた子どもたちがお祓いの後点火し、その燃え残りの竹を回収、竹筒に酒を入れ、夜3匹の鬼が飲み「鬼追い」が始まる。他と違う所は早朝(午前6時半頃)に行い、「鬼追い」の酒筒として使用されることである。昔はその竹でカギも作ったりした。								
23	弥五郎どん祭り	存続状況	順調	関連テーマ	22			
場所	岩川町内(岩川八幡神社)	行事日[過去]	11月3日[11月5日]					
岩川八幡神社で、11月3日の例祭に弥五郎どんと呼ばれる大型個人像が巡行する。当日夜中1時頃から安全祈願神事を行った後、拝殿で弥五郎どんの組み立てが始まる。弥五郎どんの巡行は、御神体が社殿から出て海岸まで巡行する「浜下り」と呼ばれる。								

5	投谷八幡宮お田植え祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	宮ヶ原(投谷八幡宮境内)	行事日 [過去]	3月第2日曜日 [2月中卯]					
あぜ作りから田植えまでユーモラスに演じるお田植え祭りとカギ引きで豊作祈願をする。明治時代に作られたと伝えられている木製の牛にモガを引かせ、田起こしをし、ユーモラスな所作で見物客から笑いが飛び出す。カギ引きは大隅南地区と恒吉地区の人々が、約5mの木(カギ)を引っ掛けたカギヒキをする。								
6	投谷八幡宮 茅輪くぐる	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	宮ヶ原(投谷八幡宮境内)	行事日 [過去]	7月最終日曜日 [7月31日]					
子どもが迫のカヤの若葉を取ってきて茅輪を藪で作る。茅輪はカヤの若葉で直径1丈位これを拝殿の天井にかけ、最初神主がくぐり、続いて一般の人々がくぐる。1人3回くぐる。藪は神官が座れる直径2尺位の藪物で茅の輪同様にカヤの若葉で作る。								
7	投谷八幡宮の王子神幸	存続状況	順調	関連テーマ	3	22		
場所	宮ヶ原(投谷八幡宮境内)・大迫(石神堂)・伊屋松(花立松)	行事日 [過去]	10月第2日曜日 [10月15日]					
王子神幸では、御旅所の伊屋松と大迫の2か所へ二手に分かれて向かう。昔は10体の王子を在郷の社人が馬で奉守し、御旅所2か所約30町の所まで二手に分かれ往復したが、現在は車を使う。王子面は弘治2(1556)年作のものである。鉾4本・神鏡付き、面6面は王子面。								
8	笠木原開田記念相撲	存続状況	順調	関連テーマ	10			
場所	笠木校区(笠木小学校)	行事日 [過去]	8月28日 [9月6日]					
笠木原土地改良区の総会の後、午後から笠木小学校で相撲が行われる。記念碑の前で神主のお祓いが行われるため、竹、注連縄、供え物(魚、野菜、果物など)を準備する。								
9	久保のもぐらうっ	存続状況	存続危機	関連テーマ	18			
場所	久保自治会(久保自治会内)	行事日 [過去]	1月14日に近い休日 [1月14日]					
モグラが農作物を掘り返して荒らすため、土を掘り返さぬよう竹棒で地面を叩いて、各戸を回り農作祈願をする子どもたち主体の行事である。2mぐらいのカラ竹の先にわら苞を巻き付け、その棒を担いで数人連立って各戸を回り、持ってきた「もぐらもっ」で地面を叩きながら歌を歌う。家主から餅をもらい、また隣の家へ回る。昔は米餅4個、栗餅3個貰ったという。歌「もぐらもっの14日 ばばさんの もちじよをくいやらんと 家もないも もっくいかやす 米んもちがブラブラ 栗んもちがブラブラ」								
10	ちんぼちんぼ焚っ	存続状況	存続危機	関連テーマ	19			
場所	新地自治会(新地自治会内)	行事日 [過去]	8月のお盆 [同]					
始まりは不詳だが、精霊の迎え火として今日まで複数の集落で行われている。迎え火の事を「ちんぼ ちんぼ」と言い迎え火を焚くことを「ちんぼ ちんぼ 焚っ」という。8月7日～13日の夜まで、各家庭の精霊様を迎えるため、家の門口で軽石製の台(現在鍋等も使用)で迎え火を焚く。現在の集落での迎え火は、他の地区では見られない。精霊様は子どもたちの焚く「ちんぼ ちんぼ」の灯りを頼りに我が家に帰ってくると言う。								
11	若一神社の六月燈	存続状況	存続危機	関連テーマ	15			
場所	橋野地区(若一神社)	行事日 [過去]	7月23日 [旧暦6月]					
旧暦6月は現在の7月にあたり、この頃は日照りが続いたり、梅雨の頃の長雨で悪疫が流行ったりし、健康を害する時期であったため、悪疫退散を祈願し、神社に提灯(ツロ)を供える。明治の末川辺方面から移り住んだ入木田八衛門という人物が伝え教えたと言われている。昭和40年頃は若者の流出で途絶えていたが、昭和57年に復活。公民館活動の一環として結成し、現在若一神社の六月燈で奉納している。現在は夏祭りとなっている部分もある。								
12	外園一円の早馬神社祭り	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	外園自治会(早馬神社)	行事日 [過去]	4月の第2日曜日 [同]					
牛・馬の無病息災を祈る神事後、公民館で花見の宴、歌、踊りで賑わう。								
13	村山・前田一円・上之馬場の早馬神社祭り	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	村山・前田・前田下・上之馬場自治会(早馬神社)	行事日 [過去]	4月23日 [同]					
神事終了の後、花見を兼ねて持ち回りの弁当を食べ、酒を酌み交わし、外の自治会の人々との親睦を深める。								
14	熊野神社の六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	深川地区(熊野神社)	行事日 [過去]	7月23日 [同]					
牛馬の疫病穢いや田の病害虫駆除を祈る。人々の無病息災を祈願する。六月燈神事後、氏子等が次々に神社へ参集、踊りや歌、数々の催し物を楽しみ、酒を酌み交わし、交流を図り、夏の一夜を楽しむ。少子高齢化が進み、参加者も少なくなっている。								

6	柧原のおろごめ	存続状況	存続危機	関連テーマ	20			
場所	柧原地区(柧原地区公民館)	行事日[過去]	6月5日前後の日曜日[6月5日]					
<p>薩摩藩では馬の飼育に力を入れ、各地に放牧場を持っていた。垂水牧は1636年から放牧場を開いたとされる。5月節句行事に、鹿児島独特の馬追を真似たオロゴメ・オロウマエ・コマトイなどと呼ばれる勇壮な行事がある。元々は月遅れの6月7日に行われていたが、近年は毎6月の第一日曜日に行なわれる。オロゴメのオロとは、放牧した馬を追い詰めて取り押さえる檻のことである。早朝放牧場のあった台地へ子どもたちが行き、馬を引いている様を模して海岸へ下りてくる。前日に海岸に掘ったオロに見立てた穴を舞台に、子ども役と馬役の二組に分かれ、馬役の子を笠から引き出すというもの。台地へ行くとき「ちまき」を持参し、浜での馬追の時にもちまきが用意される。「ちまき」は元々戦の非常食でもあった。</p>								
7	垣打ち	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	柧原地区(各戸)	行事日[過去]	1月14日[同]					
<p>正月14日子どもたちが行なう行事で「カウツ」・「ハラメウチ」とも言う。妊娠を祈願する「ハラメ祝い」の一種である。前年に嫁を迎えた家庭では、庭に丸太で垣根を作り、集落の子どもたちを迎える。子どもたちはハラメ棒という打ち棒を持ち、「水瓶を打たすいや、カク(垣)うたすいや、嫁女を打たすいや」と家主に問う。それに家主が「垣を打っくいやい」と答えると、子どもたちは元気よく「ハラメ、ハラメ」と言いながら垣根を打ち、横木もろとも叩き壊す。その後家主の案内で座敷に上がり、ご馳走をいただき、唄ったり踊ったりの余興に興じる。子孫繁栄を願う祭りである。</p>								
8	二十三夜待ち	存続状況	存続危機	関連テーマ	29			
場所	柧原地区(各戸)	行事日[過去]	個人々 [1月・5月・9月の23日]					
<p>戦時中は出兵した夫や子どもが無事に帰ることを祈願し、さつま芋で作ったダンゴ(浜団子)を重箱に23個詰め、皆で茶話会を行なった。これを二十三夜待ちと言う。戦後は都会へ就職した人々の健康や無事を祈願して行なわれていた。現在でも、都会から帰省した身内が再び都会へ出発した後に、「帰りの足が軽くなるように」と近所の人々とお茶を飲む習慣が残っている。</p>								
9	豊祭(ホゼ)	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	水之上地区貫神社境内、中央地区鹿児島神社境内	行事日[過去]	11月2日～3日[同]					
<p>水之上地区の手貫神社で11月2日に、中央地区の鹿児島神社で11月3日に開催される豊作を祝う祭りである。鯛・昆布・かつお節・野菜・果物など肉を使用しない料理を供える。往古、手貫神社と神貫神社の神社領を巡る争いが勃発した。このとき手貫神社に助力したのが鹿児島神社である。最終的に神貫神社は新城地区に追いやられるが、その後神貫神社を監視する役目も兼ねて、新城地区と水之上地区の中間に位置する柧原地区に住ませたのが手貫神社の神官(池之上氏)の分家川畑善良坊で、現在でも手貫神社のホゼに供える鮮魚はこの川畑家から届けられている。代々途絶えることなく届けられ、現在では川畑家の嫁ぎ先である森山家がこの役目を請け負っている。</p>								
10	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	各集落の神社境内	行事日[過去]	7月初めから末[同]					
<p>島津光久公が新照院の上山寺に観音堂を再建された折、旧暦6月18日に灯籠をつきさせたのが六月燈の始まりと言われ、薩摩藩領内で行われている。旧暦6月は人や牛馬の疫病が流行する時期で、田に病害虫が発生する時期であるので、これらの疫病から人畜を守るために灯を点し折った行事が六月燈であり、現在では夏祭りを兼ねているところが多い。</p>								

曾於市

1	七村の太鼓踊り	存続状況	順調	関連テーマ	24			
場所	七村自治会(末吉町栄楽公園)	行事日[過去]	11月第2日曜日・市民祭(3年おきに実施)					
<p>約200年前に踊られたと言われ、昔は南俣・北俣・下財部地区で踊られていた。「三ヶ村打ち込み」と言い、日光神社に集まり、お互いの踊りを妨害したり技を競って優劣を評価していたが、現在は七村地区だけで祝い事などに踊る。</p>								
2	中谷の奴踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	24			
場所	中谷地区(溝ノ口洞穴)	行事日[過去]	4月8日に近い日曜日[4月8日 お釈迦様の誕生日]					
<p>戦勝祝いと共に士気を鼓舞するために始まったと言われる。元々は、青壮年で継承していたが途絶え、40年ぐらい前に当時の中谷小学校の教頭の発議により、児童が継承し、現在に至る。棒踊りと刀踊りがある。この2つの踊りは隔年ごとに踊られている。奴踊りと棒踊り・奴踊りと刀踊りの組み合わせとなる。</p>								
3	中谷の棒踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	24			
場所	中谷地区(溝ノ口洞穴)	行事日[過去]	4月8日に近い日曜日[4月8日 お釈迦様の誕生日]					
<p>いつ頃から踊られたか不詳。昭和55年頃より溝ノ口洞穴青友会により復活し踊られている。奴踊りの奉納後、棒踊り又は刀踊りを奉納する。</p>								
4	中谷の刀踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	24			
場所	中谷地区(溝ノ口洞穴)	行事日[過去]	4月8日に近い日曜日 [4月8日 お釈迦様の誕生日]					
<p>いつ頃から踊られたか不詳。昭和55年頃より溝ノ口洞穴青友会により復活し踊られている。棒踊り又は刀踊りを毎年交互に奉納する。</p>								

23	鵜戸神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	鵜戸神社境内(吾平町麓)	行事日[過去]	10月19日[同]					
鵜戸神社宮司を中心に氏子総代役員とともに年中行事である。普段は食品サンプルを奉納し、正月三が日は、生ものを奉納する。								
24	下名名主の十五夜	存続状況	存続危機	関連テーマ	10			
場所	下名西地区ふれあいセンター(吾平町下名西町内会)	行事日[過去]	十五夜[同]					
<p>名主小十五夜綱引き唄がある。長い文句で4番まである。1番の一部分を紹介する。</p> <p>「さらば 東西始まります エイ エイ 吾は本国 田舎の者よ ヨイ ヨイ ヨイヤナ 田舎なれども 都にのぼる エイ 花の盛りは 三月四月 ヨイ 五反畑の 真ん中程に エイ 十三小十郎が若葉を摘んで ヨイ あの子よい子じゃ 姿もよいが エイ(以下略)」 参考文献『吾平町誌 下巻』平成3年 吾平町発行</p>								

垂水市

1	こっどん	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	協和地区中俣集落(今宮神社)	行事日[過去]	1月3日[同]					
中俣集落では、正月3日間は忌み事として屋外での火の使用を禁止する。1月3日、代表者(氏子)が海や池で禊を済ませてから今宮神社でお祓いを受け、空砲を鳴らして忌み事は終わる。その後鏡餅を焼き子どもたちが食べる。なお「三国名勝図会」にも牛根の居世神社の祭りにも似た行事の記録がある。祭りの後、松明に火を点し横野まで駆け上がって牧場に野火を着けるといいうので、この行事が終わらないうちには決して家より外に火を出してはならないと戒められていた。								
2	ぶっあがい	存続状況	順調	関連テーマ	19			
場所	協和地区中俣集落(荒崎の浜辺)	行事日[過去]	8月27日[同]					
垂水市の中俣地区に伝わる、初盆の家が対象の行事である。8月27日の夕方に荒崎の浜辺の砂で、舟形を作り、その上に線香を立てて精霊を送る。特に供え物などはしない。								
3	仏あがい	存続状況	順調	関連テーマ	19			
場所	水之上地区牧集落	行事日[過去]	8月27日[同]					
口伝によると、室町時代から伝わるとされる。旧暦のお盆8月7日に祖先の霊があこの世を立ち、同月13日夕刻に我が家に帰り着く。14日、15日を家族と過ごし、16日の早朝あこの世へ帰られる。16日の早朝に団子で作ったカサ、おにぎり、つえを供える。22日先祖の霊があこの世に帰り着かれる。その一週間後の27日に、先祖の霊が無事にあこの世に帰り着かれたことを祀り、団子、煮しめ、等を供える。これは「おそろさあもどいちいつ」という。27日の夜に行なわれるのが「仏あがい」である。集落に隣接して流れる本城川にかかる牧橋の上に本城川の川砂を盛って砂山を作る(砂山の大きさは直径30～40cm位)。その上に線香を立て砂山の近くに提灯を飾る。この前にゴザを敷き集落民が座る。初盆の家は集落民にダンゴや煮しめを振る舞う。この間車両の通行は出来ない。								
4	おんだんこら祭り	存続状況	順調	関連テーマ	27			
場所	水之上地区(水之上地区公民館)	行事日[過去]	4月の第1日曜日 [4月4日]					
白山神社の麓の河原で行われていた春祭りである。白山神社は島津初代忠久が守護をつとめていた越前加賀国(石川県)にある神社で、本城城主伊地知氏が垂水に分神したものである。伊地知氏は島山重忠の流れで、代々島津氏に仕えていた。本城を居城としこの地を180年ほど治めたが、1595年に肝付氏、祢寝氏とともに島津に刃向かい、滅ぼされた。伊地知氏の頃から、新暦4月4日に若い男女が高隈山系の白山神社にお参り(ハッサンメイ)する風習があった。お参りを終えた若い男女を、ご馳走を持った家人たちが本城川の河原で「サカムカエ」をしたが、この河原の名前が「オندانコラ」であった。現在ではこの風習に倣い、集落をあげて祭りを行なっているが、この祭りを「オندانコラ」と呼んでいる。								
5	さのぼい	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	水之上地区ほか	行事日[過去]	6月末(田植え後) [同]					
<p>水之上地区は平安末期より水田が多く開かれていたと伝えられる。田植えが終わると、家単位、または結い単位で料理を持ち寄り酒を酌み交わし、稲の生育と豊作を祈願する。これをサノボイと言い、集落全体で行なうものをサノボイドキと呼ぶ。元々は田主が祭主となって畦間に祭壇を設け、早苗や御神酒を供えて祈願したと言われているが、現在は祈願は省略されている。ただし、田主は神社より各自御神酒を購入し、田植えの際は御幣とともに畦間に供える。</p> <p>田植え前は用水路の清掃、田の神への祈願もする。この用水路は江戸時代垂水島津家7、8、9代までの領主が50年の年月をかけて開拓した「よめじよ川用水路」で、現在も使用されている。</p> <p>水之上地区のほかにも、垂水市内で稲作が行なわれている地区で行なわれている行事である。</p>								

13	十五夜の綱引き	存続状況	順調	関連テーマ	10			
場所	浦谷集落(歌丸公民館)	行事日[過去]	八月の満月の前後[同]					
「浦谷村づくり」が発足し20年になる。「浦谷村づくり」は名主段、白別府、歌丸の3つの集落で構成されている。この頃は青年団が櫓を組み、子どもたちが集落を回って藁をもらい集めたものをこの櫓で一本の縄を作り、五穀豊穡を願い綱引きをしていたが、現在はロープでの綱引きの後相撲がある。								
14	鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1			
場所	歌丸地区(休耕田)	行事日[過去]	1月7日[同]					
「浦谷村づくり」で正月7日、各戸から正月用の門松を持ち寄り、集落内の山の孟宗竹を伐採して櫓を作り、その孟宗竹の隙間にすぎの枯葉を押し込み、夕方、年男・年女が火をつける。鬼火は五穀豊穡(米・麦・粟・大豆・稗)を祈願する。								
15	柏木棒踊り	存続状況	順調	関連テーマ	24			
場所	柏木地区(柏木町内会公民館)	行事日[過去]	不定期[不明]					
朝鮮征伐の折、勇名を轟かせた島津義弘公の凱旋を祝いに、士気を鼓舞するため踊られる棒踊りである。同様の踊りが県下各地に保存伝承されている(1847年頃開始)。								
16	石牟礼神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	中平房地区(石牟礼神社)	行事日[過去]	3月第2日曜日 [3月初申の日]					
五穀豊穡を祈る例祭りである。先祖代々昔から集落に伝わる伝統文化である。								
17	石牟礼神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	石牟礼神社(中平房地区)	行事日[過去]	3月第2日曜日 [3月初申の日]					
五穀豊穡を祈る例祭りである。中平房の棒踊りは、鎌となぎなたと二人1組がそれぞれ向かい合い、激しく切り合うもので、手踊りとして伊勢音頭とコトヤ節「コチャ節」歌の中にコチャという囃子が入ることからそう呼ばれている。								
18	山宮神社の春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	細山田堂園地区(山宮神社)	行事日[過去]	2月第3日曜日 [2月23日]					
約400～500年前から伝えられ、戦時中一時途絶えたが、戦後すぐに実施された。カギヒキは田打ちに相当すると言い、太郎次郎に扮する人が木製牛にワタイモガを引かせ、田をならす所作をする。神官がその上に初種とニフトコの若芽を束ねた物をまく。見物客はそれをもらい自分の家の田に蒔くと豊作になると言われている。榎・桜などの大きな雄木・雌木を6つの集落2グループからそれぞれ集落民総出で切り出し、雄カギ・雌カギを組み合わせて引き合い、その年の豊凶占いの神事がある。								
19	十五社神社の春祭	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	有里・中郷地区(十五社神社)	行事日[過去]	2月第3日曜日 [2月22日]					
十五社神社は曾我氏との抗争に敗れた物部守屋の一族がこの地に隠遁して祖神十五柱を祀ったと言われている。豊作を祈願する田植え。祭り前日、神社有林から椎の木を切り出し、雄カギ・雌カギを組み合わせて引き合う。その後、木彫りの牛、モガを使って苗代かきを行なう。引き続き神官による種まき神事、氏子による棒踊りが奉納される。約400～500年前から伝えられ、戦時中一時途絶えたが、戦後すぐに実施された。参考文献『串良町郷土誌』平成17年 串良町								
20	月読神社の春祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	21			
場所	有里・宮之下地区(月読神社)	行事日[過去]	2月第2日曜日 [2月17日]					
500年前から伝えられている。十五社大明神の末社。「串良神社由緒」に串良総廟一之宮大明神と書かれている。豊作祈願の田打ち神事、木彫りの牛とモガを使って苗代かき、神官による種まき、氏子による棒踊り奉納がある。								
21	宮下相撲大会	存続状況	順調	関連テーマ	10			
場所	吾平町麓・宮前(吾平相撲場)	行事日[過去]	不定期 [10月10日]					
町おこしと地域住民に相撲を普及させ、健康で丈夫な身体と豊かな心を育てることを目的とすると共に、明治31年に町の中心街での大火を教訓に、このようなことが二度とないようにとの祈願で始まった。別名を「焼相撲」という。								
22	上名立元の白起こし	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	鶴峰西地区(上名立元班)	行事日[過去]	1月2日 [同]					
100年以上昔からあると伝わっている。現在は白がなくなり、白に似せてブロックや石で白を形造る。1月2日、男子たちが白起こしに来るので、年末、白の上に箕を置き、その上に小餅とみかんを飾り、白の側に杵を置く。子どもたちは2日の午前0時頃から、各家を訪ね、そこの杵を借りて杵で白を叩きながら次のような唄を歌う。この後、小餅やみかんをもらい次の家に行く。白起こしの唄「年のはじめの 黄金のこんずを つきおこす コタ コタ コン コン 白は徳利 杵は鳴子金 カップカラダケ コタ コタ コン コン ここは分限者 金はザクザク コタ コタ コン コン								

4	天神町 かまんで踊り	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	天神町(菅原神社)	行事日[過去]	8月の六月燈の日 [旧暦6月25日]					
<p>由来は不詳。4人一組で踊り、各人それぞれ踊り方が違うため、他の人の踊りのまねでは踊れない。本物の鎌、ナギナタを使用するので相当の練習を重ね真剣に取り組む。構成人数はナギナタ8人(前ナタ4人、後ナタ4人)、鎌8人(前鎌4人、後鎌4人)前唄、合唱4～5人(古くは踊り的人数16人いた)唄は7番までである。祭り当日、雨の時は小学校の体育館。菅原神社の六月燈の場で披露される。</p>								
5	中津神社の春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	高隈町内会 上高隈地区(中津神社)	行事日[過去]	2月第3日曜日 [旧暦2月初卯の日または、2月15日]					
<p>約300年前から伝えられ、戦時中は一時途絶えたが戦後復活した。中津神社の春祭りの呼称は「カギヒキ」である。カギヒキに使うカギは地区を2つの集落に分け、それぞれの集落から雌カギと雄カギを切り出す。切り出す木もかねてから目星を付けておき、大きく丈夫な長さ約28m位の大木を集落民総出で切り出す。カギ引きは鉦や太鼓などに合わせ見物人も総出で引く。勝ったほうが豊作となる。カギ引きが終わった後、田起こし、代かき(木牛を使う)、続いて牛寝めの祭文を神職が唱え、その後、神職が種まき(餅まき) といってツカズラの小枝に米を包んだものをまく。続いて「苗取りの祭文」という田植え唄を歌う。</p>								
6	八月踊り	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	上祓川・祓川地域(集会所)	行事日[過去]	八月第3日曜日 八月第4日曜日 [旧暦8月28日]					
<p>起源は不詳で、藩政時代からと伝わっている(約300年前)。水神に対する感謝の奉納踊りで、当日は水神だけでなく集落内の井戸・湧水には注連縄を張り御神酒を供えた。昔は地区出身者は他郷に奉公していても必ず帰って来て参加しなければならない行事であった。太鼓・三味線・拍子木・踊り子で構成されている。歌詞は12曲ある。精霊を慰めるという意味合いはなく、水神に感謝する踊りで明るい感じがするのが特徴である。</p>								
7	田崎神社の「鹿祭り」	存続状況	順調	関連テーマ	22			
場所	祓川地域(田崎神社)	行事日[過去]	2月17日 [旧暦1月11日]					
<p>「鹿祭り」とも「神能面渡御祭」とも言う。この祭りは、初狩神事の祭礼で、打馬、郷之原、西祓川、大浦、新栄町地区5か所のお旅所を巡行する。この祭りに降に狩猟が解禁となると伝承されており、かつては巡行先のお旅所で野火を炊いていたと言われている。</p>								
8	田崎神社の「夏越祭り」	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	祓川地域(田崎神社)	行事日[過去]	旧暦6月30日 [同]					
<p>「ナゴッサー」とも言われ、お盆という節目を迎えるに当たって心身を清める「厄払い行事」と理解されている。「夏越祭り」は半年分のけがれを落とす行事であり、日本各地で行われている伝統行事であるが、八幡王子面が浜まで巡行することや、初盆との関連づけ等が、他の「夏越祭り」と異なっている。</p>								
9	瀬戸山神社の春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	上祓川町内会(瀬戸山神社)	行事日[過去]	3月第3日曜日 [旧暦3月4日]					
<p>豊作を祈願して踊られるが、徳川時代の身分制度の確立により農民に帯刀を禁じたため、踊りに武芸を取り込んで士気を鼓舞したとも言われている。棒踊りの起源・年代は確かでないが、古くは踊りの動作・歌曲共に緩慢で薩摩隼人の気質に合わないため、明治15年ごろテンポの速い踊りを導入(薩摩隼人気質の勇壮な踊りで役割の各様も主取・二才・三才・古者等藩政時代の郷中制度そのままの組織が生きている)し、現在に続いている。踊る場所は鳥居の下、石段の下、鳥居前の早馬の馬場、集落内各戸で奉納踊りをする。鳥居の下ではお詣りの唄を奉納し、その後棒踊りの唄に合わせて踊る。</p>								
10	水神祭り	存続状況	復活	関連テーマ	29			
場所	王子町水神(和田井堰公園水神)	行事日[過去]	10月第2日曜日 [同]					
<p>宝暦3年島津藩時代鹿屋川に和田井堰が築かれ水田が新しく開田され、その年の豊作祈願し水田に鉦踊りを奉納したのが始まりと伝えられている。水神祭の神事で豊作祈願し、「八月口説き踊り」「王子鉦踊り」「光同寺鉦踊り」が奉納される。「鉦踊り」の構成は太鼓・鉦・手拍子(テベシ)・笛・踊り子である。王子町鉦踊りは「さき踊り」「からす舞」「鉦踊り」の3つである。太平洋戦争で一時期中断していたが、戦後、古老や若者たちの手で復活され現在も盛んである。「八月口説き踊り」は紫色お高祖頭巾に黒色留袖で演目は5つある。</p>								
11	神農渡御祭	存続状況	順調	関連テーマ	22			
場所	田崎地区(田崎神社)	行事日[過去]	2月17日 [旧1月17日(旧正月3日)]					
<p>鹿屋市田崎町の七狩長田貫神社で2月17日に行われる行事で、「シカ祭り」とも言われている。2月11日に柴切りをしてシカ祭りの始まる2月17日まで「柴さし」と言い、柴をさしておく行事を行なう。2月17日の「シカ祭り」当日は七狩長田貫神社から御旅所4か所を巡行する。「シカ祭り」の名称は古く「七狩長田崎神社」の神様(一の王)が馬に乗って神職や氏子などを西祓川の外圍という所でシカ狩りをしたという事に由来する。境内にある萩の枝で作った弓と矢を100本準備する。また、境内にヤコの神(ワラ人形)をシゲをつけた櫛で留めてある。</p>								
12	御田植祭	存続状況	中断中	関連テーマ	21			
場所	横山町内会(鷹直神社)	行事日[過去]	2月23日 [同]					
<p>約400年位前から始まった祭りであるという。別名を「牛ノ児祭り(ベブンコマツリ)」という。収穫したもち米で搗いた紅白の餅が奉納される。木の枝で作った鍬で子どもたちが田打ちをする。その後、牛ノ児を呼び出し、馬鍬での田ならし、田植え、鳥追いなどが行われる。儀式に供えた種は参加者が持ち帰り豊作を祈願した。奉納した餅は参拝者に配る。</p>								

3	輪くぐり(夏越祭)	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	町内各神社	行事日[過去]	箱崎八幡 7月31日[同], 鶴丸八幡 8月1日[同], 日枝神社 9月15日[同], 熊野神社 9月21日[同], 清滝神社 9月19日[同]					
茅で直径2mほどの輪を作り, その輪をくぐり無病息災を祈る。町内各神社で行われている。								
4	二十三夜待と馬泥棒の供養	存続状況	存続危機	関連テーマ	15			
場所	古川集落(古川公民館)	行事日[過去]	旧暦9月23日 [同]					
吉松中津川古川地区では, 地域住民が9月23日に集会場に集まり, 神官を呼び神事の後に酒食が振る舞われる。これは二十三夜待と馬泥棒の供養を同時に行っている。以前は各家から餅米を持ち寄り, 365個の餅を作っていた。現在でも茶碗一杯分の餅米を持ち寄り, 餅つきをして掲ぎ上がった餅は各自が持ち帰っている。江戸時代, 藩が放牧し飼育していた馬が盗まれ, 吉松中津川の人たちに泥棒の疑いがかけられた。								
5	氏神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	町内各集落	行事日[過去]	11月末~12月中旬頃 [同]					
集落ごとに集会所や公民館など1か所に集まり, 神官を呼び神事を行い, 各家に必要なだけの御幣を貰って帰り, 屋敷内の神に御幣をあげる。神事後にささやかな酒食が振る舞われる。								
6	大王殿(ウォードン)祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	22	29		
場所	吉松地区(箱崎八幡神社)	行事日[過去]	11月19日 [同]					
箱崎八幡神社の秋の収穫感謝祭は11月25日で, その1週間前の11月19日に「ウォードン祭」は行われる。この祭りは, 秋の収穫感謝祭(ホゼ祭り)を迎えるにあたり, 村の中を清めてまわる行事だと言われ, 2つの神面を神官たちが棒持して, ウォー, ウォーと呼びながら村中をまわり, 村境(えびの市側と栗野側)の2か所で, 悪疫退散のお祓い神事をする祭りである。								
7	四部落太鼓踊り奉納	存続状況	順調	関連テーマ	16	22		
場所	下川西集落(南方神社)	行事日[過去]	8月27日に近い日曜日 [7月21日(正祭日)]					
旧吉松町内の陣前, 堀之原, 市原, 松山の四集落に伝承されている。旧暦の7月21日, 南方神社の正祭の日に踊られていたが, 現在は毎年8月27日直近の日曜日に奉納。踊りの特徴としては「1 激しく45分間連続して踊る。2 ばちは真上から真下に打つ。3 隊列変化が完成されている」などが挙げられる。この太鼓踊りは, 川内川流域に存在する近世初期風流のアクセス系である。								
8	豊祭相撲	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	各集落	行事日[過去]	10月3連休の中日 [不詳]					
秋の収穫感謝祭(豊祭)に行われる豊祭相撲は, 毎年10月16日に勝栗神社境内で盛大に行われていた。湧水町の誕生とともに新たに湧水町豊祭相撲大会として生まれ変わった。								

鹿屋市

1	祇園祭の刀舞	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	高須町内(波之上神社境内)	行事日[過去]	8月第1日曜日 [旧暦6月15日]					
別名「おぎおんさあ」のカンナメと言う。起源ははっきりしないが, 明治末頃までは波之上神社の神事として大晦日の夜明けまで行われてきた。現在は祇園祭で舞っており, 長刀舞・刀舞・弓舞・鬼神舞・田の神舞などがあり, 刀舞はその中の1つである。								
2	野里消防分団相撲大会	存続状況	順調	関連テーマ	10			
場所	野里町大津地区(小鳥神社)	行事日[過去]	11月23日 [11月23日 豊年祭り]					
日露戦争(1904~05)の勝利の後, 各地で行われた祝賀行事の時から行われ, 昭和18年までは行われていたが, 太平洋戦争の頃から一時期中断し昭和21年頃から復活した。その後, 10か所くらいで行われていたが, 現在は相撲大会, 豊年相撲とも消防団の大会と野里の八島神社の2か所だけ残っている。小学生学年別取り組み(青少年の健全育成)。地区対抗別取り組み。稚児の土俵入り等。								
3	臼起こし	存続状況	存続危機	関連テーマ	18			
場所	高須地区(学習センター)	行事日[過去]	1月2日 [大晦日]					
正月2日の早朝, 子どもたちが集まって各家の臼を起こして回る。臼の中に飾ってある餅を貰って帰る行事である。少子化のため町内での実施不可能となった。地元の小学校の学習発表会や学習センターの文化祭で伝承してきた。平成27年度小学校が大始良小に統合され, 今後発表の機会がなくなった。								

7	帖佐ふれあい祭り・帖佐十九日馬踊り	存続状況	復活	関連テーマ	9	21		
場所	上久徳集落(帖佐稲荷神社の境内)	行事日 [過去]	鹿兒島神宮初午祭の次の日曜日 [旧暦1月18日] の鹿兒島神宮初午祭の翌日(旧暦1月19日)]					
地域に伝わる伝承行事を復活させようということで平成12年(2000年)に関ヶ原合戦400年を記念して「帖佐ふれあい祭り実行委員会」を立ち上げ、帖佐八幡神社浜下りとともに年中行事として復活し、以後毎年地元の大きなイベントとして定着してきている。								
8	加治木の太鼓踊り	存続状況	順調	関連テーマ	15	24		
場所	加治木町内	行事日 [過去]	8月16日 [旧暦7月16日・17日]					
加治木太鼓踊保存会には4つの保存会がある。 ・西別府地区吉左右踊・太鼓踊保存会 ・木田地区太鼓踊保存会 ・反土地区太鼓踊保存会 ・小山田地区太鼓踊保存会 各保存会は、輪番で2年間加治木太鼓踊保存会会長を務める。 午前8時から精矛神社と春日神社、午前10時から旧島津屋形前である仮屋馬場通り、午後2時から商店街、午後3時から菅原神社で踊る。								
9	破魔投げ	存続状況	順調	関連テーマ	10			
場所	始良市加治木総合支所グランド	行事日 [過去]	正月行事 [同]					
始良市老人クラブ連合会加治木支部、老人クラブハマ投げ保存会が主催している。もともと子どもの遊びであるため、厳しいルールはなかったが、競技として成立させるために平成2年に競技基準が設けられた。また団体競技の後に個人競技である「セコ打ち」も行われる。セコ打ちはスタートラインに破魔を立てておき、それを棒で打ち飛距離を競うもので、古くは「ぎつちよ」と呼ばれた遊びが原形にある。								
10	加治木くも合戦	存続状況	順調	関連テーマ	24			
場所	加治木町(加治木福祉センター)	行事日 [過去]	6月第3日曜日 [旧暦5月5日]					
大正3年6月25日、現始良市加治木町の商工業者が中心となって第1回蜘蛛合戦が行われた。現在は6月第3日曜日に開催しているが、以前は旧暦5月5日に開催していた。優良ぐもの選定の後、合戦を行い勝敗を決する。由来として、島津義弘公が、朝鮮の役に出兵した際、陣中にてコガネクモの雌を集めて闘わせて、配下の武士達の士気を高めたのが始まりとされている。								
11	ひな女踊り	存続状況	中断中	関連テーマ	12			
場所	西別府地区(女の子が生まれた家)	行事日 [過去]	旧暦3月3日 [3月3日]					
加治木町西別府地区自治会青少年育成部が中心となり、小学校女子児童が3班に分かれ、各家庭を回る。各家庭に着いた子ども達は、「踊れば花じゃ踊らにゃ損じゃ おげん おつかはんな 鍋も端釜もこいださん こげなこつあ めったに ござれん」と唄を歌って踊る。地区の少女がその1年に生まれた子どもの家を訪れ、太鼓や三味線に合わせて歌い踊り、子どもの健やかな成長を祝う祭りで、訪問を受けた家は、子どもにお菓子や小遣いをあげている。								
12	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	蒲生町内の神社	行事日 [過去]	7月18日前後 [同]					
蒲生町 楠田神社 7月18日前後 米丸枝宮神社 7月中・下旬 白男阿良波須神社、蒲生早馬神社、川東蒲生どん墓、久末大山祇神社 7月18日 西浦大山祇神社、蒲生菅原神社 7月中 蒲生霧島神社 7月19日								

湧水町

1	庚申講	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	本村集落(本村公民館)	行事日 [過去]	1月16日餅煮会 5月16日笛汁会 9月16日芋煮会 [不明]					
庚申講は1/16餅煮会、5/16笛汁会、9/16芋煮会と名称を代えて、地区公民館に三猿の掛軸を掛け、地域の若者の育成を兼ねて行っている。(湧水町北方地区本村)								
2	鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	町内各集落	行事日 [過去]	1月7から9日 [同]					
吉松地区では現在、7か所で鬼火焚きが行われている。「川添地区」では、昭和55年に復活した正月6日を過ぎると門の門松は鬼が来ぬように実がいつぱいついた「ダラの木」に替えられる。門松は神が宿るため、粗末には捨てられず、各家では鬼火焚きの「やぐら」の下に持ち寄り、1月7日に焼く。								

115	湯之尾滝水神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	17		
場所	川北集落(湯之尾滝右岸の水神社)	行事日[過去]	4月から5月始め [旧暦3月18日]				
宝暦年間に永野金山の利益を元に、菱刈用水路と太良用水路を作るために、湯之尾滝が人工的に造られたといわれている。何回もの改造を重ねて、現在の用水路が完成した。そのため、用水路の鎮護と 五穀豊穡を祈願して、現在でも毎年神事が行われている。以前は川北集落が中心になって行われていたが、現在は土地改良区中心に行っている。							
116	湯之尾神社の神舞	存続状況	順調	関連テーマ	29		
場所	湯之尾集落(湯之尾神社)	行事日[過去]	11月23日 [旧暦11月15日及び29日]				
「豊祭(ほぜ)」行事全体の名称で、そこで神舞が奉納される。この神舞は系統的には日向神楽系の里神楽に属する。神舞が奉納される前、降神の儀が行われる。現在26の演目が伝承されるが、かつては35番までであったとされる。26番全て演じられるのは3年に1度で、あとの2年は15番程度踊る。							

始良市

1	鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	地区内の田んぼ	行事日[過去]	正月明けの土曜日 [同]					
正月明けの土曜日 始良市中甕, 寺師, 宇都, 船津, 触田(自治会) 1月7日 始良市永瀬, 宮脇(自治会) 蒲生町下久徳, 漆, 上久徳, 米丸, 八幡 1月第2土曜日 始良市福ヶ野(自治会) 蒲生町西浦小川内, 上久徳中央A, 川東, 久末迫, 久末, 白男, 北 1月10日ごろ 始良市大山(自治会) 蒲生町西浦 正月飾りを一緒に燃やし, その火で餅を焼き食べ, 1年の健康を願う。								
2	十五夜綱引き	存続状況	順調	関連テーマ	10	25		
場所	自治会の庭, 稲荷神社	行事日[過去]	十五夜 [同]					
始良地区宇都自治会 稲荷神社 上麓自治会, 宮脇自治会, 上水流自治会, 船津自治会, 永瀬自治会, 三拾町自治会, 船津自治会: 公民館前 蒲生町下久徳自治会, 川東地区, 中央A自治会, 米丸自治会: いきいき交流センター 上久徳八幡地区 公民館 北地区 農作業準備休憩施設 西浦校区コミュニティ協議会 西浦小学校 久末迫地区 蒲生小学校体育館 綱引きと相撲を行う。以前は綱練を行っていた地域も多かったが, 年々少なくなっている。今は既存の綱を使用することが多い。								
3	黒島神社春の例祭	存続状況	復活	関連テーマ	8	17		
場所	黒島神社	行事日[過去]	第3日曜日(10~12時) [不明]					
例祭の2日前に清掃を行い, 前日に総代がお供えなどをそろえる。平成28年2月の例祭は, あいらびゅー一号のルートとなっている。上名区の組織は, 区長→自治会長→村づくり委員会。自治会長9人, うち黒島神社総代2人, 稲荷神社総代2人を兼務している。例祭は秋, 正月, 春の3回行われ, 以前は11月23日の秋の例祭でも相撲が奉納され, 稲の穂が供えられていた。								
4	柱松	存続状況	存続危機	関連テーマ	1	16	29	
場所	堂山小学校跡	行事日[過去]	8月14日 [8月14日と15日]					
平成28年度から地域活性化を目指して取り組んでいる「れんげの里プロジェクト」が中心となり, 復活した。盆の迎え火行事として行う。平成29年8月13日は約100名の人々が集まり, 演劇大会や出店も並んで賑わった。高さ7~8mの竹籠を目指して火のついた赤松の束(アカシ)を投げ入れ籠の藁が勢いよく燃え上がり, 炎が夜空を焦がした。								
5	帖佐八幡神社浜下り	存続状況	順調	関連テーマ	3	15		
場所	帖佐八幡神社~御門神社(5km)	行事日[過去]	11月第2日曜日 [10月25日]					
地域に伝わる伝承行事を復活させようということで, 平成12年(2000年)に関ヶ原合戦400年を記念して「帖佐ふれあい祭り実行委員会」を立ち上げ, 帖佐十九日馬踊りとともに年中行事として復活し, 以後毎年地元の大規模なイベントとして定着してきている。								
6	田の神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	宮脇集落(宮脇自治公民館)	行事日[過去]	12月 [同]					
担ぐ人は地域の小学校の校長や教頭, 集落に帰ってきた人等が担当する。餅は2枚ついて田の神の頭に載せる。その年あずかっている家と自治会とで2個作る。餅は公民館で切って各戸に配布。北山地区各公民館で4体の田の神像がある。								

104	前目麓後稻荷神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	前目麓後自治会(神社境内)	行事日[過去]	12月第1日曜日 [12月3日]					
神事の後、直会をして、婦人部による手踊りなどを披露していたが、今は踊りなどはしない。								
105	前目八坂神社の例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	15	17		
場所	前目自治会(八坂神社)	行事日[過去]	8月1日(中断していたが、平成27年度は実施。)					
大正時代になり、道路の新設や国鉄の開通により、菱刈の街は繁栄した。そうした頃八坂神社の祭典に合わせて、「お祇園さあ」を開催しようとなり平成の始め頃まではにぎやかであった。少子化、高齢化などによる人口減少などで最近では中断していたが、平成27年度の自治会長の提案で、平成27年度は開催した。								
106	前目菅原神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	前目自治会(菅原神社)	行事日[過去]	6月25日六月燈 7月25日 9月25日 例祭 [同]					
勧請が、文禄5年(1596年)と言われていることから、例祭はこの頃に始められていたと思われる。								
107	前目南方神社の例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	前目自治会(南方神社)	行事日[過去]	7月26日 [7月26日, 9月26日]					
神事と直会が行われる。昔は神舞の奉納があったが現在はない。								
108	前目北山の豊受姫神社の例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	前目自治会(豊受姫神社)	行事日[過去]	5月8日 [同]					
神事と直会が行われる。								
109	徳辺大日神社の例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	17		
場所	徳辺自治会(大日神社)	行事日[過去]	4月に花見と一緒に[7月18日]					
花見を兼ねて、神事が行われる。								
110	徳辺姫宮神社の例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	17		
場所	徳辺自治会(姫宮神社境内)	行事日[過去]	11月23日 [同]					
神事と直会のみ行われる。								
111	湯之尾神社の例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	17		
場所	川北集落(湯之尾神社境内)	行事日[過去]	11月23日 [旧暦9月29日]					
約40年くらい前から、保育園や子ども育成会の協力を得て子ども神輿を出している。それ以前は、神社の本神輿のみであった。現在の浜下りは、大人数(凡そ100人)で行われている。しかし、氏子の減少による資金不足、本神輿の担ぎ手不足などで、開催の継続は難しくなっている。神社とは会計を別として、湯之尾神舞保存会として、独自に活動している。しかし、人口減少による舞手不足や伝承者不足により、今後は伝承が難しくなっている。								
112	築地の若宮神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	築地自治会(若宮神社境内)	行事日[過去]	12月 [同]					
創建が江戸時代と言われていることから、例祭は創建当時から行われていたと思われる。								
113	湯之尾麓中の田之神講	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	17		
場所	湯之尾麓中(各家庭)	行事日[過去]	10月末のころ [春:旧3月16日 秋:旧10月初亥の日]					
今年1年の五穀豊穡を祈願する祭りで、昔は春と秋に行われていたが、現在は秋のみ行われている。木製の祠があり、集落の家に平等に福が行き渡るように、自治会会員の家を1年毎に持ち回る。								
114	築地の田之神講	存続状況	存続危機	関連テーマ	17			
場所	築地集落(築地公民館)	行事日[過去]	1月の都合の良い日 [1月16日]					
以前は、各班毎に持ち回りで田之神のお化粧直しをし、神棚などに据え、出席者全員で五穀豊穡を祈願していたが、現在は、築地全体の婦人部だけの懇親会が行われている。								

93	本城町の恵比寿講	存続状況	存続危機	関連テーマ	17			
場所	本城町地区	行事日 [過去]	2月7日 [不明]					
太鼓と三味線でにぎやかに行われている(太鼓と三味線は後継者不足で、出来ない場合がある)。								
94	本城町の観音講	存続状況	順調	関連テーマ	4	8	29	
場所	本城町自治会(観音堂周辺)	行事日 [過去]	7月18日 [同]					
火の神様と安産の神様として崇められている。								
95	町舟津田のお伊勢講	存続状況	中断中	関連テーマ	17	29		
場所	町舟津田集落(町舟津田公民館)	行事日 [過去]	中断中 [1月11日]					
恵比寿講 悪火講(あつかさあ)も一緒に開催する。そのため「火打ちダゴ」が作られていた。現在:5年くらい前から各神様は、公民館に置いていて実施していない。								
96	町舟津田の水天講	存続状況	存続危機	関連テーマ	16			
場所	町舟津田集落(太良新田用水路)	行事日 [過去]	4月都合のよい日曜日 [4月16日]					
太鼓と三味線で音楽を奏でていた。(太鼓と三味線は後継者不足で、出来ない場合がある。), シトギ流しをする。								
97	本城南方神社の例祭	存続状況	復活	関連テーマ	16	30		
場所	南浦麓集落(南方神社境内)	行事日 [過去]	7月27日(都合により変更もある) [7月27日]					
平成18年豪雨などの被害により一時中止していたが、平成27年度より復活させた。								
98	荒田南方神社の例祭	存続状況	中断中	関連テーマ	16	30		
場所	荒田集落(荒田南方神社)	行事日 [過去]	中断中 [7月23日]					
神社創建時の西暦1,500年頃から例祭は始まったとされるが、現在は中断中である。								
99	楠原牧神社の例祭	存続状況	中断中	関連テーマ	8	16		
場所	楠原集落(牧神社)	行事日 [過去]	中断中 [不明]					
田の神, 火の神, 水の神を寄せて現在の土地に移した。馬頭観音祭りも合わせて例祭を行っていたが、現在は中断中である。								
100	荒田の馬頭観音祭り	存続状況	中断中	関連テーマ	17			
場所	各集落	行事日 [過去]	中断中 [4月8日]					
石塔の銘に明治24年建立とあることからこの頃から始められたと考えられる。地区は、荒田上, 荒田下, 大峰, 比良, 島内, 今市前田, 親交今市の7集落で行っていた。								
101	下手水天神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	下手集落(下手水天神社境内)	行事日 [過去]	11月28日 [旧暦 10月27日]					
神社創建時(西暦1450年ごろ)から例祭は、始まったと考えられるが、現在のような形態になったのは、時代と共に確立してきたものと思われる。詳細は不明。錫杖踊は、永禄12年の菱刈合戦の勝利の時、黒板寺の盛良法師が創案し奉納したのが始まりと伝えられている。例祭・錫杖踊共に、凡そ450年前から始まったと考えられている。								
102	下名の馬頭観音祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	下名自治会(馬頭観音神社境内周辺)	行事日 [過去]	5月6日に近い日曜日 [5月6日]					
神事と直会を実施している。								
103	伊勢神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	下名自治会(神社境内)	行事日 [過去]	秋分の日 [不明]					
秋分の日に集落全員で神事を行い、直会を行っている。								

81	花北諏訪神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	15		
場所	花北自治会(諏訪神社境内)	行事日[過去]	8月28日前の日曜日 [8月28日]					
江戸時代、武神として崇敬され、例祭が執り行われていたことが、古文書に有る。								
82	田中上の雷講	存続状況	中断中	関連テーマ	16			
場所	田中上集落	行事日[過去]	中断中 [田んぼの仕事が忙しくなる。4月末から5月の都合の良い日]					
昔は「カンナレ回し」を行っていた。現在は講自体が開かれていない。								
83	田中上の二十三夜待ち	存続状況	中断中	関連テーマ	15			
場所	田中上集落	行事日[過去]	中断中 [秋の中秋の十五夜の後の二十三夜]					
二十三夜の月に、願い事をするとううと言われている。遠くにいる人や戦争に行っている人の健康や無事を祈った。現在は中断中である。								
84	下市山の庚申講	存続状況	中断中	関連テーマ	15			
場所	田中上集落	行事日[過去]	中断中 [1月最初の庚申の日]					
お庚申様の掛け軸をかけて、ご馳走が出て賑やかであったが、現在は中断中である。								
85	小川添の椎茸講	存続状況	存続危機	関連テーマ	28			
場所	小川添自治会(小川添公民館)	行事日[過去]	4月の都合の良い日 [同]					
2年毎に掛け軸の虫干しを兼ねて講(御経を唱える)が開かれている。								
86	荒田天神の例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15	17	
場所	荒田天神社境内	行事日[過去]	10月の都合の良い日 [10月5日]					
お札などの配布はあるが特に芸能などはない。神事のみ執り行われている。								
87	荒田下の田之神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	荒田下自治会	行事日[過去]	2月19日 [同]					
お米の五穀豊穰を祈願する講を行う。								
88	西川の水神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	西川自治会(水神石碑周辺)	行事日[過去]	4月11日(花見にあわす場合もある) [4月11日]					
五穀豊穰と水難事故防止を祈願する祭り。								
89	荒田の水神祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	16			
場所	荒田下集落	行事日[過去]	4月16日直近の日曜日、花見の日 [同]					
太鼓と三味線による手踊りの奉納を行う。								
90	永池豊受神社の例祭	存続状況	復活	関連テーマ	17			
場所	永池自治会(豊受神社境内)	行事日[過去]	7月第1日曜日(サナボリ) [4月18日]					
藩政時代の木曾川治水工事による藩の財政立て直しのため、東目から西目に移住が進められ、その際、馬頭観音や地藏堂が創建され、棒踊りが奉納されたと伝わっている。しかし、戦後は途絶えていたが、昭和49年に神社を再建し、棒踊りも復活した。幕府からの木曾川治水工事命令は宝暦3年(1753)、竣工は宝暦5年である。宝暦年間の頃約250年前からと考察される。								
91	荒瀬の水天講	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	荒瀬自治会(荒瀬天空寺跡)	行事日[過去]	4月16日直近の日曜日 [4月16日]					
太鼓と三味線による手踊りの奉納。								
92	本城宇都の水天講	存続状況	存続危機	関連テーマ	16			
場所	本城宇都自治会(稲荷山周辺)	行事日[過去]	4月の都合の良い日曜日 [4月]					
太鼓と三味線で踊りながら稲荷山までいく。								

70	下市山の馬頭観音祭り	存続状況	順調	関連テーマ	15	16		
場所	下市山自治会(下市山公民館)	行事日[過去]	4月8日に近い前週の日曜日 [4月8日]					
伝承芸能についての組織。組織名：下市山芸能保存会。当年度の自治会長が代表である。馬頭観音祭で、下市山鎌手踊と下市山泊り山の郷土芸能が奉納されている。								
71	下市山の願申し祭	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	下市山集落内	行事日[過去]	6月末から7月はじめ [同]					
下市山自治会が主催している。集落の7ヶ所の辻々に箱崎神社のお札を立てて厄防ぎをする。昔は六月燈(つるとぼし)も行われていたが、現在は行っていない。								
72	下市山の雷講	存続状況	中断中	関連テーマ	16			
場所	下市山自治会(下市山公民館)	行事日[過去]	田んぼの仕事が忙しくなる4月末から5月の都合の良い日 [同]					
〈カンナレ回し〉真中に雷様になる人が居て、その周りに出席者全員が輪になり、輪の中に雷様になる幣を、1から2本いれて次から次に回す。真中の雷様が「ゴロゴロ…タン」と言ったところで幣を止め、親幣を持っていた人は、焼酎を飲まれた後、真中に入り次の雷様となる。								
73	田中上1～4班の田之神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	田中神集落内(各家庭)	行事日[過去]	2月24日[不明]					
持ち回りで田之神のお化粧直しをし、神棚に据え、出席者全員で豊作を祈願する。また、御伊勢講や庚申講などの掛け軸をかけて安全や無病息災を祈願する。今年1年の五穀豊穡を祈願する祭りで、昔は春と秋に行われていた。現在は、春のみ行われている。小型の田之神像があり、集落内の家に平等に福が行き渡るよう、自治会会員の家を1年毎に持ち回る。								
74	田中上の秋葉講	存続状況	順調	関連テーマ	15	16		
場所	田中集落(アッカサーの岡)	行事日[過去]	4月10日[不明]					
自然石のアッカサーがある岡に神職が行き神事をする。その後、集落民は三々五々お参りし、直会を行い火の神さまを崇める。また女の子が生まれた家に行きお祝いする。								
75	田中豊受姫神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	田中集落(田中豊受姫神社境内)	行事日[過去]	4月第3日曜日 [4月18日]					
伝承芸能についての組織。組織名は田中芸能保存会で「そばまつい」とも言われる。その日の夜、「アニョ、そばたもいけきもした。」と、どこの家に行ってもソバ汁を食べさせてくれる風習があったが、最近では、安全面などから、どこの家もとはいかないようである。								
76	田中南方神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	15		
場所	田中集落(田中南方神社境内)	行事日[過去]	8月25日前の日曜日 [同]					
伝承芸能についての組織。組織名：田中芸能保存会。実施内容は不詳。								
77	松原神社の例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	17	21		
場所	薬師集落(松原神社境内)	行事日[過去]	3月8日に近い日曜日 [3月8日]					
江戸時代の弘化2年(西暦1845年)以前から行われていたと考えられる(詳細は不明)								
78	上市山諏訪神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	上市山集落(諏訪神社境内)	行事日[過去]	8月24日前後の日曜日 [8月24日]					
神事と直会が行われる。								
79	上市山の馬頭観音祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	16			
場所	上市山集落(諏訪神社境内)	行事日[過去]	4月はじめ [同]					
昔は棒踊りがあったが現在は無い。神官による神事のみ行い、その後、花見を行う。								
80	重留の菅原神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	重留自治会(菅原神社境内)	行事日[過去]	秋分の日 [同]					
昔は棒踊りがあったが現在は無い。神事と直会が執り行われている。								

59	諏訪神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	小木原集落(諏訪神社)	行事日[過去]	8月中旬, 元旦[不明]					
「伊佐郡神社誌」によれば, ご神体木像の背に天文22年藤原重任と墨書されている。小木原地区の鎮守の神として崇敬されている。								
60	モグラ打ち	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	堂崎自治会(堂崎自治会の各家庭)	行事日[過去]	1月14日[不明]					
自治会内の家々の庭先で, 子どもと役員たちは大きな声でもぐら打ちの歌を歌いながら, わらを巻いた竹棒(ホテ)で地面をたたく。堂崎集落全戸(約30戸)の約半数交互に実施している。								
61	堂崎自治会の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	堂崎自治会(自治会内の広場)	行事日[過去]	1月3日[不明]					
餅を焼いて食する。そのほかイノシシ鍋, ぜんざい, 酒もある。本厄の者に点火させる。								
62	那智神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	八代集落(那智神社)	行事日[過去]	12月第2日曜日 [12月9日]					
豚汁, 唐揚げ, 吸い物, 焼酎等で直会。								
63	不動さまの例祭	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	松ノロ・篠原集落(不動さま)	行事日[過去]	7月28日[不明]					
当番として松ノロ自治会, 篠原自治会2人ずつで行う。								
64	尾之上自治会の実盛供養祭	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	尾之上集落(実盛供養塚)	行事日[過去]	7月夏休み第1日曜日[不明]					
役員等において, 実盛供養塚を清掃して供養祭を実施する。								
65	八代自治会の馬頭観音祭り	存続状況	順調	関連テーマ	15	17		
場所	八代自治会(八代公民館)	行事日[過去]	4月上旬 [4月10日, 9月]					
自治会の花見と合同で実施している。棒踊りは, 馬頭観音所在地で踊り, その後公民館で踊る。煮しめ等(婦人部で準備), 焼酎で直会を行う。								
66	八代自治会の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	八代自治会(自治会内の広場)	行事日[過去]	1月3日[不明]					
餅を焼いて食する。そのほかつまみ, ぜんざい, 酒もある。本厄の者に点火させる。								
67	箱崎神社春の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	15	29		
場所	下市山自治会(箱崎神社周辺)	行事日[過去]	1月15日に近い前週の日曜日 [1月15日]					
箱崎神社春の例祭。現在, 神社関係者や下市山自治会を中心に, 実施されている。江戸時代の頃は神楽があったことが, 「大口古事見聞記」に記載されているが現在は伝承されていない。射(まとい)2~3間四方の注連縄を張り巡らし, 鬼と書いた纏いを据え付ける。神主が古式に従い射を行う。見物者は, 最後に射の黒紙を剥ぎ取って家に持ち帰ると, 魔除けとなりその年は良いことがあると言われている。								
68	箱崎神社秋の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	下市山自治会(箱崎神社周辺)	行事日[過去]	10月15日前週の日曜日 [10月15日]					
春の例大祭に昔は, 出店が出てにぎやかであったが, 現在は神社関係者のみで行っている。								
69	下市山の二十三夜待ち	存続状況	中断中	関連テーマ	29			
場所	下市山地区(箱崎神社周辺)	行事日[過去]	箱崎神社秋の例祭と一緒に (中断しているようなものです) [秋の中秋の十五夜の後の二十三夜]					
二十三夜の月に, 願い事をするとうつと言われていた。遠くにいる人や戦争に行っている人の健康や無事を祈った。昔は, 集落で煮しめや和え物などを持ち寄り宴を開いたが, 現在は, 箱崎神社の秋の例祭と一緒に行ったことにしているだけである。								

47	山野下之馬場のお伊勢講	存続状況	順調	関連テーマ	15	29		
場所	山野下馬場集落(集落の各家庭)	行事日[過去]	1月[不明]					
各家庭持ち回りで実施。4班合同で実施。お茶請け程度。								
48	稲荷神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	下ノ木場集落(稲荷神社)	行事日[過去]	12月3日[不明]					
天保14年下木場から宮之城まで、川渡えを終わり船行を便利にし米倉庫の移転も無事すんだのでその守護神として稲荷・水神・山神を勧請した。供物で直会を行う。								
49	山野下之馬場自治会の観音講	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	山野下之馬場自治会(自治会内の各家庭)	行事日[過去]	3月, 9月[不明]					
観音様の祭祀。女性だけの集まりで、お茶請けを持ち寄って交流を深めている。								
50	井立田自治会の馬頭観音祭り	存続状況	順調	関連テーマ	16	17	29	
場所	井立田自治会(馬頭観音)	行事日[過去]	10月20日[不明]					
水天様, 天神様の合同祭でもある。弁当等により直会を行う。								
51	更生小組合の馬頭観音祭り	存続状況	順調	関連テーマ	16	17	29	
場所	上青木東集落(馬頭観音)	行事日[過去]	3月18日に近い日曜日 [3月18日]					
公民館で弁当等により直会を行う。								
52	菅原神社の例祭・西南の役招魂祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	15			
場所	山野下之馬場集落(山野下之馬場公民館)	行事日[過去]	9月敬老の日[不明]					
慶長2年(1597)正月25日の勧譜の説もある。公民館敷地内に西南の役招魂碑もあるため、例祭と招魂祭と合同で実施している。								
53	天神祭・菅原神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	松ノ口・舟ノ川集落(菅原神社)	行事日[過去]	10月第1日曜日[不明]					
天神祭は、日本各地の天満宮(天神社)で催される祭り。祭神の菅原道真の命日にちなんだ縁日で、25日前後に行われる。この菅原神社は、1572年新納忠元が創建したといわれている。								
54	瀧之神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	深川・川西・針牟田集落(滝神社)	行事日[過去]	11月下旬又は12月上旬[不明]					
菱刈氏の建立と伝えられる(年代不詳)。天和年間、野火が起り、これが滝之山に移り社殿を焼失して由緒書などを焼き尽くしたと伝えられる。明治6年正月再興の記録がある。								
55	大島南自治会の馬頭観音祭り	存続状況	順調	関連テーマ	15	17		
場所	大島南自治会(大島南公民館)	行事日[過去]	4月中旬[不明]					
観世音菩薩の化身で、六観音の1つ。馬の無病息災の守り神として信仰されている。								
56	堂崎自治会の田の神祈願祭・解願祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	堂崎自治会(堂崎公民館)	行事日[過去]	4月(祈願祭), 10月(解願祭)[不明]					
公民館において煮しめ等で直会を行う。								
57	水ノ手自治会の彼岸講	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	水ノ手自治会(水ノ手公民館)	行事日[過去]	3月20日, 9月22日[不明]					
組ごとに当番を決めて実施。								
58	水ノ手自治会の山神・水天祭典	存続状況	順調	関連テーマ	15	17		
場所	水ノ手自治会(水ノ手公民館)	行事日[過去]	11月22日[不明]					
山の神, 火の神, 馬頭観音, 水天, 氏神等の合祀祭典。組ごとに当番を決めて実施。料理は弁当が多い。								

36	飛諏訪神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	木ノ氏集落(飛諏訪神社境内)	行事日[過去]	8月22日～8月23日[不明]					
祭りの日まで、神饌・供物の準備を行う。当日は、神社で神事を行う。以前は広域剣道大会が有名であったが、現在は行われていない。								
37	平原前自治会・平原自治会の馬頭観音祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	17			
場所	平原前・平原自治会(平原前公民館)	行事日[過去]	7月夏休み最初の日曜日[不明]					
平原前自治会と平原自治会と交互に実施している。当日、馬頭観音の清掃、食事会を行う。								
38	平原前自治会の田の神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	平原前自治会(平原前公民館)	行事日[過去]	11月下旬[不明]					
平原前自治会と平原自治会と交互に実施している。婦人会により混ぜご飯、酢の物、煮しめ等料理する。以前は婦人会による踊りを披露。粉を顔に塗って独特なお化粧をしていた。								
39	平原前自治会の雷講	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	平原前自治会(平原前公民館)	行事日[過去]	5月[不明]					
共同で雷の模様を演じて祝う行事である。掛け軸の展示、食事会を行う。								
40	平出水愛宕神社の六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	平出水集落(平出水中央下集会所)	行事日[過去]	7月26日[不明]					
灯ろうを愛宕神社入口に設置し、当日は、神社の参詣者に焼酎を振る舞う。								
41	平出水中央上小組合の雷講	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	平出水中央集落(公民館)	行事日[過去]	6月初旬[不明]					
夕方から老若男女約50人が公民館に集まり、御幣に全員で拝礼。大きな輪をつくって儀式が始まる。雷になった人が上半身を畳に伏せ顔は両手を覆い、ゴロゴロピカッと何回も繰り返す時機を見計らってドンと落雷させる。その時、順次手渡して回っていた御幣を握っていた人が次の雷である。落雷の時機は個人差があり大変面白い。御幣は赤い日の丸付けと無印のものが逆方向に回り、落雷の時日の丸付けに当たった人は大盃で焼酎を飲む。大盃の人はその年豊作になると言われている。その後小番と言われる女性数名が作った手料理を食べて、焼酎を飲みながら豊作と健康を願う。								
42	里町の庚申講	存続状況	復活 (昭和60年)	関連テーマ	15			
場所	里町集落(各家庭)	行事日[過去]	2か月に1回(庚申の日)[不明]					
里町では、庚申の日に夕方から当番の座元に集まり、床の間の庚申掛け軸に線香をあげて参拝し、お神酒をいただいた後、空になった盃にお神酒を注いでから自席へ戻る。昭和60年に復活している。庚申掛け軸収納箱に嘉永元(1848)年の墨書きがある。								
43	羽月麓町自治会の恵比須祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	17			
場所	羽月麓町集落(羽月集会所)	行事日[過去]	1月10日[不明]					
以前は、恵比須様の着せ替えを望む者は、人知れぬようこっそり自宅へ持ち帰り、男女2体の木造ご神体に入念な化粧をして、手縫いの新調着物を着せる。1月10日夕方直会後に太鼓を打ち鳴らしながら「商売繁盛笹(大判小判を吊下げた竹笹)もってこい」と町中に呼び込みながら祠まで送っていき、皆で参拝してその夜の儀式は終了する。現在は持ち帰る人がいないため集会所で実施している。有志10人程度で継承している。料理は、盛、弁当等。								
44	山ノ口自治会の素ヶ嶽さま祭り・田の神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	15	17		
場所	山ノ口集落(山ノ口公民館、須ヶ嶽様現地)	行事日[過去]	4月第1日曜日[不明]					
伝説によると、昔、青木崎妙坊という山法師が山にこもり修行をしていたが、「自分が死んだら必ず軍神となって武人を守る」と言って死んだので、お堂を建て祭りをするようになった。同時に田の神祭りも行っている。								
45	崎山自治会の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	18	
場所	崎山自治会(自治会内の広場)	行事日[過去]	1月1日[不明]					
午前6時から実施。餅を焼いて食する。そのほかぜんざい、酒もある。本厄の者に点火させる。								
46	下ノ木場自治会のハラメ打ち	存続状況	順調	関連テーマ	14			
場所	下ノ木場自治会(自治会内の新婚家庭)	行事日[過去]	1月14日[不明]					
基本は14歳までの男子で構成。最近では新婚家庭が減少しているため、実施回数が少なくなっている。								

24	小川内自治会の観音講	存続状況	順調	関連テーマ	5	20		
場所	小川内集落(小川内公民館)	行事日 [過去]	3月, 9月[不明]					
公民館に観音様を祀ってある。女性だけの集まりで、料理(煮しめ等)を持ち寄って交流を深めている。女性15人で実施。								
25	松原神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	鳥巢上集落(松原神社境内)	行事日 [過去]	9月23日, 3月21日[不明]					
祭りの日まで、神饌・供物の準備を行う。当日は、神社で神事、直会を行う。(毎年20人程度が出席)。								
26	諏訪神社の元旦祭	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	原田集落(諏訪神社境内)	行事日 [過去]	1月1日～1月3日[不明]					
祭りの日まで、神饌・供物・舞台準備を行う。当日は、神社で神事、直会を行う。								
27	諏訪神社の例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	原田集落(諏訪神社境内)	行事日 [過去]	8月27日[不明]					
祭りの日まで、神饌・供物・舞台準備を行う。当日は、神社で神事、舞台での芸能、直会を行う。								
28	大王神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	宮人集落(大王神社)	行事日 [過去]	12月6日[不明]					
神事。直会。自治会婦人部が煮しめ等料理を準備している。祭りの役員、自治会寺係りを3人設置している。								
29	忠元神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	24		
場所	原田集落(忠元神社境内)	行事日 [過去]	1月1日, 4月3日, 10月3日[不明]					
祭りの日まで、神饌・供物・舞台準備を行う。当日は、神社で神事、直会を行う。								
30	鳥巢上のお伊勢講	存続状況	順調	関連テーマ	15	29		
場所	鳥巢上集落(各家庭)	行事日 [過去]	3月16日, 9月16日[不明]					
各家庭持ち回りで実施。1班, 2班は班ごとに実施。3班, 4班は少人数のため合同で実施している。料理は弁当が多い。								
31	鳥巢上自治会の十五夜祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	鳥巢上自治会(鳥巢上公民館)	行事日 [過去]	9月[不明]					
各家庭のだんごとり, 食事会, ゲーム(子ども会約30人)の順で行う。								
32	田原自治会の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	田原自治会(自治会内の水田)	行事日 [過去]	1月1日[不明]					
餅を焼いて食する。豚汁, 酒もある。抽選会, 賞品がある。								
33	白木神社の元旦祭	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	白木集落(白木神社境内)	行事日 [過去]	1月1日[不明]					
祭りの日まで、神饌・供物の準備を行う。当日は、神事、白木観音像の御開帳が行われる。								
34	白木神社の内まつり	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	白木集落(白木神社境内)	行事日 [過去]	7月27日[不明]					
祭りの日まで、神饌・供物の準備, 六月燈の準備を行う。当日は、神事、白木神社の御開帳, 六月燈が行われる。								
35	八坂神社の祇園祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	10			
場所	八坂町(八坂神社境内)	行事日 [過去]	7月最終の土曜日[不明]					
祭りの日まで、神饌・供物・各行事の準備を行う。当日は、八坂神社で神事, 武者行列, 獅子舞, 相撲大会, 舞台を行う。「巫女の舞」県内でも特徴的である。								

12	郡山八幡神社の春の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	郡山八幡神社境内	行事日 [過去]	8月27日[不明]					
郡山八幡神社で神事、直会、神社境内で棒踊り奉納、集落内で棒踊り奉納の順番で行う。								
13	郡山八幡神社の秋の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	4			
場所	郡山八幡神社境内	行事日 [過去]	11月23日[不明]					
郡山八幡神社で神事、直会、神社境内でグランドゴルフ大会の順番で行う。								
14	郡山八幡神社の六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	郡山八幡神社境内	行事日 [過去]	7月第3土曜日[不明]					
準備として、灯ろう100個分を子どもたちに絵を描いてもらう。当日は、演芸大会を行う(焼酎銘柄当てクイズ(別名焼酎神社とも呼ばれているため)・歌、楽器演奏、劇等)								
15	元町実業の田の神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	3月は田の神所在地。11月は各家庭まわり。	行事日 [過去]	3月下旬と11月初旬の戌の日[不明]					
11月は各家庭持ち回りで、食事会を実施。田の神は、有形民俗文化財(市指定)でもある。								
16	原田の田の神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	原田集落(各家庭)	行事日 [過去]	3月と9月の彼岸の中日[不明]					
各家庭持ち回りで実施し、料理も各家庭より持ち寄って食事会を実施している。田の神は、有形民俗文化財(市指定)でもある。								
17	原田の彼岸講	存続状況	順調	関連テーマ	15	28		
場所	原田集落(原田公民館)	行事日 [過去]	3月と9月の彼岸の中日[不明]					
以前は、座元制があり、持ち回りで実施し、料理も各家庭一品ずつ持ち寄っていた。現在は、高齢化が進み弁当を購入している。公民館に展示した十一観音の掛け軸にお参りする。掛け軸は講終了後、持ち回りで保管する。								
18	国玉神社の例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	17		
場所	里町集落(国玉神社)	行事日 [過去]	4月23日、9月23日[不明]					
神社で神事。直会。出席者15人程度。自治会に氏子役員を3人を置く。国玉大明神ご神体が市指定文化財。								
19	細島婆の供養祭	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	木ノ氏集落(木ノ氏の墓地)	行事日 [過去]	4月・10月第1日曜日 [3月9日・10月9日]					
木ノ氏墓地で仏事、踊り、相撲大会の順番で行う(相撲大会は学校と連携して行う)。								
20	秋葉神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	朝日町自治会(朝日町公民館)	行事日 [過去]	10月6日[不明]					
祭りの日まで、神饌・供物の準備を行う。当日は、朝日町公民館で神事を執り行う。								
21	秋葉神社・恵比須神社の合同例祭	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	朝日町自治会(秋葉神社・恵比須神社)	行事日 [過去]	12月[不明]					
祭りの日まで、神饌・供物の準備を行う。当日は、神社で神事で行う。出席者約25人(商売をされている方等)。								
22	小水流子ども会のもぐら打ち	存続状況	復活(3年前)	関連テーマ	17			
場所	小水流集落の各家庭	行事日 [過去]	1月14日[不明]					
自治会内の家々の庭先で子どもたちは大きな声でもぐら打ちの歌を歌いながら、わらを巻いた竹棒(ホテ)で地面をたたく。青壮年部も協力している。本来は凡そ20家庭で実施している。								
23	小川内自治会の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	小川内集落(自治会のグランド)	行事日 [過去]	1月7日[不明]					
自治会内の厄年の対象者に点火してもらう。餅を焼いて食する。豚汁、酒もある。市内でも有数の伝統ある行事である。								

伊佐市

1	園田のお伊勢講	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15	29
場所	園田集落(園田公民館)	行事日[過去]	3月, 9月[不明]				
以前は各家庭の持ち回りであったが, 高齢化が進み料理等準備が困難なため, 公民館で食事会を実施している。							
2	石清水神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	17		
場所	小川内集落(石清水神社)	行事日[過去]	11月23日(11月22日は前夜祭)[不明]				
しめ縄作り, 神社で神事を行う(直会, 鶏汁等)。氏子は, 各班1人ずつ交替で実施している。							
3	鬼神神社の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15 18
場所	小川内集落(鬼神神社)	行事日[過去]	3月(4年目には2回実施(3月, 4月))[不明]				
神社で神事のみ行う。							
4	宮人自治会の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	25
場所	宮人自治会(自治会内の水田)	行事日[過去]	1月1日[不明]				
餅, いわしを焼いて食する。その他, ぜんざい, 酒もある。(婦人会の手伝い)							
5	宮人自治会の十五夜祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	29
場所	宮人自治会(宮人公民館)	行事日[過去]	9月(日には決まっていない)[不明]				
相撲大会, 綱引き, 食事会の順番で行う。子どもたちがお互いを知るために, 自己紹介を行う。(子ども8人)							
6	金波田のお伊勢講	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	25
場所	金波田集落(各家庭)	行事日[過去]	2月, 9月[不明]				
講の当日夕方から始まり, 宴もたけなわのころ「デッ」という儀式が始まり神前に供えた米, 塩, 揚げ豆腐, 焼酎のお盆を下げきて, まず座元の主が一礼して塩をお盆内に撒き, 米を部屋中に広く撒いたら次回の座主へお盆を回し同じ行為を行う。後は順次時計回りに, 全員が儀式に携わる。弁当, 煮付け。							
7	金波田子ども会の十五夜祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17	29	
場所	金波田自治会(金波田公民館)	行事日[過去]	9月20日頃[不明]				
班ごとにだんごとり, 食事会, 相撲大会の順番で行う。							
8	金波田自治会の馬頭観音祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17		
場所	金波田自治会(馬頭観音所在地)	行事日[過去]	4月と9月の第1日曜日[不明]				
4月は花見, 9月は運動会と同時に開催している。							
9	金波田子ども会のもぐら打ち	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15 18
場所	金波田集落の各家庭	行事日[過去]	1月14日[不明]				
自治会内の家々の庭先で, 子どもたちは大きな声で, もぐら打ちの歌を歌いながら, わらを巻いた竹棒(ホテ)で地面をたたく。本年は金波田集落全戸(約127戸)実施。もぐらうち実施後食事会を行う。							
10	金波田子ども会の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	8		
場所	金波田自治会(金波田公民館近くの水田)	行事日[過去]	1月10日[不明]				
自治会内の厄年, 七草の対象者に点火してもら。餅を焼いて食する。その他ぜんざい, 豚汁, 酒もある。							
11	金比羅祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21		
場所	園田集落(園田公民館)	行事日[過去]	4月10日に近い日曜日[不明]				
当日は午前中清掃, また月1回, 婦人部で清掃している。花見と兼ねて実施している。							

51	植村地区豊受神社馬頭観音祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	15	16		
場所	植村集落(豊受神社境内)	行事日[過去]	5月5日 [4月中頃]					
植村地区は4集落、上植村、下植村、向植村、大里があり、豊受神社が所在する下植村が中心となり、費用を集めて実施される。下植村の公民館には祭りの諸用具等も所持されている。また当地区には、初庚申講もあり、地区行事の計画や係分担もされ、簡略化された田の神講も公民館でされる。								
52	羽山神社祭	存続状況	復活(3年前)	関連テーマ	17			
場所	佳例川集落(伊牟田家と羽山神社)	行事日[過去]	旧暦10月28日 [同]					
祭りは衰微し、ここ10余年来、伊牟田家一戸で祭を執り行ってこられたが、3年ほど前から集落自治会で集落よりどころの祭を復活させ、3年前から河川掃除の日には18人ほどが寄り合い、講祭をするよう復活させ、年間行事とされている。								
53	紫尾田馬頭観音祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	17			
場所	紫尾田集落(公民館前諸神の地座場所)	行事日[過去]	11月中頃					
当地区には諸講の記録「庚申講・火の神講 大正拾貳年旧正月・五月 二回紫尾田中郡」「昭和四年 伍長馬締順番帳 紫尾田中郡」「昭和十九年旧十月九日田之神講人名簿、紫尾田中郡」や祭りの時の御祭神(掛け軸)「庚申の神」、「火の神」、「山の神」も受け継がれており、諸祭事が行われてきている。								
54	秋葉講	存続状況	存続危機	関連テーマ	15	16		
場所	各方限(郷中)の家	行事日[過去]	旧暦2月6日 [同]					
地区の秋葉神社が所在する郷中は、今でもお札を配られている。また、この講で葬式の係「節検」の役決めが行われている。								
55	金峰神社秋季大祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	崎森集落(金峰神社)	行事日[過去]	11月10日 [11月中申日]					
崎森共志会が中心となって行う。								
56	稲荷神社秋季大祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	竹子集落(稲荷神社)	行事日[過去]	11月25日 [同]					
竹子共正会が中心となって行う。								
57	鷹屋神社秋季大祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	麓集落(鷹屋神社)	行事日[過去]	11月23日 [11月中酉日]					
麓公正会が中心となって行う。								
58	前玉神社秋季大祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	15	17		
場所	三縄集落(前玉神社)	行事日[過去]	11月28日 [同]					
三縄自彊会が中心となって行う。								
59	飯留神社	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	有川集落(飯留神社)	行事日[過去]	12月5日 [同]					
有川同志会が中心となって行う。								
60	熊野神社秋祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	麓集落(熊野神社)	行事日[過去]	12月第1日曜日 [同]					
神事の前に各戸主が家系の氏神に供える注連縄を作る。								
61	鷹屋神社 歳旦祭	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	麓集落(鷹屋神社)	行事日[過去]	1月1日 [同]					
麓公正会が中心となって行う。								

42	羽山祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17		
場所	佳例川集落(羽山神社)	行事日[過去]	毎年5月3日 [5月1日]				
<p>神社が旧日向筋沿いに鎮座したため、享保時代より市がたち、近在近郊より人々が集まった。大道芸人や多くの露店が並び、昭和時代には佳例川小学校はもとより、近郊の3小学校も午後から休校となった。神社名は正式には「宇気母智神社(うけもち)」といい現在は畜産や農業の神様として慕われている。享保17年開始。</p>							
43	願成就	存続状況	順調	関連テーマ	15	16	
場所	割子田集落(飯富神社)	行事日[過去]	割子田・池田集落は9月の彼岸過ぎ、柴建集落は旧暦の9月9日 [同]				
<p>割子田は自治会長などが鹿児島神宮と飯富神社に詣で神社札を戴き、全戸に頒布し、集落出入口5か所に立札する。池田は霧島神宮と飯富神社に詣で、御札を全戸に頒布6か所に立札。柴建は鹿児島神宮と飯富神社に詣で御札を全戸に頒布し、4か所に立札。</p>							
44	庚申講	存続状況	存続危機	関連テーマ	15		
場所	柴建集落	行事日[過去]	毎年1・3・9月 [同]				
<p>人間の体中にいる多くの欲望を持つ「三尸(さんし)の虫」が60日ごとに廻る庚申の夜、その虫が人の天帝に告げるとされ、告げられた男は命を縮めるとし、告げ口されないように、男衆は一同に揃い共に一夜を過ごす。数年前までは前川内集落・池田集落・割子田集落・柿木田集落などにもあったが近年消滅した。柴建集落は最近観音講と同時開催されている。江戸中期頃開始とされる。</p>							
45	観音講	存続状況	存続危機	関連テーマ	12	15	
場所	柿木田集落	行事日[過去]	集落毎に週末を中心に開催 [柿木田集落は1・3・9・11の18日と決められていたが近年消滅した。]				
<p>佳例川地区は歴史の古さから、近親・血縁の婚姻が多く、生まれる子どもに身体的影響も多かった。出産・育児などの知識や知恵などを先輩婦人から学ぶ場でもあった。立元集落以外は他の講と合同で開催している。</p>							
46	火の祈念講	存続状況	順調	関連テーマ	16		
場所	池田・柴建集落	行事日[過去]	旧暦の10月 [同]				
<p>池田・柴建集落では係が飯富神社から火産霊大神(ほむすびのおおかみ)の御札を戴き全戸と公民館に頒布。割子田集落は時節柄「秋祈念」と称し、日を決め公民館で講を催す。前川内集落では昔里中の鎮守神社が火災に遭い、火の粉を浴びた十数戸の家庭が火災日の11月11日に講を行っていたが、近年消滅した。発祥不明。</p>							
47	飯富神社の特殊な講	存続状況	順調	関連テーマ	15	16	
場所	佳例川集落(飯富神社)	行事日[過去]	不定期[同]				
<p>里人が野猿に遭遇すると遭遇者や集落への吉兆の知らせだと恐れられている。神社の御祭神が猿田彦神だからである。里人が野猿に遭遇すると、集落の半鐘が鳴らされ、遭遇者と役員数人が飯富神社に米・塩・酒などを持参して、報告に向く。集落民は公民館に集まり、参拝者の帰りを待つ。集落によっては、遭遇者の家に集まり神官を呼んで祭りを開くこともあった。神様を見てしまったことでの祟り(さわり・ハレ)を畏れ詫びと今後の御加護を懇願する講である。集落内に入り込んだ野猿を追い払ったり暴力を働くことも禁じられている。最近では遭遇者の個人的な参拝が多い。発祥は不明であるが、1000年近く伝承されていると推測する。</p>							
48	十五夜行事	存続状況	順調	関連テーマ	10		
場所	牧之原集落(牧之原運動場)	行事日[過去]	暦の十五夜夜 [同]				
<p>古くは現在の東牧之原地区と西牧之原地区が合同で県道交差点十字で行っていたが、今は別々に開催している。以前は大綱の中心は藁を使用していたが、現在は市販の荒縄を数本束ねて使用している。</p>							
49	安良神社例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	16	17	
場所	小脇集落(安良神社)	行事日[過去]	3月4日 [同]				
<p>小脇地区が高齢過疎化のため一時青年団のメンバーが舞い手となった。横川地区の青年団もなくなり、他町住まいの地元出身者の壮年層がそのときは加勢をしている。後継者育成は困難を極めている。「黄金の里山ヶ野ウォーキング(3月第1日曜日)」のコースにも安良神社も入っており、この折3回の上演がなされる。以前は、秋祭りで奉納があった。</p>							
50	岩堂観音祭	存続状況	順調	関連テーマ	15		
場所	赤水集落(岩堂観音境内)	行事日[過去]	4月3日 [同]				
<p>赤水集落で40年ほど前に岩堂観音に降りてくる階段(160段程)も整備され、鳥居なども建てられた。現在も祭りの前には地区で山道を整備舗装され、堂入口に注連縄を付けたりされている。焼酎、料理をカレ手籠で運ばれるという。</p>							

31	霧島神宮古例祭	存続状況	順調	関連テーマ	11			
場所	田口集落(霧島神宮境内)	行事日[過去]	旧暦9月19日[同]					
浦安の舞など巫女舞が奉納される。直会も実施する。								
32	霧島神宮新嘗祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	田口集落(霧島神宮境内)	行事日[過去]	11月23日[同]					
春の祈念祭で豊作を祈願したお礼に秋の収穫を神に感謝するために行われる。ほぜ祭り奉賛会(会長 霧島市長)が組織され、地域の伝統行事として盛り上がっている。								
33	永野田七社神社春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	永野田集落(七社神社社殿)	行事日[過去]	3月15日[旧暦3月15日]					
永野田集落の春祭り保存会が中心となって祭りの準備は当日。祭壇設置後、供え物、料理を供える。								
34	入水七社神社春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	入水集落(七社神社社殿)	行事日[過去]	3月10日[同]					
入水集落春祭り保存会が中心となって祭りの準備は当日。祭壇設置後、供え物、料理を供える。								
35	飯富神社豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	東郷集落(神社境内)	行事日[過去]	11月25日[同]					
島津16代義久が、豊後大友軍退治の祈願を行い、願いが叶って大友軍が滅亡した。それを契機に天正4年8月、彼岸の日に祭りが始まったと伝えられる。霧島神宮から神官3人が派遣されている。								
36	向田七社神社献灯祭	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	向田集落(神社境内)	行事日[過去]	7月25日[同]					
霧島神宮の宮司に来てもらい、信者会が行っている。								
37	龍泉寺報恩講法要	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	田口集落(龍泉寺本堂内)	行事日[過去]	12月5・6日[同]					
明治19年から始まったと伝えられ、御斎(おとき)の精進料理が門徒一同にふるまわれる。準備は前日から祭りの日まで。								
38	稲荷神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	15	16		
場所	福沢集落(神社)	行事日[過去]	毎年4月と11月の日曜日[同]					
福沢村は安永10年(1781)に藩の人配で成立した村である。薩摩半島より、農民87戸と郷士6戸が移住した。福沢村の稲荷神社は天明8年(1788)に藩により建立される。毎年4月第1日曜日に刀踊りが奉納される。								
39	大山祇神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	15	17		
場所	立元・牧野集落(神社・公民館)	行事日[過去]	毎年旧暦の2月16日と9月16日に近い日曜日 [毎年旧暦の2月16日と9月16日]					
直会は公民館で行われ鶏の刺身と炊き込み飯が定番である。佳例川地区は稲作1000年の歴史があり、地区民にとっては長年大事な行事だったと思える。八村地区(立元、牧野)自治公民館主催。								
40	牧之原三地区合同七草祭	存続状況	順調	関連テーマ	12			
場所	牧之原集落(町公民館)	行事日[過去]	毎年1月7日[同]					
東牧之原、西牧之原・下牧之原自治公民館の3自治公民館で主催。発祥年は不明であるが、40年以上継続されている。戦後の第2次ベビーブームの頃は60～70人程度の子どもたちで賑わっていたが、現在は少子化の影響により減少している。夜は、3地区公民館の役員による新年会が行われる。								
41	飯富神社お田植え祭	存続状況	順調	関連テーマ	16	17		
場所	佳例川集落(神社斉田)	行事日[過去]	毎年6月第三日曜日[毎年6月下旬の平日]					
田植え後に行う田んぼでウナギのつかみ取り「さのぼり」の一環として子どもたちへのご褒美や、飯富神社お田植え祭りの名物行事。戦争で途絶えていたが、お田植え祭りが平成9年に65年ぶりに復活した。戦前は水田を輪番制で借用し、当時の佳例川小学校児童がお田植えをしていた。福山からも神職が駆け付け、田の神舞なども奉納されていたとのこと。発祥は不明であるが明治時代初期と推測。H27年度のお田植え祭からは集落民以外も参加する。								

21	鹿児島神宮御田植祭	存続状況	順調	関連テーマ	17	21		
場所	内地区(鹿児島神宮)	行事日[過去]	旧暦5月5日に近い日曜日 [旧暦5月5日]					
<p>順序</p> <p>本宮祭…午前11時から鹿児島神宮本殿内において行われる。神様に今から田植えをしますよという報告の儀式。</p> <p>斉田祭…午後1時から新田において御田植えの神事を行う。</p> <p>祝詞奏上は、鹿児島神宮新田で神様に田植えをしますよという報告の儀式。</p> <p>田の神舞は、農夫の扮装で頭には縄で編んだ笠を被り、翁の面をつけ、赤たすきをかけ、飯杓子と鈴を手に持ち、笛、太鼓に合わせて歌と議論を唱えながら舞います。</p> <p>早苗は、加治木町木田郷の有志が奉仕で育成したものを早男・早乙女が木田壮年会の斉唱するトド歌(田植歌)に合わせて苗を植える。</p> <p>トド組は、田植歌を歌いながら、吹き流しを竿高くかざし、神宮の名入りの高張提灯を押し立てて、トド組を作り、社殿の前で豊穰を祈って帰る。</p>								
22	鹿児島神宮の「初午祭」	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	内地区(鹿児島神宮)	行事日[過去]	旧暦1月18日を過ぎた日曜日 [旧暦1月18日]					
<p>鹿児島神宮の初午祭は、「鈴かけ馬踊り」とも呼ばれ、現在は旧暦1月18日を過ぎた次に日曜日に開催される。鹿児島神宮の参道や境内で、鈴懸馬やその後に続く踊り連一行の人馬一体となって踊りが披露される。</p>								
23	早鈴神社の春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	小浜地区(早鈴神社境内)	行事日[過去]	3月中の日曜日 [旧暦2月19日]					
<p>御神事の冒頭、木製の牛の頭を被り、馬轡を引いて、田起こしの所作をする。</p>								
24	蛭子神社祈年祭	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	内地区(蛭子神社境内)	行事日[過去]	3月 [旧暦2月初酉の日]					
<p>昔の百姓のしきたりであったと言われており、2股になった大きな樫の木の枝を組み合わせ、木の股が裂けるまで行う。かぎ引き祭りは他の事例をみると、霧島神宮の御田植祭や鹿屋市の中津神社等で行われてきており、いずれも旧暦の2月の五穀豊穰を願って行う祭りであることから、蛭子神社の祈年祭も同様の祭りである可能性が高い。行事の伝承のため、地区の子ども会も参加し、後継者育成を図っている。</p>								
25	飯富神社五穀豊穰祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	東郷地区(飯富神社)	行事日[過去]	11月23日 [7月15日]					
<p>飯富神社の宮司が中心となって行っているが、詳細は不明である。</p>								
26	霧島神宮散初祭	存続状況	順調	関連テーマ	17	21		
場所	田口集落(霧島神宮境内)	行事日[過去]	旧暦1月1日[同]					
<p>風土記の中に掲載されている。祭神ニニギノ尊が天孫降臨の際に初を撒いて重なる雲を払った故事により、しめ縄の中に初を撒く神事が行われる。</p>								
27	霧島神宮節分祭	存続状況	順調	関連テーマ	15	20		
場所	田口集落(霧島神宮境内)	行事日[過去]	2月3日[同]					
<p>午後から節分厄除け特別祈願祭が斎行され、まかれる豆に景品交換券があり大勢の参拝者で賑わう。</p>								
28	霧島神宮猿田彦命巡行祭	存続状況	順調	関連テーマ	15	22		
場所	田口集落(猿田彦神社を中心に旧霧島田口の字内各所)	行事日[過去]	年4回御田植祭前、野上神社春祭り前、秋：古例祭と野上神社秋祭り前 [不明]					
<p>霧島田口に鎮座する霧島神宮末社の猿田彦神社から、春の東巡り、西巡り巡行祭と秋の東巡り、西巡り巡行祭(春2回、秋2回)が行われ、東巡り7か所、西巡り8か所の祭場で柴立て神事を行う。猿田彦命のお面を捧持して巡行することから「メンドン回り」と称されていたが、今は猿田彦命巡行祭という。</p>								
29	霧島神宮狭名田長田御田植祭	存続状況	復活	関連テーマ	17	21		
場所	田口集落(霧島神宮境内)	行事日[過去]	6月第1日曜日[同]					
<p>日本最古と伝えられる神田で田口集落の早男、早乙女らによって早苗が植えられる。ここで収穫されたお米は霧島神宮の神事にお供えられるほか、葎付きで伊勢神宮にも奉納されて新嘗祭にお供えられる。戦後の農地解放により民間の田んぼとなっていたが、霧島神宮が買い取り、神田となった。87年前に復活した。</p>								
30	霧島神宮斎田御田植祭	存続状況	順調	関連テーマ	17	21		
場所	田口集落(霧島神宮境内)	行事日[過去]	6月10日[同]					
<p>霧島神宮には、田口集落の狭名田長田と霧島神宮近くの斎田があり、それぞれ御田植祭が行われる。斎田御田植祭は約100名の奉仕者が田植えを行う。</p>								

10	新嘗祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	上之段集落(宮毘神社)	行事日[過去]	12月第三日曜日[同]					
昔は神楽の奉納があったが現在は行われていない。神社の役員を中心に農作物を供える。								
11	飯富神社の稲造踊り	存続状況	順調	関連テーマ	17	21		
場所	上之段集落(飯富神社境内)	行事日[過去]	春分の日[同]					
田植えの準備から終了までの農作業の様子を再現。馬鍬を引く牛役、それを扱う親役、息子役、牛面をつけた数人が出演し、親役が鹿兒島弁でおもしろおかしく台詞を発して牛を操り、それに合わせて息子や牛が暴れ回って踊る。往時は出店が並ぶほどの賑わいを見せたと言うが、最近では関係者と集落民が参観する程度。準備は当日。								
12	下中福良集落の田の神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	万膳下中福良集落(田んぼ等)	行事日[過去]	旧暦9月の申の日・正月最初の申の日[同]					
大正時代から始まっている。集落の一部で行われている。								
13	寺原の馬頭観音祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	寺原集落(あいら農業協同組合牧園統括支店)	行事日[過去]	4月8日[同]					
昭和30年代までは相撲大会、剣道大会、子牛や日用品が当たる抽選会が行われ、農機具や食品、みやげもの販売の出店も多く、臨時バスが運行されるなど、数千人が来場する地域の一大イベントであったが、徐々に参加者が減少し、現在は農家や畜産関係者中心の祭りとなっている。一般参加者は少ない。準備は当日まで。								
14	万膳の太鼓踊り	存続状況	順調	関連テーマ	15	17		
場所	万膳地区(万膳小学校)	行事日[過去]	元旦・小学校運動会[不明]					
明治20年頃から始まっている。万膳小学校の児童が踊る。								
15	三体の棒踊り	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	三体堂地区(三体小学校)	行事日[過去]	小学校運動会、地区のお夏祭り、霧島神宮の祭日[不明]					
大正時代から始まっていると言われていたが、詳細は不明である。三体小学校の児童が踊る。								
16	中津川の棒踊り	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	中津川地区(中津川小学校)	行事日[過去]	小学校の運動会、龍馬ウォーキング、和気神社藤まつり[不明]					
以前は中津川の横瀬と改田集落で行われていたが、中津川小学校の伝統活動として集約された。準備は当日まで。								
17	犬飼の火流し行事	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	犬飼集落(河原)	行事日[過去]	8月15日[同]					
昔は15歳の頭(かした)ニセを先頭に子どもたちが行事の全てを取り仕切っていたが、少子化で現在では地域住民主体で実施している。川に浮かべた筏に七夕飾りを乗せ、火を放って燃やしながら約150mを流す。火付け役は中学生である。筏がうまく流れるように子どもや大人たちが川に入り、筏を棒でコントロールする。								
18	臼崎集落の山の神講	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	臼崎集落(各戸)	行事日[過去]	12月16日、1月16日[同]					
御神体は石の女性像で化粧が施されている。祭りの当日には座元が鯖の刺身と煮付けを準備し、参加者に振る舞う。								
19	飯富神社の茅の輪くぐり	存続状況	存続危機	関連テーマ	15			
場所	牧園地区(飯富神社)	行事日[過去]	7月29日[同]					
夏越し祭りともいい、拝殿と神殿の間に茅葺で直径1.5mほどの輪を作り、数え年7歳の子をくぐらせると厄が除かれると伝わっている。最近の少子化により参加者が激減しているため、同伴者や一般の参拝者もくぐっている。								
20	鹿兒島神宮隼人浜下り	存続状況	復活(17年前)	関連テーマ	15			
場所	鹿兒島神宮 隼人塚 浜之市八幡屋敷	行事日[過去]	10月第3日曜日 [旧暦8月15日]					
720(養老4)年頃に始まったとされ、1300年の永きにわたって連綿と行われてきたが、機運不安により1934(昭和9)年に途絶えた。しかし、伝統行事の伝承と地域の活性化を目的に2000(平成12)年に復活した。行列は鹿兒島神宮の御神輿を中心に宮司や神職で固め、それを武者軍団が警護する。その後ろに稚児行列、小学・中学・高校生の剣道・弓道の部員、文化財少年団などが続く。行列は途中隼人塚に立ち寄り、隼人供養の神事及び隼人舞の奉納が行われる。隼人港の恵比寿様の前で神事が行われた後に、生きた鯛を海に放流する。								

21	行人岳の大祭	存続状況	順調	関連テーマ	27			
場所	行人岳不動明王廟	行事日 [過去]	春季大祭…3月28日, 秋季大祭…9月28日					
<p>行人岳には、蔵王権現像、不動明王像、毘沙門天像などが祭られている。江戸時代は修験道の聖地であったが、明治以降、次第に不動明王の人氣が高まっていたと考えられる。昭和42年、テレビの送信基地を設置するため行人岳への道路が整備された。これを契機に、その後、行人岳信仰を後世に伝えようと不動明王廟運営委員会が結成され、廟や鐘楼なども整備され今日に至っている。昭和45年3月、不動明王廟が落成。春と秋の大祭、正月の初詣の他、島内外から年間を通じて参拝客が多い。</p>								

霧島市

1	大穴持神社の神幸祭	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	小浜小牧集落 (大穴持神社)	行事日 [過去]	旧暦6月13日前後の日曜日 [旧暦6月13日]					
<p>大国主命が雄牛に追われ、麻畑に逃げ込み、まむしにかまれたという故事により、小村 (広瀬) では麻を植えない。また、牛を飼わない村であった。男の厄年 (数えの42歳) が御輿をかつぎ、広瀬地域を一周する。途中13か所の御旅所でお払いをする。</p>								
2	大穴持神社のまむし除霊祭	存続状況	順調	関連テーマ	15	16		
場所	小浜小牧集落 (大穴持神社)	行事日 [過去]	旧暦3月13日 [同]					
<p>大穴持神社は地元ではオナンジサアの名で親しまれ、大穴持神社御砂 (まむし除けお砂) を家の四隅に敷くとマムシが寄りつかないと言われている。まむし除けの神符を配る。</p>								
3	福島鎮守神社の六月燈盆踊り	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	福島集落 (福島鎮守神社境内)	行事日 [過去]	8月の日曜日 [同]					
<p>子どもたちの持ち寄った灯ろうを飾り、婦人たちの踊りと参加者による総踊り。</p>								
4	劍神社神幸祭	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	敷根地区 (劍神社)	行事日 [過去]	7月30日に近い日曜日 [7月30日]					
<p>劍神社の夏越しの祭御輿は1日ばかりで敷根地区8か所のお旅所を回る。それぞれのお旅所ではその地区 (集落) の人たちが竹や樫の木で飾った台を作り、野菜や果物、お神酒を供えて待つ。御輿が通ったあとはその人々が樫の木の枝を持ち帰って自分の家の門に飾る。それぞれの地区では「とうふ」を食べる。</p>								
5	穂初講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	川内地区 (公民館)	行事日 [過去]	旧9月9日に近い日曜日 [同]					
<p>穂初講 (おはつぼこう)、公民館長を中心として秋の収穫を祝う講で、神社に農作物の供物をして直会をする。</p>								
6	武射講	存続状況	順調	関連テーマ	4	15		
場所	川内集落 (稲富神社)	行事日 [過去]	春分の日に近い日曜日 [不明]					
<p>武射講 (ぶっさつこう)、稲富神社に収穫物のお供えをし、弓で的を射る。その後、地区で直会をする。農家 (耕作者) が少なくなっており、参加する人が減少している。</p>								
7	下井道化踊り	存続状況	順調	関連テーマ	26			
場所	下井集落 (下井公民館)	行事日 [過去]	敬老会 3月末 地区運動会 10月 [不明]					
<p>発祥は定かではないが、歌詞に「小村新田」が語られているので、1845年から1851年頃と思われる。後 (昭和48年) 有志によって保存会が発足。敬老会や地区運動会で披露される。</p>								
8	五月祭	存続状況	順調	関連テーマ	17	21		
場所	上井集落 (諏訪神社)	行事日 [過去]	6月第1日曜日 [不明]					
<p>上井諏訪神社の田植え祭で、牛 (人間) が農具 (マンガ、スキ) をひき、農作業の様子を再現。祭りのクライマックスは砂を見物者に振りかける時で、以前逃げる人々をどこまでも追いかけて振りかけていたらしい。出店の人々も大変だったとのことである。今は参加者を多くするために、公民館や婦人部などでお店などを出している。</p>								
9	六月燈	存続状況	復活	関連テーマ	4	8		
場所	川原集落 (大山祇神社)	行事日 [過去]	7月 [不明]					
<p>約35年ぐらい前まで行われていたが、途絶えていた。平成27年度より、川原地区の活性化のために復活した。</p>								

13	城川内のご八日踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	(城川内) 若宮神社	行事日 [過去]	毎年8月8日 [毎年8月7日～9日]					
<p>神社における神事は神社総代が行う。集落は郷土芸能の上演などお祭りの伝統的役割において協力している。城川内集落の郷土芸能は、大学内の指江集落、唐隈集落の神社にも奉納する。(戦前は旧暦7月8日に行われていたが、戦後新暦の8月8日に行われるようになった。また、以前は7日は打ち鳴らしと言って一度踊り、8日が本番、9日は庭収めといて、納めの踊りを行った。</p>								
14	唐隈のご八日踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	(唐隈) 十五社神社	行事日 [過去]	毎年8月8日 [毎年8月7日～9日]					
<p>神社における神事は神社総代が行う。集落は郷土芸能の上演などお祭りの伝統的役割において協力している。戦前は旧暦7月8日に行われていたが、戦後新暦の8月8日に行われるようになった。また、以前は7日は打ち鳴らしといて一度踊り、8日が本番、9日は庭収めといて、踊り納めの踊りを行った。</p>								
15	下山門野地区のご八日踊り、夏祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	19		
場所	(汐見瀧) 若宮神社	行事日 [過去]	毎年8月7日～8日 [毎年8月7日～9日]					
<p>大字下山門野地区は4集落あり、奉納踊りは当番集落が奉納する。かつて盛んであった庭狂言や郷土芸能の上演は、高齢化で困難となっているが、現在は形を変えて、8月7日に前夜祭として夏まつり、花火大会をにぎやかに実施している。神社における神事は神社総代が行う。集落は芸能の上演などお祭りの伝統的役割において協力している。汐見川沿いの下山門野、山門野、川床の3つの大字には、それぞれ神社があるが、各地域の奉納踊りは汐見川に沿って汐見瀧の若宮神社、山門野の南方神社、川床の若宮神社と下流の神社から順番に奉納する。戦前は旧暦7月8日に行われていたが、戦後新暦の8月8日に行われるようになった。また、以前は7日は打ち鳴らしといて一度踊り、8日が本番、9日は庭収めといて、踊り納めの踊りを行った。</p>								
16	長島の山祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	27		
場所	各集落に山の神を祭っている	行事日 [過去]	毎年 旧暦11月、丑か申の日の早く来た日 [同]					
<p>朝早くから火を焚き、ツトに入れたシトギを供えることが多い。長島が肥後の勢力下にあった室町時代以前からあったと解される。</p>								
17	唐隈の山ノ神	存続状況	順調	関連テーマ	8	27		
場所	集落の公民館に隣接した森の中にある鉄の鉾が御神体。もう一つ、朱の鼻の山中にも山ノ神がある。	行事日 [過去]	毎年 旧暦11月、丑か申の日の早く来た日 [同]					
<p>この祭りの祝詞が伝承されている。長島では御神体は大木の場合が多いが、ここでは御神体は鉄の鉾である。御神木もある。前日に簡易な社殿が設けられ、神事、相撲が行われる。第2の場所では、御神体の前で、神様とナマコを行う。</p>								
18	小浜の山祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	27		
場所	山中にある山ノ神とホコドン、公民館、座元。	行事日 [過去]	毎年 旧暦11月、丑か申の日の早く来た日 [同]					
<p>小浜の山の神は、男神と女神があり珍しい。小浜の山祭りはまず先小浜での座祭りから始まる。神事で主客になるのは独身の青年で神役となり、顔にススをぬり、頭には藁の鉢巻、右肩にはしめ縄をかけるといういで立ちで神様を表現している。そこから彼は青年たちが待つ公民館に行き、一同御神酒を飲み乱舞して騒ぐ。最後に割合(わりえ)の山上にある山ノ神に参る。御神体は檜の大木で男神である。シトギ、ナマス、かけの魚、赤飯、御神酒を供えて参拝する。次にホコドンという女神のところに向かう。御神体は丸い石で中央に穴が開いている。神役はナマスを穴につめ、檜のホコで御神体をたたきながら、自分の父親の名を呼び「嫁女をもらってくれ」と呼ぶと他の青年達も一斉に唱和する。</p>								
19	平尾の川まつり	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	平尾地区中心部の小浜川沿いの地	行事日 [過去]	毎年 7月18日 前後の都合の良い日 [毎年 旧暦6月18日前後 (戦前は旧暦で行われていたが、戦後新暦で行われるようになった。)]					
<p>曹洞宗のお坊さん呼んで祈禱を行っている。</p>								
20	小浜の川まつり	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	小浜の水天宮	行事日 [過去]	毎年 旧暦7月29日 [同]					
<p>祭りの準備は数日前の甘酒作りから始まる。甘酒を作るのはハナコドリと呼ばれる昔から決まった家(上組が野口家、下組が町田家)で毎年交互にこの任に当たり、約100戸の氏は上組が3班、下組が2班に分かれ、班長は前もって米を集めハナコドリに届けておいた。近年は班長が米を集め集落役員が公民館で甘酒を作るようになっていく。なお、この甘酒はお祭りの日にそれぞれ公民館にもらいに行き分ける。水天宮は先小浜の集落から小浜川を200m程さかのぼったところにある。御神体は「水天宮」と刻まれた石碑で、かつては珍竹の林の中にあつたが、そこを通る県道が拡幅となって用地が狭くなったため現在は祠に祀られている。午後、現場で神事が行われるが、供物の白米の上に新徳を添えるのはこの祭りが「願成就」の意味があることを物語っている。また「河童」を祀るとの伝承もあって、祭りの甘酒を飲むと河童に尻をぬかれぬかれないとか、小浜の子どもは水難を避けられるといわれた。小浜では、川祭りの日は嫁に行った娘も実家に戻り、ご馳走を作って盛大に祝うものであったが、現在は赤飯を炊く家がある程度である。旧長島町では、他には川内、馬込、浜瀧に水天宮が祀られている。</p>								

2	善照寺降誕会法要	存続状況	順調	関連テーマ	5	12		
場所	善照寺本堂	行事日 [過去]	4月下旬の日曜日 [同]					
法要の内容として、初産式（始めて生まれた赤ちゃんの成長を願っての初産式）、降誕会（親鸞聖人の誕生を祝っての法要）、餅まき（お供えの紅白の餅まき）。平成の始めまでは、餅まきの後に各地域の御座から持参した料理を出して歌や踊りで宴会が盛大だった。								
3	杉ノ段招魂祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	杉ノ段招魂地	行事日 [過去]	9月の最終日曜日 [9月18日]					
戊辰の役から太平洋戦争までに戦死された方々 714柱の追悼慰霊祭。当日は遺族会の方々始め、大ぜいの町民の皆さんが参敬される。なお相撲、剣道、弓道等の奉納試合もあり、大変なにぎわいである。その外、たくさんの店も立並び長島の一大イベントとなっている。								
4	川床中御座講	存続状況	順調	関連テーマ	6	8		
場所	その地域の御座	行事日 [過去]	9月から11月に御座ごとに開催 [同]					
巡り佛が巡って来た家が御座となり1年交替としている。尚、別名報恩講とも言われ、親鸞聖人の威徳を学ぶ講である。								
5	川床山祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	字尻無の共有林	行事日 [過去]	12月最初の申の日 [同]					
宮司には頼まず、その年の4公連会長が典詞を読み、祭りが済んだら4公民館交替でソバ、ニシメ等料理を作って宴を開いている。								
6	川床川祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	橋川橋近くの川土手	行事日 [過去]	梅雨期に実施され期日は不特定					
昔は子ども達が川祭が済めばカッパが川に引き込まないと言って、喜んで川遊びが出来るので、川祭を待ち望んでいた。								
7	川床若宮神社夏祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	若宮神社	行事日 [過去]	8月8日 [旧7月8日]					
夏祭りは、川床若宮神社、山門野南方神社、汐見若宮神社と3社が同日連携して開催され、祭典は各神社ごとの総代会が主催し、奉納される郷土芸能、舞踊等は、各自治公民館ごと取り仕切って奉納されている。								
8	平尾のご八日踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	(平尾) 十五社神社	行事日 [過去]	毎年8月8日 [毎年8月7日～9日]					
十五社神社に総代4人がいる。神社における神事は神社総代が行う。集落は郷土芸能の上演などお祭りの伝統的役割において協力している。戦前は旧暦7月8日に行われていたが、戦後新暦の8月8日に行われるようになった。また、以前は7日は打ち鳴らしといって1度踊り、8日が本番、9日は庭収めといって、踊り納めの踊りを行った。								
9	浜漉のご八日踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	十五社神社	行事日 [過去]	毎年8月8日 [毎年8月7日～9日]					
神社における神事は神社総代が行う。集落は郷土芸能の上演などお祭りの伝統的役割において協力している。戦前は旧暦7月8日に行われていたが、戦後新暦の8月8日に行われるようになった。また、以前は7日は打ち鳴らしといって1度踊り、8日が本番、9日は庭収めといって、踊り納めの踊りを行った。								
10	蔵之元のご八日踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	(蔵之元) 十五社神社	行事日 [過去]	毎年8月8日 [毎年8月7日～9日]					
神社における神事は神社総代が行う。集落は郷土芸能の上演などお祭りの伝統的役割において協力している。戦前は旧暦7月8日に行われていたが、戦後新暦の8月8日に行われるようになった。また、以前は7日は打ち鳴らしといって一度踊り、8日が本番、9日は庭収めといって、踊り納めの踊りを行った。								
11	小浜のご八日踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	(小浜) 十五社神社	行事日 [過去]	毎年8月8日 [毎年8月7日～9日]					
神社における神事は神社総代が行う。集落は郷土芸能の上演などお祭りの伝統的役割において協力している。戦前は旧暦7月8日に行われていたが、戦後新暦の8月8日に行われるようになった。また、以前は7日は打ち鳴らしといって一度踊り、8日が本番、9日は庭収めといって、踊り納めの踊りを行った。								
12	指江のご八日踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	(指江) 十五社神社	行事日 [過去]	毎年8月8日 [毎年8月7日～9日]					
神社における神事は神社総代が行う。集落は郷土芸能の上演などお祭りの伝統的役割において協力している。戦前は旧暦7月8日に行われていたが、戦後新暦の8月8日に行われるようになった。また、以前は7日は打ち鳴らしといって一度踊り、8日が本番、9日は庭収めといって、納めの踊りを行った。								

29	カナヤマ踊り	存続状況	復活(15年前)	関連テーマ	8			
場所	紫尾地区(紫尾神社)	行事日[過去]	紫尾温泉まつり時(11月下旬頃) [旧7月29日紫尾神社大祭]					
平成27年度は、紫尾温泉まつりで(紫尾神社)9年ぶりに踊られたと言う。								
30	片平棒踊	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	紫尾地区(紫尾神社)	行事日[過去]	紫尾温泉まつり [紫尾神社]					
小才組の踊りといわれ、現在は紫尾小学校児童や地区の中学生が対象となり踊る。片平棒踊りは紫尾地区だけのものと言う。紫尾小学校児童が継承している。								
31	六月燈	存続状況	順調 (戦後復活)	関連テーマ	30			
場所	舟木地区(農業構造改善センター)	行事日[過去]	7月最後の日曜日[不明]					
32	多賀神社夏祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	時吉地区(多賀神社)	行事日[過去]	6月10日, 11月15日[不明]					
33	大野まつり	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	久富木地区(大野神社)	行事日[過去]	田植え前後[不明]					
34	北原飯富神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	久富木地区(北原公民館)	行事日[過去]	12月4日[不明]					
35	十五夜	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	湯田地区(湯之尾神社)	行事日[過去]	9月27日[不明]					
36	田の神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	二渡地区(国道267号線田の神像前)	行事日[過去]	11月8日[不明]					
37	霧島神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	虎居地区(霧島神社)	行事日[過去]	11月29日[同]					
38	轟原水天神社まつり	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	虎居地区(水天神社)	行事日[過去]	11月28日[不明]					
39	俵踊り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	柏原地区(物産品販売所自慢館)	行事日[過去]	自慢館収穫祭(11月下旬頃)[不明]					
40	女講	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	柏原地区(公民館)	行事日[過去]	不定日[同]					
41	十五夜祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	求名地区(求名公民館)	行事日[過去]	十五夜経過後の休日 [十五夜当日]					
42	秋津舞(アケスメロ)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	永野地区(永野小学校)	行事日[過去]	永野小運動会当日 [諏訪神社大祭当日]					
43	大石神社大祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	中津川地区(大石神社)	行事日[過去]	9月18日に近い日曜日 [9月18日]					
44	十五夜祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	永野地区(永野小学校)	行事日[過去]	十五夜を経過した休日 [十五夜当日]					

長島町

1	鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	18		
場所	宇上ノ丸川土手	行事日[過去]	1月7日 [同]					
昭和30年頃までは竹のササを鬼火にあぶり持ち帰って牛鳥のエサにすると元気な牛鳥が育つと言われていたが、今はそのことはない。昔から餌を焼いてエサにすることは今もかわらないが、平成になった頃からゼンザイ、やき魚、やき肉等ふるまうようになって集落の一大行事である。								

17	馬頭観音祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	山崎地区(馬頭観音)	行事日 [過去]	3月18日 [不明]					
民話等「さつま町のむかしばなし」に掲載されている馬頭観音であり(玄心玄参物語)、以前は郷土芸能などで賑わった。								
18	鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	18		
場所	久富木地区(園田橋麓)	行事日 [過去]	1月7日 [同]					
子ども育成会と共催。鬼火で焼いた餅、さつまいもを食べる。								
19	虎居夏まつり	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	虎居地区(えびす神社)	行事日 [過去]	7月第2土曜日 [同]					
神事後、子どもみこしを出し、その後公民館で演芸大会を催す。直会あり。								
20	田ノ神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	柏原地区(柏原公民館)	行事日 [過去]	各集落や門毎に実施(春、秋2回) [同]					
江戸時代から実施している。								
21	秋津島舞	存続状況	中断中	関連テーマ	8			
場所	柏原地区(南方神社)	行事日 [過去]	不定期 [同]					
昭和60年頃復活し、町民祭や公民館落成式等で踊られたと言うが、その後中断したため、現在再起のため協議中。								
22	疱瘡踊り	存続状況	中断中	関連テーマ	8			
場所	柏原地区(不明)	行事日 [過去]	不明					
中断されていた踊りを現集落で検討して復活を前提に協議中とのことであった。女性だけの踊りである。								
23	五月供養	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	神子地区(栗野公民館)	行事日 [過去]	7月の不定日 [同]					
現在、柏原地区の栗野、大俣、新田等の集落で実施。田植の際、多くの虫けらを殺したので、それを供養する僧侶を頼み説教してもらい、その後直会を行う。								
24	歳旦祭	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	神子地区(稲富神社)	行事日 [過去]	元旦 [同]					
以前は地区民総出で行われていたが、現在は地区主催により地区役員が参加して行われる。								
25	十五夜の綱引き	存続状況	順調	関連テーマ	25			
場所	鶴田地区(湯田原、櫛ヶ迫、上下大迫の各広場)	行事日 [過去]	旧暦の8月15日後の土か日曜日 [同]					
以前は大字区単位で、盛大に実施されていたが、現在は子どもの数も減少している等、小規模に小集落で実施している。神子地区では湯田原、櫛ヶ迫、上下大迫等で実施。								
26	保食祭・馬頭観音祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	鶴田地区(稲富神社)	行事日 [過去]	2月26日 [不明]					
以前は多くの有畜農家が盛大に実施していたが、現在は有畜農家はないので、地区役員が出席し、地区主催として実施している。								
27	幣舞い	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	紫尾地区(紫尾神社)	行事日 [過去]	紫尾温泉まつり時(11月下旬頃) [紫尾地区春の花見時(紫尾神社)]					
戦前はカナヤマ棒踊りとして踊られていたが、戦時中これが途絶えたため、昭和25年頃、婦人たちによってカナヤマの変形として踊られ始めた。								
28	浅山棒踊	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	紫尾地区(紫尾神社)	行事日 [過去]	紫尾温泉まつり時(11月下旬頃) [馬頭観音まつり]					
紫尾地区の浅山は、6尺棒を水平よりやや上に構え、3尺棒の相手に対し、切っ先杭をぐるぐるまわしながら目ん玉を突く所作があり、他の浅山と違って大変実践的と言う。伊佐市針持方面から伝播されたと言う。								

5	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	久富木地区(飯富神社)	行事日 [過去]	7月第1日曜日[不明]					
神事終了後、公民館で夕食会。なお、夏祭りは、8月23日。冬祭りは、12月3日に行う。								
6	御神幸祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	湯田地区(八幡神社)	行事日 [過去]	10月10日に近い日曜日[不明]					
この日、同時に例祭も執行される。								
7	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	湯之元地区(湯之尾神社)	行事日 [過去]	7月19日[不明]					
神社にて神事のあと、境内にてなおい(直会)を行う。								
8	現王神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	1	8		
場所	宮田地区(現王神社)	行事日 [過去]	11月24日[不明]					
祭りと同時に社殿前庭で火をたき、その煙を神事の中の本殿の中へ送り込む奇祭である。神事終了後公民館で直会を行う。								
9	祇園まつり	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	屋地地区(商店街)	行事日 [過去]	8月上旬[不明]					
現在は町商工会の夏祭りと共催する(町全体)。「あつくい」行事もある。								
10	鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	18		
場所	城之口集落(旧宮之城跡釈葉グラウンド)	行事日 [過去]	1月7日幕の内を過ぎて第1土曜日[同]					
7才児(そのときの干支の子)が火をつける習慣あり。								
11	水神様まつり	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	屋地地区(宮都大橋上流)	行事日 [過去]	4月の第三日曜日[不明]					
子どもの成長を祈り、水難事故を防止、川の氾濫を防ぐ目的の水神様祭り。男性は白い袖を作り、自分の名前を言いつつ奉納する。女性は赤い袖を作り、自分の名前を言いつつ奉納する。昔は郷土芸能や相撲を行った。								
12	新田井手溝補修作業	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	二渡地区(神田井手溝水路周辺)	行事日 [過去]	第1回: 5月第1日曜日[不明]					
享保13年(1716年)から三カ年にわたり、開発された延長6kmの灌漑水路である。以来300年毎年草刈り浚渫補修を続けている。現在60ヘクタールの水田を潤している。								
13	郷土芸能奉納祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	二渡地区(南方神社)	行事日 [過去]	8月25日[不明]					
当神社の例祭は年4回行われる。第1回、2月25日。第2回、4月25日。第3回、7月25日(六月燈)。第4回、8月25日(3年毎の芸能奉納祭)。								
14	田の神講	存続状況	順調 復活 (22年前)	関連テーマ	17			
場所	二渡地区(営農研修館)	行事日 [過去]	11月最初の日曜日 [11月最初の丑の日]					
鹿兒島独特の田の神信仰。さつま町で最も古い田の神像は、享保4年の刻記がある。町内各地で行われている。								
15	恵比寿講 六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	二渡地区(二渡清流館)	行事日 [過去]	7月第1土曜日[不明]					
神事の後清流館で直会を開く。会場は子どもたちが作った灯ろうを飾り、六月燈も兼ねる。								
16	飯富神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	山崎地区(飯富神社)	行事日 [過去]	8月9日[同]					
六月燈は約400年前薩摩藩主19代島津久光公が観音堂を建立した際、たくさんの灯ろうを付けさせたのが始まりとされる。さつま町内各集落で行われている(小規模)。								

135	江石集落のえびす祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	上甌地区江石集落(えびす神社)	行事日 [過去]	旧暦の11月1日に近い土曜日か日曜日 [旧暦11月1日]					
準備は、集会所で行い、1日目は餅洗い、2日目は餅つきを行う。お祭り当日は神主による神事はなく、役員で恵比寿神社に奉納する。その後、約30艘の船で漁船パレードを行い、海岸で餅投げをする。その後地区の住民で親睦会を行う。								
136	小島・瀬上集落のえびす祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	上甌地区小島・瀬上集落 (甌島漁協蒲内主張所) ※漁協の合併により名称変更	行事日 [過去]	旧暦11月3日 [同]					
漁協の浦内出張所前の旧県道を挟んだ正面の法面に、恵比寿様(自然石)を安置した小さな祠がある。漁協職員により準備がなされ、この浦内出張所の広場で漁業関係者の参列で神事が執り行われる。								
137	中甌のえびす祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	上甌地区中甌集落(蛭子神社)	行事日 [過去]	旧暦11月3日 [同]					
漁協職員により準備がなされ、漁業関係者の参列で神事が執り行われる。祭事の終了後、直会が行われる。								
138	恵比寿神社のえびす祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	上甌地区平良集落(恵比寿神社)	行事日 [過去]	旧暦11月3日 [同]					
漁協職員により準備がなされ、漁業関係者の参列で神事が執り行われる。特徴 他の集落の「えびす祭り」では、10数人の男性の漁業関係者の参列だけで終わるが、平良地区の「えびす祭り」は、子どもやお年寄りが見学に訪れ賑わいを見せている。また、漁協婦人部により作られた、「花ごんごん」と「ごんもんじい」は、祭事の終了後、見学の地域住民に配られる。								
139	平良のえびす担ぎ	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	上甌地区平良集落(弁慶の浜海岸)	行事日 [過去]	旧暦10月10日 [同]					
えびす担ぎの順序は、くじびきで、海中の石を拾う「取り手」と、取った石を抱く「抱き手」の役割を決める。山から湧く清水で体を清める。海中の石を拾い、祠までその石を抱いて行く。2か所の祠に納める、「男エビス」「女エビス」とする石、計4個を拾う。取り手は目隠しで石を拾い、抱き手は、その石の姿、形が分からないように布等でくるんで祠に運ぶ。運んだ石は祠に納め、1年間の守り神として、安置される。								
140	中甌の十五夜	存続状況	順調	関連テーマ	25			
場所	上甌地区中甌集落(臨港道路)	行事日 [過去]	8月15日 [旧暦8月15日]					
早朝から綱引き用の綱練りと、甌島神社境内にある土俵作りを行う。小中学生による奉納相撲があり、夜は地区対抗そして男女対抗戦による綱引きが行われる。								

さつま町

1	船木区豊年祭	存続状況	順調 復活 (戦後)	関連テーマ	17			
場所	舟木地区(農業構造改善センター)	行事日 [過去]	10月中旬[同]					
3年毎伝統芸能披露 三本矢旗踊。髭踊り。一本矢旗踊り。棒踊り。								
2	もぐら打ち	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	舟木地区(船木西公民館)	行事日 [過去]	1月14日[不明]					
集落各戸を廻りもぐら打ち棒で庭の廻りをたたく。豊作と安産を祈願する。								
3	お供養どん祭り	存続状況	順調	関連テーマ	6			
場所	時吉地区(富岡城跡)	行事日 [過去]	5月, 12月[不明]					
昔は伝承している2戸持ち回りで開催していた。祭り終了後直会あり。								
4	田の神講	存続状況	順調	関連テーマ	17	18		
場所	久富木地区(公民館)	行事日 [過去]	田植え前後[不明]					
子どもたちが藁つとに包んだ餅を田の神像に供える。終わって公民館で直会となる。								

126	里地区の除夜祭・歳旦祭	存続状況	復活(7年前)	関連テーマ	18			
場所	里地区(八幡神社境内)	行事日[過去]	12月31日, 1月1日 [同]					
祭りの準備は、31日の午前中、八幡神社等運営委員で八幡神社の他、町内に散在している各神社の掃除をし、国旗や門松、注連縄などを飾り正月を迎える準備を行う。その他 年が明けるとお神酒や、しとぎを初詣の参拜者に振舞う。最近では境内で青年団による餅つきが行われ、ぜんざいが参拜者に振る舞われる。								
127	里地区の伊勢講祭り	存続状況	復活(7年前)	関連テーマ	29			
場所	里地区(八幡神社境内)	行事日[過去]	10月第4火曜日 [旧暦9月11日]					
祭りの準備等は、八幡神社等運営委員で行っている。境内の掃除、供え物などの準備を行う。当日は、八幡神社祭りに併せて、本祭の翌々日に行われる。参列者は八幡神社の運営委員のみで、神事が執り行われる。								
128	里八幡神社の内侍舞	存続状況	順調	関連テーマ	11			
場所	里地区(八幡神社境内)	行事日[過去]						
里八幡神社は薩摩川内市の新田神社から分祀された神社とされ、この分祀時に伝わったようだ。1日目の舞は、午後6時以降から始まり、右手に鈴を持ち、それを目の前の高さに突き出すようにし、一方左手は肩をつまむようにして反時計回り、または時計回りに四角く一巡する舞を約20分踊る。2日目も朝早く同じ舞と祭事が繰り返される。								
129	里地区のえびす祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	里地区(えびす神社)	行事日[過去]	11月第4土曜日 [旧暦11月3日]					
漁協職員により準備がなされ、漁業関係者の参列で神事が執り行われる。祭事の終了後、直会が行われる。キビナゴ漁師会が中心となり、大漁旗を掲げて漁船パレードが行われ、船から餅投げをする。								
130	カズラタテ	存続状況	存続危機	関連テーマ	25			
場所	里地区内	行事日[過去]	8月13日 [旧暦8月15日]					
準備は、3自治会が持ち回りで実施している。当日の朝、自治会員が総出で山にカンネンカズラを取りに行く。その後、カズラを直径約15cm、長さ70m～100mの大綱にする。カズラでつなぎ合わせた大綱を、町内を持ちながら練り歩く。大綱の先頭には大漁旗やのぼりを立て、タスキ掛けで化粧をした踊り手が、鉦や太鼓、ホラ貝の音に合わせて踊る。大綱を大蛇に、踊り手をカエルに見立てている。大綱を投げたり、一重に巻いて、その中で踊り手を踊らせたり、また広場では蛇がとぐろを巻くように綱を巻き、巻いたカズラの上で踊り手が踊る。等々素朴で奇妙な行事である。以前は子どもだけ、また青年団が行っていた。								
131	磯餅焼き	存続状況	存続危機	関連テーマ	18			
場所	里地区(里小学校前の海岸)	行事日[過去]	1月第2土曜日 [旧暦1月16日]					
子どもたちは、海岸で玉石を並べて「かまど」を作り、自宅から持ってきた餅を瓦の上で焼いて食べる。海岸で餅を焼いて食べるだけのことだが、1つの儀礼がある。餅を食べる前に、海に向かっての儀礼がある。「オーミン(海) 竜宮様、オーミも泳がっしゃれ(海も泳がして下さい)、ミナも取らっしゃれ(貝も取らして下さい)、イオも釣らっしゃれ(魚も釣らして下さい) オイガダンダーギ(私の脇の下の高さ)」と願いを込めて餅を海に投げる風習がある。以前は子どもだけの行事であった。少子化によりこの行事がなくなる恐れが出てきたため、学校行事に組み入れ、そして老人クラブの指導を得て行われている。								
132	上甌地区の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	18		
場所	上甌地区中甌集落(太田浜海岸)	行事日[過去]	1月7日 [同]					
オナフキまたはオナヒキジョーという。								
133	江石集落の鬼火焚き	存続状況	存続危機	関連テーマ	1	18		
場所	上甌地区江石集落(海岸近くの広場)	行事日[過去]	1月7日 [同]					
準備は、山から切り出した松の木を真ん中に据え付け、その周りには焚き付け用のへゴ、そして門松を積み重ねる。地域住民が総出で準備する。特徴として、松の木の先端に御幣を飾る。御幣に火が付くと歓声上がる。以前は、2地区で行い、競争をしていた。御幣に早く火が付いた方が負けになるので、なるべく高い松の木を用意していた。								
134	平良集落の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	18		
場所	上甌地区平良集落(岩屋海岸)	行事日[過去]	1月7日 [同]					
準備は、山から切り出した松の木を真ん中に据え付け、その周りには焚き付け用のへゴ、子どもたちが集めた門松、そしてこれも山から伐採したウバメガシの枝を積み重ねる。少子化により地域総出で取り組んでいる。特徴として、松の木の先端に御幣を飾る。これは江石地区の鬼火たきと同じである。参加者は鬼火たきが終わると、ウバメガシの枝に御幣を飾った「ボーボー」を持ち帰り、神棚に飾る。また、以前は、平良港の傍にある愛宕神社と水神さんの2か所に作り、燃え方の競争をしていた。								

114	鹿島地区のほら貝吹き	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	鹿島地区内	行事日 [過去]	1月7日 [同]					
子どもたちはこの日のためにホラ貝を保存しておき、7日にホラ貝を吹き鳴らす。悪霊退散と新しい年の幸運を願う行事。7日早朝に行く。								
115	鹿島地区の花祭り	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	鹿島地区 (徳船寺)	行事日 [過去]	4月7, 8前後の土日 [同]					
各自弁当を持参、御座で集まって伝典などを朗読し、1日を楽しく過ごす。昭和24年に再興。当日(4月8日)にお寺で灌仏会の後、積尊の御堂を先頭に、美しく着飾った稚児の行列が村内を練り、村民は順路に待ち受けて御堂を拝し、稚児行列に拍手を送ってこの行事を祝している。同時に敬老会も開催する。								
116	鹿島地区の恵比須神社祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	鹿島地区 (恵比須神社)	行事日 [過去]	9月中 [同]					
海上安全、豊漁を祈願する。								
117	青瀬地区の三月の節句	存続状況	順調	関連テーマ	20			
場所	青瀬地区 (瀬尾漁港)	行事日 [過去]	旧暦3月3日 [同]					
大漁を願いえびす神社に祈願する。祝宴・神事・船団パレード・餅投げを行う。								
118	青瀬地区の十五夜	存続状況	順調	関連テーマ	25			
場所	青瀬地区 (青瀬海岸)	行事日 [過去]	中秋の名月の日 [同]					
浜に土俵を作り、子ども相撲・綱引きを行う。								
119	敷塩神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	長浜地区 (敷塩神社)	行事日 [過去]	11月3日 [10月27日]					
昭和初期から戦後10年くらいは、10月27日の開催であったが、その後、文化の日に執り行うようになった。								
120	メッコウダシ	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	瀬々野浦集落内	行事日 [過去]	1月14日 [同]					
ハラメボウと呼ばれる木の棒を男児が持って、女兒や若い女性を叩く行事。翌日に男児が耳を引っ張られる仕返しがある。								
121	里地区の山の神神社祭	存続状況	復活 (7年前)	関連テーマ	27			
場所	里地区 (山の神神社境内)	行事日 [過去]	10月第4火曜日 [旧暦10月16日]					
準備 祭の座準備等は、八幡神社等運営委員会で行っている。境内の掃除、幟立て、供え物などの準備を行う。 ※ 八幡神社祭に併せて、本祭の翌々日に行われる。19の小組合の代表者が参列し、神事が執り行われる。 ※ その他 小組合の代表者は、お神酒を1本ずつ奉納する。以前は、祭りに奉納したお酒を小組合に持ち帰って、「山ん講」と称する親睦会を行っていた。最近、その催しは無くなった。								
122	里地区の田の神祭り	存続状況	復活 (7年前)	関連テーマ	17			
場所	里地区四十田集落 (宇四十田にある田の神石像前)	行事日 [過去]	7月第3日曜日 [旧暦8月15日]					
祭りの準備等は、当日八幡神社の運営委員で行っている。参列者も運営委員だけである。								
123	里地区の愛宕神社祭り	存続状況	復活 (7年前)	関連テーマ	9			
場所	里地区 (愛宕神社)	行事日 [過去]	7月第3日曜日 [旧暦6月24日]					
祭りの準備等は、当日八幡神社の運営委員で行っている。参列者も運営委員だけである。								
124	里地区の権現祭り	存続状況	復活 (7年前)	関連テーマ	27			
場所	里地区 (八幡神社、供物は山頂の祠)	行事日 [過去]	7月第3土曜日 [旧暦6月15日]					
以前は、山頂で祭りを行っていた。現在は、当日八幡神社の運営委員が祠の周りの清掃、国旗や幟を掲げ、供物などの準備を行う。準備が整うと同時に、麓の八幡神社で神事を執り行っている。								
125	里地区の戸波白祭り	存続状況	復活 (7年前)	関連テーマ	9			
場所	里地区 (八幡神社境内)	行事日 [過去]	7月第3土曜日 [旧暦6月15日]					
祭りの準備等は、当日、八幡神社の運営委員で行っている。参列者も運営委員だけである。								

101	青瀬神社の秋季例祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	青瀬地区(青瀬神社境内)	行事日 [過去]	毎年11月3日奉納 [同]					
地区の安全祈願と戦没者の慰霊を行う。例大祭・招魂祭・ヤンハ踊り奉納・祝宴・紅白餅配布。								
102	瀬々野浦集落の夏祭り	存続状況	順調	関連テーマ	19			
場所	瀬々野浦集落(恵比寿神社)	行事日 [過去]	8月10日 [同]					
海上安全、豊漁を祈願する。小中学生が神輿を担ぎ、瀬々野浦の通りを練り歩く。その後船団パレードを行う。								
103	大帯姫神社祈願祭	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	瀬々野浦集落(大帯姫神社)	行事日 [過去]	2月17日 [同]					
五穀豊穣の祈願を行う。								
104	大帯姫神社秋季大祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	瀬々野浦集落(大帯姫神社)	行事日 [過去]	11月10日 [同]					
豊年満作のお祝い、お礼をする。								
105	手打地区の十五夜の節句	存続状況	順調	関連テーマ	25			
場所	手打地区(手打海岸 最近は県道)	行事日 [過去]	旧暦8月15日 [同]					
カズラを取りに行き、手綱を作り、月が出る頃に綱引きをする。子どもの士気高揚を図るため、毎年行われていたが、近年、海岸狭小のため県道で行っている。								
106	手打地区の八朔節句	存続状況	順調	関連テーマ	12			
場所	手打地区(集合所や海岸、川辺)	行事日 [過去]	旧暦8月1日 [同]					
男児は相撲や泊まり番をする。女兒は、火タキマーモーを行い、料理を作る遊び。男児の行事は、近年実施されていない。								
107	手打地区のさなぼい	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	手打地区(各家の庭やお墓)	行事日 [過去]	植え付け終了時 [同]					
田植えやいも植えの終了時に墓参りや家庭で祝う。五穀豊穣を祈願し、各家庭で行っている。								
108	手打地区の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	18		
場所	手打地区(手打海岸)	行事日 [過去]	1月7日～11日の間 [1月7日早朝]					
ホラ貝を吹き鳴らしながら鬼追いの焚火をする。								
109	手打地区の三月の節句	存続状況	順調	関連テーマ	20			
場所	手打地区(山や磯)	行事日 [過去]	3月3日～月末の間 [同]					
山や磯などに遊びに行く。現在は海岸や集会所に集まって、弁当やカマボコ等をつくり、年に1度家族総出で遊ぶ。								
110	鹿島地区の報恩講	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	鹿島地区(徳船寺)	行事日 [過去]	11月末～12月初めの土日など [同]					
1週間の間、寺では朝昼夕の3回供養の読経があり、参集の信徒にお伽(仏に相反する食事)が供せられた。その間、信徒は喪に服し、家庭で精進料理を食べ、命日(28日)の前の晩は御通夜と称して夜遅くまで寺に籠り、読経や法話などを聞いて過ごす。現在は4日間のお勤め。希望する家庭のみ行う。								
111	蛭子祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	手打地区(蛭子神社境内)	行事日 [過去]	4月10日(4月の土日に実施) [同]					
港ヤンハ奉納や船団パレード、餅投げ、神輿担ぎなどを行う。								
112	蛭子神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	手打地区(恵比寿神社境内)	行事日 [過去]	1月2日 [同]					
航海、操業の安全及び大漁を祈願しての祭り。行事の発祥は不明。								
113	蛭子神社の祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	手打地区(恵比寿神社境内)	行事日 [過去]	10月15日に近い日曜日 [同]					
豊作大漁を祈願する。								

90	鳥丸地区の十五夜綱引	存続状況	順調	関連テーマ	25			
場所	鳥丸地区(鳥丸西公民館)	行事日[過去]	9月27日 [旧暦8月15日]					
子どもたちが、家を回り、供物の菓子、食物を集める。以前はわからないよう物去ったが、現在はあいさつと話を交わす。老人は、子どもの来宅を待っている。公民館で全員で分ける。生徒数29人、参加者120人位。								
91	藤川地区の十五夜	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	藤川地区(藤川地区コミュニティセンター)	行事日[過去]	9月27日 [旧暦8月15日]					
地区内の農家よりわらを集める。地区民の協力を得て、綱打ち。当日子どもが供物をもらいに回る。持ち帰っただんごや食物、菓子を食べる。特認校であったため、校区外の人も参加する。								
92	藤川地区の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	18		
場所	藤川地区(旧藤川小校区内)	行事日[過去]	1月10日 [同]					
地区民の協力により、年末竹やぐらを作る。子どもは、餅と豚汁、大人はビール。今年は消防団の参加を得た。								
93	藤川地区の山神講	存続状況	順調	関連テーマ	27			
場所	小鷹集落(小鷹自治会館)	行事日[過去]	1月10日 [同]					
現在は、田の神講と山神講は同時に行っている。神事を行う。								
94	藤川地区の田の神講	存続状況	存続危機	関連テーマ	17			
場所	小鷹集落(小鷹自治会館)	行事日[過去]	12月6日 [同]					
各戸持ち回りであったが、公民館で形式だけの祭りとなった。								
95	藤川地区中津俣の田の神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	中津俣集落(中津俣自治会館)	行事日[過去]	10月下旬 [同]					
以前は手踊りがあった。米、焼酎をお供えし、田の神様の化粧をする。以前は米を集めて餅つき、当番の家で煮しめ、里芋田楽、トーフと野菜の和え物等を作っていた。餅はワラツトに入れ田の神様に供えていた。								
96	藤川地区中津俣の初講・山神講	存続状況	順調	関連テーマ	17	27		
場所	藤川地区中津俣集落(中津俣自治会館)	行事日[過去]	1月中旬 [同]					
自治会の集会の祭に、初講、山神講として米、焼酎を供え、弁当を会員で食べる。								
97	藤川地区中津俣の彼岸講	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	藤川地区中津俣集落(中津俣自治会館)	行事日[過去]	9月、3月 彼岸の中日 [同]					
彼岸の中日に公民館で行う。以前は、集落内に読経をする人がいたが、10年くらい前からお経のテープを聴き、その後、参加者でお茶会。								
98	手打地区の船祝い	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	手打地区(手打港)	行事日[過去]	1月2日 [同]					
船の安全や豊漁を祈願して船団パレードを行う。								
99	手打地区麓の愛宕祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	手打地区麓集落(愛宕神社、原崎家)	行事日[過去]	旧暦9月15日 [同]					
五穀豊穡を祈願して行う。茶田地域の原崎家だけで親族が集まって食事をする。								
100	新田神社の秋季例祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	手打地区(手打新田神社境内)	行事日[過去]	10月中旬 [同]					
招魂祭、慰霊祭が行われる。奉納される郷土芸能については、本町太鼓踊り、本町棒踊り、港ヤンハの3つのうちの一つを毎年順番に奉納しているほか、市指定文化財の武士踊りが3年に一度奉納されている。								

78	現王神社祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	藤川地区(菅原神社)	行事日[過去]	12月1日 [同]					
供え物として米, 注連縄, 榊を自作で準備しする。昔は料理も全て自作で準備していた。菅原神社内で実施する。								
79	藤川馬頭観音祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	藤川地区(菅原神社)	行事日[過去]	7月18日 [同]					
供え物として米, 注連縄, 榊を自作で準備しする。昔は料理も全て自作で準備していた。菅原神社内で実施する。								
80	菅原神社大祭	存続状況	順調	関連テーマ	27			
場所	藤川地区(菅原神社)	行事日[過去]	2月25日, 4月4日, 9月25日 [同]					
供え物として米, 注連縄, 榊を自作で準備しする。50年くらい前は氏子の手料理があった。菅原神社内で実施する。								
81	紫尾神社の馬頭観音祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	鳥丸地区(紫尾神社)	行事日[過去]	7月18日 [6月18日]					
昔, 血出講, 棒踊, にわか寸劇等していた。牛の面で田作や牛の売買の場面。								
82	紫尾神社 軍神社例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	鳥丸地区(軍神社・紫尾神社)	行事日[過去]	3月21日 [同]					
軍神社で神社係, 地区役員で祭礼の後, 紫尾神社で祭礼。コミセンで直会。								
83	鳥丸区 神社例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	鳥丸地区(軍神社・紫尾神社・菅原神社)	行事日[過去]	9月21日 [同]					
軍神社で祭礼後, 紫尾神社で祭礼。その後, 直会。								
84	鳥丸軍, 紫尾神社 大祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	鳥丸地区(軍神社・紫尾神社)	行事日[過去]	12月21日 [同]					
軍神社で祭礼後, 紫尾神社で祭礼。その後, 直会。								
85	山田地区の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	17		
場所	山田地区(旧山田小学校前の田)	行事日[過去]	1月10日 [同]					
年末に地区民の協力により竹やぐら作成。当日, 餅, いわし, ししゃもを焼いて食べる。								
86	山田地区の十五夜	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	山田地区(山田地区コミュニティセンター)	行事日[過去]	9月27日 [旧暦8月15日]					
地区の協力を得て, わらは農家提供, 綱作りも地区民の指導の下, 育成会員で作る。子どもは2班に分かれ, 供物をもらいに行く。家庭より持ち寄っただんごや集めたお菓子を食べる。								
87	南瀬地区の十五夜綱引き	存続状況	順調	関連テーマ	25			
場所	南瀬地区(旧南瀬小学校)	行事日[過去]	10月4日 [旧暦8月15日]					
地区の安全祈願と戦没者の慰霊を行う。例大祭・招魂祭・ヤンハ踊り奉納・祝宴・紅白餅配布。								
88	南瀬地区の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	18		
場所	南瀬地区(旧南瀬小学校前の田)	行事日[過去]	1月10日 [1月7日]					
40年くらい前までは, 各家の門松に割木を3本位ずつ立てかけてあり, 鬼火たきに集めていたが, 現在は門松が少なくなり割木もない。育成会で孟宗竹によるやぐらを作っている。ぜんざいと焼き餅を食べる。								
89	鳥丸地区の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	18		
場所	鳥丸地区(鳥丸西公民館)	行事日[過去]	1月10日 [同]					
火で餅を焼き, 一年の無病息災を祈る。以前は鳥丸3地区別々で行っていたが, 最近では鳥丸西公民館でまとまって行う。								

67	霧島神社大祭の諏訪祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	南瀬地区(霧島神社)	行事日 [過去]	8月26日 [同]					
以下6件 (No.67～72) の神社祭事は、神社係各集落1人と地区役員2人の10人を実行役員として開催し、餅、野菜(キャベツ)、バナナ、鯛2匹、米、塩、焼酎をお供えする。 諏訪祭では餅は25個供える。								
68	霧島神社大祭の霧島祭(9月)	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	南瀬地区(霧島神社)	行事日 [過去]	9月15日 [同]					
餅35個供える。小学校1年生の男の子上、下方限より2名による刀合わせと相撲を取る。勝負は交替する。								
69	霧島神社大祭の新嘗祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	南瀬地区(霧島神社)	行事日 [過去]	11月26日					
餅25個供える。								
70	霧島神社大祭の八幡祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	南瀬地区(霧島神社)	行事日 [過去]	12月15日 [11月15日]					
赤飯2バック、甘酒を通常のお供え物に加える。 以前は神の小枝を係が取りに行き、戸数3本ずつ、約1,000本を準備していた。現在は神社周りに植樹したものから500本準備する。しめ縄、幣を作成する。								
71	霧島神社の初午祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	南瀬地区(霧島神社)	行事日 [過去]	2月初午の日 [同]					
初午の日に行う。30年くらい前から県下一周駅伝大会の中継地。南瀬小前にて初午だんご400バックを準備し、観客、各地選手、報道、警察等に配布する。								
72	霧島神社大祭の霧島祭(2月)	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	南瀬地区(霧島神社)	行事日 [過去]	2月17日 [同]					
餅25個供える。								
73	霧島神社 馬頭観音祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	南瀬地区(霧島神社)	行事日 [過去]	3月18日 [同]					
畜産農家持参のシュロの葉にくるんだ「しとき」は他人の物を持ち帰る風習あり。染を作る。								
74	南瀬上方限太鼓踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	南瀬地区(霧島神社諏訪祭奉納後南瀬小学校校庭)	行事日 [過去]	秋の地区振興大会(隔年) [8月26日諏訪祭 敬老会]					
町指定後、明治100年を祝して町主催の芸能大会参加。その後、途切れていたが復活し、地区振興大会の祭、神社で奉納踊りの後、道楽をたたきながら校庭に向かい、地区民に公開。以前の資料等は民家火災(3年前)により消失。								
75	南瀬下方限太鼓踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	南瀬地区 (霧島神社諏訪祭奉納後南瀬小学校校庭)	行事日 [過去]	秋の地区振興大会(隔年) [8月26日諏訪祭 敬老会]					
上方限と同じ。敬老会でも公開していたが、地区振興大会で公開、隔年開催。これに上方限と交替公開で4年に1回となる。								
76	山田地区の諏訪神社馬頭観音祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	山田地区(諏訪神社)	行事日 [過去]	4月18日 [同]					
馬頭観音祭も同時開催。山田地区コミュニティセンターで直会。								
77	藤川山林山神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	27			
場所	藤川地区(藤川山林事業所の会社前)	行事日 [過去]	旧暦2月、6月、10月の16日 [同]					
明治初期、島津藩の山林を払い下げとなり日産農林が買い受けた以後、山神祭として続く。社員、雇人、地区民参加。								

56	司野神社大祭の夏祭り	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	司野集落(司野神社)	行事日 [過去]	7月第2日曜日 [7月15日]					
清掃, 神事後, 公民館で弁当により直会。								
57	司野神社大祭の八幡祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	司野集落(司野神社)	行事日 [過去]	12月第2日曜日 [12月1日]					
清掃, 神事後, 公民館で弁当により直会。								
58	松尾神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	五社上集落(松尾神社)	行事日 [過去]	12月第1日曜日 [12月15日]					
団地があり戸数が多いが, 従前の集落民は少なく, 高齢化により神事も簡略化。班長と係で維持している。								
59	妙見宮例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	9			
場所	斧淵地区(妙見神社)	行事日 [過去]	12月第2日曜日 [12月18日]					
東郷小正門に鳥居, 校庭より10m位の位置にある。								
60	斧淵地区の諏訪神社大祭の太鼓踊り	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	斧淵地区(諏訪神社)	行事日 [過去]	2月18日, 8月28日, 11月24日(新嘗祭) [同]					
神事終了後, 直会を実施する。								
61	山田地区の諏訪神社大祭の春の大祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	山田地区(諏訪神社)	行事日 [過去]	4月18日 [同]					
馬頭観音祭も同時に行う。棒鎌踊りを奉納する。								
62	山田地区の諏訪神社大祭の秋の大祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	山田地区(諏訪神社)	行事日 [過去]	9月11日 [同]					
自作の野菜等をお供えし, 神事を行う。太鼓踊りを奉納する習わしであったが, 現在はなくなった。								
63	山田地区の諏訪神社大祭の新嘗祭・氏神祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	山田地区(諏訪神社)	行事日 [過去]	12月14日 [同]					
自作の野菜等をお供えし, 神事を行う。山田地区コミュニティセンターにて直会。太鼓踊りを奉納していたが, 近年小学校校庭での公開だけになっている。								
64	浄久寺元旦会	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	斧淵地区(浄久寺本堂)	行事日 [過去]	1月1日 [同]					
総代9人, 仏教婦人会35人, 集落代議員46にて実施する。								
65	浄久寺初参式	存続状況	順調	関連テーマ	-			
場所	斧淵地区(浄久寺本堂)	行事日 [過去]	5月1日 [同]					
1月16日御正當・法座, 2月春の永代経法座, 3月春の彼岸会, 8月盆法要, 9月秋の彼岸会, 10月秋の永代経法座 12月31日除夜会, 鐘つき。								
66	等流山浄久寺 報恩講	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	斧淵地区(等流山寺本堂)	行事日 [過去]	11月12, 13日 [同]					
野菜等をお供えし, おとしき弁当を配布する。								

46	小路庖瘡踊り	存続状況	復活(1年前)	関連テーマ	15	29		
場所	小路集落(小路自治会館)	行事日[過去]	毎月2回の練習を実施している [古くは天然痘が発生時]					
寛政2年(1970)天然痘が流行し踊られていた。明治19年を最後に祝い事やイベント等で踊られるようになった。小路集落の庖瘡踊りが、いつから踊られなくなったかは不明だが、平成26年から復活を実現しようと月2回の練習をしている。								
47	諏訪神社大祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	元村集落(諏訪神社境内)	行事日[過去]	8月28日に近い日曜日 [旧暦7月28日]					
藩政時代にゴフラク(御法楽)と称した諏訪神社の大祭日が毎年(旧暦の)7月28日で、この日に太鼓踊を奉納すべく門農家に義務付けられていたことによる。現在でも旧入来町内の太鼓踊等が神事の後に奉納されている。島津義弘が家臣に習得させ、薩摩に持ち帰り、華やかな衣装で踊りながら地区内の神社を回ることから田楽念仏踊りの類の芸能とみる説等があるが、各地で独特の文化が育まれ、現在は祖先を祭り、五穀豊穰を祈る行事として親しまれている。以上のような歴史の背景のもと、副田楽下手一本矢旗太鼓踊りも始まったとされている。								
48	入来神舞奉納祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	中須集落(大宮神社)	行事日[過去]	11月23日・12月31日～1月1日[同]					
例大祭の数ヶ月前から土・日曜日の夜に練習を行っている。新会員の確保、後継者育成を図り、継承に努めている。12人剣舞君が代はと朗読され、国歌の発祥とされている。								
49	金山踊(諏訪神社例祭奉納)	存続状況	復活	関連テーマ	8			
場所	中須集落(中須自治会館)	行事日[過去]	毎年8月28日に近い日曜日 [8月28日]					
3年前に復活し、市内のイベント等依頼がある時は、出演を実施している。元村の諏訪神社への奉納及び大宮神社奉納。								
50	鷹ノ子神社奉納祭(大馬越太鼓踊奉納)	存続状況	復活	関連テーマ	8			
場所	大馬越集落(山之口自治会館)	行事日[過去]	毎年9月28日に近い日曜日 [旧暦7月28日]					
3年前に復活し、市内のイベント等依頼がある時は、出演を実施している。元村の諏訪神社への奉納及び大宮神社奉納。								
51	雛女講	存続状況	復活 (平成26年)	関連テーマ	12			
場所	清色地区麓集落(重要文化財:旧増田家住宅)	行事日[過去]	毎年3月第1日曜日 [3月3日(雛祭り)]					
入来独特の行事だろうか。幼女から小学生女兒がそれぞれにお重箱にお菓子を詰めて、雛壇の前でお互い持ち寄ったお菓子を「かえんそや」といいながら交換する行事。								
52	山下太鼓踊り	存続状況	復活	関連テーマ	8			
場所	山下集落(山下自治公民館)	行事日[過去]	8月28日に近い日曜日 [旧暦7月28日]					
諏訪神社大例祭後、町内を巡り披露している。								
53	元村鉦踊り	存続状況	存続危機 (平成23年復活)	関連テーマ	9			
場所	元村集落(諏訪神社)	行事日[過去]	8月28日に近い日曜日 [旧暦7月28日]					
奉納日は、(元村)諏訪神社の大祭日(8月28日に近い日曜日)。奉納する芸能は、太鼓踊り、金山踊り、手踊りなど。太鼓踊りの奉納は、現在「元村」、「下手」、「朝暘」、「大馬越」の4地区保存。太鼓踊りの奉納の準備 各保存会は、奉納日の約1、2か月前頃から練習や衣装・装具の準備を行い、当日を迎える。大祭日の奉納踊りは、諏訪神社での奉納を皮切りに、旧入来町内で地域住民への踊りの披露を行っている(各保存会は、終日、太鼓踊りの奉納・披露を行っている)。								
54	舟倉集落の恵比須祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	舟倉集落(町中心部えびす神前)	行事日[過去]	7月21日(海の日祝日) [7月25日]					
8回移転。神体石像のみで移転。会員制で25、26人くらいで会食。								
55	五社神社例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	17	9		
場所	五社下集落(五社神社)	行事日[過去]	10月18日 [同]					
神様田で稲作をしていたが途絶。中世薩摩の雄、渋谷一族を祭る。								

37	田の神戻し	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	藪牟田地区麓集落(公民館他)	行事日[過去]	4月10日 [同]					
<p>麓(東・西)の両自治会の田の神戻して、田の神(60cm程の石像)の鎮座先は新婚宅であったが、平成26年から公民館に変わった。団員(男)は朝8時から公民館に集合し、田の神に化粧を施す。田の神を運ぶ花籠の製作をする。花籠は竹で作られ、その周りに季節の花を飾る。田の神の頭に小豆を混ぜた餅を載せ、焼酎をお供えする。昼過ぎに、団員12人は田の神の化身になるべく、女ものの浴衣と黒の袴を着け、地下足袋を履き、色とりどりのたすきを、背中に原色の布をつけ、誰か分からぬように顔にはへぐろ(すすと油を混ぜたもの)を塗り、麦わら帽子を風呂敷できつく締め、1mのしゃもじを持つ。昼から田の神を新田のレンゲが咲きほころぶ田んぼへ、ホラ貝や鉦の音が鳴り響く中、連れて行く。鎮座した田の神の周りを化身たちはそれぞれおもしろおかしく飛び跳ねる。終わったら見物客にすずを塗って回る。すずを塗られた人は、無病息災に過ごせるとの言い伝えがある。踊りは、校区2、3カ所を踊り回り、夕方、今年の宿(公民館)に戻り、鎮座する。庭で最後の舞を奉納する。自治会員には、各戸に祝餅を2個ずつ配られる。そして酒宴となり、祭りが終わる。</p>								
38	日枝神社合祀祭(砂石自治会)	存続状況	存続危機	関連テーマ	9			
場所	藪牟田地区(日枝神社)	行事日[過去]	8月22日 [旧暦6月18日]					
<p>日枝神社の神事が終わり、太鼓踊りが奉納される。砂石の太鼓踊りの格好は、厚手の鉢巻、浴衣、袴、ふんどし、兵児帯、足袋を履き、背に3本の矢旗を背負う。鉦は一番、二番と称し、打ち方は、ズスキャンなどと口伝えされている。ズスは太鼓、キャンは鉦である。鉦8人、太鼓12人が最低人数である。踊りは、鉦太鼓を叩きながら、リズムをとって飛び跳ねるので体力がいる。奉納場所は、地元砂石の法連寺(島津より前に納めていた渋谷氏の菩提寺)に奉納してから、日枝神社で踊る。そして本龍寺(明治17年開基)、最後に地元権現神社に奉納する。</p>								
39	日枝神社合祀祭(原自治会)	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	藪牟田地区(日枝神社)	行事日[過去]	新暦8月22日 [旧暦6月18日]					
<p>日枝神社は、明治43年内務省訓令より地域ない雑多にあった神社を、前は諏訪神社と呼ばれていた場所に合祀したものである。三尺棒踊りは、日枝神社で神事が行われた後に奉納される。檜の棒を1mくらいに拵えてものを持ち、2列縦隊になり、唄に合わせて棒を振り、前後左右に棒を打ち合わせ、時に合いの手を入れて勇壮活発に踊る。格好は、鉢巻、浴衣、ふんどし、袴、足袋の軽装。</p>								
40	南方神社 秋の大祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	9			
場所	大村地区(南方神社)	行事日[過去]	10月12日 [旧暦3月21日]					
<p>神事は各地区の総代が行われる。その後、川東のバラ踊りを奉納する。</p>								
41	南方神社 秋の大祭(馬頃尾集落)	存続状況	存続危機	関連テーマ	9			
場所	大村地区馬頃尾集落(南方神社)	行事日[過去]	10月12日 [旧暦3月21日]					
<p>慶長の役における島津義弘軍の戦勝と兵士の士気の鼓舞のため始まったとされる。</p>								
42	豊日雲(とよひるめ)神社秋の大祭(上手地区)	存続状況	復活(25年前)	関連テーマ	9			
場所	上手地区(豊日雲神社)	行事日[過去]	10月8日 [同]					
<p>伝統継承のため、自治会が黒木小学校と連携をとり、児童(4年生以上)や卒業生に踊りを伝え、後継者育成を図っている。</p>								
43	馬頭観音祭り・六月燈(馬頃尾集落)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	大村地区(南方神社)	行事日[過去]	7月最後の日曜日 [旧暦3月21日]					
<p>50年くらい前まで、15歳になった男子の踊りだったが、現在は小中学生の男女子とその保護者15、16人で踊り継承している。</p>								
44	大楠神社 春秋大祭	存続状況	順調、復活(25年前)	関連テーマ	8			
場所	黒木地区(大楠神社)	行事日[過去]	黒木小と日程調整 [春…4月10日 秋…10月10日]					
<p>伝統継承のため、コミュニティが黒木小学校と連携をとり、児童(4年生以上)や卒業生に踊りを伝え、後継者育成を図っている。</p>								
45	大楠神社六月燈(黒木ふるさと夏祭り)	存続状況	順調、復活(25年前)	関連テーマ	30			
場所	黒木地区(六月燈奉納は大楠神社、夏祭りは黒木地区コミュニティーセンター)	行事日[過去]	8月13日 [8月盆の日曜日]					
<p>黒木では、大楠神社に灯籠を吊したり、縦の灯籠を設置して、大楠神社に奉納する。</p>								

30	上之原集落の霧島若宮神社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	上之原集落(霧島若宮神社境内)	行事日[過去]	12月9日 [同]					
<p>神社には、御神体として霧島若宮神社宝塔残欠(市指定)が祭つてある。神社はかなり古く、古代からあったと言われている。7月には六月燈(自治体行事)も行われ、子ども自作の灯籠が飾られる。祭典(六月燈)で五穀豊穡や家内安全を願う。</p>								
31	上之原集落の霧島若宮神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	上之原集落(霧島若宮神社境内公民館)	行事日[過去]	7月 9日 [同]					
<p>当神社は、古代から創建されていたと推定され、神社には平安期のものと思われる宝塔の一部が御神体として祀られている。近年、子どもが少なくなり、新しい灯籠の準備が困難で古いものも使用している。近辺の子どもの参加も急減した。</p>								
32	小野原集落の田の神さあ(講)	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	小野原集落(田の神の所在家庭)	行事日[過去]	11月のはじめ [同]					
<p>田の神送りは1年1回(1年間、田の神の宿主になる)。行事内容を簡素化しようかという話もある。</p>								
33	日枝神社合祀祭(中原自治会)	存続状況	存続危機、復活(4年前)	関連テーマ	8			
場所	藪傘田地区(日枝神社)	行事日[過去]	新暦8月22日 [旧暦6月18日]					
<p>藪傘田日枝神社で神事が行われた後、金山踊りを奉納する。藪傘田内で各自治会がそれぞれ違った芸能を奉納するが、順番が決められていて、日枝神社の地元ということで中原自治会が一番に奉納する。踊り先は、次に本龍寺、藪傘田の各地を巡り、最後に馬頭観音の前で踊る。舞具は、錫杖(師匠格は、しべといわれる障子紙を1cm幅、30cmくらいに裂いたものを束ねて錫の代わりに使う)と半月形の刀(約80cm)の真ん中を握り、唄に合わせて踊る。踊り手の格好は、女ものの浴衣に褌、兵児帯、足袋、ふんどしをつけ、鉢巻を締めて腰に団扇を下げる。16人くらいが縦列に並び、時折合いの手を入れながら流暢に踊る。</p>								
34	日枝神社合祀祭(藪東西両自治会 青壮年団)	存続状況	存続危機、復活(18年前)	関連テーマ	9			
場所	藪傘田地区(日枝神社)	行事日[過去]	新暦8月22日 [旧暦6月18日]					
<p>日枝神社は、明治43年内務省訓令により、地域の雑多にあった神社を中原の諏訪神社に合祀し、日枝神社とした。その頃から地域内の芸能を奉納して奉ったと思われる。祭りは、日枝神社で神事が行われた後に境内で金山踊りを奉納する。舞具は、錫杖と小形の長刀で唄に合わせて踊る。16人くらいが縦列に並び、時折合いの手を入れながら流暢に踊る。踊りは、次に本龍寺で奉納され、藪傘田の各地を踊り回る。現在格好は、合祀祭の時は、藪傘田中全部同じであるが、以前は違っていたらしい。鉢巻、女ものの浴衣、ふんどし、褌、足袋である。</p>								
35	原・中原の田の神おこし	存続状況	存続危機、復活(19年前)	関連テーマ	17			
場所	中原集落、原集落(田の神鎮座場所、新婚宅)	行事日[過去]	新婚宅ができ、田の神が倒れたとき、自治会長が祭りの日を決める [同]					
<p>新婚家庭が原・中原両自治会内にできると、高さ1.5m、幅0.8m、厚さ0.5mの田の神が突然倒れられる(当然誰かが倒すのだが、その誰かが分かれば倒したものが費用一切を支払うことになっている)。両自治会長は、早速「田の神おこし」を相談する。準備の宿は、新婚宅で自治会の女性は、朝から餅、しとき、酒宴の料理を作る。男たちは、新婚さんを中心に十数人で、簡単に起きない田の神をやつとで起こす。起き上がった田の神にお化粧をし、小豆の混ぜた餅を頭に載せ、藪に包まれたしとぎを背負わせ、焼酎をお供えする。女ものの浴衣、黒の袴、地下足袋、色物のたすきをかけ、背中に目立つ色物の布を結び、顔にへぐる(灰黒か?すすを油でといたもの)を塗り、麦わら帽子を風呂敷でしっかりと締め、誰か分からぬようにした田の神の化身が、1mぐらいのめしげをもって、ホラ貝や鉦の音が鳴り響く中、足を高く上げ、奉納する。そのあと新婚宅に、やはりホラ貝、鉦を轟かせながら向かう。途中見物客に、化身たちは、へぐるを塗って回る。塗られた人は、無病息災に過ごせるという言い伝えがある。新婚宅の軒先で化身たちが踊り舞う。そして酒宴が始まり、時間とともに終わる。</p>								
36	新屋敷の田の神戻し	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	中原集落内新屋敷班(班員宅)	行事日[過去]	4月10日 [同]					
<p>田の神が鎮座されている班員宅に、朝8時に新屋敷班のほぼ全員が集合する。班員は、田の神の化粧を絵の具で行う者、田の神が乗る花籠を竹と杉の葉と季節の花で作る者、田の神の化身になる人の準備をする者、お供えや料理を作る者などに分かれる。準備が終わると、そのお宅で餅、しとき、酒が供えられ、酒宴が始まり、庭先では、化身(女ものの浴衣、黒の袴、地下足袋、色もののたすきをかけ、背中に原色の布を巻き、麦わら帽子をかぶり、顔はすすを塗らない)たち4、5人が飛び跳ねて踊る。昼から田の神は、今年の転居先に移動する。このとき、花籠を担ぐのは、女性。転居先についたら田の神は、床の間に鎮座され、酒宴が始まる。班員全員が、着座し、頃合いのよいときに、次々と我が子を慈しむような気持ちで田の神を抱いて自在に踊る。全員が踊り終わると、徐々に祭りが終わりに近づく。</p>								

21	倉野諏訪神社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	倉野地区(諏訪神社境内)	行事日[過去]	8月20日 [同]					
以前は、倉野太鼓踊(通称:アケシメロ)が奉納されていた。神事を行い、酒、米、さかな等を供える。昔は水神祭りも行っていた。								
22	上野下・下野下集落の団子祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	上野下集落, 下野下集落(稲徳神社境内)	行事日[過去]	2月20日 [同]					
田植祭(田昨踊)の意味は、新婚の若夫婦が田作りを営み、種子を撒くのに花嫁は団子を作ってきて、神に献げ、残りを食べながら若夫婦2人が、作付の前途を睦み合うと言うものである。(本来の意味)踊りの動作は、男役が木の鉞で耕す格好をする。その後、女役がきなこをつけた団子を持って行って男役に渡す。男役はこんなおいしくないだんごは食えないと言って投げ捨てる。男役、女役とも引き上げる。今はこのような踊りになっている。今でも家庭では団子を作り、親戚・家族で楽しんでいる。知人などにも配るなどしている。								
23	笹ヶ迫集落の薬師堂六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	笹ヶ迫集落(薬師堂跡)	行事日[過去]	7月第1土曜日又は日曜日 [同]					
賽銭は灯籠を作った人に灯籠製作費として分配する。花火大会は、それぞれ持ち寄って実施する。								
24	笹ヶ迫集落の荒神様祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	笹ヶ迫集落(薬師堂跡, 荒人石塔境内)	行事日[過去]	12月3日頃(係の都合のよい日) [同]					
祭りの内容や順序 ① 親指程度の大きさ、長さ50cm位の竹に火、水、氏の神名を書いて係に渡す。 ② 火の神(かまどの神)、水の神、氏の神の3通りの魂の入った(お祓いをした)御幣を注文、いただく。 ③ いただいた御幣を家の台所(火神)、井戸(水神)、神棚(氏神)に供える。そして家内の安全を祈願する。 昔は赤飯を炊いて、御幣に1口ずつ添えて、係が家に届けた。届けるのが終了後、弁当を食べるなどして祭りをした。								
25	藤本馬頭観音奉納相撲	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	藤本地区(藤本滝公園)	行事日[過去]	4月18日に近い日曜日 [3月18日]					
棒踊りは武士の出陣や凱旋のとき祝賀のため踊られた。以前は、保存会があったが今はない。(毎年馬頭観音相撲大会の時)。神事として相撲大会を行っている。昔は地元の子どもや大人であったが、今は出場する地元の子どもがいなくなり、他の地区(樋脇地域にある施設の子、祁答院地区の子や成人)からの参加をお願いしている。神事するとき、初土俵入りの行事も行っている(出身者の新生児)。相撲の行事は、他地区の人を毎年頼んでいる。								
26	三島集落等の三島神社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	三島集落(三島神社)	行事日[過去]	12月4日 [同]					
祭典後、参加者(各集落氏子の代表、自治会単位)で直会(なほらい)をして、作った料理を食べていた。今は弁当でやっている。三島神社は、樋脇武士踊(市指定)が、記念行事等で踊られるとき必ず奉納されて、出かけるところである。								
27	塔之原一区の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	18		
場所	塔之原一区金具集落(金具畜産会場)	行事日[過去]	1月7日後の日曜日 [1月7日]					
古くから金具集落(塔之原一区)で子ども会を中心として、地域で行われてきた。その後、塔之原一区事業として行われ、やがて、樋脇地区コミ協の事業となり、今日まで続いている。火を焚き、鬼を追い払い、残り火で餅を焼いて無病息災を祈る行事。								
28	塔之原二区の厳島神社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	9	27		
場所	塔之原二区衾北集落(厳島神社境内)	行事日[過去]	春の祭典…4月 [4月10日] 秋の祭典…10月 [不明] 元旦祭…1月1日 [同]					
厳島神社は弁財天(通称弁天様)を祭った神社で周辺の10自治会(集落)の氏子が祭典を行っている。以前は、子ども会で丸山弁天に上り、初日を拝んでいた。また、氏子の子どもで「みどりの少年団」をつくり、丸山の自然を護っていた。弁天が祭られた丸山は、樋脇のシンボルとして住民の憩いの場ともなっている。昔は4月10日奉納踊りをしてきた。								
29	上手太鼓踊り	存続状況	順調, 復活(26年前)	関連テーマ	19			
場所	市比野四区上手集落(諏訪神社, 公民館)	行事日[過去]	8月第3土曜日 [同]					
上手太鼓踊りについて、ソーメン矢旗小楽ともいう。踊り手は諏訪神社の氏子を主体とし、五穀豊穰と無病息災を祈願して、奉納されたものだという。大太鼓の者は、手笠をかぶり、陣羽織に股引き、脚絆、白足袋に草鞋履、背中に矢旗織りのついた竹竿を背負う。小太鼓と鉦の者は、花笠に法被股引きに脚絆、白足袋に草鞋履き、袴を十字に絞って踊る。踊りは、朝鮮出兵のときの戦いの様子や凱旋の喜びを表現したものと伝えられている。踊りは、まず諏訪神社に奉納され、上手の公民館で踊られ、市比野地区10カ所位で披露されていた。								

11	高城町兵六踊 (高城神社大祭)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	高城町 (高城神社境内)	行事日 [過去]	9月第2日曜日 [9月10日]					
兵六踊りは、青年会を中心に13年ぶりの復活で好評を得た。多数の踊り手が必要となり、毎年の実施は厳しいものと思われる。伝承のためには、数年ごとに実施することが望まれる。今後の大きな課題でもある。平成27年度復活した。								
12	高城町太鼓踊 (高城神社大祭)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	高城町 (高城神社境内)	行事日 [過去]	9月第2日曜日 [9月10日]					
伝承のために中学生の参加協力を依頼し、後継者の育成に努めている。								
13	高城町虚無僧踊 (高城神社大祭)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	高城町 (高城神社境内)	行事日 [過去]	9月第2日曜日 [9月10日]					
伝承のために中学生の参加協力を依頼し、後継者の育成に努めている。								
14	新田神社の御神鏡清祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	宮里町 (新田神社舞殿)	行事日 [過去]	7月28日 [旧暦7月28日]					
古鏡73面をみくに幼稚園児等が古式に則り磨き清める。これは園児の無病息災と鏡の如く曇りのない立派な国民が育成するよう、祈願を奉仕する全国に類例のない特殊神事である。因みに当日使用した拭紙と特殊の束子は、お守りとして各奉仕者に授与される。往古は大小路町の八坂神社の氏子中、15歳以下の童子が参詣して奉仕したと言う。								
15	新田神社の早馬祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	宮里町 (新田神社, 保食神社)	行事日 [過去]	春分の日 [旧暦2月15日]					
春分の日に鈴懸馬踊の奉納がある。鈴懸馬は頭に鈴を懸けきれいに飾られて、先ず保食神社に奉納し、石段を上って本社前で踊る。馬の後はには婦人の手踊りが続く。俗に「シャンシャン馬」「戦勝馬」とも言った。								
16	新田神社の武射祭	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	宮里町 (新田神社表参道)	行事日 [過去]	1月7日 [旧暦1月7日]					
1月7日神事のあとほこを先頭に、直径約1.5mの大的が続き、弓や矢を持った宮司達が神殿を3周した後、式中行列を立てて322段の石段を降り、表参道蘭桂馬場で宮司以下の神職や、みくに幼稚園児により古式による武射祭を行う。五穀豊穡を祈り除災を念じて箭を放つものである。								
17	川内大綱引	存続状況	順調	関連テーマ	24	25		
場所	西向田町・大小路町	行事日 [過去]	秋分の日の前日 [旧暦8月15日]					
綱引きは、西向田町、大小路町の国道3号線の路上で行われる。1597 (慶長2) 年の慶長の役に出兵する島津義弘公が士気を高めるために行ったのが始まりとされている。使用する綱は、保存会発表で、長さ365m、太さ40cm、重さ7tとされ、毎年作られる。神事が行われた後午後8時15分綱割 (綱引き開始) となる。								
18	摩利支天祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	27		
場所	祢地山集落, 笹ヶ迫集落 (愛宕山, 摩利支天安置場所)	行事日 [過去]	春と秋の彼岸の日曜日 [同]					
祭りをを行う場所 (摩利支天) が山中にあり、参拝に不自由である。最近、関係自治会員で参道を一部整備した。現在入口は個人宅庭を通過しなければならず不便である。摩利支天を祭る行事を行っているのは当自治会のみ。祭りの時に昔から花見会をやっている。								
19	祢地山集落の田の神さあ祭り	存続状況	順調, 復活 (30年前)	関連テーマ	17			
場所	祢地山集落 (田の神像のある所)	行事日 [過去]	11月中頃の日曜日 [11月中頃 丑の日]					
以前は、6月に団子を柿の葉に載せて供えていたこともある。自治会で新米を用いて餅をつき、祭りの日に供えている。団子や煮物など供えたものは参加者で分けて食べる。田の神像は丸掘・農天型でよくできており昔田の神おっこの風習のあるところ一時盗まれたこともある。また、東京の展示会に出品されたこともあると言われている。田の神像市指定文化財である。								
20	上野下・下野下集落の伊勢分社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	上野下, 下野下集落 (伊勢分社境内, 雨天時は旧野下小体育館に祭壇を設置)	行事日 [過去]	春…4月第1日曜日, 秋…11月第2日曜日 [秋の祭典 11月10日]					
以前の秋の祭典では奉納相撲を行っていたが、相撲をとる人がいなくなり、運動会でやっている。春は祭りの後に花見会 (弁当持参) をやっている。10数年前までは生きたニワトリを供えていたが、現在は魚を供えている。								

薩摩川内市

1	宮崎町の春日神社秋の大祭	存続状況	順調	関連テーマ	25			
場所	宮崎町(春日神社境内)	行事日[過去]	9月第3日曜日 [不明]					
郷中教育として古くから行われていた。戦中中断されていたが現在の神官が高校生だった50年程前に復興させた。自治会のうち元々地域に住んでいた60世帯ほどを中心に行っていたが、20年程前から中心世帯数が減少したために自治会を中心に行うようになった。綱練りは当日朝から行われ、境内に櫓を構え昔ながらの方法で行っている(六月燈の土俵作りも同じ)。								
2	高江町の南方神社秋の祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	高江町(南方神社)	行事日[過去]	9月の最終日曜日 [9月26日]					
島津義弘の朝鮮出兵の際に、士気を昂めるために踊ったとされる高江太鼓踊りを奉納する。高江太鼓踊りは出兵の準備・攻撃・防御・川内凱旋を入れ太鼓・入れ鉦・取り鉦・大太鼓を打ちながら24人で踊る。9月28日に近い日曜日に例祭が行われている。								
3	久見崎の祝申そ	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	久見崎町(各家庭)	行事日[過去]	1月14日 [小正月]					
旧川内市久見崎地区に古くから伝えられた小正月行事。本来は14歳以下の男子が行うもので各家庭の土間でヤマビワの木で作った棒(通称祝申木あるいは祝申棒)を突きながら「祝申そ」の歌を唄いその年の1年の豊作を祈願する。								
4	今村地区こども綱引	存続状況	順調	関連テーマ	25			
場所	田海町今村集落(公民館前)	行事日[過去]	9月中 [不明]					
9月の十五夜の頃、夕方に子どもたちが集まり綱引きを行う。その後使用した綱で土俵を作り、相撲をとる。終了後、参加者で直会(食事会・懇親会)を行う。以前は、大人も含め、地域総出で綱引きを行っていた。								
5	陽成太鼓踊り	存続状況	復活(20年前)	関連テーマ	19			
場所	陽成町(一條神社境内)	行事日[過去]	8月8日に近い日曜日 [8月8日の一條神社例祭にあわせて奉納]					
陽成太鼓踊りは、一條神社及び境内等を含めた一帯をH26.5.23に一條神社と歴史の杜として薩摩川内市景観重要資産として指定された境内で奉納しているもので、毎年8月8日の一條神社例祭に近い日曜日に、小学生から社会人を交えた24名の地区民総出で太鼓踊りを奉納している。参考(H27.8.9奉納24人)。小学生8人、中学生7人、高校生5人、大学生2人、社会人2人、大太鼓16人、小太鼓2人、鐘6人。								
6	湯田の諏訪神社秋の大祭、下湯田兵六踊	存続状況	存続	関連テーマ	8			
場所	湯田町(諏訪神社)	行事日[過去]	9月20日 [不明]					
7集落の婦人会により手踊りが奉納される。								
7	新田神社、御田植祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	東大小路町 下目集落	行事日[過去]	入梅前の日曜日 [入梅の日]					
踊り当日の約3週間前から唄と踊りの練習を始める。踊りの前日には、衣装の着付けをする。当日は、衣装を着けて踊りに向かう。保存会ののぼり旗、太鼓、唄い手、踊り手の順に入場する。小学生を保存会のメンバーに加えて、後継者育成に努めている。								
8	新田神社御田植祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	17			
場所	港町(体育館)	行事日[過去]	6月第1日曜日 [不明]					
昭和27年頃は、お田植祭の3日前から砂岳地区で踊られてから、3日目に神社に奉納されていた。芝居をしない人は、棒踊りをしていた。農民の踊りだったそうで土族といわれる人は踊らなかつた。これからの存続は、町は7集落だが、現在は3集落で行っていることから、7集落で保存するよう来年度から話し合う。								
9	草道兵六踊	存続状況	順調、復活(20年前)	関連テーマ	8			
場所	水引町(地区コミュニティーセンター)	行事日[過去]	不定期 [不明]					
「兵六踊り」は江戸時代に毛利直直が執筆した「大石兵六夢物語」が種本で、公共の建物の落成式など大きな祝い事に演じられていた。平成8年地域の浄道寺落成式で32年ぶりに奉納し、大好評を得、これを機に保存会を設立し「次郎次郎踊り」とともに郷土芸能の継承に努めている。								
10	次郎次郎踊	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	水引町(射勝神社境内)	行事日[過去]	3月第1日曜日 [3月始めの申の日]					
射勝神社は、祭り用の田(30アール)を所有し、5集落が当番で祭りを行ってきた。当番の集落は、祭りの準備から祭りの執行及び祭りの後始末まで担当した。現在は、祭り全般を自治会が企画運営し、踊りは、保存会が奉納している。								

86	天満宮元旦祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	天神(出水)自治会(米ノ津天満宮)	行事日[過去]	正月[同]					
87	盆踊り	存続状況	順調	関連テーマ	19			
場所	名古屋自治会(納骨堂横広場)	行事日[過去]	8月14日頃[同]					
88	八坂神社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	名古屋自治会(八坂神社)	行事日[過去]	旧暦6月11日・12日頃(土、日)[同]					
89	高竈神社例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	今釜中自治会(高竈神社)	行事日[過去]	9月・11月頃[同]					
90	山の神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	自治会公民館(今釜中自治会)	行事日[過去]	10月～2月頃[同]					
91	新蔵棒踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	新蔵中自治会(広場)	行事日[過去]	不定期(コンピラ, 敬老会, 夏祭り)で奉納[同]					
92	伊勢神社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	名古屋自治会(伊勢神社)	行事日[過去]	旧暦2月11日(3月中旬), 9月第3日曜日頃。 (日曜に敬老会と同時にする)[同]					
93	御大師様祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	西福ノ江自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	旧暦3月21日前の日曜日[同]					
94	稲荷様奉納	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	稲荷神社(古浜自治会)	行事日[過去]	4月第2日曜日頃[不明]					
95	若宮神社 花子取	存続状況	中断中	関連テーマ	8			
場所	西辺田自治会(若宮神社)	行事日[過去]	11月1日頃(花見と兼ねている)[同]					
96	納骨堂供養	存続状況	順調	関連テーマ	19			
場所	木牟礼自治会(自治会内納骨堂)	行事日[過去]	8月10日[同]					
97	報恩講	存続状況	順調	関連テーマ	28			
場所	南方自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	12月上旬～中旬[同]					
98	山神祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	内野々上自治会(山神社殿)	行事日[過去]	旧暦1月15日, 5月・9月の15日～16日 (なるべく16日)頃[同]					
99	山神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	石坂(高尾野)自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	1月第2日曜日頃[同]					
100	弘法大師	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	自治会公民館(石坂(高尾野)自治会)	行事日[過去]	5月第一または第二日曜日頃 (集落の花見と兼ねて実施)[4月11日]					
101	南方神社例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	唐笠木自治会(南方神社)	行事日[過去]	日時は総代が決定(8月頃)[7月25日]					
102	古今殿	存続状況	順調	関連テーマ				
場所	東下り松自治会(古今殿)	行事日[過去]	12月28日頃[年末]					
103	志賀神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	25		
場所	荒崎自治会(志賀神社)	行事日[過去]	秋:十五夜[同]					
104	菅原神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	段自治会(菅原神社)	行事日[過去]	十五夜から10日後頃[同]					

73	水神祭	存続状況	順調	関連テーマ	16	17		
場所	川平観音公園 (川平自治会)	行事日 [過去]	旧暦3月18日 [同]					
川平自治会員の飲用水は、川平公園より約3km離れた山麓の湧水を配管で引き、公園の貯水槽に貯め各戸に配水しているため、水神様に感謝して神事が行われている。当日は、午前11時～午前11時30分神事。午前11時30分～正午まで自治会担当者が水源地に行き、米、塩で清める儀式。正午～午後2時直会・花見。								
74	地王様講	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	大丸自治会 (自治会内の個人宅 (輪番制))	行事日 [過去]	8月最終の日曜日 [同]					
蝮よけの神様 (石像) として、明治20年、米ノ津福ノ江より移してきたと伝えられている。蝮の咬傷害から農民を守るための相互扶助組織が今日まで続いている。当日は、午前8時～午前9時、掃除、お参り。午後6時30分～午後9時30分、輪番の個人宅で直会。								
75	感応寺六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4			
場所	下名地区 (感応寺)	行事日 [過去]	7月17日 [昭和元年まで旧暦6月17日]					
旧暦6月18日が初代島津忠久公の命日にあたり、先祖供養が行われてきた。菩提寺でもある感応寺は、前日の17日に本尊 (十一面千手観世音菩薩～県文化財指定) と忠久公の供養を行ってきたが、忠久公700年祭が行われた昭和2年7月17日に万灯供養が始まり、その後鹿児島島の夏祭、六月燈として毎年行われている。								
76	感応寺花祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	下名地区 (感応寺)	行事日 [過去]	4月8日 [旧暦4月8日]					
4月8日に地域の人たちが甘茶を汲みに来て「釈迦誕生仏」に甘茶を濯いで、無病息災を願い、出店も出て賑わっている。昭和20年頃までは、高尾野の”中の市”と野田の”釈迦祭”は地域の春祭りとして、お互いに交流してとても盛んであったようだ。								
77	大日若宮神社例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	大日自治会 (若宮神社)	行事日 [過去]	8月7日前夜祭、8月8日大祭 [旧暦7月8日大祭]					
野田領主島津津兼非業の死より71年後の1636年に、19代藩主島津光久の命により、出水地頭山田昌巖が神社を建立し、「若宮大明神」の称号を勧請し、祭りは吉満家に許されて続いていたが、30数年前より地域で行うようになり、今年は450年の節目の大祭を町の有志多数で行った。								
78	熊野神社 春季例大祭・秋季例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	上名地区 (熊野神社境内)	行事日 [過去]	春祭4月3日 秋祭11月第三土曜日 [春祭4月3日 秋祭11月第三土曜日]					
正確な年代は分からないが由緒によると、島津初代忠久公木牟礼城に御在城のとき、山門院の守護神として建立され祭祀が行われるようになった。								
79	伊勢神社 春季例大祭・秋季例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	西通自治会 (伊勢神社境内)	行事日 [過去]	春祭春分の日 秋祭11月第三土曜日 [春祭春分の日 秋祭11月9日]					
祭神は天照大神、月夜見命を祀る。伝説によると、1531年どこからともなく神鏡一面飛来して、この地に止まったために、これを神体として社殿を建立したとの棟札が納められている。交通安全を祈願する行事である。午前中、伊勢神社で神事、自治会内の市道3か所の交差点を米、塩で清め、交通安全祈願を行う。午後直会を実施。								
80	斎祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	自治会公民館及び野外 (平良馬場自治会)	行事日 [過去]	夏休み前第3土曜日 [同]					
81	南方神社諏訪講	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	上松自治会 (自治会公民館)	行事日 [過去]	9月29日 [同]					
82	森神社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	安原自治会 (自治会公民館、森神社)	行事日 [過去]	5月第四日曜日 頃 (自治会で運動会と併せて実施。雨天時は森神社祭典のみ実施) [同]					
83	若宮神社秋例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	針原自治会 (若宮神社)	行事日 [過去]	10月10日頃 [10月17日頃の土又は日]					
84	金比羅神社祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	金比羅神社 (前田自治会)	行事日 [過去]	春、秋の年2回頃 (4月第一日曜日、10月第一日曜日) [同]					
85	鎌踊り	存続状況	順調	関連テーマ	4			
場所	前田自治会 (切通小学校)	行事日 [過去]	切通小学校運動会頃 [同]					

63	お地藏さん祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	段自治会 (自治会公民館広場)	行事日 [過去]	8月最終の日曜日 (夏休みの最後の日曜日) [十五夜の10日前]					
地藏は、30年程前に段集落自治公民館広場に移し、コンクリート製の祠を造り、その中に入れてある。								
64	八坂神社例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	町 (野田) 自治会 (八坂神社)	行事日 [過去]	旧暦6月14・15日 [同]					
祭神はスサノオ命、イナダ姫を合祀する。島津忠久の時代の建立と伝えられている。1日目は、午後6時から神事。午後6時30分から午後8時30分まで自治会員お参り。2日目は、午後6時から神事。午後6時30分から午後9時まで自治会員お参り、その後直会。								
65	田の神講	存続状況	順調	関連テーマ	17	21		
場所	別府自治会 (田の神様と自治会公民館)	行事日 [過去]	7月12日 [同]					
江戸中頃、建立の石像の神様で、右手にメシグ、左手に梶を持っていて、春に山から下りてきて、秋に収穫が終わると山に帰っていくと言われている。当日は、9:30田の神様に豊作祈願のお参りを現地で行う。10:30～13:00公民館で直会実施。								
66	十三仏様・六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	加治屋町自治会 (自治会公民館)	行事日 [過去]	7月12日 (前夜祭) [同]					
十三仏様・六月燈は前夜祭で、十三仏講は本祭である。十三仏 (不動明王、釈迦牟尼如来、文殊菩薩、普賢菩薩、地藏菩薩、弥勒菩薩、薬師菩薩、観音菩薩、勢至菩薩、阿弥陀如来、大日菩薩、阿闍如来、虚空菩薩) を江戸中期に山伏がこの地に祀ったと言われている。当日は前夜祭19:00～19:30仏式供養。19:30～21:00各家庭からの角灯籠にローソクを点灯して十三仏の供養を行う。								
67	十三仏講	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	加治屋町自治会 (自治会公民館)	行事日 [過去]	7月13日 (本祭) [同]					
十三仏様・六月燈は前夜祭 (別紙) で、十三仏講は本祭である。当日は、本祭19:00～21:00十三仏様にお参り後、料理をいただきながら懇親会を実施する。								
68	六地藏尊	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	仲町 (野田) 自治会 (六地藏前)	行事日 [過去]	7月24日 [同]					
六地藏とは、六道 (地獄道、畜生道、餓鬼道、修羅道、人道、天道) において衆生の苦患を救うと言う六種の地藏様のことで、明治27年感応寺34世福井大典和尚が法徳をもって、地域の人々が安全に通行することを祈願して建立した。その後和尚の徳をしのび、六地藏様と呼ばれ、地域の人々が親しみ守っている。当日は、18:30～19:00仏式供養。19:00～21:00自治会員の懇親会。								
69	愛宕神社例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	大日自治会 (愛宕神社)	行事日 [過去]	7月18日頃 [旧6月24日]					
4自治会 (天神、大日、地藏、仮屋) 合同で行い、各自治会長と各自治会員2人の合計12人出席し、その年の責任自治会長が全体を仕切る。大祭日当日は、午前8時～午前10時、参道、境内、神社の掃除。午前10時30分～午前10時50分、神事の準備。午前11時～午前11時30分、大祭神事実施。12:00～13:30責任自治公民館にて直会を開き、御神酒と折り詰めをいただき親睦を図る。								
70	トキの綱	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	自治会内3箇所と公民館	行事日 [過去]	4月の花見頃 [旧暦4月3日]					
当日は、午前8時半～9時の間に綱張り3カ所綱を張る。長さ7m×高さ4.5m。この綱は張ったまま残す。正午～午後3時には各家庭で作った料理を公民館に持ち寄って食べながら花見となる。以前は3班の当番の家に出掛け、お齋をいただく習慣があった。								
71	初午講	存続状況	順調	関連テーマ	17	21		
場所	公民館	行事日 [過去]	2月初午の日 [同]					
桑の木の枝に白い虫 (蚕) がいて、飼っていたところ、まゆ玉を作ったので、それをいじっていたら糸になったため、織物の神様に奉納した。その日が初午の日で、それを祝ってまゆ玉に似た米粉団子を作り、榎の枝にさし、踊り歌ってまゆの多産を祈願した。団子は持ち帰り子どもたちに与える。当日は、9:00公民館に婦人部が集合し、米粉団子を作り、榎の枝にさしてお祝いする。最近ではアメ玉、菓子も揃えている。								
72	馬頭観音祭	存続状況	順調	関連テーマ	17	27		
場所	川平自治会 (川平観音公園)	行事日 [過去]	旧暦3月18日 [同]					
川平の小高い山に高さ4m、周りが30mもある大きな岩があり、この下に馬の神様である馬頭観世音を祀っていて、良馬が産まれるよう祈願し参拝していた。最近では馬のかわりに牛の安定生産を願う祭を行っている。当日は、11:30～12:00神事 (JAいづみ野田支所生産牛部会、川平自治会は準備の手代)。12:00～14:00直会、花見。								

52	棒踊り奉納(郷土芸能)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	西水流自治会(紫尾神社)	行事日[過去]	9月23日(秋分の日) [同]					
紫尾神社の秋の豊年祭に奉納する前に、八王神社と菅原神社(浜天神)にも奉納する。棒踊りは、子どもたちを主体としている。								
53	棒踊り奉納(郷土芸能)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	上水流自治会(紫尾神社)	行事日[過去]	9月23日(秋分の日) [同]					
伊勢神社(上水流)に奉納してから、紫尾神社の秋の豊年祭で奉納する。紫尾神社で奉納が終了すると、上水流集落の個人宅の前なども奉納してまわる。								
54	伊勢神社祭・モイカグラ(社神樂が転化したもの)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	柴引自治会(伊勢神社)	行事日[過去]	12月中旬頃[旧暦11月15日]					
伊勢神社は、1857(安政4)年建立。								
55	馬頭観音祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	柴引自治会(馬頭観音堂)	行事日[過去]	旧暦3月18日[同]					
観世音菩薩像は、1734(享保19)年に作られたとする刻銘があり、貴重なものであったが、集落センターのガラス棚の中においてあった、しかし、これではいけないというわけで、以前は馬頭観音祭の時に、野菜・花の苗・タケノコ・竹製品・柑橘類などを出して、バザーを実施。資金をためて、平成25年12月総工費250万円で、馬頭観音堂を完成させ、今は観世音菩薩像は、ここにおさめられている。								
56	とき講(齋講)	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	石坂(高尾野)自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	5月第四日曜日 (出水市が主導する市内一切の道路清掃日)[同]					
とき(齋)は、流行病(はやりやまい)が、石坂集落内に入ってこないようにする。昔から伝えられるまじない。昭和20年代ごろまでは、高尾野のどこの集落も、とき張りが行われていたとのこと。								
57	西部鼓楽(郷土芸能)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	唐笠木自治会(西部地区全域)	行事日[過去]	9月23日(勤労感謝の日)(新嘗祭)[同]					
秋の彼岸に内野々地区の人たちが、西目小楽を取り入れた総称「鉦踊り」を、住吉神社に奉納していた。昭和59年西部村づくり推進委員会の人たちが話し合い、33年ぶりに復活させ、昭和60年より西部集落で継承されている。9月23日は、まず南方神社で奉納してから、同じ日秋の豊年祭が行われている紫尾神社で兵六踊り(県指定)らと共に奉納される。								
58	南方神社感謝祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	唐笠木自治会(南方神社)	行事日[過去]	11月頃[同]					
この感謝祭は、新穀を神様にささげて、その実りを感謝するもので、宮中をはじめ全国の神社で同じ頃行われる新嘗祭の一つと言えるとのこと。								
59	ちっ様祭り	存続状況	順調	関連テーマ	5	15		
場所	下山自治会(自治会公民館と社)	行事日[過去]	6月13日(願掛け)、9月13日(願解き)[同]					
洗切集落のみで行う。6月13日、9月13日の鎮守様祭りにきて参拝した人は、おにぎりをいただいて帰る。伝説によるとお添えをしたおにぎりを、高熱で苦しんでいる子どもに食べさせたところ元気になったと言う。								
60	菅原神社祭秋の例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	下山自治会(菅原神社境内)	行事日[過去]	旧暦8月25日[同]					
昔は祭礼の日は、松原に舞台をつくって田舎芝居があったため、人出で賑わったとのこと。								
61	新銭ごま踊り奉納	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	東水流自治会(菅原神社及び紫尾神社)	行事日[過去]	9月23日(秋分の日)[同]					
昭和61年に銭ごま踊りが44年ぶりに復活されたが、一部復活されなかった部分もあり、「新」の字をつけて、新銭ごま踊りとした。								
62	報恩講	存続状況	順調	関連テーマ	28			
場所	木牟礼自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	12月15日前後、江内の江光寺が日程を決める[同]					
南方自治会らの江内の他自治会のほとんどは、江光寺僧侶を招き、自治公民館で報恩講(報恩講の御膳)をやっている(11月末~12月中旬)。								

40	早馬大明神夏祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	早馬自治会(早馬神社)	行事日[過去]	8月第1日曜日頃[同]					
通り会が主催していたが、3年前から自治会が主催している。								
41	御大師様	存続状況	順調	関連テーマ	8	5		
場所	福ノ江港自治会(御大師様お堂)	行事日[過去]	旧暦3月15日, 21日頃[同]					
ブドウ酒をお供えする。								
42	恵比寿講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	新蔵中自治会(恵比寿神社)	行事日[過去]	旧暦10月20日頃[同]					
新蔵に米の穂出し港があった。								
43	菅原神社祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	荘上自治会(菅原神社)	行事日[過去]	春, 夏(夏中祭), 秋(秋大祭), 正月頃[同]					
加紫久利神社から年4回神主に来てもらい, 祭りを取り計らう。								
44	白山神社大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	小島自治会(白山神社)	行事日[過去]	11月1日限定 [10月1日(戦前まで)]					
白山神社は, 笠山にあった島津氏の牧場, 瀬崎野牧場の守り神として, 室町時代に連尺野に設置されていたが, のち尾野島津落に移された。そして, 1911年, 島津忠兼公を祀るためにあった小島の若宮神社に移動していった。白山神社は, 若宮神社そして霧島神社の3つの神社をあわせた形となっている。								
45	田の神舞(郷土芸能)	存続状況	順調	関連テーマ	8	17	21	
場所	松ヶ野自治会(金峰神社, 紫尾神社)	行事日[過去]	秋分の日(3年に1回)[同]					
県指定の野田の田の神舞は, 全て男のみで嫁女役もやるが, 松ヶ野は男女でやるもの。春の彼岸に豊作の願いを立て, 秋の彼岸にその願ほどきをこめて, 彼岸踊りとして紫尾神社の豊年祭に奉納されてきた。以前は毎年奉納してきたが, 資金の面等もあり, 今は3年に1回となった。紫尾神社に奉納する前に, 集落内をまわり, そして金峰神社(金峯神社)に奉納して, 紫尾神社の豊年祭で奉納する。								
46	魔除け	存続状況	順調	関連テーマ	4	15		
場所	本町(高尾野)自治会(集落の道路, 出入りに設置)	行事日[過去]	毎年4月第1日曜日頃[同]					
砂原自治会の「とき講」と内容はほぼ同じであるが, 呼び方が魔除けとしているところが違うのみ。								
47	南方神社大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	木牟礼自治会(南方神社)	行事日[過去]	9月23日[9月28日]					
島津氏が木牟礼城に入った1196年頃創建されて, 薩摩領内では一番古い諏訪神社(南方神社)と言われる。								
48	白衣観音様祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	内野々下自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	旧暦6月18日[以前は, 内野々中集落で旧暦6月18日に行っていた。]					
白衣観音は, 白くて毛のない蚕の仏様と言われているとのこと。								
49	庚申講	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	砂原自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	年始め(庚申)の前の土曜日か日曜日[同]					
砂原の個人宅の垣根に建立されている庚申碑は, 青面金剛でとても貴重なもの。現在, 高尾野町には, 約24の庚申碑が確認されている。								
50	新銭ごま踊り奉納	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	下山自治会(集落内及び近くの神社)	行事日[過去]	9月23日[同]					
9月23日は鎮尾神社で奉納後, 下山の菅原神社(浜天神)で奉納。そして紫尾神社の豊年祭にて奉納する。								
51	鎮尾神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	東水流自治会(集落内の神社)	行事日[過去]	11月3日[同]					
平成11年頃, 鎮尾神社は東水流の納骨堂裏側にコンクリート造の祠としてあったが, 東水流集落センター前の空地に新しく造り直し移転した。								

28	西町恵比寿神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	西町自治会(恵比寿神社及び自治公民館)	行事日[過去]	10月20日[同]					
神社は町内有志である人物により敷地の寄贈を受け、西町自治会の融和と発展を願って昭和6年10月20日恵比寿神社を建立し、近年10月20日に祭典を挙行する。尚、旧木造の社殿は長年の荒廃著しく、昭和31年11月吉日をもって社殿をコンクリート造に建立し現在に至る。								
29	三心祭(稲荷・馬頭観音・千人塚)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	沖田自治会(黄金町)	行事日[過去]	3月31日頃[同]					
同じ場所で2回お経を上げる。終わったら公民館で、直会として(住職も一緒に)弁当を食べる。自治会内に三心会の組織が確立している。								
30	伏草神社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	上沖田自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	12月14日[同]					
昔は松尾集落一乗院の近くにあった。現在は公民館の中にある。								
31	若宮神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	六月田中自治会(自治会内)	行事日[過去]	12月第1日曜日[同]					
式は15時から開始し、30分間行われる。								
32	観音様祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	六月田下自治会(観音様及び自治会公民館)	行事日[過去]	旧暦6月18日[同]					
以前は五反田家が歴代観音様を守り神としてお団子をつくってお供えしていた。(平成21年まで)自治会員がそれぞれお参りをして、さい銭をおさめて団子をいただいて持ち帰っていた。平成22年以降は、観音様も自治会で守っていくようになり、公民館に移し、自治会の行事としてやっている。自治会のメンバーは10～14人(西照寺の門徒)で、18日の夕方からおつとめをしている。								
33	加紫久利神社御田植祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	平松東自治会(神社近くの田)	行事日[過去]	6月15日(中旬頃)[同]					
田植え→稲刈→脱穀→餅つきを地域と一緒にやって行く。								
34	六月燈祭	存続状況	順調	関連テーマ	4			
場所	平松東自治会(加紫久利神社参道)	行事日[過去]	7月中旬頃[同]					
子ども灯ろう、大人灯ろうを加紫久利神社から材料等支給されたもので作って奉納する祭りである。								
35	馬頭観音講	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	平松西自治会(馬頭観音)	行事日[過去]	7月末～8月上旬頃(旧暦6月18日)[同]					
牛、馬を守るために、西南戦争時に流行した疫病が入ってこないようにとの願いを込めて始まった。								
36	秋葉神社大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	15		
場所	平松西自治会(平松東自治会敷地内)	行事日[過去]	1月第1日曜日[同]					
鏡開きの頃、女性が座主となり、男性は掃除をし、しめ縄、のぼり立て等を行い、祭を行う。								
37	稲荷神社祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	櫛木自治会(稲荷神社)	行事日[過去]	10月19日を境の日曜日[同]					
切通小学校の教職員が参加している。相撲は子どもが少なく行えない。								
38	天神様祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	菅原神社(切通自治会)	行事日[過去]	体育の日[同]					
しめ縄作りができる人がほとんどいない。10月は稲わらがらないので、山手に行ってもらってくる。								
39	観音様祭り	存続状況	順調	関連テーマ	12			
場所	切通自治会(観音堂)	行事日[過去]	旧暦6月18日の直近の日曜日 (古くから続く伝統行事)若者が出るように[同]					
三カ所(観音堂、馬頭観音、お墓の上の観音様)で実施している。								

16	お伊勢講	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	清水自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	3月・11月頃[同]					
御神体、神様の掛け軸二幅あり。祭礼終了後直会あり。								
17	山神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	5		
場所	栗毛野自治会(山神神社前)	行事日[過去]	12月第2日曜日頃[同]					
平成26年に鳥居を修復して現在地へ移設。祭事後直会、そのときは魚は焼いて食べる。共同作業で注連縄を作る。								
18	上宮神社祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	27		
場所	平岩自治会(上宮神社及び広場)	行事日[過去]	旧暦3月16日[同]					
宮城登尾よりも15～16人参加。昭和38年大雪により木造神殿倒壊。昭和42年現在に建替。出水平内では加紫久利神社に次ぐ社格である。社殿は紫尾山頂にある。								
19	地蔵祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	愛宕下自治会(愛宕地蔵堂)	行事日[過去]	毎年4月24日[同]					
この地蔵は昔太平より嫁谷川へ流れてきたのを地元の人が拾って祭った。戦前より花見を兼ねてやっている。以前は串木野冠山の僧神宮が毎年来ていた。その人が言うには、出水平町の大きな地蔵よりこちらが位が上とのこと。昭和25年井上集落より愛宕下が別れて以来、愛宕下集落にて行っている。								
20	井出宮祭典	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	渡瀬口自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	11月第3土曜日[同]					
水神様の祭り。								
21	みそなめて祭り	存続状況	順調	関連テーマ	5	8		
場所	みそなめて碑公園(小原上自治会)	行事日[過去]	10月第4日曜日頃[4月第三日曜日]					
先人による小原の山の開拓の苦労を偲んで始まった祭りで、小原上自治会と小原下自治会共同で行う。以前は春に行っていたが、現在は秋に開催している。人出も多く様々なイベント等を創意工夫して行っており、出店も多い。歌碑「味噌なめて 晩飲む焼酎に 毒はなし 煤け嬢に酌むをさせつつ」の中の焼酎は元は酒である。記念碑横の真っ直ぐな道路は大東亜戦争中に赤トンボの滑走路であった。								
22	高千穂神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	小原下自治会(高千穂神社)	行事日[過去]	春彼岸、秋彼岸の日曜日頃[同]					
春は田植祭、秋は収穫祭と称す。月2回諏訪神社宮司が来て祝詞をあげる。正月は諏訪神社宮司、諏訪馬場の神社参拝後7カ所の末神社を参拝して回る。当神社には1日1時頃来る。収穫祭時、餅ワラを使い必要な注連縄を作る。								
23	小松天神例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	小松自治会(小松天神社)	行事日[過去]	10月第1日曜日[同]					
毎月諏訪神社より1日、15日に御祓いに来る。将来後継者不足になることが懸念される。								
24	山の神講	存続状況	順調	関連テーマ	5	8	17	
場所	今釜中自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	3月第3日曜日自治会総会后[同]					
座元と自治会の役員が、午前中に小原上の味噌をなめて、石碑(右側)山の神に米、塩、焼酎を供え、お参りをする。焼酎は持ち帰り、公民館で総会終了後に直会行う。								
25	火の神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	平良馬場自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	12月中旬頃[同]					
自治会の役員慰労会を兼ねている。								
26	横尾神社例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	横尾自治会(横尾神社)	行事日[過去]	10月9日頃[同]					
大正時代からやっている。神社も自治会所有で管理も行っている。								
27	正八幡講	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	山下自治会(自治会公民館)	行事日[過去]	10月15日頃[旧暦10月15日]					
八幡神社は現在地に7～800年前に建立した。								

5	鬼火	存続状況	順調	関連テーマ	1	18		
場所	広瀬自治会(広瀬川原)	行事日[過去]	1月7日頃[同]					
餅を焼いて食べたり、正月の門松や注連縄も焼いて、一年の無病息災を願う。								
6	火の神祭典	存続状況	順調	関連テーマ	16			
場所	広瀬自治会(公民館石碑前)	行事日[過去]	3月集落総会時 [4月第1日曜日 消防団辞令交付時]					
以前は市消防団幹部も参加していた。								
7	菅原神社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	井上自治会(菅原神社)	行事日[過去]	3月第3日曜日頃[同]					
敷地は神社庁所有である。								
8	高千穂神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	下平野自治会(高千穂神社・神社役員宅)	行事日[過去]	9月9日頃[同]					
煙草神社も祭ってある。以前は自治会内3班の9戸のみで行っていた。祭事は神社役員・自治会役員で行い、経費不足分は自治会より負担している。祭事後直会あり。								
9	朝日神社祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	27		
場所	上場自治会(自治公民館)	行事日[過去]	6月15日・11月29日頃[春と秋]					
朝日岳山頂にある大きな岩が御神体である。								
10	諏訪神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	諏訪馬場自治会(諏訪神社)	行事日[過去]	春(3月)、夏(7月)、秋(10月)頃と正月[同]					
県内諏訪神社としては一番格が高い。例祭時、参拝客も多く夜店も出る。								
11	火の神まつり	存続状況	順調	関連テーマ	1			
場所	諏訪馬場自治会(火の神碑前)	行事日[過去]	3月第1日曜日[同]					
本体注連縄、四方竹を立て縄で結び、縄にはユベを付ける。右脇に小さな穴を穿ち、薪に火を付けて入れ、上から土を被せる。								
12	威徳天神秋の例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	山崎自治会(威徳神社)	行事日[過去]	9月25日頃[同]					
本殿内に21歌仙の絵があり、現在出水歴史民俗資料館においてある。鍋野、水之頭も氏子になっているため、各自治会長が出席する。準備は、自治会内の班持ち回りでやっている。神事後直会。								
13	十五夜	存続状況	順調	関連テーマ	12	25		
場所	野添(自治会(自治会内広場))	行事日[過去]	9月27日(中秋)頃[同]					
各家庭の供物を子どもたちがもってきて、公民館に集まり皆で飲食。綱引き、ゲーム等を行う。								
14	南方神社大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	木牟礼自治会(自治会公民館、南方神社)	行事日[過去]	12月第1日曜日[12月初旬頃]					
昔、出征兵士の家族は拝みに来ていた。下中、上中自治会が氏子であったが、現在は下中だけで管理している。毎年、12月の初旬、箱崎八幡神社宮司を招き、例大祭を実施している。								
15	下中小轍楽(郷土芸能)	存続状況	順調	関連テーマ				
場所	下中自治会(不特定)	行事日[過去]	不定期[不明]					
市制合併等何らかの区切り又は要請のあったとき実施される。								

13	空順講	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	本町地区(中央公園)	行事日 [過去]	5月26日 [不明]					
江戸時代、阿久根に大火が続いたため、空順上人に「火留祈禱」を行ってもらったところ、その後数十年間火災がなかったと言う。その徳をしのぶとともに、火災の消滅を祈って行われている。								
14	麦ほめ	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	倉津地区(集落内各家庭)	行事日 [過去]	1月14日ごろ [不明]					
子どもたちが集落内の各戸をまわり、家業繁栄を祈る。								
15	お月見行事	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	横手地区(横手公民館) 瀧地区(瀧区公民館及び周辺) など各集落の公民館等	行事日 [過去]	中秋の名月前後 [同]					
各集落で子ども会を中心に、綱引きや相撲などが行われる。								
16	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	波留地区(菅原神社)	行事日 [過去]	7月末 [同]					
「六月燈」として菅原神社で行われている。								
17	商人えびす祭り	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	本町地区(本町公民館) 大丸地区(大丸公民館) など市内各集落内	行事日 [過去]	2月 [不明]					
商売繁盛等を目的に行われている。								
18	高松川精霊流し	存続状況	順調	関連テーマ	19			
場所	大丸地区(高松川河畔)	行事日 [過去]	8月16日 [不明]					
お盆の風習として市内各地で行われていたが、現在行っているところは少ない。								

出水市

1	高松川精霊流し	存続状況	順調	関連テーマ	19			
場所	宮之元自治会(神社境内)	行事日 [過去]	11月第2日曜日 [11月7日]					
秋収穫感謝の祭にて、昭和40年代までは宵宮で神舞の後、余興を行っていた。現在は、収穫感謝の祭にて、2日前より名物のコンニャクを作り、前日より祭当日直会用(煮しめ、酢の物、おにぎり、漬物等300人程) 食事・準備に100人程度奉仕。当日は、祭典は厳粛に、直会は娯楽(楽しみ)に酒も18本準備。余興も幅広く楽しめる物を構成。								
2	大川内地区(16集落) 氏神(内神) 祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	上場自治(公民館ほか)	行事日 [過去]	毎年12月土・日 [集落により期日は定まっていた]					
集落により明治以降の文献あり。								
3	山田楽	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	大川内地区(大川内小学校)	行事日 [過去]	11月 [同]					
下大川内不動野集落に踊り手が多かったが、維持困難となり、大川内小学校に伝承した。しかしながら、少子高齢化により存続が危ぶまれている。平成25年頃、大川内厳島神社秋祭りに奉納された。								
4	氏神様祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	下平野自治会(公民館)	行事日 [過去]	14日以前の土又は日曜日に行う [12月14日]					
氏神、水神、火ノ神、田ノ神、山ノ神等の御幣を作り、神主に御祓いしてもらう。氏神、水神、火の神の御幣は各家庭に持ち帰り祀る。神事後、直会を兼ね忘年会をする。集落の人はほとんど出席する。								

2	三月十八日祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	中屋敷地区(野元公民館) 牧内地区(牧内公民館) など集落内の施設等	行事日[過去]	旧暦3月10日ごろ [旧暦の3月18日]					
藩政時代、地元郷土が馬頭観音を祀り、にぎやかな催しを行い、馬の育成に尽力したことに始まるといわれる。後年、馬や牛の健康を祈る祭りとなった。現在では農村部の慰労の意味があり、花見の観がある。農村部の「三月十日祭り」として行われている。								
3	祇園祭り	存続状況	順調	関連テーマ	15			
場所	本町及び大丸地区(市街地中心)	行事日[過去]	実行委員会により決定 [旧暦の6月15日]					
商家の夏枯れを吹き飛ばす景気付けの行事であった。各集落などから棒踊り、かま踊りなど郷土芸能が奉納された。現在は商工会議所などが中心に「阿久根みどこいまつり」として行われている。								
4	伊勢神社例祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	瀬之浦地区(伊勢神社)	行事日[過去]	旧暦の7月28日ごろ [同]					
旧下出水村の村社で、以前は村内各集落から郷土芸能が奉納されていた。現在は地元集落による「山田楽」が奉納されている。								
5	宮崎神社敬老行事	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	古里地区(古里公民館)	行事日[過去]	敬老の日ごろ [不明]					
現在敬老行事として開催されているが、本来は神社の例祭であったと思われる。以前は村内各集落から郷土芸能が奉納されていた。現在は地元集落による「山田楽」が毎年、「兵六踊り」が5年に一度奉納されている。平成28年頃から場所が宮崎神社から公民館に変わった。								
6	鬼火	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	横手、梅、桑原城地区(高松川河川敷)など 各集落内の開けた場所	行事日[過去]	1月7日を中心として [不明]					
外部から取りついた災厄を焼き払って明るい暮らしのはじめとする行事。子どもたちが集落内の各家庭などからまきなどを集め、鬼火を行う。								
7	春の市	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	本町地区(本町通り)	行事日[過去]	3月下旬 [2月20日]					
稲作が始まる頃で、農作業に必要なものなどを中心に市がたった。								
8	秋の市	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	本町地区(本町通り)	行事日[過去]	11月初旬 [10月7日]					
稲作の取入れ等が終わった時期に行われ、日用品などが取り扱われた。								
9	暮れの市	存続状況	順調	関連テーマ	18			
場所	本町地区(本町通り)	行事日[過去]	12月末 [12月27日]					
正月準備の市として開かれた。昔はお金の無い百姓や浦人たちは、農作物・魚介類などを持ち寄り、物と物との交換をしていた。								
10	えびす講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	倉津地区など(集落内神社等)	行事日[過去]	1月10日を中心に各集落ごと [同]					
漁民たちがその年の豊漁を願った行事で、海が荒れて漁ができない冬の時期を選んで行ってきた。								
11	ひな女祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	12			
場所	佐潟地区(佐潟漁協前広場)	行事日[過去]	旧暦の4月8日を基本に [不明]					
女兒を背負うときには顔が観客に見えるように背合わせに背負う決まりがあり、背負いながらハンヤ踊りを踊る。								
12	阿久根市波留南方神社の神舞	存続状況	順調	関連テーマ	19			
場所	波留地区(南方神社)	行事日[過去]	旧暦の7月28日 8年ごと [同]					
波留区が中心となって開催し、大字波留区の集落に観覧を呼びかけており、市外及び県外から多くの方が観覧している。伝承のため、仮奉納を毎年実施している。本奉納は8年に1回行われる。								

7	川辺二日市	存続状況	順調	関連テーマ	9	17		
場所	平山地区(川辺商店街)	行事日[過去]	2月第1土・日 [2月2日・3日]					
江戸時代に川辺郷の百姓が農閑期を利用して作った和細工や竹製品を持ち寄って開いたのが市の起源とされている(川辺町郷土誌)。本来は、12月19日と25日の「2日」だけ開かれる「二日市」だったものが、いつの頃からか2月2日・3日の2日間になり、2日に始まる意味の「二日市」となった。現在は2月の第1土日の「二日間」の市という意味になっている(商工会説明)。鹿児島県の三大市の一つとして、市外・県外からの来訪者も多く今後廃れる心配はないと思われる。約400点の出店が並ぶ。地元商店街の各店舗の他、県内外から出店者が集まる。以前は竹製品や農具、衣裳等の店が多かったが、現在は回転焼き、たこ焼き等の食べ物の出店が主体である。								
8	長崎自治会十五夜行事のゴグダイ祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	10	25	29
場所	長崎集落	行事日[過去]	十五夜行事実施日[同]					
十五夜の日に、少年たちが茅を頭からすっぽりかぶり、ゴグダイマジユイの歌を歌いながら集落を歩く。その後、十五夜綱引きや相撲を取る。歩く時の装束は青カヤを頭からかぶり、腰をカズラのひもでしばって花をさし、前には陰陽をあらわすナスやキュウリをぶら下げている。南さつま市坊津町鳥越の「ヨメジョ」と呼ばれる茅束に似ている。十五夜綱の材料となる茅を運ぶ習俗の一つと言える。歌は馬渡集落にも伝わる「馬方踊り」の「五代町」と同じもので、南薩地区の疱瘡踊りでもよく聞かれるものである。昔、疱瘡の病気が流行して集落の人口が半分になったため、集落内を祓い清めるために行われるようになったと伝えられている。疱瘡除けと五穀豊穡の願いが複合した興味深い習俗である。								
9	粟ヶ窪地区の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	9	15	29
場所	粟ヶ窪地区(粟ヶ窪地区公民館)	行事日[過去]	1月7日[同]					
火祭りで鬼や悪魔を払い、無病息災を祈る子どもの祭り。薪や青竹、正月飾りを集めて燃えやすいように組んで火をつけ、火焰に当たりながら餅を焼いて食べる。木の枝に餅をさして焼いて食べたが、今は公民館で作ったぜんざいをふるまう。以前は、薪や竹の燃え残りを持ち帰り、神に供えたり、煮物をするのに使った。正月行事として各自治会単位で実施されているところもある。粟ヶ窪地区は地区内全域を対象に実施している。南九州市内では、顕娃地域の他、川辺地域のいくつかの集落でも続けられている。								
10	新原門のウンドン祭り	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	只角集落(新原門)	行事日[過去]	12月19日[同]					
新原門の人々は、18世紀初め頃「絵幕」を伝承する水成川の平峰家から只角に入植した人々と言われている。平峰家のウンドン祭りが行われていた頃は、平峰家との交流があったようだ。平峰家から引き継いだご神体の面2面を祭る。祭りの座元は東組と西組に分かれ、毎年交互に執り行う。夕方から座元で神事と直会がある。顕娃地域にはこのほかに、ウッガン祭り(内神祭り)を集落や門ごとに執り行っているところもある。								
11	八幡神社の神楽祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	中渡瀬集落(八幡神社)	行事日[過去]	12月10日[同]					
中渡瀬集落で行われる内神まつり。豊玉姫神社官司による神事のあと、ヒトンモレ(シトギ貰い)という習俗がみられる。祭神に供えた赤飯とシトギをタブの枝で作った箸で分けあう。								
12	カセダウチ	存続状況	存続危機	関連テーマ	18	23		
場所	各集落(前年に新築した家)	行事日[過去]	小正月(1月14日)[同]					
前年に新築した家(よく稼いだ家)を神様が来訪し祝福する。かつては蓑笠姿の異形で現れたが、近年は七福神のプラスチック製のお面をつけるなど仮装行列的な色彩が強い。持参したデッキの曲に合わせて踊り、家主を祝福する。家主は訪れ神を歓待する。立派な塗りのものの平膳には、オタマジャクシの入った吸い物、おかずは調理をしていない鶏のトサカや足、マツボックリ、ワサビをべったり塗った魚のお刺身など。箸は笹がついたままの青竹。座布団の下には割木が入れている。神に扮しているので一言もしゃべらずに家主の酒を有難く頂く。その後、神々は金塗りの大黒像、財産目録、半紙で作ったお札を家主に贈呈する。財産目録は、その家の繁栄が未永く続くよう「割り切れない数字」の3を用いて、「家屋 三億三千三百三十三棟…」などと書かれている。それが終わると神々は仮面をとって人間に戻り、改めて家主を祝福し家主も酒を勧める。								
13	ウッガン祭り	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	峯苔集落(祠)	行事日[過去]	12月16日[不明]					
御神体は自然石。赤飯とシトギはアオキ(ヤマダテ)の葉に乗せる。理由ははっきりしないが、峯苔集落のウッガン祭りでは神主が祝詞を読む間に、黙ったまま他人の髪の毛を引っ張る風習がある。ウッガン祭りは知覧地区でも多くの集落(門)で傳承されている。								

阿久根市

1	三月十日祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	5		
場所	阿久根大島(金毘羅神社) 黒之浜地区(黒之浜港及び黒之瀬戸海峡) 牛之浜地区(牛之浜区集落センター)など海岸沿い集落	行事日[過去]	旧暦三月十日ごろ[同]					
藩政時代、地元の豪商が航海安全を祈って始めた。現在では漁村を中心に、海難に遭わず漁業ができるように祈る。慰労の意味があり、花見の観がある。一人用の重箱に豪華な料理が特徴であった。「金比羅祭り」とも呼ばれる。								

南九州市

1	飯倉神社のお田植え祭り	存続状況	順調	関連テーマ	9	17	22
場所	宮地区(飯倉神社)	行事日[過去]	7月第1日曜日(平成26年～) [7月10日(～平成25年まで)]				
<p>飯倉神社は、旧川邊郷の惣社であるとともに、川辺の宮・高田・本別府の産土神として信仰されている。お田植え祭りでは、まず宮・高田・本別府の各区長が出席して、飯倉神社で同社神職による神事後、棒踊りを境内で奉納する。その後、猿田彦面を先頭に、早乙女・棒踊りしべ棒・棒踊り踊り子・氏子衆が行列を作り、棒踊り歌道楽を歌いながら御神田(オンド)に向かう。御神田で改めて神事・棒踊りがあり、早乙女による田植えを行う。御新田での神舞のあと参加者へ煎り米・煎り豆が配られ、「それを食べると1年間無病息災」と言われている(現在は市販の豆菓子を配る)。再び神社に戻り、拝殿で田の神舞が奉納される。棒踊りは六尺棒と三尺棒の6人編制で、宮の宮小路・宮中福良・松崎の3集落が毎年交代で踊る。先頭にシベ棒(地突き棒)が付く。田の神舞は、翁面を付け背中には種もみ(に模した紙切れ)の入ったワラヅト(藁筒)を背負う。鈴を持って登場し、豊作を願う口上した後、鉞打ち(代かき)、種もみ播き、田の草取り(鉞を熊手代わりにして)、収穫(日の丸扇子の舞い)と順を追って稲作の様子を再現していく。道化的要素はない。祭りの起源ははっきりしないが、江戸時代に編纂された「川邊名勝誌」にかつては旧暦6月朔日に神楽と田植え踊りが奉納されていたとの記事がある。</p>							
2	川辺祇園祭り	存続状況	順調	関連テーマ	2	9	17
場所	平山地区(八坂神社、川辺商店街)	行事日[過去]	7月第四日曜日 [第1回11月8日 以降7月]				
<p>大正14年、川辺町商業組合の機関である商議会を中心に、京都から八坂神社を勧請し、同年11月8日に第1回祇園祭が開催された。現在、川辺二日市・かわなべ磨崖仏まつりとともに、川辺三大祭の一つとして地域に定着している。過疎高齢化が進行する中でも、川辺商工会青年部が中心となり、各団体の協力によって規模が縮小することなく今後も継続されると思われる。以前は、川辺高校生が担いでいた神輿を、主催者の商工会青年部が担ぎ行列のメインとなるなど、内容の変化が見られる。御神幸は、山車・祇園太鼓・神輿に踊り連と続く。神輿・御所車等は、川辺仏壇の職人が製作したもの。</p>							
3	平山南方神社の豊祭	存続状況	順調	関連テーマ	9	17	
場所	平山地区(平山南方神社)	行事日[過去]	10月 [同]				
<p>祭りの起源は定かではないが、南方神社は江戸時代には平山諏訪神大明神社といい、川辺郷の平山・田部田・永田の産土神として信仰され、3地区が太鼓踊りを奉納していた(現在は平山だけが数年に一度踊る)。神事のあと、太鼓踊りが奉納される。現在も続く平山太鼓踊りは、旧川邊郷だった地域に伝わる太鼓踊りのうち、唯一途絶えたことがなく、復活したほかの地区の太鼓踊りの原型となっている。踊り子は、中入りがカシタガネ2人とヒガラネ2人で花笠被り、ワッペコ(脇太鼓)は浴衣姿にシベのついた菅笠を被り、腰の位置に固定した太鼓を、持ち手が房状になった藁製の桴でたたく。5年ぶりに奉納された2015年には、約40名の踊り子が参加。神社での奉納の後、農業祭など地区内各所でも披露した。田部田太鼓踊りは、10年ほど前まで田部田鎮守神社の豊祭に奉納していたが、踊り手や練習時間の確保が難しかったため、現在は田部田棒踊りを奉納している。永田は日送り踊りが伝承されており、以前は棒踊りも伝承されていたが他の地域にない日送り踊りに専念するため、現在は踊られていない。太鼓踊りに関する伝承は聞かれなかった。</p>							
4	竹屋神社の豊祭	存続状況	順調	関連テーマ	9	17	
場所	中山田地区(竹屋神社)	行事日[過去]	10月19日(但し、下山田西豊年太鼓踊りのみ直近の日曜日) [10月19日]				
<p>秋の豊作を祝う祭りで発祥は不明。台風等で不作の際は行われぬ。もともと竹屋神社は、中山田と下山田の境にある塘之池の湖畔にあり、明治になって現在地にあった王子神社等と合祀されたもので、本来どちらに神社に奉納されていたのか不明である。今も曜日に関係なく10月19日に開催され、神事後に太鼓踊りが奉納される。勝目地区の太鼓踊りには、上山田・中山田・下山田西・下山田東の踊りがあり、現在は毎年順番に1つだけが踊られる。太鼓踊りは竹屋神社豊祭に奉納したあと、1日中かけて勝目地区内を回っていく。踊り子の構成は中入り(鉦2人・小太鼓2人)を、ワッペコ(大太鼓)数10人が取り囲み、二重の円陣で踊る。大太鼓のバチは藁製。上山田・中山田の踊りには、ワラフリという先導役が見られる(大太鼓のバチを大きくしたようなササラ状のものを振る)。踊り手の確保のため、団体によっては直近の土日開催することがある。各団体とも練習に2か月ほどかけ、奉納当日も地区内の30近い自治会で踊りを披露するため、早朝より深夜に及び、踊り手・地区住民の負担は大きい。地域の伝統行事として深く根付いているためしばらく存続すると思われる。</p>							
5	松尾神社の豊祭	存続状況	順調	関連テーマ	9	17	
場所	松尾城集落(松尾神社)	行事日[過去]	11月第1日曜日[不明]				
<p>飯倉神社の神主を招いて神事を行った後、野崎区の自治会のうち、島内、野崎中福良、荒殿、桑水流、迎方の5自治会のうち2自治会が毎年交代で棒踊りを奉納する。踊りは六尺棒と三尺棒の6人編制で棒突きが付く。元々、青年団が棒踊り、消防団が太鼓踊り、婦人会が疱瘡踊りをそれぞれ伝承していたが、若者の減少に伴い、男性の踊りは棒踊りだけになった。</p>							
6	田部田鎮守神社の豊祭	存続状況	順調	関連テーマ	9	17	
場所	田部田地区(田部田鎮守神社)	行事日[過去]	12月第1日曜日[不明]				
<p>飯倉神社の神職による神事後、現在は棒踊りを奉納している。神事の神饌は米・魚・果物・焼酎等で事前に購入しておく。全員六尺棒を持つ6人編制の棒踊りで、先頭にシベ竿が付く。本来、田部田太鼓踊りを奉納していたが、練習の時間や踊り手の不足により、同じく伝承されていた田部田棒踊りを奉納するようになった。元々は、平山・田部田・永田の3地区は、平山諏訪神社の豊祭に太鼓踊りを奉納しており、いつから鎮守神社に奉納するようになったかは不明。平成26年度に、太鼓踊りを復活させたいという意向があり、他の保存会から太鼓を借りる段取りまでついていたが、保存会内で意見がまとまらず、復活が流れた経緯がある。</p>							

31	益山八幡神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	加世田益山地区(八幡神社)	行事日[過去]	H27年度は7月18日(例年7月下旬) [旧暦7月24日]					
<p>六月燈には、手作りの灯籠を灯す。奉納芸能として、益山太鼓踊りがある。現在は新暦7月24日前後の休日に、益山八幡神社に奉納した後、大字加世田益山の各集落を回って踊る。踊り子の構成は、ナカウチ(カシタガネとヒラガネの鉦2人・小太鼓2人)とヒラ(大太鼓)からなる。大太鼓の桴はヤナギの木を芯に入れ藁を巻いたもの。先にはシベが付いている。益山では、竹屋神社でも子どもによる手作りの灯籠を飾る六月燈があり、棒踊りが奉納されている。</p>								
32	寄木八幡神社豊祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	17		
場所	加世田小湊中央集落(寄木八幡神社)	行事日[過去]	10月第三日曜日 [10月15日]					
<p>寄木八幡神社の豊祭では、小湊太鼓踊りが奉納される。踊り子の構成は中打ち4人(鉦2人、小太鼓2人)、平太鼓(大太鼓)で、他に歌い手3人がいる。大太鼓は藁草の桴を持って、優雅に踊る。鉦と小太鼓は清楚な白装束。歌い手は円陣の中で歌う。大浦町の平原から伝えられたといわれている。毎年、小湊小学校に声かけを行い、小学校5年生以上を対象に指導している。</p>								
33	お伊勢講(小湊中央)	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	29	
場所	加世田小湊中央集落(小湊中央公民館)	行事日[過去]	7月11日 [同]					
<p>小湊中央公民館では、毎年2月11日に御伊勢講を祭り、今は75歳以上の方の敬老祝いともなっている。お伊勢講では、馬方踊りと笹踊りからなる庖脩踊りが伝承されている。馬方踊りは茶屋ん嬢(チャヤンカカ)とも呼ばれ、伊勢道中を再現したユニークなお芝居。この踊りは昭和3年、小湊小学校の講堂落成式で初めて披露された。昔の恐ろしい流行病であった庖脩(天然痘)にかからないように、かかっても軽く済むように伊勢の皇大神宮に祈願に行く道中の模様を劇風化したものと言う。踊り手は40代～80代までの女性で構成される。伊勢講の木祠は小湊中央公民館で祭っており、一年中榊の葉を絶やさないように、ハナコトリと呼ばれる世話役がある。</p>								
34	八幡神社夏祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	4	8		
場所	加世田小湊中央集落(寄木八幡神社)	行事日[過去]	7月18日 [不明]					
<p>竹田神社宮司による神事がある。子どもたちの手作り灯籠を飾り、演芸大会などがある。小松原道楽踊りを奉納する年もある(『加世田市史』によれば、道楽踊りはお伊勢参りに因み、踊りは370年前に始まったという)。</p>								
35	お伊勢講オンケ	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	29	23
場所	大浦町大木場集落(大木場公民館・集落内)	行事日[過去]	2月11日 [同]					
<p>毎年2月11日の御伊勢講で見られる宿移り習俗の一つ。オンケは「お迎え」がなまったもの。ヨメジョと呼ばれる嫁入り姿の二才(青年)が、伊勢講の木祠を担ぎ、仮装したお供を引き連れて、集落内を練り歩く。集落民は、辻々で、行列をお迎え(オンケ)する。午前中には集落の西・北・南にある3日所の聖地に向く登山がある。</p>								
36	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	30		
場所	加世田武田(竹田神社)	行事日[過去]	7月23日 [同]					
<p>竹田神社は島津日新公忠良を祀り、貴久公(忠良嫡男)の命日6月23日(今は月遅れの7月23日)に夏祭りを執り行う。現在は午前10時から神事、拝殿での浦安の舞奉納、境内での加世田土踊り奉納が行われる。鳥居前の益山用水路には加世田の水車からくりが掛かる。また、各地の郷土芸能奉納や演芸大会・相撲などのスポーツ大会も行われる。かつて鹿児島三大夏祭りの一つと言われ、加世田をはじめ川辺郡内各地から参拝者があった。「カラクリ」でかき氷を食べるのが南薩の夏の風物詩の一つとなっていたと言う。今でも益山用水路沿いには出店が続き夜までにぎわう。</p>								
37	盆踊り(久志太鼓踊り)	存続状況	存続危機	関連テーマ	9	19		
場所	坊津町久志地区(久玉神社・地区内各地)	行事日[過去]	8月15日 [同]					
<p>久志太鼓踊りは、盆に坊津町久志の九玉神社に奉納したあと、大字久志の各集落を回って踊る。「盆踊り」とも呼ばれるが、踊り子以外の集落民は踊りには参加せず観客となる。鉦2人(頭鉦・平鉦)、入り鼓1人、大太鼓約30人ほどで構成。鉦2人は、振袖に花笠を被る。小太鼓は陣羽織に花笠姿。大太鼓は白衣姿に手拭を縫い込んだ笠を被り、背中には山鳥の羽根を付けている。太鼓は、肩から腹の下に垂直に吊るす。隊形は鉦・入り鼓の3名が内側に、大太鼓が外側に、二重の円陣を構成する。途中、大太鼓の1人が中の円陣に打ち込む見せ場がある。その場面では内側の輪が4人構成になる。歌い手は円陣の外から歌う。大太鼓の桴は桐製で手に少し余る大きさ。太鼓はほとんど叩かず、擦りながら踊る。</p>								
38	鳴石のガンガンドン祭り	存続状況	順調	関連テーマ	9	16		
場所	加世田内山田鉄山集落の西(内山田鳴石)	行事日[過去]	8月第4日曜日 [8月25日]					
<p>所在地は鉄山集落に近いが、祭りには鉄山は参加せず、この地域を水源とする内山田上区の3集落(田之野3人、大野2人、西村2人、合計7人)で祭っている。主催は、内山田上のお伊勢講の順番に当たっていない集落が当番となる。鳴石は近世に編まれた『再撰帳』にも加世田郷七奇所(七不思議)に教えられた山頂の雨乞い石で、直径2mの大岩。これを叩くと暴風雨になると言われる。</p>								

24	お伊勢講(福元)	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	29	
場所	大浦町福元集落(福元公民館)	行事日[過去]	2月11日 [同]					
<p>福元では、公民館に祭ってある伊勢講木祠で神事を行ったあと、棒踊りと庖瘡踊りを奉納していた。伊勢講木祠には大根に椎の木の枝を指したものを供える。2001年までは、福元でも婦人会による庖瘡踊り(馬方踊り含む)が行われていたが、後継者不足で現在は、棒踊りだけが公民館の前庭で披露される。衣裳が全員そろいの着物・袴・帯を着ける。足は素足。袴から後ろに青赤黄3色の手拭を垂らしている。採り物は全員六尺棒で、6人がらみ。現在は2組12人が参加。踊り手の定年は70歳。現在60代10人、50代5人、40代5人、青年2人、高校生1人。</p>								
25	お伊勢講(平原)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15	29	
場所	大浦町平原集落(平原公民館)	行事日[過去]	2月11日 [同]					
<p>平原では、お伊勢講祭祀の最初に、参加者全員でお伊勢講の歌を歌いながら、榊で前の人を祓うしぐさをする珍しい習俗が見られる。この後棒踊りと庖瘡踊りがある。棒踊りは、6人編制で長刀と鎌の組み合わせ。衣裳は踊り子それぞれに異なる。庖瘡踊りは、馬方踊りと手踊りからなる。馬方踊りは旦那と馬子2名、お供2名。すべて婦人が演じている。伊勢参詣をユーモラスに再現したもの。馬方踊りの後、ボンテンや扇子をもつ庖瘡踊り(手踊り)が続く。大浦町のお伊勢講は、郷土芸能が残る永田・榊・上之門・福元・平原のほか、大木場(オンケという宿移り習俗がみられる)、有木(神事と直会)などでも行事としては続いている。</p>								
26	唐カラ船祭り	存続状況	順調	関連テーマ	9	10	12	20
場所	坊津町泊地区(九玉神社)	行事日[過去]	5月5日 [同]					
<p>ガラガラ船(カラカラ船)、舳先につけた綱を引っ張って遊ぶ郷土玩具の車付き帆掛け舟。漁師の家だけではなく、ガラガラ船は、遊びの少ない時代に親が作ってくれたもの。両親の家だけではなく、男の子がいるところほどの家でも作ってもらえた。この船は毎年作りかえるということはない。兄から譲られたりもする。船大工に頼むわけではなく、各家で手作りした。泊地区では、近年子どもの日のイベントとして「唐カラ船祭り」を催している。地区内の子どもたちが「ハンヨーイ、サーサー」の掛け声で九玉神社までガラガラ船を引いて行列を作る。郷土芸能や餅つき、カラカラ船競争と賑やかに繰り広げられる。ガラガラ船には「サイの子(猿の子)」と呼ばれる布で作った人形がいくつも付けられている。</p>								
27	坊ほぜどん	存続状況	順調	関連テーマ	3	4	9	17
場所	坊津町坊地区(八坂神社)	行事日[過去]	10月第三日曜日 [陰暦9月15日であったが、明治43年から11月15日になり、大正13年から10月15日、昭和59年から10月第三日曜日になる。]					
<p>秋祭り(豊祭)の還幸行列。獅子舞に赤・黒鬼面の露払い、幟旗、サイセンバコと呼ばれる桶を掲げた振袖姿の少女「十二冠女」、御囃子(法被姿の少年の太鼓に巫女姿の少女の笛)、お神輿と続く。前夜の「内祭」で、お旅所へ御遷幸するが、こちらには幟旗と御神輿だけの行列で、十二冠女は見られない。お旅所は3集落(上之坊・中坊・鳥越)の公民館が毎年交代である。十二冠女のカンメは、鹿児島弁で載せる(冠る)という意味で、頭上運搬のヘウ(クッション)を挟み、その上にサイセンバコと呼ばれる桶(魚桶)を載せたもの。もとは12歳の少女が12人揃えた。豊作・豊漁・無病息災を祈り、室町時代の祇園祭の風情を思わせる伝統行事だと言われている。</p>								
28	水神祭り(新川)	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	29	
場所	加世田高橋新川集落(新川公民館)	行事日[過去]	8月第1か第2日曜日 [旧暦6月28日]					
<p>水神祠でお祓いをした後、宮司さんを交えて公民館で懇親会を行う。料理は仕出しをとる。子どもたちがいた頃は、水難除けのガラッパ(河童)相撲があった。水神祠には、「明治16年8月30日建立」と刻まれている。相撲があった頃は、午前中にホラ貝の合図で公民館に集まり、唐人塚川右岸(岩の平)の水神にお参り。水神南側の広場でまずガラッパ相撲を取った。その後、新川橋を渡り、船場地区の新川河口まで「コーノヨー、ホイホイ」などと唄いながら行進。新川河口では婦人会の皆さんがトイモガラの酢の物など手作りの素朴なごちそうをふるまってくれた。昼食後、相撲大会。相撲甚句もあり、三段跳びや肩車などアクロバットのようなものもあったという。相撲は、下級生が赤ふんどし、上級生が白ふんどしをつけた。相撲は大関「錦岩」で終わる。弓取り式も行われた。</p>								
29	お伊勢講(小松原)	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	29	
場所	加世田小湊小松原集落(小松原公民館)	行事日[過去]	2月11日 [同]					
<p>公民館に集まってくじ引きをし、「太夫」と「ワキ」を決める。「太夫」は昔からの装束を着け、公民館に祭ってある伊勢講木祠に拝礼し、吸い物を食べる。太夫とワキは、大根で作ったかまぼこ焼酎を持って、恵比須から寄木八幡神社に行きお参りする。3年くらい前はそこで餅の入った吸い物を食べていたとのこと。祠のしめかざりも年1回このときに替えるとのこと。公民館では、男性料理会の方が「刺身・煮しめ・にぎりごはん」をつくりそこで懇親会を行う。小松原道楽踊りは、『加世田市史』によれば、お伊勢参りに選ばれた代表者が、出発の際は帰りの途中までの送り迎えに踊ったものと言われている。</p>								
30	十五夜(綱引き・相撲)	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	17	25
場所	加世田万世地区各地(大崎八坂神社ほか)	行事日[過去]	旧暦8月15日[同]					
<p>大崎1・2区の綱は長さ30mほど。藁を練って作っており、サキヅナとドンヅナからなり、ドンヅナにはたくさんの引き綱が付いている。ドンヅナのしっぽの部分は、農作業用のズダ袋を被せてある。大崎八坂神社の境内から、幟旗を先頭に集落内を引きずって回り、神社にもどってくる。道中の十五夜歌は「十五夜おっ月さん早よ出やれ、子どもが喜び綱を引く、エーッサッサ、エーッサッサ」。神社に戻ると、綱引き合戦は行わず、この日のために境内に作られた土俵で十五夜相撲を取る。万世では大崎1・2区以外にも、唐仁原や小松原集落でも同様に行われている。</p>								

17	中津野御田植踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	9	17		
場所	金峰町中津野地区(南方神社)	行事日[過去]	4月26日(4月の最終日曜日) [同]					
<p>かつては普通作の田植え上がりの踊りとして、半夏生の頃に行われ、「ハゼオドイ(半夏生踊り)」と呼ばれていた。戦後、早期米が中心になり、その田植えが落ち着き、皆が集まりやすい4月最終日曜日に開催するようになった。踊り子は神社に到着すると採り物やタスキを拝殿に供え、お祓いを受ける。神事後、4種類の踊りを奉納する。踊りが終わると中津野地区内各地で披露する。踊りは金山踊り、4人がらみ鎌踊り、6人がらみ棒踊り。小学校3年生以上(女の子も可)が踊る。</p>								
18	白川鬼火焚き(おねっこ)	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	金峰町白川中集落(集落内の田んぼ)	行事日[過去]	1月の第二土曜日 [1月7日]					
<p>戦後一時途絶えたが、地域活動に熱心な皆さんの手で1978年に復活させたという。復活の際、かつて行われていた集落単位の小さな鬼火焚き行事を、校区全体の行事として、北薩で見られるような巨大やぐらの鬼火焚きに変えた。前日作った櫓に一晚泊まって番をし、翌朝6時ごろ、持ち寄った正月飾りと一緒に櫓を焼く。残り火で餅を焼いて食べると、一年間無病息災と言う。やぐらに泊まって番をする習俗は、復活前の小さな鬼火焚き時代にも見られたと言う。鬼火焚きは、金峰地区では、尾下三、四組集落や大野上馬場集落でも続いている。</p>								
19	大山祇神社山神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	大浦町大木場集落(大山祇神社)	行事日[過去]	12月21日(12月の第一の申の日に近い日曜日) [旧暦 霜月の第一申の日]					
<p>氏子2人が大草履を履き(あまりの大きさに跨ぐような感じ)、鳥居から拝殿までの約15mをノッシノッシと歩く。片足を上げるのも一苦勞である。普通の神社は、鳥居から拝殿へあがっていくが、大山祇神社の場合は、鳥居から拝殿へ階段を下がっていくのが特徴である。神事のあとは、ヤツデの葉を手にした氏子たちが拝殿前に群れ、施餓鬼(せがき)の赤飯を丸めたヤツデの葉にもってもらう。この赤飯を食べると一年中健康で幸せに暮らせると信じられ、家に持ち帰り家族中で賞味する。大木場は平家の落人の里といわれ、昔から農家の副業に草履づくりが盛んで「コバソイ(木場草履)」として有名だった。伝説によると村人は、源氏の追っ手におびえながら暮らしていた。そこで、村に通じる峠道に畳十畳ほどの大草履を置いたところ、追っ手は「この村には巨人がいる」と恐れ、退散したと言う。以来大草履は、村の守り神として、毎年旧暦11月の「一の申の日」に行われる山神祭りに、これを奉納している。</p>								
20	盆踊り(大浦太鼓踊り)	存続状況	存続危機	関連テーマ	9	19		
場所	大浦町永田集落(日新祠堂)	行事日[過去]	8月15日 [同]					
<p>大浦町永田の日新祠堂に奉納したあと、各集落に分かれて踊る太鼓踊り。「盆踊り」とも呼ばれるが、集落民全員が踊るのではなく、踊り子隊だけが踊り、集落民は観客となる。かつて各集落に踊りがあったが、2006年に5集落になり、現在は2集落(永田・上之門)のみで伝承されている。鉦2人(イリ鉦・頭鉦)・小太鼓2人(イリコ・シイデコ)の中打ちと、大太鼓のヒラ、ウタ者で構成される。太鼓はほとんど叩かず、藁草で作った桴を頭上で回したり、太鼓を桴でこすったりして、動きを優雅に見せる。大きな音を立てるのは禁忌とされている。永田では、以前は青年団(28歳まで)が踊り手だったが、現在は60代の人も踊っている。</p>								
21	お伊勢講(永田)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15	29	
場所	大浦町永田集落(永田公民館)	行事日[過去]	2月11日 [同]					
<p>永田では、1年間伊勢講の祠を祀る役(エソ=会所)をクジ引きで決め神事を行う。棒踊りを公民館の庭で披露した後、公民館の中の伊勢講木祠の前で疱瘡踊りを奉納する。永田の棒踊りは、4人がらみの六尺棒踊り。疱瘡踊りは馬方踊りと小唄踊り(シベ踊り)の2部で構成される。馬方踊りは、伊勢参詣の道中の模様をユーモラスに表現した劇。馬子は車の付いた、大型犬ほどの木製の馬模型を引く。この馬方踊りに続き、櫓やボンテンを手に持ち、祓い清めるしぐさをするシベ踊りが踊られる。伊勢神の力で、疱瘡退散を願う。馬方踊りは、往路→神宮参詣→帰路の3場面からなり、旦那と馬方・小姓の問答や小唄が楽しい。</p>								
22	お伊勢講(櫓)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15	29	
場所	大浦町櫓集落(櫓研修館他6カ所)	行事日[過去]	2月11日 [同]					
<p>櫓では、公民館に祭ってある伊勢講木祠へ神事を行った後、疱瘡踊りと棒踊りを奉納していた。2000年ごろまでは、疱瘡踊りもあったが、現在は午後から棒踊りだけが披露されている。棒踊りは公民館や納骨堂など集落内の各所で披露する。踊り子は揃いの衣装に紅色の大きな襷を背後に垂らす。足には足袋を履く。採り物は、全員六尺棒を持つ。6人がらみで、最近2組12人が参加。踊り手は定年は無し。踊れるまで踊る。現在70代が2人、60代が5人、30代から50代はいない。20代2人、高校生1人、中学生1人。</p>								
23	お伊勢講(上之門)	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	29	
場所	大浦町上之門集落(上之門公民館)	行事日[過去]	2月11日 [同]					
<p>上之門では、公民館に祭ってある伊勢講木祠で神事を行った後、棒踊りと疱瘡踊りを奉納していた。疱瘡踊りは平成27年3月に婦人会が解散して踊らなくなった。棒踊りは公民館の前庭で披露される。上之門の棒踊りは、棒ではなく、長刀4人と鎌2人の6人編制。歌詞は「オセロガヤマデ、マエハオオカワ(後ろが山で前は大川)」。踊るときは、ボウと呼ぶ大きなしべ竿を2人で持ち、地面を突きながら、踊り子の周りをまわる。</p>								

10	市来・山下の鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	加世田内山田市来・山下集落(田んぼ)	行事日[過去]	1月7日に近い土曜日 [1月7日]					
<p>行事の流れ…午後1時30分頃より壮年会の会員が山下公民館に集まり、集落所有の山や近くの山から、孟宗竹や木を伐採してきて田んぼに櫓を組む。午後3時頃には子どもたちや集落民が集まり、まず無病息災を祈り、各家庭から持ち寄った門松も櫓と一緒に、午後5時ごろ、火をつける。その後、持ち寄った餅や魚(いわしの干物)を火で焼いて、皆で食べる。鬼火焚きの火に当たると風邪をひかないといわれている。壮年会は、会員9人・準会員(70歳以上)10人の合わせて19人で活動している。</p>								
11	村原日枝神社六月燈	存続状況	復活(45年前)	関連テーマ	4	8		
場所	加世田村原集落(日枝神社)	行事日[過去]	7月第四日曜日 [7月17日]					
<p>日枝神社の六月燈は、竹田神社宮司による神事を執り行い、村原棒踊りを奉納する。境内には自治会で作った回り灯籠や子どもたち手造りの灯籠をそもす。棒踊りは6尺棒を持つ6人編制の踊り。先頭に、ホコと呼ぶ高さ4mのシベ竿(削りかけ)が付く。昭和42年に復活した踊りで、2004年までは閏年に4年に1度、今は3年に一度奉納している。南さつ平市金峰町花瀬から伝わったという伝承がある(加世田市史より)。以前から村原単独で行っている。踊り手確保の為、知人などを通じて探している。</p>								
12	武田老神神社の夏祭り(六月燈)	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	加世田武田武田上集落(老神神社)	行事日[過去]	7月20日 [不明]					
<p>老神神社の六月燈では、竹田神社宮司による神事を執り行い、武田上区鎌手踊りを奉納する。境内や鳥居脇の水路そばに、各集落手作りの回り灯籠(5個・毎年張り替える)や子ども灯ろうを飾る。かつては水車で回る灯籠もしていた。武田上区鎌手踊りは、4人編制の鎌とナギナタの踊り。</p>								
13	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	加世田武田(竹田神社)	行事日[過去]	7月20日 [不明]					
<p>竹田神社の六月燈では、水車カラクリの展示と、土踊りが奉納される。水車カラクリは毎年演目に応じて人形などの舞台が作り替えられ、神社前の用水路の水を利用して舞台が動くように工夫されている。土踊りは島津貴久公の正忌日に申いとして奉納されたのが始まりで、その後も引き続き6月23日(現在は7月23日)に奉納されるようになった。</p>								
14	野間神社例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	5	21		
場所	笠沙町片浦地区(野間神社)	行事日[過去]	2月20日 [19日から20日]					
<p>2月20日には、笠沙をはじめ、大浦や小湊など周辺地域の住民も神社に参り、野間岳に登る。麓の椎木集落では、各家でそばを打ち、参拝客にふるまう風習が残っている。奉納芸能として、現在は市崎木場棒踊りが踊られる。起源は、戦勝祈願のため、天文9年(1540)1月19日に参拝しようとした島津忠良が、二の鳥居まで来たときに「守護不入山」の扁額を見て引き返し、伏兵の襲撃を避けることが出来たことにちなみ、正月19日から20日にかけて祭祀が行われるようになったと言う。のち、月遅れの2月20日になった。別名「ハッカマイ(二十日祭り)」。</p>								
15	片浦のお伊勢講祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15	29	
場所	笠沙町片浦集落(片浦公民館)ほか	行事日[過去]	2月11日 [同]					
<p>片浦では、祠を祀ってある公民館で野間神社宮司による神事を執り行った後、浜へのご神幸(浜下り)を行う。『笠沙町の民俗・上巻』によれば、「村落の役員達の間でクジ引きにより宿を決めて1年交代で祀っていたものが、戦後、公民館に移された。…二才入りの二才祝いがあった後でオイセドンをする」という。幟・擦り鉦1・道化面(鬼・天狗・狐・ひよっこほど)・太鼓・祠・神主・稚児と続く。同中は、鉦太鼓の囃子のもと、先払いの道化面が「オイヤナー、オイヤナー」(鹿兒島弁で「いらっしやいますか」。いらっしやれば、賽銭をもらえないかーという意味か。)と歌いながら、肩に担いだ棒(ケン=剣)を左右になびかせて進む。漁協前では、この道化役が、ケンで人々を叩いて回る。これに叩かれると縁起がいいと言う。子どもは恐れて逃げ回る。鉦の合図で整列しなおし、防波堤まで再び行進。防波堤では野間岳(南)に向かって整列して「オイヤナー、オイヤナー」を歌う。衣装は全員白禰袴に紅色の女物着物。大変華やかな御伊勢講になっている。笠沙地域では片浦のほか、小浦、野間池、赤生木でも御伊勢講がみられる。</p>								
16	御田植え踊り(田布施)	存続状況	順調	関連テーマ	9	17		
場所	金峰町尾下地区(金峰神社遥拝所・南方神社)	行事日[過去]	4月29日 [もとは5月6日、のち5月5日]					
<p>金峰神社遥拝所で神事後、7つの踊りの順番をくじ引きで決める。境内では集落ごとに莫菴を敷いて、昼食をとる。昼食の後、まず金峰神社遥拝所に奉納し、次に同じ境内にある南方神社へ奉納する。南方神社に奉納するときには、次の踊り子が金峰神社遥拝所に向かって踊っている。つまり、2組の踊り子が同じ境内で、2方向に向かって踊る。御田植踊りは、尾上組、尾下組、高橋、大野上馬場、大野下馬場、池辺、塩屋堀。かつては扇山も踊り、扇山だけはくじを引かず最初に踊ることになっていた。青年の踊りを二才踊り、壮年の踊りを三才踊り呼ぶ。先頭にはいずれもマトイと呼ばれる孟宗竹のシベ竿が付く。二才踊りでは、4人がらみ鎌踊り(鎌・ナギナタ)・6人がらみ棒踊り(六尺棒のみ)、4人がらみの金山踊り(長刀・シベ錫杖)がある。三才踊りには6人組の刀踊り(長刀と錫杖・ホコ・笹)、6人がらみ薙刀踊り(鎌・薙刀)がある。三才踊りでは、御田植神事のようなものは行わず、踊りだけの祭り。大野上馬場では、昔は中学1年生、2年生以上が踊っていたが、7年くらい前から小学6年生以上(女子も含む)が踊っている。平成27年の小学生以上の踊り子は14人だった。池辺では、4、5年前から小学校3年生以上(女子も含む)が踊り手になっている。</p>								

3	十五夜(綱引き・相撲)	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	17	25
場所	加世田地域(元の加世田町管内)各地	行事日[過去]	旧暦8月15日に近い休日 [旧暦8月15日]					
<p>加世田の市来・山下では、平成13年に復活した。壮年会の人たちが中心になり、子どもたちと一緒にカズラやカヤを集めて回る。前年刈り取り保存してあったワラとその年集めたカヤ・カズラを使って櫓をたてて大綱を練る。とぐろ上に巻いて月の出を待つ。子どもたちが集まると、とぐろ上の大綱の上に正座して、月を拝んで無病息災を祈る。触れの鐘がなると集落の人達が集まり、大綱を道路に引き伸ばし、引っ張り合う。その後、大綱を県営住宅集会所の前の広場に、ぐるりと巻いて、その中にワラを敷き、土俵をつくる。そして、土俵の上で子どもたちが相撲をとる。以前は、隣集落(田頭)も綱練をしており樋之口橋の上で田頭集落でそれぞれ作った綱をつなぎ合わせ、綱引きをしたこともあった。鉄山では、当日、午後5時くらいに集まり、ワラ・カズラ・カヤで綱をねる。櫓はたてない。地面で編む。1時間くらいで綱練りは終わる。練った綱は、公民館前の広場でとぐろ状に巻いておく。午後7時位から料理は仕出し、おにぎり程度は婦人の方々がつくり、懇親会を行い、月の出を待つ。月が出るのと引き伸ばし、2、3回綱を引っ張り合う。村原では、十五夜の前日に、崎園公園に櫓をたて、ロープを芯にしてワラで綱を練る。地元の記事が協力してくれる。子どもたちは相撲の景品のための寄付をもらいに各家を回る。当日は綱引きをし、その後相撲をとる。マワシを付けての相撲である。加世田地域ではほかに、元の加世田町管内の津貫地区などでも綱練り・綱引き・相撲が行われている。</p>								
4	お伊勢講(加世田地域)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15	29	
場所	加世田津貫西原集落ほか加世田地域各地	行事日[過去]	2月11日 [同]					
<p>現在は、当日集まり、しめなわの飾りを新しくし、お賽銭箱のお賽銭と参加した人がお金を少しずつだして、お茶菓子を買ってお茶を飲む程度で、集落行事としては行っておらず、自由参加となっている(伝承組織としての団体は存在していない)。『鹿児島民具』21号によると、元々は、乙名ドンのを回っていたのを、のち旧土族も加わり、西山・原向公民館で祭るようになり、両公民館の間を宿移りをするようになった(現在は二つの公民館が一緒になり、西原公民館でお伊勢講を行っている)。また、「女性が料理を準備する。昔はニシメ・大根のユナマ(ナマスではない)などを各戸で作って持ち寄る。くじであつたところは別に作る。…寛政12年申(1800)正月式日の講箱の蓋のみ伝わっている。」と言う。内山田上でもお伊勢講の宿移りがみられたが、4～5年前から行われていないと言う。上津貫のお伊勢講は、10年くらい前に新山の公民館に祠が宿移りしてからそこにとどまっていた、宿移りは行われていない。毎年1/11に集落の新年会を兼ねて、注連縄や神シバを替え、お賽銭箱をあけて、神事だけ行っている。</p>								
5	加世田歳の市	存続状況	存続危機	関連テーマ	18			
場所	加世田本町通り・えびす通り	行事日[過去]	12月23日 [12月24日, 25日]					
<p>苗木や竹細工、木製品、刃物、干物のほか、綿あめなどの露店が並ぶ。1990年代まで万世の小松原にも12月22日・23日に市があつたが、現在は行われていない。『広報かせだ』1995年12月号によれば、「かつては、数の子は大きなバラ(丸口箕)に山盛りで1斤2斤と売られ、ショケ、バラ、モロブタ、刃物、苗木のほかは、はご板、ユントイヤ(初誕生祝いの矢)などもあつた。荒物は阿多や大浦からも出店があつた」と言う。今でも、「市のかぜにあたると、来年も元気で過ごせる」と言われる。にぎやかだった歳の市も近年お客さんが減り、露店の数も少なくなっている。『加世田市史』によれば、旧加世田町では昔は野町で行われたが、明治の末ごろからえびす通りや本町通りで、12月24日・25日行われるようになったと言う。平成27年からは、祝日の12月23日に行われるようになった。</p>								
6	中村・松元の鬼火焚き	存続状況	存続危機	関連テーマ	1	8	15	18
場所	加世田内山田中村・松元集落(田んぼ)	行事日[過去]	1月7日 [同]					
<p>2、3年前までは、1月3日に櫓を組み、7日の夕方火をつけるという流れで行事を行っていたが、現在は櫓を組み作業をする人の減少により、櫓は組んでいない。現在は、各家庭の門松を集めて、小学生のいる世帯(中村集落4戸、松元集落1戸)は自宅の門松を持ち寄り一緒に火をつけるのみである。付けた火で、餅を竹にはさみあぶって食べたりしている。</p>								
7	近戸神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	加世田内山田中村集落(近戸神社)	行事日[過去]	7月25日 [同]					
<p>祭りは大字内山田協議会が中心となって執り行い、子どもたちの手作りの灯籠を灯す。夜に内山田太鼓踊りを奉納し、特設舞台では住民による演芸が披露される。太鼓踊りは鉦2人・小太鼓2人の中打ちと、平太鼓(大太鼓)で構成される。大太鼓のバチは藺草の手作りで、手に収まる程度の大きさ。『加世田市史』によれば、昭和58年から内山田小学校児童に手ほどきし、運動会に披露して後継者の育成に努めていると言う。</p>								
8	内布大山祇神社例祭(六月燈)	存続状況	存続危機	関連テーマ	4	9		
場所	加世田武内布南集落(大山祇神社)	行事日[過去]	7月16日に近い土曜日 [7月16日]					
<p>手作りの灯籠(子どもたちが紙に絵を書いて毎年張り替える・子ども会でやっている)を灯す。神事は、竹田神社宮司にお願いする。奉納芸能として、内布鎌手踊りがある。鎌と薙刀の踊り。年4回神社の例祭を行う(7/16, 10/10, 12/3, 3/16)時に踊りを奉納していたと考えられる。現在は例祭は決まった日に行うが、踊りの奉納は7月16日に近い土曜日に行っている。踊り手は40代2名、50代2名、60代2名、歌い手は80代である。歌い手は1名しかいないため、唄をテープにとり保存している。この踊りは『加世田市史』によれば、南さつ市金峰町白川から伝えられたとされている。</p>								
9	豊祭(ほげまつり)	存続状況	存続危機	関連テーマ	9	17		
場所	加世田津貫地区(天御中主神社)	行事日[過去]	10月27日 [同]					
<p>津貫地区の豊祭祭りは、毎年10月27日に、天御中主神社で執り行われる。竹田神社宮司による神事のあと、津貫中間、干河、上門の太鼓踊りが奉納される。午前中に前庭があり、境内で各地区ごとに昼食、午後から後庭を踊り、各地区に帰って地区内を披露して回る。太鼓踊りの踊り子は、中打ち(鉦2・小太鼓2)と大太鼓のヒラから構成される。干河では『加世田市史』によれば、昔から干河の青年達で踊られてきたが、終戦前から途絶え、昭和39年頃20年ぶりに復活、毎年天御中主に奉納している。踊りの構成は、中・平・歌とも津貫のほかの地区と同じで、装束も中間や上門と似通っていると言う。</p>								

45	枚聞神社ほぜ祭	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	開開十町(枚聞神社内及び地区内)	行事日[過去]	10月14, 15, 16日 [同]					
8月14日前夜祭。神事の後午後7時頃より神舞の奉納。出し物：浦安の舞、鬼神の舞、南方の舞、中央の舞、天のウズメの舞などがある。8月15日例大祭、神事の後芸能。8月16日御神幸祭、警察署長の馬を先頭に、王面、御輿、稚児騎馬武者…と続き、毎年臨番で指定の区内を練り歩く。境内土俵では、奉納相撲が奉納される。神輿の変化：戦前…装束姿のかつぎ手によりしずしずと。昭和40年代…ハッピー姿でワッショイワッショイ。昭和60年代…トラックの荷台。								
46	十五夜相撲	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	17	25
場所	十町入野道地(集落内公園)	行事日[過去]	旧8月15日前後 [旧8月15日]					
綱引…現在は市より競技用のロープを使っているが、昔は一部青年の力を借りるも子どもたちが中心になり、茅、葛で縄は練り上げられた。相撲…十五夜の数日前(たのんもん節)より取組は行われ、子ども等は集落内を巡り、取組の前には独特な歌が唄われた。								
47	火の神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	川尻区(火の神社)	行事日[過去]	旧暦3月, 10月 [不明]					
発祥は不明。神官を招いて神事を執り行う。酒・米・塩・魚・野菜等を供物として準備。								
48	御嶽神社祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	川尻区(御岳神社)	行事日[過去]	1月18日 [同]					
発祥は不明。神官は依頼しない。米・塩・酒・線香等を供物として準備。								
49	上村加治家氏神祭	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	仙田集落(各戸)	行事日[過去]	毎年旧霜月1番酉 [霜月2番酉]					
祭祀は持ち回り。赤飯に米粉の生練玉を準備する。注連縄等準備。日本刀、銅鏡(明暦年号)あり。上村家は加治家の分家と考えられる。加治家は元来、鍛冶取と考えられる。本家跡らしき屋敷に石祠有。								
50	お伊勢講	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	29	
場所	開開十町玉井(輪番制の座元宅)	行事日[過去]	1月, 5月, 9月の基本16日 [同]					
代表が伊勢より持ち帰ったお札を講中で拝んだのが始まり。始まったのは藩政頃と考えられる。特に神主は呼ばず、持ち回りの座元が祭祀を執り行う。昔は座元の前後に家より手伝いをもらい、料理は手作りしていた。現在は仕出し弁当。また講中に不幸があったときは皆で葬儀を手伝った。開開の各集落では同じ様な講が今も執り行われている。								
51	西開開十五夜縄引き相撲行事	存続状況	順調	関連テーマ	9	10	17	25
場所	西開開集落広場	行事日[過去]	旧暦8月15日前後の日曜日 [同]					
縄作りは子ども会及び70代までの大人により練られ、縄引き終了後、婦人部により、酒と食事がふるまわれる。会が盛り上がった頃合いを見て、子ども相撲より始まり、大人相撲へと移行。中断していた行事を、子ども育成会にて再興(1970年頃)。								

南さつま市

1	熊野神社祭り(六月燈)	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	加世田川畑落集落(熊野神社)	行事日[過去]	7月19日 [同]					
子どもたちの手作り灯籠を灯す。奉納芸能として、川畑お城が山踊りがある。昔は婦人部の手踊りなどもあった。お城が山踊りは、鎌と薙刀の棒踊り系芸能。先頭にホコと呼ばれる削りかけ(しべ竿)が付く。「お城が山」は、歌詞の「後ろが山(おせろがやま)」にちなむ。六月燈では中高生が踊り、7月23日は小学生も入って竹田神社夏祭りに奉納する。								
2	もめも	存続状況	存続危機	関連テーマ	10	17		
場所	加世田内山田横平集落(田んぼ)	行事日[過去]	11月亥の日 [同]					
11月亥の日に、餅をつき、「なえとこだ(苗をつくった田んぼ、現在は農協が稲の苗を作り販売しているが昔は自分の田んぼに植える苗は、それぞれ自分の田んぼで育てていた)」に、2把のもみのついたわらの穂をくって「こさん竹」を160cmくらいに切り中心に入れて田んぼに立てる。1升枧に餅を2個くらい入れて一緒に供える。その餅をちぎりこさん竹の葉の間にはさむ。わらの中心にも餅を入れる。この飾りは子どもに飾らせるものであった。「1畝にいっしゅまき13俵(ぶ) ごってういがるきらんど」とお願いする。(1畝の田んぼから13俵とれるようにお願いしている)。現在も内山田では2, 3人の方が、亥の日の藁苞を田んぼに立てている。								

38	ジブサンメイ (ウナツメイ)	存続状況	順調	関連テーマ	9	15	18	
場所	鰻集落 (鰻地藏堂)	行事日 [過去]	正月15日・16日 [同]					
<p>鰻の地藏参りには正月15・16日で、この日にお参りすると故人に会うことができる (地獄のふたが開き、死者の霊にあえる) と言う。また、毎日の墓参りをしたことになる言い伝えられている。ウナツメイには、死者の縁につながる近郷近在の人々が早朝から絶えない。参道には、各地から農具や飲食物などの露店が並び、地藏堂に参詣する人々の祈りがスメ (噴気孔) からの湯気と同化して、のどかな湖畔に逍遙する。</p>								
39	徳光神社大祭 りえもん祭り	存続状況	順調	関連テーマ	9	17		
場所	徳光区 (徳光神社境内)	行事日 [過去]	10月17日 (土) (児童等の授業などの都合で休日に) [10月18日 (農家は農休日であった)]					
<p>徳光神社は、宝永2 (1705) 年、約310年ほど前、琉球から山川港にイモを持ち帰った前田利右衛門を祭る。「りえもん祭り」①イモ一株競作会・審査、展示、表彰。(監事・産業部)。②神事 (全役員、招待客)。③イモてんぷら (ガネ) つくり (集落民・婦人会)。④奉納パレード (徳光小児童による小学校正門から徳光神社までの奉納パレード)。⑤子ども相撲 (小学生男女、保育園児)。「ハッキヨイ」祭りのメイン。⑥イモてんぷら (ガネ) 配布、ガネを小袋に入れ来場者に、振る舞い・おもてなし (婦人会)。⑦綿菓子つくり・配布 (集落民・区役員)。*直会: 懇親会はアルコール無しで実施 (交通安全のため)。</p>								
40	トツノモツツイ (節の餅吊り)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15	29	
場所	鰻集落 (鰻地藏堂付近の市道上)	行事日 [過去]	5月5日 (節の日に餅を搗いて、トツノ餅を吊し祀る都合で、旧暦5月節句の日になった) [旧暦5月16日]					
<p>戦後: 昭和30年代前後までは成川区の諸集落でも「トツノモツツイ」行事があった。子どもたちは、家々からこの日に搗いたトツノ餅やワラを集める。そのワラで三つ練りの大きな注連縄を作り、村の出入りに吊るす。シメ縄にワラで作った人形や牛、馬、ヤツデの葉、ワラツト (藁苞) に包んだトツノ餅を下げる。子どもたちは大きな声で「悪か病気が入ってこないように」と唱えながら、注連縄の上を内側から外側に向け、石ころを投げ上げて祈る。</p>								
41	亥の日の石突き	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	17	
場所	後馬場集落 (辻々や人家の庭)	行事日 [過去]	旧暦10月第二亥の日 (授業の都合で、亥の日の前後の休日に実施) [旧暦10月第二亥の日]					
<p>「サイヨー サイヨー 今日の亥の日には もちゃつつがならんど シトメガネー シトメガネー (白米がない)」と唱えながら「亥の日の石突き」をする。豊作祈願と縁結びを願う祭り。収穫した米で餅をついてお供えした。亥の日の餅はミト餅 (夫婦もち) ともいい、二つ重ねて供えるものだった。(この行事は、収穫の終わった土地を突き鎮める儀式であろうと思われる)。地突きの山川石は損壊するので、石工 (イシキイドン) 堂園茂芳氏 (最後の石工といわれた) に細工して作ってもらった石を用いていた。石を高い位置から落とすと道路に穴が空くので、そこに瓦の欠片を詰めて石で突いた。道路が舗装になり「路面」と「石突きの石」が損壊するため、半量の畳を用意して敷くようになった。昭和54年、子ども会の復活と併せて「亥の日の石突き行事」を復活した (古老の指導で数名の有志・子ども会の保護者が協力)。</p>								
42	大山十五夜綱引き・相撲大会	存続状況	順調 (「十五夜綱引き」と「すもう大会」を隔年交互に実施)	関連テーマ	8	10	17	25
場所	大山区 (大山神社)	行事日 [過去]	十五夜綱引き: 10月11日頃 十五夜相撲大会: 9月26日頃 [旧暦8月15日には、山川町内の各地区・集落では、十五夜の綱引きと相撲が傳承されていた。]					
<p>十五夜行事には収穫祭的な色彩が感じられる。豊年祭、無病息災として綱引き、相撲大会は農民・住民の儀礼的な祭り、行事となっていた。【大山十五夜綱引き】平成26年10月 (土) 「カヤ採集」 (小・中学生子ども会・区民) 一世帯あたり1束 (直径20cm以上) 「カンネン採取」 (集落民・郷土研究会)。「綱かき・豊年祭」 (小学校5、6年生・中学生・子ども会保護者・大山老友会・郷土研究会・消防分団・婦人会・区民)。「綱引き」大山神社境内 (大山区民全員)。【十五夜相撲大会】平成27年9月 (土) 大山神社境内。参加者: (幼稚園児、小学校・中学校子ども会員、飛び入り歓迎)</p>								
43	塩釜祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	開開十町塩屋 (塩釜神社)	行事日 [過去]	十五夜の前夜 [十五夜の前夜の日曜日]					
<p>塩屋集落は昔、製塩が行われたところその技術は塩土翁によって伝えられたと言われ、村人たちは塩土翁を祭り感謝をしている。約30年前から。</p>								
44	お伊勢神社御神幸祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	29	
場所	川尻区 (火の神社)	行事日 [過去]	6月5日前土曜日 [6月5日]					
<p>午後1時より神事、その後、御輿を中心とした神幸行列が区内を練り歩く。村人たちは行列を出迎え、御輿の下を通り抜ける等して、祈願をする。</p>								

31	亥の日の餅つき	存続状況	中断中	関連テーマ	8	10	17	
場所	小田集落	行事日 [過去]	不明 [不明]					
五輪塔の頭部に縄をつけた物を使用するものだったが、山川石で出来た小さな墓石に変わった。地区内三辻・四辻について歩くものであったが、近年は新築の家や新婚の家を要望によって歩くなど、PTAや子ども会などの資金作りの色彩が強くなってきた。								
32	西殿鎌田家氏神祭	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	成川区井手方集落(西殿/市指定文化財「成川板碑」付近) 〔伴姓頼娃氏が給地、鎌田但馬の守居住地跡〕	行事日 [過去]	旧暦9月9日 [不明]					
神官を招いて行うウッガンマツイ(氏神祭)。神饌・供物・料理は、菌田家…御飯と味噌汁、吉村家…シュンカン(煮しめ)、中菌家…ゴッチャマゼ(五目寿司)、馬場家…ナマス(酢の物)。昭和30年頃、小野重郎氏が調査された井手集落の項に、「鎌田家と中菌家」がウッガン祭りを合わせて行った記録がある(昭和初期には、鎌田家と中菌家それぞれ祭っていたのか)。								
33	成川南方神社神舞	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	成川区(成川南方神社等)	行事日 [過去]	戦後：10月の例祭の日 [戦前：ホイ講旧暦1月21日、神舞22日夜から23日にかけて。]					
昔はカンメ、御諏訪様の神事として舞われたと言う。現在、13番まで。①ネイメ(禰宣舞)内侍舞。②キンネンダマ(きつね玉)。③ホイメ(奉仕舞)。④タノカン(田の神)。⑤フンツルッ(踏剣)。⑥ジワイ(地割)。⑦ヤヌツキジン(矢抜鬼神) 矢抜。⑧ナンナツタ(長刀)。⑨ヘタテ(弊立)。⑩ゴボウキジン(五方鬼神)。⑪ニホンガツナ(二本刀)。⑫サカメン(咲姫) 木花咲耶姫。⑬ウツルッ(12人剣)。[計40人] *グレマワイ(宮入れ廻り) 御神幸は、新築や祝い事のあった家、家内安全を願い、病氣や災難など不幸が続いた家もそうである。住民の崇敬の念が偲ばれる。								
34	ダセチツ(出せ突き)	存続状況	順調	関連テーマ	9	14	18	
場所	利永集落(新婚家庭宅の庭先)	行事日 [過去]	1月14日 日没ごろ [正月14日 日没後]					
新婚夫婦を祝福する小正月行事「ハラメウチ」習俗の一つ。昔は男子の行事、今は女子も加わる。新婚家庭の庭先で子どもたちが、「ダーセン、ダーセン…」と大声で唱えつつ、ダセ棒で地面を突く動作を繰り返す。ダセ棒は、前もって親が作ってくれて、床の間に供えておいた。エノキ・センダン・タツなどの木。子どもが使いやすい太さ、長さ1mぐらい。児童数が少ないときは、上級学年を加えるなどして地域・PTA・児童・生徒と協力して工夫している。若者や新婚家庭の減少も、今後の大きな課題となっている。								
35	鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	18	
場所	浜児ヶ水海岸・岡児ヶ水海岸	行事日 [過去]	1月7日(ナンカンゼツ・7月節句)の日 [1月7日]					
正月の門松を各家庭から集めて、海岸で焚く。最近では小学生が集める門松が少なくなると、門松に代えてタンモン(薪)を持ち寄って燃やしている。松の木や竹を心柱を立て、根元に子どもたちが家々から集めた門松や割り木(柱祝い)・竹を積み上げた。心柱のてっぺんに岡児ヶ水では、シベと銭、浜児ヶ水では、鬼の絵を描いた紙とシベを貼り付けタカンパッチョ(竹皮の笠)をつくる。集落の役員により、夕暮れの迫るころに火がつけられる。火の勢いが強くなり盛んに燃えると、竹がパンパン音をたてて弾け、その音で鬼が逃げるといわれる。鬼火焚きの火に当たると、無病息災のご利益があり、燃え残りの木を持ち帰り、木戸口に立てかけ、軒先につり下げたりした。焼けた竹箆を牛馬に食べさせると、病気をしないと云われる。岡児ヶ水の鬼火焚きをする海岸を、ワガエノンハマ(我が家・村の浜)と呼ぶ。世話をする役員は、8集落の8人・区運営委員5人・幹事3人、計16人。直会は、近年、飲酒運転予防のため中止とした。村人は豊年満作、無病息災を祈願する、岡児ヶ水・浜児ヶ水集落の行事。浜児ヶ水集落では「サンコンメ」が終わった後に「鬼火焚き」をする。山川の各集落でも10～30年前までは行われていた。								
36	浜児ヶ水のサンコンメ	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	18	
場所	浜児ヶ水区(集落4ヶ所で演じる)	行事日 [過去]	新暦1月7日午後3時頃(鬼火焚きの時間は潮の満ち干に関係) [旧暦1月7日]					
発祥の年代は不詳。大戦中に一時中断。パッチョ笠をかぶった少年が、長さ2mほどの太い硬貨入りの孟宗竹を担いでグルグル回り、勢いをつけて地面に放り投げる。この舞は、①集落センター前、②野道の三叉路、③東の地藏さん前、④西の地藏さん前、⑤納骨堂の広場で終わり。そこから海岸に下って鬼火焚きの行事となる。浜児ヶ水は半農半漁の集落から漁業者が減り、純農村へ変わっていった。サンコンメは口伝によると海の漁と深い関係があり、通過儀礼的なものではないかという説もある。かつてはサンコンメの前に十五歳の二才入りの行事があり、二才入りしてからの心得や作法などを教えられたと言う。二才入りすると、地引き網漁の配分が半人前から、一人前に倍増した。また、浜児ヶ水には六櫓の船が20隻もあり、冬はイワシ、秋はムロアジ漁で栄えた地域であった。キピナゴ入りのナマスを縁起物として見物人に配る。昔は婦人会の人がハシで手のひらに乗せていたが、今は衛生面もありビニール袋に入れて配る。								
37	利永のメンドン	存続状況	順調	関連テーマ	9	15	18	23
場所	利永集落(利永集会センター)	行事日 [過去]	新暦1月18日(日)、来年は1月17日(日)(勤務の都合) [旧暦1月16日 伊勢神を神社に返した夕方]					
戦前は、集落に六組の伊勢講があり、それぞれの神宿移りの途中にメンドンが出た。また、神輿の下をくぐり縁起物の白米ご飯をもらいへぐろを塗られると、一年間の無病息災、悪霊退散のご利益があると云われた「山川町史」。伊勢講としての歌は伴わないようだ(村民の伝承および町史、下野・小野先生等の資料から)。								

21	豊玉媛神社豊年祭	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	岩本区(豊玉媛神社境内)	行事日[過去]	例祭…11月23日(勤労感謝の日)に実施)、 六月燈…7月19日(実施日は不特定)					
豊玉媛神社の豊年祭として、神主さんを招いて毎年実施している。豊年祭では棒踊りと空手の奉納芸がある。また、豊年祭では地区で作ったみこしを子どもたちがリヤカーに乗せて巡回する。みこし出発前には、神社に拝礼してから地区内を巡回。準備として11月20日神社境内等を清掃する。								
22	小牧八幡神社六月燈	存続状況	存続危機	関連テーマ	4	8		
場所	小牧集落(小牧八幡神社)	行事日[過去]	旧暦6月9日の直近の日曜日 [旧暦6月9日]					
手作りの灯籠を飾る。区民で神社にて神事を行う。準備…神社に灯ろうを飾るため事前に灯籠作りを行う。区役員で神社内外の清掃を行う。								
23	小牧八幡神社ホゼ祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	17		
場所	小牧集落(小牧八幡神社)	行事日[過去]	旧暦11月9日 直近の日曜日 [旧暦11月9日]					
区民で神社にて神事を行う。区役員で神社内外の清掃を行う。								
24	揖宿神社の浜下り	存続状況	順調	関連テーマ	2	9	22	
場所	宮集落(揖宿神社)浜下り ※隔年交互行き先を代えて実施	行事日[過去]	ゴールデンウィークの日曜日 [春分の日]					
470年前、天文14年(1545)に新宮王面が奉納されたのを期に浜下りが斎行されるようになった。道具立てとして、自作の猿田彦山車・神輿・槍・紫翳・菅翳、購入した真榊・飾り太刀・弓矢・鉾・花傘・衣装を用いる。以前は、神馬・先導・神職と三頭の馬を要請していたが、現在は、近くに馬主が居ないために神馬用の一頭のみ、始良市から運送する。奉納芸能として坂田踊がある。								
25	イシナト	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	10	18	
場所	尾掛公民館広場	行事日[過去]	1月中にPTAで決定 [1月1日]					
男子(小1～中2)で各自弓を持参し、道に掘られた溝をとり囲み、ダイダイをころがし、それを狙って射る。射ることの出来た者には賞品が与えられる。弓は自分で作る。昔は、タブの木、あるいは竹で弓を作っていた。元は道路脇でしていたが、現在は公民館広場。平家の落人で、戦いに出るための訓練の説があるが、本当のところは分からない。又は弓で的を射てその年の吉凶を占う行事とも考えられる。昭和35年頃、危険とのことで中断したが、昭和60年頃復活した。現在は子どもの減少で存続が難しくなってきた。								
26	鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	18	
場所	温湯わいわい広場	行事日[過去]	1月6日 [不定(6日前後)]					
壮年団、地区PTAが連携して毎年実施している。実施日は、これまで6日を中心に都合の良い日に行ってきたが、伝統行事としての価値は七日夜に実施することが大切との声から6日に固定するようにした。戦前から子どもの行事として毎年実施してきたと考えられる。								
27	若宮神社の夏祭	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	摺ヶ浜中地区(若宮神社)	行事日[過去]	7月中[同]					
揖宿神社の神主に来てもらい神事を執り行う。手作りの竹灯籠を灯し、民謡踊り・ダンス・演奏の披露等がある。								
28	戦没慰霊祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	下吹越集落(迫北公民館)	行事日[過去]	11月18日[同]					
戦没者の遺影を掲げ、果物・菓子・生花を供え、僧侶による供養を行う。								
29	亥の日の石突き	存続状況	復活(10年前)	関連テーマ	8	10	17	
場所	片野田地区(片野田公民館広場)	行事日[過去]	10月末から11月上旬の日曜日 [旧暦亥の月(10月)の最初の亥の日]					
新米で餅をつき、豊作に感謝、収穫後の土地を突き鎮める。土地のモグラやケラ、ネズミ等を追い払う。亥の多産にあやかり、無病息災、縁結び、子孫繁栄の願いを込めて、子どもたちが各々で石にひもをつけて、埋めた石に歌をうたいながら、石を上下させ突き合わせていた。昔ほどの集落でもやっていたが、米作りが少なくなってきた、すたれた行事になってきた。								
30	御伊勢講	存続状況	中断中	関連テーマ	8	15	29	
場所	小田地区公民館	行事日[過去]	不明[不明]					
発祥は、約200年前(文化8年)と言われている。年1回公民館にて執り行っていたが、現在は中断中。								

11	アッカドン (秋葉神社祭)	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	上・下吹越集落交互に実施 (秋葉神社)	行事日 [過去]	12月1日 [同]					
神社で神事を行っている。上吹越, 下吹越, 1年交代で毎年実施している。実施自治公民館が代表者として進めている。								
12	御伊勢講	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	石嶺集落 (石嶺公民館)	行事日 [過去]	1月第三日曜日 [不明]					
準備: ①地区役員6人, 新・旧花香取8人。会場設営, 神官依頼弁当・飲み物準備。②全世帯出席。順序: 神主による神事, 御定朗読, 御神酒, 出席者全員による昼食。大根・キャベツ・人参を準備し, 魚・果物・塩・米は購入する。								
13	十五夜	存続状況	中断中	関連テーマ	8	10	25	
場所	下門公民館周辺	行事日 [過去]	旧暦8月15日 [同]					
綱引き, 相撲。綱引きは, 子どもたちが主体になって行う行事で, 十五夜一週間前から準備に取りかかり, 8歳~14歳までの男の子どもたちが日の丸弁当に, からいもをもって山岳の細道を威勢良く集落共有地の茅場にたどり着き, 14歳の子から, 各人自分の体に応じた茅を取るように指示され目標に向かって懸命な作業がなされ, 10歳以下の子どもたちは思うように茅を取ることが出来ない。従って, 年上の子が加勢をして自分の体に応じた茅を取って, その責務を果たしていた。現在は, 子どもの少子化でPTAを中心として, 防犯組合員も加勢しながら地域で行う等, 市内各所で行われている。明治以前から行われている。								
14	鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	
場所	各集落内 (下門ほか市内各地)	行事日 [過去]	1月7日 [同]					
鬼火を受けることによって, その年を無病で暮らせるとあって, 集落民揃って鬼火焚きの見物をする。又, 鬼火で黒く焼いた薪を2本以上持ち帰って, 門口の両側に飾って, 外からの侵入する悪魔を防除するために飾るという年中行事である。市内の各集落単位で, 鬼火焚きが行われている。但し, 内容等については, 多少の違いがある。								
15	アツカ講 (火伏せの神)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	下門集落 (秋葉神社)	行事日 [過去]	12月1日 [同]					
年1回神職をたのみ祭典を行う。7班あるので祭典をする班は前もって決められている。順送りである。講の座元で料理が準備されふるまわれる。酒も出る。経費はすべて会費制で祭典の費用も含めて集められる。駒形石碑建立が明治24年9月23日とされているので, 120年以上前から行われていたと思われる。								
16	玖珥神社新年祭・夏祭り・例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	4	8	10	
場所	池田集落 (玖珥神社境内)	行事日 [過去]	[新年祭 (春祭) 2月13日, 夏祭り・六月燈8月10日・例大祭 (豊年祭) 11月13日]					
2月13日に新年祭 (春祭), 8月10日に夏祭り・六月燈, 11月13日に例大祭 (豊年祭) を, 地域の神主に来てもらって執り行う。猿の子踊り, 庄五郎踊りなどを奉納。夏祭り・六月燈当日には, 地元保育園児, 婦人団体などによる踊りを奉納。秋の例大祭 (豊年祭) 当日には, 子どもから大人による「豊年相撲」などを昭和30年代まで行っていたが, 近年実施していない。準備: ①祭りの日まで (縄つくり), ②当日。								
17	馬頭観音祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	池田字小浜集落 (各戸等)	行事日 [過去]	1月18日 [同]					
準備は3日前より行う。のぼり旗を通り道に複数立てる。当日は, 祭り場所は2か所で行っている。源頼朝の愛馬となった馬は源平宇治川の戦で佐々木四郎高綱が頼朝公の愛馬池月で宇治川の急流をおし切って一番乗りの功名をたてて軍功第一とうたわれたことは歴史にも伝わっているが, その駿馬池月が薩摩池田の産であったといわれている。								
18	今嶽神社の元旦祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	18		
場所	新西方集落 (今嶽神社)	行事日 [過去]	1月1日 [同]					
正確な年代はわからないが, 一年のはじめとして五穀豊穡, 家内安全で地区民が暮らすように祈願されている。農産物・タイの魚を供え, 神主による神事を執り行う。								
19	今嶽神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	新西方集落 (今嶽神社)	行事日 [過去]	7月第三, 第4日曜日 [同]					
正確な年代はわからない。旧暦の6月18日が六月燈と定められていた。								
20	アツカドン祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	浜東集落 (漁協センター)	行事日 [過去]	旧10月18日 [不明]					
神職をお願いして御祝いする。準備は当日行う。神社で神事を行い, 夜は漁協センターで会食が行われる。								

指宿市

1	氏神祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	道下上地区3か所(今村班, 上曾山班, 下曾山班)	行事日 [過去]	11月から12月中 [不明]					
今村班・上曾山班直会は、氏子宅を持ち回りで行っている。下曾山班：現在直会は公民館で行っている。								
2	上西園モイドン講	存続状況	順調	関連テーマ	27			
場所	上西園門集落(各戸)	行事日 [過去]	12月13日 [旧暦11月3日, 旧6月3日]					
六月燈と12月13日に、男性所帯6名で年2回持ち回り。市販の弁当を取る。								
3	伊勢講	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	15	29	
場所	久保集落(久保公民館)	行事日 [過去]	旧1, 5, 9月16日 [旧1, 5, 9月16日]					
かつては持ち回りで、現在は公民館。発祥は不明。								
4	鬼火焚き	存続状況	存続危機	関連テーマ	1	8	18	
場所	久保集落(広場)	行事日 [過去]	1月7日 [同]					
かつてはあぜ道で、現在は広場。								
5	戦没者慰霊祭・火災防止祈願祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	29		
場所	田之畑集落(田之畑公民館)	行事日 [過去]	2月24日以前の日曜日 [同]					
昭和13年2月24日の大火後から。揖宿神社から神職に来てもらい神事を執り行う。								
6	宮ヶ浜八坂神社六月燈(夏祭り)	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	宮ヶ浜集落(八坂神社)	行事日 [過去]	7月第三土曜日 [同]					
八坂神社での例祭後、子どもたちはみこしを担ぎ、宮ヶ浜集落内を練り歩く。最後は、海岸公園で夏祭りとして踊りなどを発表。屋台もあり花火打ち上げ、富くじもある。神事は指宿神社神官をお願いする。								
7	高祖神社の六月燈	存続状況	存続危機, 復活(40年前)	関連テーマ	4	8		
場所	中川集落(中川自治公民館)	行事日 [過去]	学校が夏休みに入ってから第一回目の日曜日 [不明]					
中川ごちよう踊りを奉納。発祥は不明。								
8	荒神まつり(垂水前原門)	存続状況	順調	関連テーマ	8	29		
場所	垂門公民館	行事日 [過去]	1月24日 [1月4日曜日]					
無病息災、家々の繁盛を祈願する荒神祭。かつては持ち回りで現在は公民館。宮司を年一回招いて御祓いをして戴く。お供え(米, 塩, 堰は, シンゴダゴ等), 代表者(その年の当番が玉串を捧げる)各門に紙四手を立てる。実施日1月第四日曜日実施する。※昔は祭の後の宴会は、当番宅で料理を作り、宴会は昔は全員で負担、明治時代からの記録有。								
9	湯峯神社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	西方集落(湯峯神社)	行事日 [過去]	1月第三日曜日 [旧暦1月10日]					
年1回氏子代業が集まり、清掃祭典を行う。祭典は揖宿神社神官が執り行う。以前は祭典のあと直会のために鶏などをつぶし、手作りの料理を準備していたが、弁当を取るようになり、現在は直会もなく、御菓子などの詰め合わせを氏子代表に配布している。他に吉崎門の氏子が2班に分かれ、2か月に1回神社内外の清掃を実施し、維持管理に努めている。湯峯神社の由緒：江戸時代中期、中福良の郷士竹内宮内少輔実高氏の所から御神体が天狗となって巢目権現の一本松に飛び移った(火の玉が飛んだ)との話から竹内氏の命を受けた吉崎庄左エ門(名主)を中心に道上郷民総出で建設した。								
10	(道上)春日神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	道上集落(春日神社)	行事日 [過去]	7月26日 [不明]					
子どもたちが夏休みに入った最初の日曜日。揖宿神社から神官をお願いする。								

12	鯉供養祭り	存続状況	順調 復活 (24年前)	関連テーマ	9			
場所	片平山公園(旧蛭子神社跡)	行事日[過去]	9月～10月[同]					
大正5年12月に鯉供養塔が建立されている。昭和12年頃までは、「供養ちっ」と言う行事があり、大漁祈願と共に鯉の供養のため餅をつき、成績の良い3隻程度の船から岸に向け餅を投げ、片平山の旧蛭子神社、鯉供養塔でも餅投げをし、鯉を供養していた。枕崎市漁業協同組合が神職を招いて神事を執り行う。24年前に復活。								
13	山神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	立神北町地区(牧園の山神)	行事日[過去]	12月の美化活動の日 [12月]					
権現神、山の神、門内神3か所を同時に祀る行事。権現神は、園見岳の中腹岩窟の中にあり、以前は、海岸から貝殻、サンゴを持ってきたらしい痕跡がある。門内神の祠は公園内に2基あり、15年前、集落入口付近から移転した。祭り当日に3箇所注連縄、御幣をし、塩、焼酎などを供える。以前は、しとぎも作った。門内神もあることから、藩政時代からあるものと思われる。								
14	山神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	5	8		
場所	高見町地区(上釜山神社)	行事日[過去]	12月14日[同]					
藩政時代、当社付近に大火があり、当時宇都の神官山崎市之守が宇敷山から奉守勘請して祀り、火の神としたものであると伝えられている。神事の後、そばを食べる。そばは以前は手作りだった。								
15	神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	12		
場所	木原町地区(岩戸権現神社)	行事日[過去]	11月第1日曜日 [10月28日]					
木原集落の大工園、岩下、味園、南の4姓の集団で神祭りを行っている。氏子の苗字集団より、藩政時代の門割制度の頃から行われている祭りと思われる。豊作や無病息災を願ったものと言われる。座元(代表)は2人体制で、昭和31年からの祭りの記録が残る。神社は、岩戸権現神社と言われ、岩戸山の西側中腹岩窟にあり、石像の様相から古墳時代の様相の人物像に見える。岩戸山の東側岩窟には別府地区板敷集落の権現神社がある。神事の後直会がある。昔は紋付袴姿で神事をした。								
16	天御中主神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	妙見町地区(天御中主神社(妙見神社)境内)	行事日[過去]	7月29日 [旧暦時代6月29日]					
東鹿籠の夏祭りで、灯籠は手作り。芸能はない。発祥は定かでないが、藩政時代からの行事とされている。神社は、古くは内侍が裏の磐山で星見をする社と推量される。								
17	南方神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	鹿籠麓町地区(南方神社境内)	行事日[過去]	7月28日 [旧暦時代6月28日]					
西鹿籠の夏祭りで、灯籠は手作り。芸能はない。発祥は定かでないが、藩政時代からの行事とされている。								
18	天御中主神社ほぜ祭り	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	鹿籠麓町地区(天御中主神社(妙見神社)境内)	行事日[過去]	10月29日 [旧暦時代9月29日]					
東鹿籠地区の豊作感謝の秋祭りで、「東鹿籠太鼓踊り」「山口棒踊り」「山下水流太鼓踊り」が奉納される。踊りは藩主の島津氏が士気を鼓舞するためと推量され、藩政時代から始まった祭りと考えられている。現在は南方神社神職が神事を行い、かつては内侍も加わっていたとされる。踊りは、神社での奉納の後、地区内の各施設でも披露される。								
19	鹿籠の太鼓踊り	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	鹿籠麓町地区(南方神社境内)	行事日[過去]	10月28日 [旧暦時代9月28日]					
西鹿籠地区の豊作感謝の秋祭りで、神職による神事のあと「山下水流太鼓踊り」「山口棒踊り」「東鹿籠太鼓踊り」が奉納される(踊る順序が妙見神社と異なり、地元の水流山下が先に奉納する)。踊りは藩主の島津氏が士気を鼓舞するためと推量され、藩政時代から始まった祭りと考えられている。踊りは、神社での奉納の後、地区内の各施設でも披露される。								
20	道野の亥の日	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	道野集落内(道野公民館)	行事日[過去]	旧暦10月亥の日 [同]					
旧暦10月亥の日に、子どもたちが「1升撒き3俵あれもーもー」と唱えて餅を引っ張り合う行事。藁苞・餅を準備する。昔は男の子だけの行事だったが、現在は女子、大人も参加する集落行事。水田稲作が順調になりだした頃に始まったと考えられている。								
21	下園のモモカドン	存続状況	順調	関連テーマ	8	10		
場所	下園集落内	行事日[過去]	旧暦10月亥の日 [同]					
旧暦10月亥の日に、子どもたちが「1升撒き3俵あれもーもー」と唱えて餅を引っ張り合う行事。モモカドン(もーもーと鳴く牛の神様)の祠は、市指定文化財。藁苞と細長餅、丸餅を手作りする。昔は男子だけの行事だったが、現在は女子、大人も参加する。上竹門・下竹門・上原門・下園門・加治屋門が、門毎に当番交代して、神職を招いて神事を行う。水田稲作が順調になりだした頃に始まったと考えられている。								

3	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	5		
場所	松之尾地区(蛭子神社)	行事日[過去]	旧暦6月16日[同]					
枕崎漁業協同組合の行事で、従来、鰹漁船が灯籠を奉納してきた。現在は鰹船3隻・関係団体・子ども灯籠を自作して灯す。注連縄と御幣は購入したもの。鰹を供え、神職を招いて神事を執り行う。購入した米・野菜・果物・焼酎も神饌して供える。								
4	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	東本町地区(枕崎神社)	行事日[過去]	7月の日曜日[同]					
枕崎地区の東本町、宮前町、山手町、泉町公民館が中心になっている。購入した鯛・野菜・果物を神饌とし、神職による神事が執り行われる。灯籠は公民館・子ども・幼稚園で手作りし、灯籠コンテストがある。幟旗は購入したもの。								
5	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	高見町地区(山神神社)	行事日[過去]	旧暦6月14日[同]					
高見町の行事で、手作りの公民館・子ども灯籠を灯す。幟は購入したものを立てる。								
6	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	大塚中町(立神神社)	行事日[過去]	7月29日[同]					
立神地区の行事で、神饌として塩・米・野菜・果物・鯛を準備し、神職を招いて神事を行う。注連縄・御幣は購入する。神事後、直会がある。手作りの子ども灯籠を灯す。灯籠コンテストがある。								
7	伊勢講(災害防止)祈願祭	存続状況	順調	関連テーマ	9	15	29	
場所	立神本町地区(田中公民館)	行事日[過去]	2月16日[同]					
南北朝の頃、日野中納言邦光が若き頃に硫黄山岩崎寺に住み着き、この土地の豪族田中氏一族の娘との間に女子を授かり、この子が3歳の時、重い疱瘡にかかり、治療祈願のため伊勢神宮にお参りしたと伝えられている。田中公民館に伊勢神宮の神棚がある。関連行事として、5月21日に寺山法要がある。坊津一乗院の末寺である硫黄山岩崎寺跡(市指定文化財)で立真寺住職、地区民で法要が行われる。以前は、この日に日野中納言と田中一族の間に生まれた子どもの疱瘡治療祈願のため馬を仕立ててお伊勢参りする道中の様子を劇風に演じる「馬方踊り」が奉納されてきた。最近は不定期。現在、「田中馬方踊保存会」は存在し、伊勢講祈願祭では定期には奉納していないが、16人の会員が定期練習や各種イベントへの参加をしている。神事後、直会がある。								
8	立神正月相撲	存続状況	順調	関連テーマ	9	10	18	
場所	立神本町地区(駒場公園(馬追川河原))	行事日[過去]	1月3日 [1月5日]					
枕崎では、戦前3地区の正月相撲があったが、立神地区だけが伝承されている。土俵は固定式、年末までに各団体等で準備は終える。行事による神事後、小学生〜一般の団体戦・個人戦あり。メインの16番勝負の勝ち残り者には、青年大関として、しこ名と、校区内小中学校長の作成した化粧まわしの他、御幣、米2俵などが贈られる。しこ名は継承され、歴代大関のしこ名、化粧まわし(昭和31年から)が残る。行事による土俵入り(神事形式)・餅つき・赤ちゃん土俵入りもある。この日家庭では、手打ちそばで客をもてなす習わしがある。発祥は定かではないが、文久年間生まれの小湊喜太郎の幼少の頃もあったと言う。また、野間池周辺の鰹船の親方が始めたとも言われる。明治20年生まれの子の田畑十次郎のしこ名(浜嵐)が残る。								
9	ハマテゴ	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	15	18
場所	大塚中町地区(桜木町公民館[花渡川の河原])	行事日[過去]	1月2日[同]					
正月2日に、だいだいの実を弓で射とめる子どもの行事。枕崎市ではこの小江平地区にだけ伝承されている。太鼓の合図で弓矢を構えた子ども(男女)が1列に並び、横から転がした、だいだいの実に弓矢を放つ。射止めた子どもは、それを手に持ち、「テゴ、テゴ」と言いながら回る(戦前は2組対抗で、射止めた組は、相手組から1人を見方とし、最後に残った1人の子の尻を弓で打ちながら、太鼓をたたき、歓声を上げていた)。平成28年正月の子ども参加者は16名(男8、女8)。現在95才の古老が幼少の頃には、すでにあったと言う。指宿市のイシナトと同じ習俗で、ハマナゲ(破魔投げ)とともに、伝統的な正月の遊戯。								
10	氏神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	大塚地区(畑地に立つ氏神祠[もとは林の中])	行事日[過去]	11月第三月曜日 [11月10日頃]					
注連縄、しべ作りは男性、料理は女性の役割。座元は6戸の持ち廻り。ご神体の石は丸石で、石が増えると今後は「吉」と言われている。当日の朝から準備し、夕方になると皆が集まり、祠の中に4枚の大きな木の葉に赤飯としとぎを置き、焼酎を撒き、それぞれが残りの赤飯、しとぎ、焼酎を神前で飲食し、その後座元で直会を行う。ウツガンマツイ、カンマツイ、ヤマンカンマツイとも呼び、藩政時代の門割制度の頃からあったと思われる。平成20年までは祠も葦製で、料理も赤飯、しとぎのほかにはイアゲ、ナマス、煮しめを作っていた。								
11	十日蛭子	存続状況	順調 復活 (79年前)	関連テーマ	9	17		
場所	台場公園蛭子神社境内	行事日[過去]	1月10日[同]					
もと片平山に蛭子神社があり、明治42年に廃社後、昭和12年に枕崎漁協が小祠を瀬崎に復社、祭りを復活、26年のルース台風で倒壊、昭和26年現在地に復社し現在まで継続している。枕崎市漁業協同組合が神職を招いて執り行い、神事供物の魚が鰹である。								

15	盆行事（盆踊）	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	黒島片泊集落（片泊小中学校グラウンド）	行事日 [過去]	8月14・15日 [同]					
かつて盛大な盆行事が行われ、盆踊りも踊られたが、現在は過疎のために行事は著しく簡略化され、盆踊りも地元在住者だけでは踊れないので、前日到着する定期船で帰省した方々も加えて踊られる。朝からいわれのある場所を男達数人で踊って廻り、午後から校庭にて集落総出の盆踊りとなる。男達による太鼓踊りのあと婦人による手踊りや笠踊りがある。								

十島村

1	七島正月	存続状況	順調	関連テーマ	8	9	18	
場所	悪石島（総代の家と各家々）	行事日 [過去]	旧暦11月29日～12月6日 [同]					
旧暦12月1日を正月とする行事である。お盆と全く同様に先祖霊を迎え、祀り、送り返す行事である。先祖を迎えるのに、サトイモ、ダイコン、青菜をもつて迎え入れ、送る際も同様である。12月6日には、オヤダマ祭を行い、ネーシのシケによって先祖の帰りの時を知り、総代家で各家々の男たちが、タブの木の葉っぱを火にくべて、その音と共に先祖を送り出し、各家々でも同様にして送り出す。最後に、先祖霊の乗る舟の船頭役である家の御先祖を、島の男全員そろって送り出す。先祖の霊は「風下(カザンシタ)」に集まり、舟に乗って、口之島沖で全七島の霊と合流し、甌島の洞穴へと帰って行くと言う。								
2	八月祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	悪石島(八幡神社・坂森神社・金山神社等)	行事日 [過去]	旧暦8月 [同]					
旧暦8月に、各戸から男子が集まり、焼き畑で収穫した新粟を神々にお供えし、豊作を感謝する祭りである。青年たちが、ソソジャ（神饌の準備をする小屋）に集まり、集めた新粟でチマキとオミキ（酒）を作る。特にオミキは、新粟を炊いた御飯に水を注ぐだけのもので、極めて珍しい酒である。現在は、米の御飯である。チマキは新粟を粉にはたいて、サネンの葉で包んで、蒸したものである。八幡神社、浜の宮、坂森神社、その他の小宮に参り、チマキ、オミキをツワブキの葉の上に盛り、神に供え食する。その後、金山秋葉神社で祭が行われる。								
3	二月祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	悪石島(島内神社と小宮)	行事日 [過去]	旧暦2月 [同]					
各戸から男が集まり、豊作祈願の祭りをする。島内にある小宮も、神社と同じように祀る。昔は、この祭りが終わると、アワヤマ（粟栽培の竹の焼畑）伐りに出掛けたと言う。								
4	悪石島のボゼ	存続状況	順調	関連テーマ	8	19	23	
場所	悪石島(各家々と墓地及び公民館)	行事日 [過去]	旧暦7月7日～7月16日 [同]					
7日から盆踊りの練習。13日夕刻、墓から御先祖の霊を迎える。先祖棚から床の間に先祖の位牌を下し、15日まで祀る。13日の夜はお茶だけを供え、その後は先祖の数だけのお膳を供え、朝、昼、晩とお供えする。15日の夕刻、先祖霊をお墓に戻し、その夜青年たちが各家々を廻り、盆踊りを行う。14日から16日までの三日間で、竹籠（シタミ）でボゼ（仮面）を作り、16日午後4時頃、ボゼが公民館に出現し、その場にいる全員の悪魔祓いをする。ボゼマラ（棒）で赤土（アカシュイ）を付けられると、一年間健康に過ごせるという説もある。								
5	シチゲー	存続状況	存続危機	関連テーマ	18			
場所	悪石島(ホンボーイの家)	行事日 [過去]	(コマヒチゲー) 旧暦12月、(オーヒチゲー) 12月24日～27日 [同]					
七島正月、オヤダマ祭りに続く行事をシチゲーと言う。悪石島では旧暦12月中旬のコマシチゲーと下旬のオーシチゲーがある。コマシチゲーは神々が出雲に旅立つために洗濯をする日である。オーシチゲーになると同時に、魔手(シュウマテ)が悪さをすることから、各家々ではクワズイモにトベラの枝を指したものを玄関や各入口に置き、魔除けとする。26日の早朝、各家の男は浜港に行き、全裸で潮を浴び、身を清める。同日夕刻、神々が東の浜から出雲へと旅立つ道をホンボーイが清めてまわる。この日には各戸には外出禁止という厳しい禁忌が課せられる。また、子どもたちには芭蕉の繊維で編んだ符(フ)を髪や首に結び付け魔よけとする。								

枕崎市

1	遭難漁民追悼法要	存続状況	順調	関連テーマ	17	29		
場所	枕崎地区（西光寺・称赞寺・大願寺（持ち回り））	行事日 [過去]	9月23日 [同]					
明治28年7月24日に起った悲惨な大規模海難事故「黒島流れ」の鯉漁船員供養を目的に始められた法要。枕崎市漁業協同組合の行事。明治30年99人溺死の碑建立。昭和60年から黒島流れ90周年記念洋上慰霊祭開催。海難漁師慰霊塔建立。法要は、西光寺、称赞寺、大願寺の持ち回りで行われている。								
2	神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	木原地区（木原天道神社）	行事日 [過去]	11月第一日曜日 [1月正月]					
木原天道神社は上木原、下木原、岩下、祇占の4姓集団で祀っている。このうち代々上木原家が氏頭。ご神体は銅鏡。神事では神職は呼ばず、注連縄・御幣を作り、神饌として塩・米・果物・焼酎を供えて祀る。その後公民館（以前は境内）で直会を行う。正月には餅を供える。								

6	盆行事(柱松と盆踊り)	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	硫黄島集落(長浜海岸)	行事日[過去]	8月15日[同]					
盆行事の一環として暗くなってから柱松が行われる。海岸に柱松(俊寛燈籠という)を2本立て、これに下から火を投げあげてテッペンに火をつける行事。屋久島からも見えるので、屋久島北側の人も海岸に出て拝むという。朝から桔竹で巨大な俊寛燈籠を作り、海岸の浜に立てる。燈籠は竹製の大松明。これが終わると浜で盆踊。そのあと新盆の家から依頼をうけて、次々に訪ねて踊る。								
7	薩摩硫黄島のメンドン	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	23	
場所	硫黄島集落(熊野神社参道)	行事日[過去]	旧8月1日・2日[同]					
八朔行事として太鼓踊が踊られる。男子のみによる踊りで背中に高い矢旗を背負い、胸に太鼓を背負う。歌い手は紋付きの単衣、花笠をかぶる。薩摩半島中部の太鼓踊と同系である。踊が始ったところで、数体のメンドンが出てくる。メendonは踊の中に割り込んだり、見物人を追いかけてたりする。昔はたいへん怖がられたものだが、最近子どもが扮するなど、愛敬のあるメendonに変身している。								
8	硫黄権現大祭(九月踊り)	存続状況	順調	関連テーマ	8	29		
場所	硫黄島集落(熊野神社参道)	行事日[過去]	旧9月10日・11日[旧9月9日]					
旧9月9日の硫黄権現大祭の時に九月踊りという婦人の踊りが踊られた。現在は旧9月10日と11日の2日間、熊野神社前の広場(宮の馬場)にて踊られる。本来、硫黄大権現(熊野神社)、北山権現、若宮様・俊寛様(この2つは長浜家)に奉納したが、今は宮の馬場で踊る。踊りは大きく「花の大坂」、「せいもんべい」、「思い立ち」、「疱瘡踊」の4つに分けられる。								
9	厄払い	存続状況	存続危機	関連テーマ	18	29		
場所	黒島大里集落(太夫宅)	行事日[過去]	1月7日[旧1月7日]					
正月7日に厄払いが現在も行われている。若菜叩きに使用した菜っ葉を入れて雑炊を作る。朝、神役が太夫の家に使いに行き、庄屋の家で神楽(祝詞)をあげてもらふ。それが終わると天照大神(集落内の小祠)のところで神楽(祝詞)をあげる。神役はこの日、厄よけの札の注文を受け、ハナマイも集める。神楽が始まる前、厄払いの人たちはオカネやお菓子をまき、地区の人たちはそれを拾って持ち帰る。昭和20年代頃までは7歳と5歳のなる男の子はゴザヤムシロを奉納していた。厄払いが終わったらノボルハマヤと称して拍子役の家で神楽をあげる。								
10	先祖祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	3			
場所	黒島大里集落(太夫宅)	行事日[過去]	2月10日, 11月11日[旧2月10日, 旧11月11日]					
年2回、黒尾神社の2月と11月の大祭の翌日(2月10日と11月11日)におこなわれる。太夫は御幣を挟んだ竹竿を戸数分用意する。午後、各戸は三々五々それを受け取りに来て自宅の神棚に供える。夜、公民館に安置されている小さな祠の前に集落の方が集まるが、最近は数人が集まるのみである。太夫が祝詞を奏上して終了。そのあとその場で直会(小宴会)をする。先祖祭りで歌う歌としてはシヨング節があり現在も宴会の途中で歌われる。								
11	八朔行事(八朔踊り)	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	黒島大里集落(太夫宅)	行事日[過去]	9月1日[旧8月1日]					
新暦9月1日、八朔行事が行われる。現在は太夫宅の庭にて八朔踊りを踊るだけである。本来は盆踊に何を踊るかによって八朔踊りの内容も決まっていたが、現在は弓矢踊り・薙刀踊り・相撲踊りの3つを踊ることになっている。面踊りは毎年ではないが踊られる。かつては太夫宅で踊ったあと庄屋宅にも行って踊ったが現在はそれは途絶えている。								
12	火の神祭	存続状況	中断中	関連テーマ	8			
場所	黒島大里集落(太夫宅)	行事日[過去]	不明[不明]					
大里では火の神は集落の神で、いつも日高太夫家の庭にすえてあるカマドが神座になる。ずいぶん前に途絶えたままである。								
13	黒島黒尾神社大祭	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	黒島大里集落(黒尾神社・蔵王権現社)	行事日[過去]	2月9日, 9月10日, 11月10日[同]					
この黒尾神社では、2月祭り(2月9日)、9月祭り(9月10日)、霜月祭り(11月10日)と年に3回大祭が行われる。午前中早い時間に大里港横の磯浜で禊ぎを行い、蔵王権現で祭祀を行った後、黒尾神社で祭祀を行う。								
14	いばどんの祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	16		
場所	黒島片泊集落(いばどんの墓)	行事日[過去]	旧6月23日[同]					
イバドン(いわれは不明)の墓のあるところは牧場の斜面の中の小竹林に囲まれている。婦人が祭日の朝から掃除、供物を供えるのは初潮前の娘の仕事と決まっている。かつては祭典をし、終わると、盆に踊られる笠踊りのうちの手踊りを奉納した。妊娠中の婦人は参加できない。掃除の時に出てきた石などは捨ててはならず、もし付近の草などを持ってくると必ず大風が吹くという。祭日以外にイバドンに近づくと、男も女も禁じられている。畑や山に行くときも回り道をしなければならない。現在は婦人によってこの日清掃が行われるだけである。								

30	相撲甚句踊	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	本浦地区(本浦コミュニティーセンター)	行事日[過去]	要請のあるとき					
戦前、えびすが丘公園で毎年開かれていた。漁願相撲で披露。								
31	相撲節踊	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	須賀集落ほか	行事日[過去]	要請されたとき[不明]					
須賀地区の踊りで、昔から、進水式・大漁祝に、踊ってきた。								
32	鬼火焚き(羽島)	存続状況	順調	関連テーマ	1	9	15	18
場所	羽島地区(田んぼ)	行事日[過去]	1月7日後の土・日 [1月7日]					
竹で櫓を組む。現在は、夕方、神官が祝詞をあげてから、火をつける。年男年女によって、火をつける。								
33	鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	9	15	18
場所	荒川小前の田	行事日[過去]	1月7日後の土・日 [1月7日]					
竹で櫓を組む、夕方火をつける。								
34	元町恵比須祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	12	17	
場所	元町集落(元町公民館)	行事日[過去]	1月10日[不明]					
神輿が出る。7歳の子どもを祝う。								
35	浜町お伊勢祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	29	
場所	浜町集落(浜町公民館)	行事日[過去]	1月11日[不明]					
神輿を空中に投げ上げて、手を離し、地上に打ち付ける。昔から伊勢の厨子が出ていた。								

三島村

1	お伊勢祭り(馬方踊り)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	竹島集落(聖(ひじり)神社)	行事日[過去]	1月21日・22日[同]					
1月21日と22日の両日、お伊勢祭りとして聖(ヒジリ)神社境内にて踊られる。カミシモに袴姿の御幣を捧げた太夫が先頭にたち、酒、米、塩などの供物を入れた重箱を持つ社家、東西棒を持った旦那、裾模様に陣羽織を着た歌い手、チョンマゲに手拭いをとめ白浴衣に博多帯を締め背に脇差しを付けた踊子2人、羽織にオハグロをして化粧した踊子数人が続く。								
2	盆行事(盆踊り)	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	竹島集落(あいあい会館, 初盆の家)	行事日[過去]	8月13・14・15日[同]					
13日迎え火を木戸口と墓で焚く。14日座敷に盆棚を作る。仏壇の仏様や古い位牌、13日に墓に持っていった新しい位牌などを安置し、餅や赤飯、菓子、カライモ、飲み物などを供える。15日はサニンの葉で米粉を包んで蒸したマキ団子を作り、白飯を炊く。冷ソーマンを煮る。16日は精霊送り。まず墓参り。次に海岸に行き「極楽にもどいやい」と言って送る。墓の御棚の台を取り除き、花をかえる。盆棚も取り払う。15日夜は寺で盆踊をし、続いて初盆の家を男子が踊って廻る。								
3	八朔行事(八朔踊り)	存続状況	中断中	関連テーマ	8	15	23	
場所	竹島集落(聖神社, 井川)	行事日[過去]	8月30日・31日[旧8月1日・2日]					
八朔の行事はホゼともいう。太鼓踊りが踊られる。八月踊ともいう。旧8月の1日と2日に、太郎御前(たろうござ)様の歌を歌い踊る。花笠をつけたカネ打1人に小太鼓を胸に抱いた踊子15人ぐらいで踊ったが、今は過疎で人数が少なく踊っていない。								
4	十五夜	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	竹島集落(竹島小中学校グラウンド)	行事日[過去]	旧8月15日[同]					
過疎のため昔ながらの綱を作れない。学校で昼間子ども達が相撲をとり、その後運動会用綱で綱引きをする。生徒も少ないので、女の子も相撲を取る。引く場所は郵便局前の道路。ここで上村と浜道に別れて引いた。上村が勝つと畑作がよいと言い、浜道が勝つと豊漁だと言った。終わると綱は海に流した。神の綱だからだと言う。そのあと学校の庭で相撲を取る。								
5	小正月行事(といどんのからいどん)	存続状況	順調	関連テーマ	8	18		
場所	硫黄島集落(各家々)	行事日[過去]	1月7日[同]					
7日の朝、14才以下の男子が鉢巻きをし、クセンボ(福祭文棒)を持って各戸の庭先を突きにくる。地面を突きながら祭文を唱える。各戸では家を祝福してもらった札をする。								

19	芹ヶ野虚無僧踊	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	芹ヶ野集落(芹ヶ野公民館)	行事日 [過去]	11月23日					
芹ヶ野では、女性は生涯に一度はこの虚無像踊を踊らなければならないというしきたりが現在も続いている。11月23日に公民館で披露。								
20	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4			
場所	元町集落(恵比寿神社)	行事日 [過去]	8月上旬 [不明]					
昭和36年に漁協前に移した恵比須神社に、手作りの灯籠を灯す。								
21	六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4			
場所	春日町集落(春日町公民館広場)	行事日 [過去]	8月上旬 [不明]					
春日町公民館で六月燈を行う。								
22	びょうびょう祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	21		
場所	中向集落(荒川南方神社 [松ノ尾神社])	行事日 [過去]	2月下旬～3月下旬 [2月6日]					
テチョ(主人)と太郎が牛を引いて田植えの様子をユーモラスに表現する春祭り。かなり前から途絶えていたが、平成12年に復活。柴で泥を人にかけていた。								
23	羽島南方太鼓踊(夏季例大祭)	存続状況	順調	関連テーマ	9	24		
場所	猪ノ鼻河原集落(羽島南方神社)	行事日 [過去]	8月24日頃 [旧7月18日。2005年頃まで、8月24日]					
神事が済むと、アラマキを投げる。アラマキは、小さい鎌2丁に猪肉を巻いたもの。現在は、ワラジト2本(猪肉入り)。左右2人が交叉して木の枝に引つかかるまで投げ、両方が引つかかると鳥居外の階段に座って待ち受けている太鼓踊が鉦、太鼓を叩きながら、境内に入ってくる。現在はワラジトを右は右、左は左の木の枝に引つかかるまで投げる。その後太鼓踊りが奉納される。午後からは羽島保育園児のマーチングや氏子婦人部の手踊り、太鼓踊り2番庭などが奉納・披露され、踊り子は羽島崎神社へも奉納する。島津義弘公が朝鮮に出陣するとき、兵の士気を高めるために踊ったのが発祥と伝えられている。東郷の山田楽を取り入れたという伝承を持っている。								
24	いちき串木野市羽島崎神社春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	2	21		
場所	羽島地区(羽島崎神社)	行事日 [過去]	旧暦2月4日に近い日曜日 [同]					
羽島崎神社を鎮守社とする羽島の西部地区全体によって行われる。祭りは大きくは2部に分かれる。1部は漁村部(浦)の人々によって行われる船持ち行事、後半は農村部(在)の人々による田打ち行事である。船持ち行事で歌われる船歌は人材確保のために船歌祝保存会がある。田打ち行事には保存会はない。								
25	大原南棒踊	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	大原南集落(住吉公園)	行事日 [過去]	8月第1日曜 [盆前後]					
棒は山の木を切って、自分で作る。今はホームセンターから丸い棒を買い、身長に合わせる。大菌から歌を習って踊ったのが始まり。20数年前から、岩下か大菌の棒踊りを引き継ぐ。								
26	平江棒踊	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	平江集落(平江公民館)	行事日 [過去]	9月敬老会 [不明]					
アトヤマは「鈴ヶ森」など、よくしていた。平成6年、「忠臣蔵五段目山崎街道」。平成22～24年、串木野中学校の運動会に生徒を指導して踊らせた。								
27	荒川棒踊	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	荒川小学校	行事日 [過去]	荒川小学校運動会と荒川文化祭 [不明]					
薩摩川内市宮里から習ってきたので、「宮里棒」といい、草良、大河内集落がしていたが、昭和14年頃まで戦後復活、昭和40年中止、同50年頃、運動会で踊る。平成24年女性中心の棒踊を結成。								
28	虎トイ踊	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	野元集落(野元公民館)	行事日 [過去]	要請のあるとき [不明]					
もとは棒踊りのアトヤマとして行っていたが、今は催し物で要請があるときに行う。冠岳の山伏が藩政中～末期(1800年)頃伝えたとの伝承があるが、定かではない。近松門左衛門作浄瑠璃「国姓爺合戦」の二段目「千里が竹」の後半の一部を演じる。								
29	左官踊	存続状況	中断中	関連テーマ	17			
場所	土川小学校	行事日 [過去]	要請のあったとき [不明]					
明治末・大正の頃始まったといわれ、集落行事や結婚披露宴、新築祝いなどに呼ばれて踊る。棒踊りのアトヤマとしても踊る。土川小学校児童が伝承していたが、平成22年に廃校となり、現在中断。								

9	御霊神社例祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	松原集落(御霊神社)	行事日[過去]	11月から12月の間に神主さんの都合にあわせて (H27は11月7日) [10月8日]					
御霊神社の例祭の神饌物に特に変化はない。戦前は神田や畑があってそれで神社を維持していたという。戦後農地開放でそれがなくなり、各戸から(約300戸)維持費を出して(現在は年500円)いる。役員は6人それに公民館長6人が例祭に出席している。直会は現在行っていない。女子、子どもの参加もない。直会の印として「つけあげ、かまぼこ」の折り詰を出席者に持ち帰ってもらっている。いつ頃から直会がなくなったかはっきりしない。神官は戦後は山口神官(市来の追集落)、萩原神官(地元松原)、その後肝付神官となった。								
10	市来神社秋季例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	土橋集落(市来神社)	行事日[過去]	10月25日[不明]					
市来神社は昭和16年に湊天神町にあった菅原神社と土橋町にあった熊野神社を合祀し、社名を「市来神社」と改称した。								
11	八房神社春祭と秋祭	存続状況	中断中	関連テーマ	8	21		
場所	別府集落(八房神社)	行事日[過去]	3月6日 [2月6日, 9月9日]					
牛が出てきての打植祭はすべてカットされ、神事だけである。祭の中では、長男・次男・三男が厳格に区別されている。長男講、次男講、三男講という親睦団体があったが、平成24年頃に解散している。参加者全員が、羽織・袴姿である。								
12	伊多神社の祭(春祭)	存続状況	中断中	関連テーマ	8	21		
場所	大菌集落(伊多神社)	行事日[過去]	4月10日[4月10日]					
春祭(4月10日)、昭和60年頃まで、権兵衛、タヅナヒツ(牛の手綱を引く人)、モガヒツ(馬鍬を引く人)の3人と牛が登場する。子どもたちが権兵衛の悪口を言うと、権兵衛は棒を持って子どもたちを追い回す。子どもたちが前もって木杵で掘っていた穴に落ちて転んだりする。その後、赤い布をかぶった牛が出てきて代かきを松葉の苗で田植えをする。								
13	田の神講、田祈念	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	生福集落(座元の家)	行事日[過去]	田植え終了後[同]					
供物・料理: にぎり飯自作。市販の折詰(野菜のみ)。道具立て・用具類: 矢旗。御幣のついたもので長さ1m程であり、8本立てである(床の神壇に)。新座元へ旧座元への引き継ぎ書類。料理明細書。								
14	サナボリ	存続状況	中断中	関連テーマ	17			
場所	生福集落(個人宅)	行事日[過去]	田植え終了日[同]					
供物・料理: ニワトリの刺身。ニワトリの骨と大根、人参、ごぼう等の煮込みを準備する。道具立て・用具類: 1mほどの竹の先端を少々割って、シベ(御幣)をはさむ。自家製である。禁忌: 「ジカの日(地火の日)には田植えをしてはならない」								
15	串木野麓の南方神社	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	麓集落(南方神社)	行事日[過去]	4月26日, 10月28日[同]					
芸能その他: 六月燈、茅の輪くぐり、剣舞(秋の大祭)。茅の輪くぐりは、最近はじまったらしい(終戦直後までは実施されていない)								
16	生福大園の南方神社	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	生福集落(南方神社, 座元自宅)	行事日[過去]	旧暦正月15日, 7月15日[同]					
名頭全員が集まって、次の年の座元(御頭座元)を決めるためにくじ引きをする。最初にくじ引きの順番を決めるためのくじ引きをする。くじが当たると伝令が伝わり、新しい名頭宅では家の清掃、料理が始まる。親戚が近所の方々に加勢をもらう。旧座元は送り、新座元は迎えに出発する。丁度中間の位置で両者は出会う。両者が出会ったところで大合奏(三味、太鼓)と踊りが始まる。これを「蹴り合い」と言う。地区の老若男女が見物に来てにぎわう。								
17	大六野のドンジ節踊	存続状況	中断中	関連テーマ	17			
場所	不定	行事日[過去]	不定期[同]					
建築儀式の一つで、地突き祭に行われる。このときに酒樽に焼酎を入れて、二人で担いで踊の中に入っていく。地突きは、床柱の建つところから始めて、右回りに外側から内側へ移動していく。生福地区では、近年(平成の初期)まで行われる。酒樽の担いで手の先の人シベを持ち、後方の人が左手に楽を持つ。タオルで鉢巻をして、杵をかついで踊る。								
18	キンザンセットブシオドイ(金山石当節踊)	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	金山集落(山ノ神社)	行事日[過去]	7月23日[同]					
鉦夫が坑道の壁や天井に向かって鉦石を掘る所作をする。鉄の棒で砕き、付近の鉦石を集めて鉄製のツボに入れ、細かく砕いて鉦石を椀に入れる。それを揺って時々、水銀を入れながら揺って不純物を取り除く。金山の山ノ神社六月燈(7/23)などで披露される。								

いちき串木野市

1	鬼火たき	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	宇都集落(田んぼ)	行事日[過去]	1月7日, または7日に近い土・日 [1月7日]					
<p>準備は、青少年部を中心に集落全体で行っている。以前は子どもたちが各家々を回り門松等を集めていたが、子どもの減少により、それぞれの家の人が鬼火たきの場所へ持ってきている。また、鬼火たきの後の炭で、餅を焼いて食べたり、ぜんざいに入れて食べたりしていたが、近年は、それが豚汁になったりしている。中心の笹のついた竹の上部に餅とダイダイをくくりつけている。(お供への意味か)。大里で平成28年現在鬼火焚きをしている集落は、崎野・宇都・木場迫・松山・堀・平ノ木場、島内の7集落。</p>								
2	祇園祭	存続状況	順調	関連テーマ	2	9	17	
場所	湊町地区	行事日[過去]	新暦7月末近くの(金曜日前夜祭, 土曜日本祭) [旧暦6月13日前夜祭, 14日15日本祭]					
<p>戦前は、男山は3台、女山3台、計6台あった。(町ごとに作っていた)。現在は男山2台、女山2台計4台である。栄町「加藤山」、天神町「天神山」、祇園町「道風山」、土橋町「竜宮山」。山は高さ5m、全体が黒漆塗り、欄干は朱塗り(赤)で、金色の金具、周りを岐阜提灯で飾る。山の下にはアトヤマを踊る舞台となる出し入れ式舞台がある。文化9年(1812)八坂神社建立と同時に祇園祭も始まったとされる。山車は、京都の祇園祭を習って来て作ったという。平成28年度からはカンカンノ踊も復活した。</p>								
3	虫追踊	存続状況	順調	関連テーマ	9	15	17	29
場所	大里地区	行事日[過去]	9月23日[不明]					
<p>鉦は七夕踊の花笠を被る。太鼓は胸に抱く格好で持ち、背中に3本の矢旗を立てている。太鼓を打つ「べ」は両手に持ち、両側から太鼓を打つ。太鼓はハチマキをし、花笠は被らない。これに対し、七夕踊の太鼓は、左手で太鼓を立てて持ち、右手に持った「べ」で打つ。七夕踊の夜、堀ノ内庭での庭上がり(後夜祭の意味もあり、太鼓の踊り納めをする)が、終わると必ず虫追踊が始まる。これは軽快な虫追踊のリズムが、七夕踊と違い、誰からともなく踊り始めるが、開放感(七夕踊が終わったという)にあふれている。発祥は不明であるが、大里水田開田が江戸時代天和4年(1684年)となっているので、それ以後と思われる。大里水田の中に「上ノ実盛塚」「下ノ実盛塚」がある。「実盛送り」として踊られていた。大里水田の他広く大里全体で踊られていた(昭和初め)。踊る場所が多いときは25か所、現在は12か所ぐらいで踊られている。</p>								
4	川上踊(諏訪神社秋の例祭)	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	川上地区(諏訪神社ほか)	行事日[過去]	8月最後の日曜日 [8月26日]					
<p>川上踊は山田楽の系統で諏訪神社の秋の例祭に合わせて行われている。太鼓、衣装は購入したものを、打ちべ(桴)・矢旗は手作り。現在は川上小学校の児童も加わり、踊の継承をしている。上と下の師匠2人のもとでそれぞれ練習している。発祥は約200年、あるいは400年前とも言われている。戦時中から中断していたが、昭和39年に復活した。</p>								
5	鶴ヶ岡八幡神社秋の大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	木場迫集落(鶴ヶ岡八幡神社)	行事日[過去]	11月15日 [同]					
<p>鶴ヶ岡八幡神社は、木場迫、中福良の全戸と池ノ原の一部、寺迫の一部の戸が氏子となっている。神社役員会の役員は8人、そのうちの一人が総代になっている。祭りの準備は役員達で行い、役員のおさんたち2～3人で赤飯などを作っている。お下がりの赤飯は子どもたちがもらいにくる。</p>								
6	日吉山王神社神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	門前集落(日吉山王神社)	行事日[過去]	11月第一か第二の日曜日 [11月4日]					
<p>以前のことははっきりしないが、現在の祭りの準備は、公民館長以下門前集落の役員全員で行っている。以前はしめ縄も作っていたが、現在は作る人がいないため、神主さんが持ってこられるとのこと。また赤飯など子どもたちがもらいに来っていたが、現在は子どもがいなかったためそれもなくなった。数年前から敬老会を神祭の直会と一緒にやっている。</p>								
7	一之宮神社秋の例大祭	存続状況	順調	関連テーマ	9			
場所	中原集落(一之宮神社)	行事日[過去]	10月第一土曜日 [10月7日]					
<p>神主は、中原集落、島内集落共に聞いたことはないということである(集落内では聞いたとは聞かない)。現在の神主さんの前は、そのお父さんがされていたということである(藩政時代は東市来も市来郷であり、島内、中原は東市来に隣接しているのでそちらから来ていたと思われる)。</p>								
8	安楽神社祭典	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	宇都集落(安楽神社)	行事日[過去]	11月第一日曜日 [10月10日]					
<p>神官に来てもらい、神事を行う。赤飯、しとぎを作って供える。供え物には鯛、野菜類(ピーマン・キュウリ・トマト・白菜等季節のもの)、米、塩、酒、果物なども準備する。注連縄は鳥居・拝殿・神棚の三か所に張る。安楽神社は、丹後局が鎌倉より勧請したという言い伝えがあり、古くから行われていたものと思われる。</p>								

104	伊勢神社棒踊り(春の例祭・5月の例祭)	存続状況	順調	関連テーマ	9	17	21
場所	養母地区(伊勢神社ほか)	行事日[過去]	5月3日前後の休日 [6月1日]				
<p>旧暦5月1日伊勢神社春の例祭では、この日に因む豊作祈願の「チツツ踊り」が奉納される(祭礼日は、月遅れで6月1日になり、現在は5月上旬の休日)。古来、養母地区最大恒例行事として、各自治会単位で棒踊り等競演奉納する。昭和20年代初期までは、鈴かけ馬の奉納、疔瘡踊り等、近隣より奉納されていたが、現在は、養母地区内の萩・北山・田代・梅木の四自治会より、踊り連を組み、奉納。伊勢神社奉納後、各自治会に戻って披露する。萩棒踊りは六尺棒と三尺棒で、付帯芸能としてアトヤマ(庭狂言。即興劇で、数年前に復活。時代風刺を演じている)がつく。北山棒踊りは、示現流に因むとされ、北山独特の六尺棒一本にわが身を託して、青少年の志気を鼓舞するものという。田代棒踊りは、五穀豊穡・雨乞いを祈願する棒と鎌の踊り。梅木は、自治会内青少年有志で構成された、六尺棒と三尺棒の踊り。現在奉納されていない踊りには、鉦之原棒踊り立和名棒踊り・上床棒踊り・太平棒踊り・高塚棒踊りがあった。</p>							
105	稲荷神社お田植え祭り	存続状況	順調	関連テーマ	9	17	21
場所	湯田地区(稲荷神社)	行事日[過去]	3月3日[旧暦2月3日]				
<p>発祥年代は不詳であるが、旧暦2月3日、近年は3月3日、豊作を祈願する「御田植えまつり」を行い、狂言・寸劇が奉納される。演者は、地元内の、各自治会長等が、田起こしから、種まき、田植えまでを演じる。田起こしの牛役が使用する牛面には、天保9(1838)安政7(1854)等5点が、日置市の有形文化財に指定されている。</p>							
106	湯之元馬頭観音馬踊り	存続状況	順調	関連テーマ	9	17	21
場所	馬頭観音碑前・湯之元温泉街	行事日[過去]	例年4月8日に近い日曜日 [4月8日]				
<p>明治25年5月、牛馬の供養や無病息災の祈願祭として始まり、一時期は戦勝馬踊りとも呼称されたときもあり、一時途絶えていたが、昭和23年に復活し現在に至る(旧称「戦勝馬祭り」。祭日は花祭りの日に当たる。後に湯之元の温泉祭りに変容。「東市来町誌」(旧東市来町誌2005。))。現在は、湯之元クラブが主催、湯之元、温泉街の商売繁盛、家内安全を祈願。シャンシャン馬や湯之元クラブ等踊り連が、太鼓三味線・お囃子にのり、温泉街を終日練り歩く。この日には、湯之元俵踊りも披露される。百年前、当地方に俵をかたいで豊年を祝う踊りがあり、約50年前比良孝助氏が継ぎ振り付けをしたもの。比良氏没後途絶えていたが、15年ぶりに復活した踊り。また当日は、木市、露天商が並び、近郊の観光客でにぎわう。</p>							
107	元養母太鼓踊り	存続状況	中断中	関連テーマ	8		
場所	元養母地区(愛宕神社・太秦神社)	行事日[過去]	休止中[不明]				
<p>以前は愛宕神社・太秦神社に奉納。踊り子不足で休止中。鳴り物を壮年古老が継承していた。</p>							
108	田代太鼓踊り	存続状況	休止中	関連テーマ	8		
場所	田代地区(智賀尾神社)	行事日[過去]	休止中[8月15日]				
<p>地域の産土神の智賀尾神社に、豊作、雨乞いを祈願。太鼓：白じゅばん、ケハン、白足袋。鉦：白じゅばん、赤袖、陣羽織、黒股引き、わらじ。『東市来町郷土誌』(旧版・東市来町教育委員会1988。)には、「猛夏三伏の八月の年中行事として、運動広場、公民館、智賀尾神社、農協、納骨堂を踊って回る。」とある。また『鹿児島県の民俗芸能一民俗芸能緊急調査報告書一』(鹿児島県教育委員会1992。)には、時期を8月15日、場所を運動広場としている。</p>							
109	そば講(七日講)	存続状況		関連テーマ	5	8	
場所	東市来町(鹿王神社ほか)	行事日[過去]	4月19日/7月/11月[旧暦11月7日]				
<p>伝えによると、白ものに拘り、白の供物を供えての祭祀行事である。そばの栽培、収穫、蕎麦粉、そば切りなどを行う。『東市来町誌』(旧東市来町2005。)には、「(前略)その霊(北山殿の奥方の霊)を北山殿の表のつまに若宮を作り祭った。若宮は今では鹿王神社に合祀されている。そば講はこの奥方の命日を弔って行われる集落全体の行事である。命日が11月7日だったので七日講である。(中略)北山を上下2つに分けて主取の家を回り番で行う。カトクどんが来て、上下1年交代で祭りをするが、13年(実際は33年目)ごとに上下合同で年忌甲いをし、夜通し盛大に行う。(中略)300年くらい前からの控え帳が持ち回りで伝えられている。今は集落公民館で、毎年上下交互に盛大に行われている。」とある。</p>							
110	太鼓踊り	存続状況	順調	関連テーマ	9	24	
場所	日吉地区 (吉利神社・日置八幡神社・諏訪(南方)神社)	行事日[過去]	8月下旬の日曜日[8月23日]				
<p>日吉地区には、吉利(北・中・下)・八幡・諏訪の五つの太鼓踊りが伝承されている。吉利太鼓踊りは、新暦8月23日(現在は近い日曜日)に、吉利の南方神社に奉納されたあと、各集落を回る。もともとは、吉利北区・中区・南区がそれぞれ奉納していたが、現在は順番に毎年一つずつ奉納している。踊り子は鉦2人、小太鼓(コデコ)2人と、20人ほどの大太鼓(ウデコ)で構成される。大太鼓は、背中に高さ4mほどの矢旗を背負う。八幡では8月27日に日置八幡神社に、諏訪では8月27日に諏訪(南方)神社に奉納する。</p>							
111	八幡神社御田植祭(田植踊り・せつぺとべ)	存続状況	順調	関連テーマ	9	17	22 30
場所	日吉地区(日置八幡神社)	行事日[過去]	6月1日曜日[同]				
<p>御田植祭は昭和46年まで、旧暦5月6日、月遅れの新暦6月6日に行われていた。このお田植え祭りでは、田踊り(棒踊り系芸能)の奉納と、「せつぺとべ」、さらにシベ竿運びの習俗が特徴となっている。なお、せつぺとべのほうは、江戸末期に編み込まれた『三国名勝図会』では、9月15日の放生会(豊祭・ほぜ)で行われていたことが記されている。せつぺとべは、二才(青年)が、豊作を願い「せつぺとべとべ」の掛け声をかけながら、田んぼを足で耕すしぐさをする。神田のそばでは、デオドン(大王殿)と呼ばれる高さ3mの人形(仮面神)が、祭りを見守る。奉納踊りには八幡の虚無僧踊り、八幡の棒踊り、日新の鎌踊り、山田の鎌踊り、吉利の鎌踊り、諏訪の笹踊り、扇尾の虚無僧踊りがある。大王殿、寛永18年(1641年)、朝倉右衛門作。田の神面、鬼神面、神鏡25面。</p>							

95	入来浜回り灯籠	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	入来浜地区(公民館, 若宮神社広場)	行事日[過去]	6月10日～8月初旬[不明]					
自治会単位の祭りで、他の自治会から集めることはない。廻り灯籠、花ヅル、角ヅル、長ヅルを灯す。								
96	下草田回り灯籠	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	吹上地区(公民館)	行事日[過去]	6月1日～8月初旬[同]					
自治会単位の祭りで、他の自治会から集めることはない。廻り灯籠、花ヅル、角ヅル、長ヅルを灯す。								
97	入来回り灯籠	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	入来地区(公民館)	行事日[過去]	6月10日～8月初旬[同]					
自治会単位の祭りで、他の自治会から集めることはない。廻り灯籠、花ヅル、角ヅルを灯す。								
98	永吉南郷会妙円寺詣り	存続状況	順調	関連テーマ	8	24		
場所	永吉地区(徳重神社)	行事日[過去]	妙円寺詣りフェスタ [旧暦9月14日]					
天下分け目の関ヶ原合戦で敗れ、帰鹿したことを称える祭り。甲冑をつけ、武者行列で参拝する。戦前くらい前までは甲冑をつけた記録がある。								
99	妙見神社相撲大会	存続状況	順調	関連テーマ	9	10		
場所	吹上地区(妙見神社(宮坂))	行事日[過去]	10月の日曜日 [10月12日]					
かつては10月12日に、現在は10月の日曜日に妙見神社で行われる相撲大会。起源ははっきりしないが、慰労のために相撲を催した。吹上町内と鹿児島市などから参加者がある。								
100	伊作田踊り	存続状況	昭和48年復活	関連テーマ	9	19		
場所	伊作田地区(道材公墓前ほか)	行事日[過去]	3年に1回 8月お盆15日 [その昔は、旧暦7月1日の命日。現在は、8月のお盆前後実施、近年は8月15日]					
江戸時代に始まったとされ、伊作田兵部大夫道材公の慰霊と、五穀豊穡、大漁祈願、さらに近年は住民親和のため、3年ごとに踊りを継承している。踊りのない年は、墓前で慰霊式のみ実施する。その昔の領主伊作田兵部道材公の慰霊、戦に負けた領主の慰霊の哀調満ちた勇壮・華麗・哀調へと一連の負け戦を優美に、鳴り物、鉦と小太鼓、大太鼓と歌で、単調ながらも、供養踊りである。								
101	北山火振り	存続状況	順調	関連テーマ	8	19		
場所	北山自治会(慰霊堂)	行事日[過去]	8月15日 [同]					
その昔、近隣の北山殿と梅木殿の戦で、戦に負けた北山勢の戦死者を川上方面に逃れた軍勢が、のちに里帰りし無縁仏を供養するため、精霊棚を作り供養したのが始まりと伝えられている。時の流れで、盆の送り火に、7～8mの青竹(カラダケ)の「ツガ」と呼ぶ松明を振り、無縁仏を供養するようになった。精霊棚は、孟宗竹、杉の小枝等で作る。								
102	下養母太鼓踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	17	29	
場所	鶴丸地区一円	行事日[過去]	4年毎に実施 8月[同]					
数百年前から下養母に伝承。五穀豊穡を祈願し、害虫を追い払う意味から、8月に行われる。五穀豊穡を鶴丸地区内数か所で披露しながら春日神社へ向かう。春日神社では、五穀豊穡奉納の拝礼。踊り奉納。午後は、集落内の圃場等を回る。構成：大太鼓15個、鉦8丁、のぼり旗15本、ホロ30本、太刀8本、陣笠。衣装：(太鼓打ち)白じゅばん、白短パン、白鉢巻。(鉦打ち)作業服、赤鉢巻姿。道具：太鼓、鉦。歌詞：歌詞、歌曲の文献無く一切口伝である。								
103	皆田太鼓踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	9	16	17	
場所	皆田地区(霧島神社, 神社から大庭商店までの市道, 大庭神社)	行事日[過去]	2年毎に実施 8月[同]					
①明治元年9月大干ばつの折、雨乞い祈願に奉納したら、雨が降ったのを機に、継承の説。②内之田池補修工事完成を祝福し踊られたと伝える。踊りの内容は、郡山花尾集落より楽譜踊りを会得して、青少年の意気高揚と地区民の親睦のため伝承されたと言う。構成：集落民有志により構成20～25人(皆田東・皆田西・丸牧・大平の4自治会合同)。道具：太鼓・鉦。								

83	田ノ神講	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	田尻地区(公民館)	行事日[過去]	年末[不明]					
毎年年末に豊作を感謝して行う行事で、宮下班、寺園班で行っていたが、現在は自治会行事。藁ツトに新米を入れ、竹筒に酒を入れ、田ノ神像に背負わせる。								
84	蛭子神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	9	17	
場所	伊作西本町(蛭子神社)	行事日[過去]	8月3日[不明]					
8月3日に東・西本町通り会が中心になって行われる行事。花灯籠(菊・桜・梅の花細工)を飾り、「子どもみこし」をかつぎ練り歩く。蛭子神社は商売、漁業の神として信仰されている。日新作と伝えられる「えびす像2体」がある。								
85	田ノ神講	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	花熟里地区(田ノ神像前と公民館)	行事日[過去]	2月の日曜日[不明]					
2月の日曜日に行われる稲の豊作を祈る行事。反土係の交替時に「さし身」を相手に食べさせる(不明な行事)。当番の反土係が午前中に田ノ神に供え物をする。								
86	お伊勢講	存続状況	順調	関連テーマ	8	15	29	
場所	花熟里地区(公民館)	行事日[過去]	5月第2日曜日[3月下旬]					
5月第2日曜日(かつては3月下旬)に行われるお伊勢講。伊勢神社より祠を公民館の高座に置き祭る。								
87	田の神講	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	17		
場所	下和田地区(公民館)	行事日[過去]	12月6日[10月19日]					
秋の収穫後(かつては10月19日、現在は12月6日)に実施される行事。金峰山踊り(安芸の踊り)を、婦人部が中心となり踊る(昭和30年ごろまで)。								
88	鎌踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	17		
場所	坊野地区(体育館等)	行事日[過去]	不定期(運動会、文化祭)[不明]					
元々黒川神社に、半夏生の日に豊作を祈って奉納していたが、現在は地区の行事で、2年に1回ぐらい踊っている。鎌・なぎなたの踊りである。								
89	刀踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	17		
場所	坊野地区(体育館、他)	行事日[過去]	不定期(文化祭など)[不明]					
元々黒川神社で、五穀豊穰を祈願して踊られていたが、現在は地区の行事で、2年に1回ぐらい踊っている。鎌踊り、刀踊りが並行して踊られる。								
90	上棟式	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	花熟里地区(新築の家)	行事日[過去]	不定期[同]					
新築の祝いに、太鼓・三味線で、家を回りながら踊る。新宅の妻を含む婦人連で踊る。								
91	永吉疱瘡踊り	存続状況	復活	関連テーマ	8	15	29	
場所	永吉地区(宇都山の「疱瘡の神様」)	行事日[過去]	不定期[同]					
天然痘が軽くてすむように願い、宇都山の「疱瘡の神様」に奉納していたが、いつの頃からか花熟里の伊勢神社に奉納されている。2～3年に1回ぐらい奉納している。								
92	永吉太鼓踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	9	24		
場所	永吉地区(久多島神社、体育館、公民館)	行事日[過去]	不定期[8月25日]					
かつて8月25日に久多島神社に奉納されていた太鼓踊り。朝鮮征伐を行った際、戦勝帰国をした島津義弘公を祝賀するために踊ったと伝えられる。伊作太鼓に比べて踊りがおとなしい。現在は2,3年に1度踊っている。								
93	伊作地区花灯籠	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	伊作地区(神社、公民館)	行事日[過去]	6月10日～8月初旬[不明]					
現在、夏祭化している。6年ほど前から、各地区で行った六月燈(灯籠)を伊作地区公民館に集め伊作地区で、灯籠会として行う。花ズル、スカシヅル、マイヅル(廻りヅル)、西瓜ヅル、角ヅルを灯す(ヅルは灯籠のこと)。								
94	花田地区回り灯籠	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	神社、公民館	行事日[過去]	6月10日～8月初旬[不明]					
6年ほど前から、花田地区の各集落で行った六月燈を吹上浜公園に集め、灯籠会(夏祭)としている。廻り灯籠、花ズル、スカシヅル、角ヅル、長ヅルを灯す。								

74	古城モーモーどん祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	17
場所	古城地区(自治公民館)	行事日[過去]	11月下旬の日曜日[11月下旬の丑の日]				
<p>11月下旬の丑の日(今は11月下旬の日曜日)に行う行事。かつては東・中・西の3班に分かれて、それぞれ持ち回りしていた。田ノ神にあげる餅入り藁苞13個(閏月を含む旧暦13か月に因む)と、餅引っ張り用の餅入り藁苞を必要分準備する。餅引っ張り用の餅は、人数に応じただけ牛の舌状に伸ばして作り、藁苞に入れて田ノ神様の前まで運ぶ。田ノ神様の前で向かい合った二人が牛の舌状の餅の両端を口にくわえて引っ張り合う。引っ張り合いは、人を変えて順繰りに行う。牛の舌状の餅と丑の日の行事から、モーモーどん祭りと言うようになった。餅を牛の舌状に作るのは、牛の労をねぎらう意味があると伝わっている。くちで引っ張り合うのは「牛の労を称えて、人間が四つん這いになり牛の姿をまねたものではないか」と言われている。引っ張り合う脇で牛を励ますような仕草を見物人はしている。田ノ神像は江戸末期頃の年号があると言う。</p>							
75	タジマドン祭り	存続状況	順調	関連テーマ	9	17	21
場所	中原宮内地区(大汝牟遅神社)	行事日[過去]	3月17日[旧暦2月17日(1月17日)]				
<p>田植え前の豊作祈願で寸劇を行う祭り。暴れる牛にヤツデの実を竹筒でふきつける(他地域では見られない。オニギリ小)、トッコ(米)を半紙に乗せてふるまう。トッコは米作(稲)を1年という考えで「トッ」は「年」を表す。作った米を振るまうようにしたこと。道具立て・用具類として、木のクワ、ニワトコ(緑肥)、シラス土、牛糞・モガ(馬糞)、ヤツデの実、竹筒、糺、シベを準備する。明治元年の調帳に記録がある。また、記録は残っていないが、壮年部=奉仕員ということで、今の所後継者の問題はない。自由に参加出来る。</p>							
76	船こぎ祭り	存続状況	順調	関連テーマ	9		
場所	吹上地区(上田尻船木神社)	行事日[過去]	3月20日[不明]				
<p>大汝牟遅神社神主による神事後、境内にU字形に並び、模型船(長さ50cm前後)を上下にゆすり「エンヤオー」と声を出し、船を宝殿に戻す。太鼓と笛に合わせる。時計回りに渡す。以前は棒踊り、刀踊りの奉納も行われた。また、ダルマ、デクッサアなどが出店で売っていた。参加者は氏子が多いが、見物人の参加出来る。船の奉納は自由に行われているが近年はない。船木神社近くの大木で船を作り、ニニギノ命の先導をつとめ、ここから船出したとという。天保14年の『三国名勝図会』にある。</p>							
77	永吉疱瘡踊り	存続状況	順調	関連テーマ	9	15	29
場所	永吉地区(伊勢神社)	行事日[過去]	春分の日、地区行事他[不明]				
<p>天然痘の治癒を祈願し、200年ほど前から行われ、「疱瘡の神様」に奉祈。花熟里の伊勢神社に奉納する踊りで、現在は地区の行事で踊ることが多い。2～3年に1回ぐらいで実施している。</p>							
78	シオハマメイ	存続状況	順調	関連テーマ	18		
場所	吹上地区(吹上浜)	行事日[過去]	元日[不明]				
<p>吹上浜に接する地域で行われる習俗で、波打ち際で四方を拝み、砂山の砂(潮)を持ち帰る。貝に盛った砂(潮)を、氏神、フロ、かまど、村社(大汝牟遅神社)、集落の神社などに供える。毎月1日、15日にも潮取りに行く。大汝牟遅神社に奉納する数に変化はないとのこと。各家で作法、時間等、色々あるようだ。</p>							
79	奥神社大祭	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	17
場所	小野地区(神社、田の神前)	行事日[過去]	春分の日、秋分の日[不明]				
<p>行事として春、秋奥神社大祭後に実施している。藁苞を田の神に供え、「餅ひっぱれ」と言って、田ノ神に喜んでもらうため、子どもたちが小判形の餅を口でくわえ引き合う。特に言い伝えはないとのこと。学校(小学生参加の為)との話し合いで実施日が変わることもあるとのこと。</p>							
80	(湯ノ権現)六月燈、温泉祭り	存続状況	復活(数年前)	関連テーマ	4	9	30
場所	吹上地区(温泉公園)	行事日[過去]	6月10日～8月初旬(2日間)[不明]				
<p>湯ノ権現六月燈が発展したもので、長ツル、各ツル(ズルは灯籠)、水車からくり人形が飾られる。水車からからくり人形は、横回転の水車を動力として人形をまわしている。規模は小さいが、水車の回転方法が珍しい。</p>							
81	大汝牟遅神社お田植踊り(棒踊・鎌手踊)	存続状況	順調	関連テーマ	8	17	21
場所	吹上地区(大汝牟遅神社他)	行事日[過去]	6月中の日曜日[6月1日]				
<p>6月中の日曜日(かつては6月1日)に大汝牟遅神社に奉納し、地区に戻って披露する踊り。今田棒踊りは、先頭にシベが付き、六尺棒をもって踊る。明治年代より奉納と伝わる。宮内の鎌手踊りは、シベが先頭につき、長柄の鎌、短い鎌で踊る。東、西、南宮内の男女で踊る。</p>							
82	鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15
場所	吹上地区(船木橋の広場)	行事日[過去]	1月7日[同]				
<p>1月7日に行われる田尻自治会の行事。子ども会、自治会、有志が中心になり、夕方広場に集まり行われる。竹を立て、四方にロープで支える。年男、年女の人が最初に火をつける。無業息災を願う。</p>							

65	城山山神まつり	存続状況	順調	関連テーマ	8				
場所	城山地区(4戸持ち回り)	行事日[過去]	3月第三日曜日 [旧暦で行っていたと聞いている]						
<p>以前は三味線・太鼓で行列(山神様の宿移り)をして大賑わいで、途中でおひねりをいったりしていた。(三味線・太鼓は山神まつり専用というわけではなく、あったものを使用。今はどこにあるかはっきりしない)。今は三味線・太鼓ができる人がいなくて「セタンカン」で音を出している。以前は神官を呼んで神事も行っていた。4戸なので組織の名称も明確には決めていない。4年ぐらい前まではニワトリを飼っている人から購入し、つぶして手作りの料理を作ったが、今は戸数が少なくなって弁当にした。女性が関われないところもあると聞いたが、ここでは女性も携わっている。</p>									
66	妙円寺詣り	存続状況	順調	関連テーマ	24				
場所	伊集院町徳重	行事日[過去]	10月第四日曜日 [旧暦9月14日]						
<p>関ヶ原の戦いにおいて敵中突破を果たし、島津家存続の道を開いた島津義弘公が死去した1619年以降、鹿児島城下士族子孫が義弘公の遺徳をしのいで、夜通し歩いて参拝したことに始まると伝わっている。鹿児島三大行事の一つ。鎧武者姿の団体参拝等がみられる。日置市内からの武者行列には、永吉南郷会や美山少年隊などがある。伊集院町の徳重大バラ太鼓踊り・大田太鼓踊りのほか、吹上町・東市来町の太鼓踊りなども奉納される。参拝者の受け入れと、スポーツ行事の主体は日置市教育委員会である。参拝路の湯茶接待は地元婦人会、個人等。徳重神社・妙円寺への徒歩参拝による、関ヶ原の苦労の追体験が趣旨である。</p>									
67	下神殿棒踊り(八幡神社春の大祭・御田植祭り)	存続状況	順調	関連テーマ	8	21			
場所	下神殿地区(八幡神社・集落内)	行事日[過去]	5月5日と六月燈当日[不明]						
<p>棒踊りは「御田おどり」と旧称されたと推定され、下神殿八幡神社春の大祭の御田植祭りと同社六月燈に奉納される。シベ竿を自作し、六尺棒・三尺棒と装束(手甲・脚絆・衣装・足袋・わらじ・たすき・帯・スバツ)は購入したものを着ている。以前は足袋・わらじは履かず、はだして踊っていた。手甲・脚絆は現在はつけていない。練習初日には、六尺棒、三尺棒を掌中で清める儀式を行う。踊りを披露することを「ニワ」という。八幡神社では「前ニワ」集落内を回るときには「前ニワ」を踊る。この呼び方は、前座・中座・後座と同じ意味合いであろうか。飯牟礼でヂクラと呼ばれる道化役は、下神殿では「チョイカラ」と呼ばれる。ヂクラ「地座」の意味であろうか。素朴な歌い方や棒術的要素の強い踊り方から勘案すると、棒踊りの初期形態を継承していると思われる。</p>									
68	飯牟礼熊野神社例祭(棒踊り)	存続状況	順調	関連テーマ	9				
場所	飯牟礼地区(熊野神社)	行事日[過去]	5月5日[5月17日]						
<p>5月5日(かつては5月17日)の例祭では、飯牟礼上・中・大下の棒踊りが奉納される。踊りは神社での奉納のあと、各地区に戻って披露される。飯牟礼中棒踊りは、シベ竹を先頭に六尺棒と三尺棒の踊り。飯牟礼上棒踊りは、シベ竹3本を先頭に、六尺棒と三尺棒の踊り。虚無僧の深編笠をかぶる。飯牟礼大下棒踊りは、シベ竹を先頭に、六尺棒と鎌の踊り。飯牟礼下・善福・腰の3自治会を総称して大下と言う(責任者は3自治会長の持ち回り)。</p>									
69	恋之原鬼火焚き	存続状況	存続危機	関連テーマ	1	8	15	18	
場所	恋之原地区(集落内の遊休畑)	行事日[過去]	1月初旬の土曜日夜 [1月7日]						
<p>かつては1月7日の夜、現在は1月初旬の土曜日夜に行っている。子ども会育成会を中心に竹を集め、集落内の遊休畑に櫓を組む。当日の朝子どもたちが門松を集めて、それと一緒に櫓を燃やす。中断期(期間不明)あり。</p>									
70	飯牟礼上・中鬼火焚き	存続状況	順調 復活(20年前)	関連テーマ	1	8	15	18	
場所	飯牟礼上・中地区(休閑地畑)	行事日[過去]	1月7日[同]						
<p>1月7日に行っている。飯牟礼上・中子ども会育成会で竹を準備して休閑地畑に櫓を組み、子どもたちが集めてきた門松と一緒に櫓を燃やす。鬼火焚きは飯牟礼上・中合同で行う。戦後しばらくして中断、20年ぐらい前再開した。</p>									
71	飯牟礼大下鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18	
場所	飯牟礼大下地区(田んぼ)	行事日[過去]	1月7日[同]						
<p>1月7日に行う。子ども会育成会で竹を準備して、地区内の田んぼに櫓を組む。子どもたちが集めてきた門松と一緒に櫓を焼く。飯牟礼下・善福・腰の3自治会(大下地区)合同の行事で、責任者は3自治会長の持ち回り。いつ頃か中断され最近(約30年前)復活した。</p>									
72	善福感謝の会(善福田ノ神講)	存続状況	順調	関連テーマ	8	17			
場所	飯牟礼善福地区(自治公民館)	行事日[過去]	11月中下旬の日曜日 [11月23日]						
<p>かつては11月23日、現在は11月中下旬の日曜日に行っている行事。藁苞(ワラツト)につつんだ餅を田ノ神様にあげる。直会の料理は特に決まっておらず、婦人部で作る。</p>									
73	腰田ノ神講	存続状況	順調	関連テーマ	8	17			
場所	腰地区(自治会長宅)	行事日[過去]	11月12日前後の丑の日 [旧暦で行っていたらしい]						
<p>11月12日前後の丑の日に行う(以前は旧暦で行ったらしい)。藁苞につつんだ餅を田ノ神様にあげに行く。</p>									

56	桑畑水神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	16		
場所	桑畑地区(飯積神社)	行事日[過去]	5月第3日曜日[不明]					
<p>榊・しべ竹・しめ縄を準備する。しめ縄は作れる人が少なくなり、やがて購入することになりそうである。飯積神社で徳重神社宮司による神事後、水神様2か所と用水路の水を落とす場所を回る。2月初旬の日曜日に飯積神社で「初祭り」10月下旬の日曜日に飯積神社で「豊年祭」を自治会役員5人で毎年行っている。</p>								
57	川まつり	存続状況	順調	関連テーマ	8	16		
場所	下神殿地区(井堰前広場)	行事日[過去]	6月第1日曜日[同]					
<p>公民館長が祝詞(龍神祝詞)を奏上する。赤飯を柿の葉に乗せて食す。現在の川まつりは水難事故防止の色合いが強く、農耕神事と意識されることも無くなっている。ただ、赤飯を供することは、供養と龍神を祀るのではないかと伝えられている。水神まつりと認識している人が多い。発祥ははっきりしないが、江戸時代末頃とも言う。</p>								
58	郡七草祝い	存続状況	順調	関連テーマ	8	12		
場所	郡地区(公民館・各家庭)	行事日[過去]	1月7日[同]					
<p>20～30年前前から郡地区公民館で数え7歳の子どもに紅白饅頭を配る。以前は各家庭で七草祝いをやり、7歳の子どもは七草粥を7軒貰って廻っていた。今はあまり行われていない。</p>								
59	上方限下組庚申様祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	上方限下組地区(田ノ神講のヤド)	行事日[過去]	11月下旬の日曜日(田ノ神講の日)[1月2日]					
<p>庚申は農村の守り神と伝えられ、以前は「ニセ入り」行事だった。以前は思い出したように(熱心なヤドのとき)実施していた。10年ぐらい前から田ノ神講に合わせて実施し、庚申様の掛け軸を「大通」の家に掲げて両方の祭りを行っている。庚申様の絵は文化・文政時代のものだと伝わっている。</p>								
60	猪鹿倉お伊勢講	存続状況	中断中	関連テーマ	8	15	29	
場所	猪鹿倉地区(不明)	行事日[過去]	旧暦9月11日[同]					
<p>1年ごとの持ち回りで、ちょっとしたお祝い料理を準備して、お伊勢講をしていた。平成13年まで行われ、現在中断中だが、復活の話がある。江戸時代前・中期と思われる年号の入った記録がある。</p>								
61	義臣伝	存続状況	中断中	関連テーマ	8	12		
場所	郡地区(公民館等)	行事日[過去]	旧暦12月14日[同]					
<p>集落に近い山に小屋を作り(囲炉裏も作る)、中学生までの子どもが集まり餅やぜんざいを食べながら一晩すごす。40～50年前まで行われていた。日置市伊集院町猪鹿倉地区でも同様の話を聞き取った。日置市飯牟礼小学校区では小学校裁縫室に集まり、一晩中先生が赤穂浪士の本を読んでいた(平成28年1月13日聞き取り)。</p>								
62	飯牟礼上油講	存続状況	27年消滅	関連テーマ	8	17		
場所	飯牟礼地区(各戸)	行事日[過去]	11月下旬(話し合いで決める)[不明]					
<p>発祥について『飯牟礼校区郷土誌』(飯牟礼校区公民館1991.)には明治初年頃成立との記載がある。女性だけで椿油を絞るための講を組織していた。現在は油を絞る作業は無くなり、女性だけの「楽しみ会」になっていた。持ち回りは年齢順。最近では若い人がはいらないため、飯牟礼上は平成27年が最後となった。腰自治会では5年ほど前で消滅した。かつては飯牟礼校区のどこでも実施していたが、若い人が講に入らず、消滅する運命にあった。実施日は田ノ神講の済んだ後、構成員で決めていた。</p>								
63	飯牟礼上う講(産土講の略)	存続状況	順調	関連テーマ	8	17		
場所	飯牟礼地区(各戸(当番を大藤という))	行事日[過去]	田ノ神講に吸収されてしまった [田ノ神講以後、話し合いで決めていた]					
<p>う講(産土講)は田ノ神講と時期が近接しているうえ、豊作感謝の性格が田ノ神講と似ているので、40年前ぐらいまでに田ノ神講に吸収されてしまった。席順は上座から年齢順、講が終わるまで席を移ってはいけない。帰りも下座から順に帰る。若い者が後まで残ることはできない。帰りに人の家に寄って焼酎などを飲んではいけない。大藤が焼酎を十分飲ませなかったと思わせる行いとなる。かつては飯牟礼ではどこもあつたが飯牟礼上が最後まで行っていたと思われる。大藤は年齢順に持ち回り。油講に対して、う講は男性中心の講。</p>								
64	飯牟礼無常講	存続状況	消滅	関連テーマ	8			
場所	以前は持ち回り(家の並び順)	行事日[過去]	米の収穫後の適当な時期[同]					
<p>集落内の班(小グループ)ごとに、葬式に備えてモミを各2俵ぐらいずつ集めて蓄えていた。葬式がなければ翌年に繰り越す。繰り越すときに鼠などに食われて減っていれば、当番の家で補充して次の当番に渡す。葬式は貧富の差が無いように、無常講で蓄えていた米を使い、ご飯とみそ汁、或はおにぎりに生みそ・つけものとし、箸もその日に削ったものを使用した。40年ぐらい前まで行われていたが、どこからともなく消失してしまった。土葬の墓の穴は年長者から掘り始め、若い人は深い所を掘った。</p>								

45	瀬戸内十五夜行事	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	25
場所	瀬戸内地区(公民館前の公園)	行事日[過去]	旧暦8月15日に近い土曜日 [旧暦8月15日]				
現在は旧暦8月15日に近い土曜日に行っている。自治会で購入し保管してあるロープを用いる。相撲の土俵に敷く藁も、準備しておく。綱引きと相撲大会を行っている。							
46	麓東十五夜行事	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	25
場所	麓東地区(公民館)	行事日[過去]	9月20日前後の日曜日 [旧暦8月15日]				
現在は9月20日前後の日曜日に行っている。綱引き用の綱は、自治会で毎年縫り合わせる。以前はクズを芯にして綱を練って、綱引きや相撲を行った。現在は荒縄を購入してそれを縫り合せている。縫り合せた綱は鬼火焚きに使用。現在は綱引とゲームなどを行う。							
47	寺脇十五夜行事	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	25
場所	寺脇地区(公民館)	行事日[過去]	旧暦8月15日に近い土曜日 [旧暦8月15日]				
現在は旧暦8月15日に近い土曜日に行う。以前は綱引や相撲を行っていた。							
48	野田田の神講	存続状況	順調	関連テーマ	8	17	
場所	野田地区(公民館・田の神像前)	行事日[過去]	11月後半の土曜日から日曜日 [11月下旬の丑の日]				
公民館で餅をつき、いぼたの木(ねずみもちの木)にくくりつけたワラツトに餅をいれて、それを子どもたちがかついで田の神講の歌を歌いながら田の神様のところまで行き、餅をお供える。							
49	郡内田ノ神講	存続状況	順調	関連テーマ	8	17	
場所	郡内地区(公民館・田ノ神像前)	行事日[過去]	11月3日[不明]				
公民館で餅をつく。公民館に田ノ神の本尊(木の像)安置。以前は持ち回りで本尊を預かり、その家で餅をついた。ついた餅をいぼたの木に結びつけたワラツトに入れ、田ノ神像まで持って行く。田ノ神像をきれいにしてしべをかざる。現在、参加者が少ないときは餅も購入することがある。発祥は江戸時代ともいう。現在は順調に続いているが、農家の減少により、存続が危惧されている。							
50	下方限田の神祭り	存続状況	順調	関連テーマ	8	17	
場所	下方限田地区(公民館・田の神像前)	行事日[過去]	11月第1日曜日[不明]				
ワラツトを準備する。料理の煮しめも手作り。かつて各農家持ち回りの祭りだったが、現在、自治会で水田を借りて子どもに米作り体験をさせ、そこでできた餅米で餅をついている。							
51	清藤田ノ神講	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	17
場所	清藤地区(公民館・田の神像前)	行事日[過去]	11月23日[同]				
以前は6小組合に1体ずつの6体の田ノ神があった。現在、存在が確認できた3体を公民館近くに設置している。餅は「牛の舌」といわれる小豆をまぶした細長いもの。「牛の舌」はワラツトにいれて田ノ神様に供えるが、2体は前に下げてやり、1体は片側が「牛の舌」、片側がもみ殻入りのワラツトを田ノ神様の両肩に下げてやる。発祥は不詳だが、江戸時代ともされる。							
52	上方限下組田ノ神講	存続状況	順調	関連テーマ	8	17	
場所	上方限下組(「個人宅・田の神像前)	行事日[過去]	11月下旬の日曜日 [旧暦10月に第一丑の日]				
持ち回り当番のことを「大通」という。田ノ神講のヤドになる。上方限下組は四郎園集落と窪田集落の一部で構成されている。田ノ神像にはワラツトにつつんだ餅を捧げて、別に持参した餅を田ノ神様になすりつける。庚申様祭りと同統合。							
53	上土橋棒踊り	存続状況	順調	関連テーマ	8		
場所	上土橋地区(聖護院ちびっこ広場)	行事日[過去]	4月最後の日曜日[不明]				
当日はちびっこ広場で花見がおこなわれており、集落内を周ることはしない。踊りには自作の三尺棒・鎌・しべ竿を用いる。踊り手は小中学生。発祥ははっきりしないが、江戸時代とも言う。							
54	郡地区棒踊り	存続状況	順調	関連テーマ	9		
場所	郡地区(九玉神社・地区内)	行事日[過去]	5月5日[同]				
5月5日、久玉神社に奉納後、地区内を回って踊る。自作の6尺棒と3尺棒と購入した鎌を用いる。6尺棒は長くて檜の木で作るので重い。中学生以上の参加。踊れる年代の80人ぐらい呼びかけるが、20人ぐらいの参加数となっている。発祥ははっきりしないが、江戸時代とも言う。							
55	上方限下組棒踊り	存続状況	復活	関連テーマ	9		
場所	上方限下組(地区内)	行事日[過去]	11月の土曜日から日曜日 [5月頃]				
戦前まで5月5日の八幡神社の祭り(お田植え踊り)で奉納していたという。保存会で作り保管してある六尺棒・三尺棒・カマを用いる。足袋・カスリ等の衣装類は、保存会で購入して保管してある。地区内に寺社がなく、奉納先が無いので、集落内だけを踊って回る。中断後の復活に苦労した。20年前に復活。現在は5年ごとに踊る。一時期途絶えたが、20年前に復活した。							

33	九玉神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	9		
場所	郡地区(九玉神社)	行事日[過去]	7月下旬の日曜日					
7月下旬の日曜日、郡地区7自治会共同で行う。手作りの子ども会の灯籠、役員による大灯籠を飾る。徳重神社宮司による神事がある。								
34	春日神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	清藤地区(春日神社)	行事日[過去]	7月下旬の土曜日					
7月下旬の土曜日に行う。灯籠は自治会で手作りし、保管しているものを飾る。米・塩・野菜・果物などの供え物も準備する。徳重神社宮司による神事がある。								
35	天神堂六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	天神馬場(天神堂)	行事日[過去]	7月下旬の土曜日 [7月25日]					
かつては7月25日に行っていたが、現在は7月下旬の土曜日を実施している。子ども会による手作りの灯籠を飾る。米・塩・野菜・果物などの供え物も準備する。常楽寺法師による法要を行う。								
36	阿弥陀様六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	小城地区(阿弥陀堂)	行事日[過去]	7月下旬の日曜日					
7月下旬の日曜日に行う。自治会に保管してある手作りの灯籠を飾る。妙円寺住職による法要がある。								
37	徳重神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	徳重東地区(徳重神社)	行事日[過去]	7月第三土曜日 [7月23日]					
以前は7月23日、現在は7月第三土曜日に行う。育成会・高齢者クラブによる手作りの灯籠を灯す。徳重神社宮司による神事を執り行う。								
38	光寿寺六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8	29	
場所	銀天通(光寿寺)	行事日[過去]	8月第一土曜日 [7月25日]					
以前は7月25日、現在は8月第一土曜日に行う。灯籠は自治会で手作りし、お寺で保管してあるものを飾る。六月燈は本来神社が多くみられるが、お寺のこの時期の「虫供養」(おいろぼし)と結びついただけと思われるという。								
39	日枝神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	瀬戸内地区(日枝神社)	行事日[過去]	7月下旬の日曜日[不明]					
7月下旬の日曜日に行う。育成会による手作りの灯籠を灯す。事前の神事は現在やっていない。								
40	神明神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	大田地区(神明神社)	行事日[過去]	7月下旬の日曜日[不明]					
7月下旬の日曜日に行う祭り。子ども会による手作りの灯籠を灯す。舞台は自治会で作る。舞台では婦人会の踊りや子ども会の歌などの発表がある。								
41	楠傘礼神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	寺脇地区(楠傘礼神社)	行事日[過去]	旧暦6月24日に近い土曜日 [旧暦6月24日]					
かつては旧暦6月24日、現在はそれに近い土曜日に行っている。子ども会による手作りの灯籠を灯す。煮しめ、お団子、赤飯も準備する。								
42	清藤十五夜綱引	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	25	
場所	清藤地区(春日神社)	行事日[過去]	旧暦8月15日に近い土曜日 [旧暦8月15日]					
現在は、八月十五夜に近い土曜日に行っている。毎年自治会で縄を縫い合せて綱を作る。以前はカンネンカズラ(クズ)を芯にして綱を作っていた。								
43	徳重東十五夜行事	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	25	
場所	徳重東地区(集落内公園)	行事日[過去]	9月第三土曜日 [旧暦8月15日]					
現在は9月第三土曜日に行う。綱引きの綱は自治会で購入し保管してあるロープを用いる。以前はカンネンカズラを芯にした綱を使用していた。安全面を配慮して荒々しい行事はできなくなった。日没前に終わるようにしている(月の出る前)。								
44	十五夜行事	存続状況	順調	関連テーマ	8	10	25	
場所	銀天通(光寿寺)	行事日[過去]	9月中の土か日曜日 [旧暦8月15日]					
現在は9月中の土曜日か日曜日に行う。以前はお寺の境内で綱を縫い合せていたが、今はやっていない。綱引き・相撲が伝わっていた。								

22	四郎園鬼火焚き	存続状況	復活	関連テーマ	1	8	15	18
場所	四郎園地区(公民館前)	行事日 [過去]	1月上旬の土曜日か日曜日 [1月7日]					
「おねっこたこ」とも呼ばれ、かつては1月7日、現在は1月上旬の土曜日か日曜日に実施している。自治会役員・育成会役員で公民館前に櫓を組む。門松のある所は各自で持参し、櫓に入れる。櫓を燃やしたあと、孟宗竹の焦げかけを短冊状に割り「魔除け」として配る。復活行事。								
23	寺脇鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	寺脇地区(運動広場)	行事日 [過去]	1月3日 [1月7日]					
かつては1月7日、現在は1月3日に実施して。青年部で広場に櫓を組む。櫓を燃やした時、孟宗竹の燃えなかった部分を輪切りにして割って短冊状にしたものを希望者に配る。火事にならないおまじないとして台所に置いている。鬼火焚きの火入れは午後1時で、その後自治会の新年会を公民館で行う。								
24	春日神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	中川地区(春日神社)	行事日 [過去]	6月下旬の日曜日					
6月下旬の日曜日に行う。灯籠は手作りだが、神社への供え物は購入する。徳重神社宮司による神事を行う。								
25	熊野神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	竹之山地区(熊野神社)	行事日 [過去]	夏休み最初の日曜日 [旧暦で行っていた]					
古くからの集落行事で、かつては旧暦で行っていた。現在は夏休みの最初の日曜日。子ども会による手作りの灯籠を飾る。神社の供え物・お酒・つまみは購入したものをを使う。								
26	羽黒神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	下土橋地区(羽黒神社)	行事日 [過去]	7月20日ごろの土曜日					
7月20日ごろの日曜日に行っている。子ども会による手作りの灯籠を飾る。徳重神社宮司による神事を執り行う。								
27	聖護院六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	上土橋地区(聖護院)	行事日 [過去]	7月下旬の日曜日					
7月下旬の日曜日に行う。子ども会の灯籠と、育成会の大きな灯籠を灯す。いずれも手作り。								
28	飯積神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	桑畑地区(飯積神社及び公民館)	行事日 [過去]	7月下旬の日曜日					
7月下旬の日曜日の行う。子ども会で灯籠を作る。魚・野菜など神社のお供え物は購入。徳重神社宮司による神事がある。								
29	日枝神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	上神殿地区(日枝神社)	行事日 [過去]	7月20日前後の日曜日					
7月20日前後の日曜日に行う。手作りを灯籠を灯す。供物は購入したものを供える。徳重神社宮司による神事がある。								
30	八幡神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	下神殿地区(八幡神社)	行事日 [過去]	7月下旬の日曜日					
7月下旬の日曜日に六月燈を行う。神事は1週間前に八幡神社で行う。氏子総代(現在は下神殿1～4区自治会長) 参列。灯籠は大・小、手作りのものを飾る。								
31	日枝神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	麦生田地区(日枝神社)	行事日 [過去]	7月中旬か下旬の日曜日					
7月中・下旬の日曜日に行う。子ども会の灯籠と、育成会の大灯籠を飾る。いずれも手作り。塩・昆布・魚などの供え物は購入したものをを用いる。徳重神社宮司による神事がある。								
32	熊野神社六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	4	8		
場所	猪鹿倉地区(熊野神社)	行事日 [過去]	7月下旬の土曜日 [7月15日]					
六月燈の神事は7月15日に行う。春祭り(2月22日)・夏祭り(7月15日)・秋祭り(11月24日) 利よせ(12月20日) の熊野神社例祭の夏祭りに伴う行事。六月燈は手作りの灯籠を灯し、購入した幟6本(白・黒・青色2本ずつ)を立て、鯛・米・塩・野菜・焼酎を供える。以前は熊野神社神官が神事を執り行ったが、現在は徳重神社から7月15日に派遣。								

11	中神殿鬼火焚き	存続状況	復活(10年前)	関連テーマ	1	8	15	18
場所	中神殿地区(川の堤防)	行事日[過去]	1月初旬の土曜日					
1月初旬の土曜日に実施している。自治会役員で竹を準備して川の堤防に櫓を組み、燃やす。10年前に復活した行事である。								
12	猪鹿倉鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	猪鹿倉地区(人家から離れた田んぼ)	行事日[過去]	1月初旬の土曜日[1月7日]					
「おねっこ」とも呼ばれ、かつては1月7日に、現在は1月初旬の土曜日に実施している。自治会・育成会・高齢者クラブで人家からはなれた田んぼに櫓を組む。門松は各自持参して櫓に入れる。しめ縄でやぐらを縛る。櫓を燃やすとき、餅を竹に刺して焼いて食べる。焦げた孟宗竹を30cm程の長さに切り、2～3cm幅に割った「短冊」を配ると、魔除けに持ち帰る人が多い。								
13	郡内鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	郡内地区(広場(グラウンドゴルフ場))	行事日[過去]	1月初旬の土曜日[1月7日]					
「おねっこ」とも呼ばれ、かつては1月7日に、現在は1月初旬の土曜日に行っている。自治会役員で広場に櫓を組む。門松を子どもが集める。しめ縄で竹をぐるぐる巻きにする。櫓を燃やし、中心に立てた孟宗竹が倒れたら適当な長さに切り、それを割って短冊状にしたものを参加者に配る。参加者は魔除け・家内安全のために持って帰る。火で餅を焼いて食べる。								
14	中福良鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	中福良地区(田んぼ)	行事日[過去]	1月上旬の土曜日[1月7日]					
「おねっこたき」とも呼ばれ、かつては1月7日、現在は1月上旬の土曜日に実施している。自治会役員で竹を準備して、田んぼに櫓を組む。門松・しめ縄を持参し、やぐらに入れ、竹をしぼる。櫓はその年、7歳のこどもたちに点火させる。								
15	郡上鬼火焚き	存続状況	復活(10年前)	関連テーマ	1	8	15	18
場所	郡上地区(保存会長宅の庭)	行事日[過去]	1月7日[同]					
「おねっこ」とも呼ばれ、1月7日に毎年実施している。鬼火焚き保存会・自治会で準備し、櫓を立てる。門松を育成会で集める。7歳の子どもに点火させる。焼け残った孟宗竹を輪切りにして割った「短冊」を縁起物として配っている。10年前に復活した行事である。								
16	清藤鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	清藤地区(田んぼの畔)	行事日[過去]	1月初旬の土曜日 [1月7日]					
かつては1月7日に、現在は1月初旬の土曜日に行っている。自治会役員で竹を集めて、田んぼの畔に櫓を組み、燃やす。門松は特に集めていない。								
17	宮脇鬼火焚き	存続状況	復活(20年前)	関連テーマ	1	8	15	18
場所	宮脇地区(田んぼ)	行事日[過去]	1月7日[同]					
1月7日に毎年実施している。自治会・育成会で準備し、田んぼに櫓を組む。子どもたちが各家庭を回って集めた門松と一緒に、櫓を焼く。中心に立てた孟宗竹が燃えないうちに取り出し輪切りにして割った「短冊」状のものを縁起物として参加者に配っている。20年前に復活した行事。								
18	瀬戸内鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	瀬戸内地区(集落近くの田んぼ)	行事日[過去]	1月上旬の日曜日 [1月7日]					
かつては1月7日、現在は1月上旬の日曜日に実施している。自治会役員を中心に準備し、集落近くの田んぼに櫓を組む。参加者が持参してやぐらに入れた門松とともに、櫓を燃やす。								
19	大田上鬼火焚き	存続状況	復活	関連テーマ	1	8	15	18
場所	大田上地区(公園前の広場)	行事日[過去]	1月上旬の日曜日					
1月上旬の日曜日に毎年実施している。当日、自治会役員で広場に櫓を組む。櫓を燃やすとき、中心部の焼けなかった孟宗竹を適当な長さに輪切りにしてそれを割ったものを、縁起物として参加者に配る。復活行事。								
20	麓東鬼火焚き	存続状況	復活	関連テーマ	1	8	15	18
場所	麓東地区(田んぼ)	行事日[過去]	1月上旬の日曜日 [1月7日]					
かつては1月7日、現在は1月上旬の日曜日に実施している。自治会役員・有志で田んぼに櫓を組む。門松は持参。十五夜で使用した綱でやぐらをまきつける。櫓を燃やし、焦げた孟宗竹を30cmぐらいの長さに切り割った「魔除けのたけ」を参加者に配る。復活行事。								
21	大田中鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	大田中地区(公民館前広場)	行事日[過去]	1月上旬の日曜日 [1月7日]					
かつては1月7日、現在は1月上旬の日曜日に実施している。自治会で準備し、広場に櫓を組む。櫓を燃やし、焦げた孟宗竹を長さ150cmぐらいに切り、それを割った「厄払い竹」を希望者に配る。それを門口等に立てておく。								

37	牛の角まつり	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	喜入町(宮坂神社)	行事日[過去]	2月17日前後の日曜日 [2月17日]					
<p>田遊びの中でもより芸能化している。カシキ(敷き草)役二人の所作も「カシキ舞い」といって芸能化が進んでいる。牛扱い2人が唱えながら田打ちをする。この2人が牛(ベンビョウという)を呼び、モガで田ならしをする。巫女役女性2人がカシキ(敷草)をまき、踏み込んでいく。種籾をまく。「カシキ舞い」といって、太鼓に合わせて行う。</p>								

日置市

1	中川鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	中川地区(こども広場)	行事日[過去]	1月初旬の土曜日 [1月7日]					
<p>以前は1月7日に行っていたが、現在は1月初旬の土曜日に毎年実施している。子ども会育成会が竹類は準備して広場に櫓を組み、子どもたちが各世帯から集めて回った門松とともに櫓を燃やす。ぜんざいをふるまう。始まった時期ははっきりしないが、戦前から続いている行事と思われる。</p>								
2	竹之山鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	竹之山地区(体育広場)	行事日[過去]	1月初旬の日曜日 [1月7日]					
<p>以前は1月7日に行っていたが、現在は1月初旬の日曜日に毎年実施している。自治会役員と子ども会育成会で竹類を準備して広場に櫓を組み、子どもたちが各世帯から集めて回った門松とともに櫓を燃やす。</p>								
3	下土橋鬼火焚き	存続状況	復活(20年前)	関連テーマ	1	8	15	18
場所	下土橋地区(こども広場)	行事日[過去]	1月初旬の日曜日[同]					
<p>1月初旬の日曜日に毎年実施している。自治会役員・育成会員で櫓の準備・作成を行う。自治会員が各自持参した門松とともに櫓を燃やす。約20年前に復活した行事で、復活前の発祥時期は不明。</p>								
4	上土橋鬼火焚き	存続状況	復活	関連テーマ	1	8	15	18
場所	上土橋地区(聖護院)	行事日[過去]	1月7日[同]					
<p>毎年1月7日に実施している。竹は育成会で準備し、自治会役員と合同で櫓づくりを行う。大人が集めて回った門松とともに櫓を燃やす。90年ぐらい前からあった行事で、その後中断し、復活した行事。</p>								
5	桑畑鬼火焚き	存続状況	復活	関連テーマ	1	8	15	18
場所	桑畑地区(地域の田んぼ)	行事日[過去]	1月初旬の日曜日 [1月7日]					
<p>「おねっこ」とも呼ばれ、現在は1月初旬の日曜日に毎年実施している。以前は1月7日に行っていた。自治会役員・有志で竹を集めて田んぼに櫓を組んで、子ども会で集めた門松と一緒に燃やす。戦前からあった行事で、その後中断し、復活した行事。</p>								
6	下神殿3区鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	下神殿3区(耕作していない水田)	行事日[過去]	1月初旬の土曜日か日曜日 [1月7日]					
<p>「おねっこ」とも呼ばれ、以前は1月7日に行っていたが、現在は1月初旬の土曜日か日曜日に実施している。青竹・割れ木を自治会・育成会で集めて、耕作していない水田に櫓を組んで、燃やす。</p>								
7	下神殿4区鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	下神殿4区(田んぼ埋め立て空地)	行事日[過去]	1月初めの土曜日 [1月7日]					
<p>かつては1月7日に行っていたが、現在は1月初めの土曜日に実施している。櫓は旧年中に自治会で作成し、当日各自持参した門松とともに燃やす。</p>								
8	上神殿鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	上神殿地区(公民館広場)	行事日[過去]	1月7日[同]					
<p>毎年1月7日に実施している。自治会役員で竹を集めて公民館広場に櫓を組み、燃やす。</p>								
9	下神殿2区鬼火焚き	存続状況	順調	関連テーマ	1	8	15	18
場所	下神殿2区(水田)	行事日[過去]	1月初めの日曜日 [1月7日]					
<p>「おねっこ」とも呼ばれ、以前は1月7日に行っていたが、現在は1月初めの日曜日に実施している。塩と焼酎で鬼火焚きをする田とやぐらを立てる土地を清める。子ども会で竹を集めて、自治会で櫓を組む。門松は当日持参しやぐらに入れ、櫓とともに燃やす。</p>								
10	下神殿1区鬼火焚き	存続状況	復活(30年前)	関連テーマ	1	8	15	18
場所	下神殿1区(田んぼ)	行事日[過去]	1月初旬の土曜日か日曜日 [1月7日]					
<p>以前は1月7日に行っていたが、現在は1月初旬の土曜日か日曜日に実施している。自治会で竹を準備して田んぼに櫓を組む。消防団員も協力する。各自で持ち寄りやぐらに入れた門松とともに櫓に火をつける。子どもたちは、餅を棒の先に刺して焼いて食べる。約30年前に復活した行事。</p>								

28	一之宮神社御神幸祭	存続状況	順調	関連テーマ	3			
場所	郡元2丁目(一之宮神社と涙橋)	行事日[過去]	11月9日 [同]					
年に一度神は浜下りされたものと思われる。古い神社にはよく残っている行事である。古くからの行事であろう。神社を出発し、電車通りに出て、中郡小学校横の道を通って新川に出、川を下って涙橋へ、涙橋横の広場を御旅所として帰り着く。貴重な行事である。								
29	打植え祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	郡元2丁目(一之宮神社境内)	行事日[過去]	1月3日 [同]					
田遊び行事、台車付き木牛は旧大隅領域内で見られるもので興味深い。唱え問答等、かなり簡略していると思われるが、基本的所作は継承されている。木牛を使って田を起こし、ならし、畝を立て、松葉を苗に見立てて田植えをし、豊作を喜び、収穫の米で餅をつき、全員でいただくという一連の流れを、正月に、境内ですることの意味がある。子どもを含めて、参加者も多く、貴重な行事である。								
30	権現ヶ尾参り	存続状況	存続危機	関連テーマ	27			
場所	下福元町権現ヶ尾(錦江高原ホテルの裏山)	行事日[過去]	正月2～3日[春秋の例祭、出征の時(戦時中)]					
権現ヶ尾は400m近い高さの山で、頂上には8m以上の烏帽子状の岩があり、この岩に神が降臨したと伝えられている。かつては集落行事として例祭には棒踊り(鎌手踊り)が奉納されていた。その踊りも今は消滅していて、現在は個人個人の行事となっている。戦時中は出征者があると、集落民全員が出征者と一緒に参拝した。この集落は下福元町木之下、玉利、木屋ノ宇都、慈眼寺の4集落の共有山があり、カヤや木材を産出していた。共有山は現在はない。権現さんには「平成23年、木之下町内会婦人部」と記したノボリなどが立っていた。								
31	サンガツトウカ	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	中山町(公民館)	行事日[過去]	4月の日曜日 [旧暦3月10日]					
春のオデバイをここでは「サンガツトウカ」と呼んでいる。集落合同の花見である。オデバイは古くからの行事と思われる。春の農作業の始まる一日を集落民全員が集い共同祈願、飲食したものであろう。発祥は不明だが古い行事と思われる。集落の大切な懇親会だが、かつては神事であったのだろう。班ごとに鶏飯をつくって集まって食するが、班によって味噌味だったり、醤油味だったり違っていると言う。今も続けられている。								
32	花野棒踊	存続状況	存続危機	関連テーマ	24			
場所	岡之原町(花野南方神社)	行事日[過去]	3月18日前後 [3月18日]					
島津義弘の朝鮮出兵に向けて士気を高めるために踊られたと伝えられている。青年が15歳になれば強制的に参加しなければならなかった。現在は小学生の男女も踊っている。ウシゴ踊、サヤマン棒、ヌキキリ踊りなど6人1組で踊る。								
33	二月祭	存続状況	復活(20年前)	関連テーマ	21			
場所	皆与志町(皆房諏訪神社)	行事日[過去]	2月10日前後の日曜日 [2月10日]					
神社は元禄時代、川田氏一族の者が長野の諏訪神社から勧請したという。棒踊りは島津義弘の朝鮮出兵と帰還を祝して踊られたものだと伝えられている。踊り手は現在小4～60歳の男性。今年は小学生3人が入ってくれたという。その内訳は皆房在住の子が1人と、他地区在住で、父親が皆房出身の子も1人。ことは関係ない花野在住の子も1人となっている。踊りは始めと終わりはゆっくりしたおとなしい踊り方、真ん中は激しい動きが続く。「2月祭」ということから、春祭に奉納される五穀豊穡の踊り。								
34	西別府上太鼓踊	存続状況	存続危機	関連テーマ	16			
場所	西別府町(諏訪神社境内)	行事日[過去]	7月28日前の日曜日(六月燈で) [7月28日]					
六月燈で踊る。五穀豊穡、虫除け、雨乞い祈願のの踊りと伝えられている。昭和20年代旱魃の時雨乞いとして2～3回踊った。先導役の「サッキョ」1人、鉦4人、太鼓7～10人は必要。鉦は花笠を被る。花笠は竹皮笠に色紙で飾った。やばたは細割竹に色紙をねじ巻きしたもので、高1m50cm位(パレンという)。庭踊り、打ち込み、ドロドロ、入れ鉦、引き回しなどがある(1番～9番)。乱舞、乱跳の連続								
35	カッサドツ	存続状況	存続危機	関連テーマ	30			
場所	喜入生見町(伊勢神社)	行事日[過去]	旧暦10月亥の日に近い日曜日 [旧暦10月亥の日の前夜と翌早朝]					
旧暦10月の亥の日の行事。小学6年生をトツノカミ(斎の神、時の神)といい、下の子をリードする。前日夜、子どもたちは餅を4個ずつ家を回ってもらってくる。伊勢神社に集まり、そこで分配、別に取っておいた餅をワラツトに入れておく。翌早朝、また集まり、伊勢神社の鳥居の上の木にかけ、6年生のトツノカミは木の上から大声で、「散らばれ」と号令。神社下の田の方に走っていき、四方に散らばっている下の子はトツノカミの合図でまた木の下に集まる。ワラツトの餅はさげたままにしておく。家々によっては餅の代わりにお菓子を準備しているところもある。								
36	山ン神マツイ	存続状況	順調	関連テーマ	27			
場所	帖地公民館(喜入生見町)	行事日[過去]	1月16日 [同]					
3班に分かれてそれぞれの班で宿を決めやっていたが、数年前より、全体でやるようになり、公民館で実施している。くじで1年間の世話役を決めている。準備はクジで当たった当番がする。1年間はお神体、サカシバの水替え、清掃をする。山ン神神社の清掃も1年間はお当番がする。お神体のサカシバは公民館に祀っている。当日(1月16日)は公民館に集まると、そこでナマスをいただき、次の世話役のところへ太鼓をたたいて宿移りする。そこで山の神役の人は片手、片足でダイダイを切ったものをハシでつかんで参加者に配る。その後またお神体を供して公民館にもどる。								

19	遷座まつり	存続状況	中断中	関連テーマ	17			
場所	西佐多町 (鶴木の公民館に田の神等を保存してある)	行事日 [過去]	中断している [3月19日]					
3月18日は金峰神社の例祭りで、西下の田の神棒踊りがあった。この日は獅子舞も舞われる。獅子が田畑を荒らすので、それを退治する踊りである。五穀豊穡を祈願する踊り。参考「吉田町郷土誌」1991年、718-769ページ。田の神遷座のときは、婦人たちが太鼓、三味線で桑之丸と鶴木の境にある橋のところまで送っていく。そこで迎えるほうも橋から宿まで踊りながら行く。参考文献『吉田町郷土誌』749ページ、718-769ページ								
20	吉水棒踊り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	宮之浦町(鬼子母神社)	行事日 [過去]	3月の第一日曜日 [同]					
棒踊り(三尺と六尺、六尺、小刀と扇子)を奉納する。								
21	マッガンサー祭り(牧神様祭り)	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	山頂の牟礼神社馬頭観音境内(宮之浦町)	行事日 [過去]	4月15日 [同]					
牟礼岡の山頂にある「巨巖」「牟礼神社」「馬頭観音」の三者を一緒にして「マッガンサー(牧神様)」と呼んでいる。石祠(馬頭観音が貞享2(1682)年)(牟礼神社が享保3(1682年)年)それぞれの建立の銘あり。参考:「ふるさとの文化財」2003年吉田町20ページ、牛馬を飼っている家は牟礼神社の札を買いに来る。《年代に誤記あり、原文のまま》								
22	桜島 島廻り節	存続状況	順調	関連テーマ	10			
場所	東桜島町(全域)	行事日 [過去]	日は決まっていない。地域の文化祭、敬老会などで踊る。[島廻り船ごぎ競争のとき、春の彼岸]					
豊臣秀吉が朝鮮の役に行った頃から始められたという伝説がある。大正3年の爆発で大隅半島と地続きになるまで、毎年、彼岸中は全島をあげての島まわり競漕があった。八丁樽をおし立て(一丁に精鋭4人ずつかける)、集落総出の声援のもとに出発したという。乙女たちは舞い姿で流れる船(応援の船)に乗って板三味線で歌った。参考:「桜島町郷土誌」906-907ページ、866-867ページ。								
23	姫宮神社 浜戸下り	存続状況	順調	関連テーマ	8			
場所	野尻町(姫宮神社)	行事日 [過去]	9月16日より前の日曜日深夜 [9月16日深夜]					
3月にも持木を通して湯之まで行く浜下りがある(昔は2月6日)。 理由: 開聞神社の神様の中の一人にいつも白足袋をはいている人がいた。その神(姫)の足は牛馬のように二つに分かれていたので、不具のものであることが分かった。そこで木をくりぬいた舟に一生食べるだけの金を入れた金壺とともに流した。2月6日に湯之に着いた湯之の人々は気味悪がってまた流した。野尻に9月16日の深夜に着いた(棕鳩十、有馬英子「鹿児島島の伝説」1976年、角川書店10-12ページ) 《記載内容は原文のまま》								
24	田の神講(タノカンコウ)	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	直木西(直木町)	行事日 [過去]	11月15日 [旧11月の丑の日]					
搦いた餅は、まず牛の舌状に形作る。それをちぎって直径10センチくらいの丸餅にする。丸餅には煎った米を粉にし、中にごまや塩を入れた物でまぶす。講に参加した人たちは、その丸餅を腹いっぱい食べる。つきたての餅なのでおいしい。残った物は平等に持ち帰る。それを家族は楽しみにして待っている。講では、餅の他豚汁や、煮染め(大根、里芋、しいたけ、にんじん、こんにゃく、昆布、ごぼう、揚げなどが入ったもの)が出る。参考文献:『松元郷土誌』、『南日本新聞』(平成27年11月29日)。								
25	大元神社豊祭祭り	存続状況	存続危機	関連テーマ	17			
場所	桜島二俣町(大元神社)	行事日 [過去]	秋の彼岸中に実施 [同]					
以前は、各戸で甘酒を造り、煮染(ジャガイモ、こんにゃく、大根、人参、ごぼう、あつ揚げなどが入ったもの)を作っていたが、現在では、このような料理をする家が少なくなった。神事では役員数名が直会の時、焼酎を飲む程度。大元神社は安産の神、女のための神として崇拝されている。参考文献: 桜島町郷土誌 1988年 722～723ページ								
26	田の神講	存続状況	中断中	関連テーマ	17			
場所	上谷口町(現在休止中)	行事日 [過去]	現在休止中 [旧暦10月最初の丑の日]					
田の神像は盗まれて時代は不明。しかし、明治八年からの田の神講帳簿が残っている。牛の舌餅をつとに入れて、田の神像にからわせる。田の神講はなくなったが、平成10年代までは、役員が田の神像に餅を供えた。								
27	田の神講	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	福山町(自治公民館)	行事日 [過去]	(平成27年は)10月21日 [旧暦10月最初の丑の日]					
旧暦10月最初の丑の日、子どもたちを中心に餅を搗き丸める。田ノ神に餅を供えた後、公民館で直会が始まる。直径5cm位の餅をワラツトに入れ、高さ2cmくらいのコサダケに酒を入れ下げるここでごちそうを食べ(直会の料理は直径10cm位の餅、豚汁、煮付け、鶏の刺身、ナマスなど)、残った餅は平等に持ち帰る。								

10	西上の太鼓踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	24			
場所	東俣町(一之宮神社境内)	行事日 [過去]	一之宮神社春の大祭…2月3日, 秋の大祭…11月3日, 花尾神社例祭…9月23日 [同]					
花尾の太鼓踊りと同様の伝承がある。天保5年(1834年)に作製された一番鉦などが残っている。銘「天保五申午年正月吉日日置郡郡山東俣畠田門仲五郎西村和泉守作」参考文献「太鼓は語る」2002年鹿児島県歴史資料センター黎明館84ページ, 「郡山町郷土史」926ページ。								
11	花尾の太鼓踊り	存続状況	順調	関連テーマ	24			
場所	花尾町(花尾神社の参道と境内)	行事日 [過去]	花尾神社例祭…9月23日 [同]					
朝鮮の役から島津義弘凱旋記念に, また, 士気の鼓舞のために踊られた。一時期中断していたが昭和23年に復活した。花尾楽の詳細「郡山町郷土史」923-927ページ。								
12	岩戸の疱瘡踊り	存続状況	中断中	関連テーマ	15			
場所	花尾町(ここ2年間中断)	行事日 [過去]	9月23日の花尾神社例祭, 4月はじめの馬頭観音祭り [同]					
踊り子は扇子を開いて縦2列になって踊りながら境内中央に出る。扇子を開いた右手を高く上げて, 踊っていく。風流な踊りである。詳細については、『郡山町郷土史』933-935ページ 『花尾校区文化財』現在中断中, 自治会長が復活に努力している。								
13	八丁杵踊り	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	西俣町, 花尾町(花尾神社)	行事日 [過去]	花尾神社例祭…9月23日 [同]					
日露戦争戦勝記念で復活した。最初「道開き」で勇壮に飛び跳ねながら円陣を作り, 次に「出端」「庭踏み」と続き, さらに2列縦隊に庭を切り, 唄に合わせて左に四つ, 右に四つのいわゆる八丁杵の動作を取る。最後に囃子ことばに合わせて「カマキリ」の真似でおもしろおかしく踊って幕となる。参考文献「郡山町郷土史」936-937ページ								
14	天日講	存続状況	存続危機	関連テーマ	8	29		
場所	岩戸後組(公民館)	行事日 [過去]	2月の第一日曜日 [同]					
火の用心のための講 各戸に火の神・カマド神はなく, 掛け軸の持ち回りで講をする。集落内を順番で廻る。上座の床の間に講の掛け軸をかけ, 特別に作った料理と皿に菜種油を入れ, その中に和紙で作ったコヨリを入れ火をつける。この火は講が終わるまで消してはいけない。挨拶の後, 食事をし「御酒」に入り上座から下座に回し, 空のカンピンを上座に返し上座の挨拶で講は終わる。								
15	柿本神社の六月燈	存続状況	順調	関連テーマ	24			
場所	上谷口町(柿本神社境内)	行事日 [過去]	7月最後の日曜日 [不明]					
神社の創建は, 境内石碑によると, 寛文10年(1670年)。大正3年頃までは柿本地区の松元栄二氏宅地内にあったが, 大正3年鹿児島本線が境内を横切ることになり, 入佐の大鳥神社に合祀された。昭和21年4月現在地に移った。「松元町郷土史」717-718ページ								
16	入佐の棒踊り	存続状況	存続危機	関連テーマ	8			
場所	入佐町(大鳥神社)	行事日 [過去]	大鳥神社秋の大祭…11月第三日曜日 [大鳥神社春の大祭及び釈迦祭り(4月8日)にも踊られた]					
第二次世界大戦で途切れた。昭和41年畠中清隆の指導で青年団が習得, 町体育館で披露。一時途切れた。昭和52年復活。現在, 「扇落とし(3尺, 6尺棒各2人の4人一組が踊られている。以前は「六人ガラミ」「虚無僧踊り」も踊られていた。)」松元町郷土史」1986年751-753ページ。								
17	本城花尾神社春祭り	存続状況	順調	関連テーマ	21			
場所	本城町(吉田花尾神社)	行事日 [過去]	3月5日に近い日曜日 [旧暦2月5日]					
400年前から始まったという伝承がある。田唄や田打, いちの木の柴押し, 田すき, 種蒔きなど田遊の行事が一連の物として含まれる。参考文献「ふるさとの文化財」21ページ。参考文献:「鹿児島県文化財調査報告書」第8集, 1961年11-15ページ。								
18	オナオリ(御直り)	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	西中(個人宅)	行事日 [過去]	3月末の日曜日 [新暦3月18日, 金峰神社の春祭りの火]					
宿で彩色のお化粧をすませ, 担い棒で4人がかりで担いで新しい宿に運び, 田の神講をする。田の神像は高さ84cm, 極めて大きなシキマを背部に広く被る。右手のメシゲはシキの裏につけて彫ってある。左手には大きな梶を持つ。背面に「寛政五癸丑三月三日攻之」と刻まれている。参考文献:小野重朗「田の神サア百体」72ページ。								

鹿児島市

1	浜戸下り	存続状況	順調	関連テーマ	29			
場所	桜島西道町(三柱神社から海岸近くの公園)	行事日[過去]	7月末の日曜日 [7月28日]					
<p>以前の六月燈は、氏子(2人)が金鉾に面をかかげ、太鼓と鉦を叩きながら、浜戸下りをした。浜では神事後、直径5～6尺の茅の輪を3回くぐり、マカヤを1本ずつ貰い受けて家の軒に刺し、家内安全を祈った。又、マカヤは安産の神ともなった。8の字型に3回くぐる。大人の神輿と子どもの神輿がある。参考「薩摩半島東部地区有形民俗資料調査報告書」1981年 鹿児島県明治百年記念館建設調査室 107ページ「桜島町郷土誌」1988年 桜島町 722ページ</p>								
2	タケメイ(岳参り)	存続状況	存続危機	関連テーマ	27			
場所	桜島横山町(個人あるいはグループ)	行事日[過去]	彼岸の頃 [同]					
<p>彼岸の中日、赤水から赤生原までの人々は、彼岸の中日に横山神野の御岳蔵玉権現社に参り、武から白浜までの人々は彼岸入りの日に松浦権現山の御岳竜王権現社に参詣した。特に松浦の人々は宮籠りをする人々も多かった。中には1週間ほどの長い宮籠りする人々もいた。西道では、三柱神社の元宮(元神社があった所)で山に登れない婦人や老人、子どもたちは弁当を持って行って開いた。そこには一銭店(臨時の店)も開いていた。黒神では、彼岸入りの日は、河原に出かけて御岳を合掌して拝んだ。それをタケメイといった。参考「桜島町郷土史」話者 村山典夫氏</p>								
3	小池島廻り踊り	存続状況	順調	関連テーマ	10			
場所	桜島小池町(桜島全域)	行事日[過去]	日は決まっていない。地域の文化祭、敬老会などで踊る。[春の彼岸の島廻り競漕がある時]					
<p>島津家第19代光久(1638～94)の頃から島廻り競漕が始まったが、自分の集落の船を応援するため踊られた。</p>								
4	おぎおんさあ	存続状況	順調	関連テーマ	3			
場所	清水町(八坂神社)照國神社	行事日[過去]	(平成17年度)7月17日(土)…前夜祭, 7月18日(日)…本祭。[旧暦6月15日]					
<p>例年7月第三土曜日・日曜日の二日間行われている。土曜日は前夜祭, 日曜日に本祭が行われる。市繁華街高見馬場から金生町までを通行止めにして行われる。見どころは傘と鉦の妙技である。(参考文献・牧島知子「おぎおんさあ-鹿児島市の祇園祭り-」2013年(鹿児島国際大学考古学ミュージアム調査研究所報告)10)</p>								
5	曾我どん傘焼き	存続状況	順調	関連テーマ	1			
場所	高麗町(甲突川河畔)	行事日[過去]	(平成27年度)7月25日(月) [5月28日]					
<p>明治以降の学舎になってからの行事と思われる。もとは曾我兄弟の御霊を慰め、水神を祀る火祭りであったものを郷中教育として取り上げたものであろう。甲突川の河原に集まった傘を積上げ火をつける。旧暦5月28日は建久4年(1193)、曾我兄弟が父の仇工藤祐経を頼朝の富士の巻狩の宿館で打ち果たした日である。</p>								
6	タノカンコ(田の神講)	存続状況	順調	関連テーマ	17			
場所	花尾町(大平の公民館)	行事日[過去]	12月第1日曜日 [旧暦委10月申亥の日]					
<p>料理は、現在は弁当を取り寄せている。大平の上と下と一緒にするようになった。(平成24年頃まで天日講(火の神講)あり, 3月20日前後に行った) 参考文献 牧島知子「田の神講の事例-旧日置郡郡山町を調査して-」『鹿児島島民俗No.134』鹿児島島民俗学会</p>								
7	大平の獅子舞(付棒踊り)	存続状況	順調	関連テーマ	30			
場所	花尾町(花尾神社境内)	行事日[過去]	秋分の日 [同]					
<p>獅子が農家に現れて農作物を荒らし、農家の主人をかみ殺した。そこで息子が武芸を習い父の仇を打つという内容である。獅子舞は前踊りと後踊りがある。①ハンヤレ…小中学生(男女)16人で踊る。②三尺…12人が4人組で縦2列になって踊る。③カマ…鎌と三尺棒の切り合い。④六尺…六尺棒と三尺棒の打ち合い。⑤ナガウタ。参考「郡山郷土史」927ページ～930ページ「花尾地区文化財マップ」</p>								
8	タノカンコ(田の神講)	存続状況	存続危機	関連テーマ	17			
場所	花尾町(岩戸後組の公民館)	行事日[過去]	12月の第一日曜日 [旧暦10月申亥の日]					
<p>田の神に豊穰を感謝する。集落内で当番を中心に餅つき、料理などをする。詳しくは次の文献を参考にしてください。(参考文献・牧島知子「田の神講の事例」『鹿児島島民俗』N0134)・『花尾校区文化財マップ』2010年, 花尾町)</p>								
9	タノカンコ(田の神講)	存続状況	存続危機	関連テーマ	17			
場所	郡山地区(郡山総合運動公園多目的競技場)	行事日[過去]	郡山の食堂(例ラララ)に行ってお食事をする。12月の日曜日 [11月の亥の日]					
<p>江戸時代の頃からと言われている。以前は各座元をまわっていた。料理として、鶏の刺身、煮付け(大根、人参、ごぼう、こんにゃくなど)、豆腐1丁、うどん、これらをお膳に載せて出した。</p>								

〈目次〉

1	鹿児島市	3
2	日置市	7
3	いちき串木野市	18
4	三島村	21
5	十島村	23
6	枕崎市	23
7	指宿市	26
8	南さつま市	31
9	南九州市	37
10	阿久根市	38
11	出水市	40
12	薩摩川内市	49
13	さつま町	62
14	長島町	65
15	霧島市	68
16	伊佐市	74
17	始良市	84
18	湧水町	85
19	鹿屋市	86
20	垂水市	89
21	曾於市	90
22	志布志市	93
23	大崎町	96
24	東串良町	96
25	錦江町	97
26	南大隅町	98
27	肝付町	102
28	西之表市	104
29	中種子町	106
30	南種子町	107
31	屋久島町	109
32	奄美市	111
33	大和村	114
34	宇検村	116
35	瀬戸内町	116
36	龍郷町	118
37	喜界町	120
38	徳之島町	122
39	天城町	124
40	伊仙町	125
41	和泊町	126
42	知名町	126
43	与論町	127

第四章 かごしまの祭り・行事 基礎調査一覧

鹿児島県の祭り・行事

かごしまの祭り・行事調査報告書

平成30年3月発行

発行 鹿児島県教育委員会

編集 鹿児島県教育庁文化財課

〒890-8577 鹿児島県鹿児島市鴨池新町10番1号

TEL 099-286-5355

印刷 株式会社あすなろ印刷

〒899-0041 鹿児島県鹿児島市城西2-2-36-205

[表紙 写真]

上段 薩摩硫黄島のメンドン（三島村教育委員会提供）

下段 悪石島のボゼ（十島村教育委員会提供）